

2018年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書 目次

はじめに 4

第1部 2018年度事業計画(大学委員会・理事会決定)に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価5
II. 全学的点検・評価
1. 大学院 健康科学研究科 10
2. 総合経営学部 12
3. 人間健康学部 14
4. 教育学部 17
5. 松商短期大学部 19

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A：教育活動支援

1. 教務委員会
(1) 全学教務委員会 22
(2) 総合経営学部教務委員会 25
(3) 人間健康学部教務委員会 28
(4) 教育学部教務委員会 31
(5) 松商短期大学部教務委員会 33
(6) 共通教養部会 38
(7) 資格取得支援部会 39
(8) キャリア教育部会 42
(9) 基礎教育センター運営部会 43
2. 全学教職センター運営委員会 45
3. 情報センター運営委員会 48
4. 図書館運営委員会 50
5. 国際交流センター運営委員会 54

B：学生支援

1. 学生委員会
(1) 全学学生委員会 57
(2) 総合経営学部学生委員会 60
(3) 人間健康学部学生委員会 61
(4) 教育学部学生委員会 63
(5) 松商短期大学部学生委員会 65
2. 就職委員会
(1) 全学就職委員会 67
(2) 総合経営学部就職委員会 70
(3) 人間健康学部就職委員会 72

(4) 教育学部就職委員会	75
(5) 松商短期大学部就職委員会	76
II. 研究推進管理部門	
1. 研究推進委員会	80
(1) 研究誌編集部会	81
(2) 松本大学出版会運営部会	82
(3) 発明管理部会	82
2. 研究倫理委員会	83
(1) 動物実験部会	89
(2) 遺伝子組換え実験安全部会	91
3. 競争的資金事業推進委員会	
(1) 研究ブランディング事業推進委員会	93
(2) 大学教育再生加速プログラム（AP）事業推進委員会	97
III. 地域連携部門	
1. 地域防災対策委員会	99
2. 地域健康支援ステーション運営委員会	99
3. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会	105
4. 高大連携推進委員会	108
5. 地域総合研究センター運営委員会	113
IV. 入試広報部門	
1. 入試・広報委員会	
(1) 全学入試・広報委員会	116
(2) 総合経営学部入試・広報委員会	121
(3) 人間健康学部入試・広報委員会	123
(4) 教育学部入試・広報委員会	128
(5) 松商短期大学部入試・広報委員会	130
(6) 入試問題検討部会	136
2. AO入試運営委員会	137
3. センター入試委員会	137
V. 管理部門	
A：大学管理運営	
1. 全学協議会	140
2. 自己点検・評価委員会	142
(1) 認証評価準備部会	143
(2) コンプライアンス推進部会	144
3. IR委員会	145
4. FD・SD委員会	145
(1) FD・SD実施部会	147
(2) 教育企画推進部会	147

5. 健康安全センター運営委員会	149
6. 衛生委員会	151
7. 人権委員会	
(1) ハラスメント防止部会	153
(2) 個人情報保護推進部会	155

B：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会	156
2. 危機管理委員会	
(1) 環境保全部会	158
(2) 防災対策部会	158

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門	161
II. 総務課・管理課	164
1. 総務課	164
2. 管理課	169
III. 学生センター	172
1. 教務課	173
2. 学生課	177
3. キャリアセンター	181
4. 情報センター	189
IV. 入試・広報室	193

第4部 資料

I. 2018年度委員会構成	203
II. アンケート調査結果（2018年度）	
1. 松本大学卒業予定者アンケート	204
2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート	241

はじめに

—2018年度 自己点検・評価報告書の発行に当たって— 〈2018(H30).4～2019(H31).3〉

[発刊の遅れ]

2018年度(2018.4～2019.3)の大学運営や諸活動について、PDCAサイクルを回しながら点検・評価を行った。こうした文書は認証評価を受審する際には、6月には完成し基準協会には発送され、評価委員へ届ける準備がなされているものである。本学も受審する年には、規定の書式に則って準備ができていた。その書式は本学独自の組織体制を反映した報告書とは異なるため、受審する年度には受審用と本学独自の記録を残すための報告書の二種類を作成している。この場合本学独自のものは、やはり晩秋頃にならないと完成していない。

今年度もご多分にもれず、発刊が大幅に遅れてしまっており、これを基に2019年度の活動に活かすという、本来あるべき使い方ができていない。せっかく手間暇掛けて作成しているのであるから、有効に活用されるようにしたいものである。

[アニュアル・レポート]

自己点検・評価委員会は、他にも教職員の年間の「研究」「教育」「地域貢献」「大学運営」に関わる活動をまとめた「アニュアル・レポート」の発行にも責任を負っている。これはすでに2019年10月に「地域総合研究」第20号Part 2として発行されている。自己点検・評価におけるPDCAサイクルのDのパートを、詳細に纏めたものとして良く、各種アンケート調査(6月頃から始まっている)においても、その回答の根拠をなしている。アンケートの回答に供せる程度にはできていても、発刊するとなると正確を期すため微細な点まで詰める必要があり、また少人数の提出遅れやチェックにも時間を要するため、毎年遅れ気味になっている。しかし、今年度は自己点検・評価報告書の発行より前に出版できたことは、本来的な姿であるとはいえ、評価できることではあった。

[学生版アニュアル・レポート]

さらに「学生版アニュアルレポート」が残っている。学生の学業成績だけからでは見えてこない、大学生活をトータルに把握し、偏見や一面的な評価に陥ることなく正しく認識できるようにと作成するに至ったものである。以前に獲得した学生支援GPへの、成果報告のためにエビデンスを集めていたことに起因するが、これにはゼミ担当やクラブ顧問など、学生と多様に結びついている教職員からの学生に関する情報がなければ完成しない。発行までもう一踏ん張りが求められる。

[その他]

2018年度の活動の中で明らかになった課題をクリアすべく、内部質保証室を設置すべき等で、2019年度には新しい組織体制に組み替えを要する部分も出てきた。こうした中での自己点検・評価報告書作成であったので、旧(2018年度)担当者と新(2019年度)担当者との間での密な意思疎通が必要とされるパートも多くあった。こうしたいくつかの課題を克服しながら、発刊に漕ぎ着けられたことを喜びたい。

2019.12.14

自己点検・評価委員会 委員長／松本大学 学長 住 吉 廣 行

第1部 2018年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

(1) 「2018年度事業計画」における全学的課題 <P>

1) 前年度からの継続的な取組

① 学生の質・学力保証への取組の強化

- ・学生の質・学力保証に向けて教学改革を進める。とりわけ、シラバスのあり方および様式について検討を進め、具体化を図る。
- ・全学的な成績評価基準を検討しシラバスに記載すべく取り組む。
- ・時間外学修の測定方法と実質化方法について検討を進める。

② 教養教育の更なる充実

- ・2年目となる全学共通教養科目の実施状況を点検し円滑な運用に努める。
- ・キャリア形成科目群について見直しを行い更なる充実を図る。

③ 英語科目及び英語力の強化と環境整備

- ・ネイティブによる英語科目の増加と内容充実の取り組みを進める。
- ・TOEIC講座およびイングリッシュ・カフェなど正課外教育を更に充実させる。
- ・上記正課外教育充実のために人的措置および場所の確保などの環境整備を進める。

④ インターンシップの扱い

- ・インターンシップの位置づけとあり方について検討し明確化に取り組む。
- ・単位化されたインターンシップ科目の設置について検討し具体化する。

⑤ キャリア教育の検討と充実

- ・就職指導との切り分けを前提に、キャリア教育のあり方および内容について検討を進める。
- ・キャリア教育の実施体制についての課題を確認し、その解決を図る。

⑥ 教職課程のいっそうの充実

- ・採用試験合格者数を更に増加すべく取り組む。
- ・教職センターと教職事務室の協力・共同によって、再課程認定を遺漏なく進める。
- ・各学部教育における教職課程について検討し位置づけを明確にする。

⑦ 次期認証評価（2022年）に向けた対応策の検討と遂行

- ・次期認証評価に向けて教学面の課題を洗い出し整理する。
- ・課題解決を中心とした具体的なロードマップを作成し準備を進める。
- ・SD等はFD活動等を通じて認証評価の現状に対する全学的な共通理解を図るべく取り組む。

2) 運営組織の整備

① 教職センターの拡充

- ・教職事務室の移動にともなう学部教務事務との連携上の問題点を整理し解決を図る。
- ・三つの教職センターの関係を整理し効率的かつ一体的な運用を図る。
- ・各学部の教職関係諸委員の効率的・効果的な配置について検討し実施に移す。
- ・全学教職センターの権限について課題の洗い出しを進める。

② 資格取得支援センターの点検

- ・教育課程と資格取得・試験との関係を点検し課題を明確にする。
- ・担当事務体制について既存部署との関係を含め検討し、より適切なあり方を探る。
- ・より効果的な資格取得奨励金のあり方について継続的に見直す。

③ 国際交流センターの点検

- ・連携協定を結んでいるアジア圏の大学との交流を更に促進する。
- ・欧米の大学との交流についても持続的に可能性を追求する。
- ・交流事業を進めるために必要な人的・組織的整備について検討し解決に取り組む。
- ・国際交流センターの権限について課題の洗い出しを進める。

④ IR 推進体制の強化

- ・IR 関連データに関する情報の周知を図りその活用の促進に努める。
- ・受験生の志望動向の分析等の具体的課題を示し、IR の対象として取り組む。
- ・IR 担当事務（者）を明確にして、組織的に位置づけデータの活用の利便化を図る。

⑤ 地域連携事業の推進体制

- ・COC 事業補助金交付期間終了後も地域連携事業を取りまとめる組織を継続し、本学として事業を見直しつつ、新たな展開を進める。

⑥ 収益事業担当部署の検討

- ・研究ブランディング事業を先行させつつ、本学における収益事業の可能性を探る。
- ・収益事業の担当部署について検討を進める。

⑦ 次期認証評価への準備

- ・次期認証評価の受審に対する具体的な体制について検討していく。
- ・次期認証評価に向けて、現状分析を進めSD活動などを通じて周知を図る。

3) 卒業後の進路支援

① 「公務員試験対策講座」の更なる充実・強化

- ・講座受講者数の増加を図るとともに、昨年度を上回る実績の確保に努める。
- ・講座の宣伝・広報に工夫を加え、その効果的な機会の提供を図る。
- ・講座担当者が専用に使用できる部屋の設置を踏まえ、その適切な運用に努める。

② 教員採用試験への対策の強化

- ・教職センター専門員の採用・補充を計画どおり進める。
- ・「公務員試験対策講座」の利用など、採用試験受験希望者への具体的方策を検討、実施する。

4) 課外活動の支援

① クラブ・サークル活動に対する振興と支援

- ・強化部・重点部に対する支援と点検に引き続き取り組む。
- ・強化部・重点部の指導者の安定的確保に必要な方策を検討していく。
- ・部長・顧問の負担について、複数クラブの担当や付添頻度などの実態を把握し、必要があればその軽減に取り組む。
- ・文化・芸術系クラブ・サークルの振興策について、実態を調査した上で検討する。

② 学友会など学生の自主的・自治的活動に対する振興と支援

- ・海外の連携協定大学との学生間交流について検討し、いっそうの充実を図る。
- ・後援会と連携して、学生の諸活動を機能的かつ効果的に支援する。

5) 大学機関別認証評価への対応・準備

- ・短期大学部の受審機関について、大学部との共通化を検討する。
- ・2022（平成34）年度受審に向けて、具体的なロードマップを作成し、周知を図る。
- ・SD活動などを通じて、認証評価の現状について共通理解を図るべく取り組む。

(2) 「2018年度事業計画」における全学的課題の実施状況 <D・C>

1) 全国的な議論の最近の動向 一定員割れ・改革できない大学に退場を求める論調―

中央教育審議会からは「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」答申が出され、「大学の地域配置」「大学のガバナンス」「地域と連携した教育」なども盛り込まれた。しかし規制緩和で広がった都市と地方の格差を縮小する視点はなく、前年の事業計画に記されたように、個別大学の生き残り策を優先するマインドが醸成されてきていると言える。

2) 長野県内の高等教育の状況と地域活性化（＝人・財政の域内循環）への課題

① 県内残留率の上昇（人的循環による地域活性化）に機能しない県内公立大学

公立化された大学の県内高校生の占める割合は、長野大が1/3、諏訪東京理科大は1/4の低率にあり、2019年度入試では県立大学も40%に落ち込み、県内残留率を下げている。

② 松本大学の状況（ミッションとしての地域貢献をどう実現するか）

〔学部の状況〕

3学部の受験状況からは、県内残留率の向上に対する貢献度は大きかったと思われる。

i) 教育学部の定員確保

松本大学では教育学部も3回目の入試で、ようやく定員を超過する入学生を迎えた。スカラシップ入試での入学者が多いため、これをどう克服するかその検討が必要である。

ii) 人間健康学部

スポーツ健康学科では昨年の状況に鑑み新しく運動競技枠を設けたため、定員を大きく越える入学生を迎えた。全国的な栄養系学科への志願者減の傾向を反映し、定員を割ってしまった健康栄養学科の不足分を補って余りあり、学部の帳尻を合わせることができた。

iii) 総合経営学部

総合経営学科では過去最多の受験生で合格ラインが上昇し、入学者の出身高校に変化の兆しが見える。観光ホスピタリティ学科についても、学力上位の受験者の増加傾向が見られる。入試結果としては、両学科共にほぼ予定通りの入学者を確保することができた。

〔短大部の状況〕

一方、短期大学部では、高校卒業生を確保したいという企業の求人意欲が高まり、推薦入試を終えた時点では定員割れが懸念された。しかし、総合経営学部の競争倍率の上昇で、短大からの編入学を目指す受験生も増え、驚異的な粘り腰を発揮し、両学科共に何とか定員を確保できた。

〔今後への課題 ― 地域活性化への量的・質的対応〕

公立化された大学に、県内受験生は門戸を狭められてしまった格好であるが、県内に残りたいと

考える多くの高校生に対し、特に総合経営学部を今後どのように方向付けしていくかが、少子化傾向にあっても厳しく問われている。

短期大学部に関しては、逆に現状の定員のままと維持できるのか、維持するのかどうかという課題が突きつけられている。

また高度化、複雑化する社会への的確な対応を図るため、大学院の整備が求められる。

（3）「2019年度事業計画」における全学的課題 <A>

1）松本大学内における課題

① 組織改革と持続可能性ある体制づくり（若手の登用）

今年度は①任期を迎える学長の後任を選任すること、②総合経営学部及び短期大学部の管理職(学部長、両学科長)の改選期を迎えることが課題となる。また、③新たに設置した「内部質保証室」や「公務員試験対策講座運営」「インターンシップ推進」及び「地域力創造」の3委員会の活動を軌道に乗せることも重要な課題となる。④事務部門においても、本学の特色を前面に打ち出すべく新たに「地域連携課」を発足させたが、この課の地域における認知度を向上させる必要がある。

文科省のガバナンス改革の掛け声のもと、本学の組織運営に関しては、ここ数年かなりの改善を重ねてきており、ようやく安定してきている。しかし、これからの持続可能な組織運営という観点からは、大学全体の管理運営部門については当面全学運営会議メンバーが担わなければならないだろうが、実務面を担当する各種全学委員長には、若い世代を登用して引き継ぎを行うと共に、新機軸を打ち出すことが必要な時期にきている。特にこれからの2年間の活動は、次の認証評価を受審する上での土台形成という意味合いを持つので、世代交代を意識した布陣形成の視点で取り組まねばならない。

2）松本大学への期待が高まる中で求められる将来への舵取り

① 松本大学への期待の高まり

2019年度学生募集における松本大学入学試験では、2018年内に実施したA0入試や推薦入試では、総合経営学科、スポーツ健康学科、学校教育学科において入学者増を達成できた。総合経営学科では、昨年度の一般入試の難度の上昇を受け、推薦入試に流れた面がある。スポーツ健康学科については、新しく取り入れた「運動推薦型」の入試が奏効し、一気に志願者を増加させた。学校教育学科は「定員未充足を何としても避ける」という強い意志で合格者増に結び付けた。短大部では、高校生の就職事情の好転により志願者が極端に減少してしまっている。

一昨年に定員変更（総合経営：10名増、健康栄養：10名減、スポーツ健康：20名増）をしたものの、一般入試についても大学は比較的順調で前年比で20%増以上の志願者を得て、「補助金交付」や「各種申請の受付条件」を満たす定員超過率（各学部単位で過去4年間の平均定員超過率が1.15未満）に抑えることに苦労する状況にある。

② 将来への対応とその課題

長野県のデータによると、県内の大学収容定員が慢性的に600名程度不足していることが推定できるが、その数が高校生のどのような層に対応しているのか、また、このことが地域社会の将来にどのような影響を及ぼすのか、地域貢献をミッションとする本学にとっては新たな課題であろう。総合経営学科やスポーツ健康学科の想定以上の高倍率に現れているように、本学に対する期待感が

高まっているこの時期であるからこそ、大局的視点から大学の将来と地域活性化への貢献を総合的に考える必要がある。高度化・複雑化する地域の諸課題への対応能力を更に高めていくための大学院設置や各学部の教育課程の工夫による魅力の向上、短期大学部の今後のあり方等について更に熟議を重ね、次の対策を講じるステージに来ていると言えよう。

3) 高大接続と入学試験改革及び教育学部の定員確保

文部科学省の主導による新たな入試システムが2年後から始まる。推薦入試は「学校推薦型選抜」に、A0入試は「総合型選抜」に、一般入試は「一般選抜」にそれぞれ名称が変わる。「学校推薦型選抜」では高校側にイニシャティブがあり、大学側が主導性を発揮できる「一般選抜」以外では「総合型選抜」（現行のA0入試）だけになる。そこで現行のA0入試においても、学科の特徴を明確に表現し、大学の意図を高校生に理解できるような入試名称を付し、カテゴリ化することが重要になってくる。学生が自己の特色ある活動を主張する内容で、強化部等の指定競技（全学科）、ボランティア活動（全学科）や高大連携活動（観光ホスピタリティ、健康栄養、短大）、地域高校卒（学校教育）、琴棋書画等文化系サークル（学校教育）、運動系サークル（スポーツ健康）など、学科のアドミッション・ポリシーを反映させた名称が考えられる。

教育学部の場合、推薦入試に応募する学生は他学科に比べ極端に少なく、必ずしも偏差値に拘らず、意欲のある生徒を入学させるためのA0入試の展開が求められている。教員採用の実績を社会にアピールできるまでは、本学の特徴を打ち出した学生募集活動に徹するべきである。

4) 働き方改革と教育実習先の確保

2019年1月25日「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」が中央教育審議会から出されている。学校教員の残業時間が膨大であると指摘される中で、教育実習の受け入れに難色を示す学校も見受けられる。

岐阜県のように県教育委員会の下、教育実習の配属が私立大学を含め統括されている例なども調査しながら、教育現場に加え、県や市の教育委員会とも連携を強めて行く必要がある。根本的には現場教員の数を増やすなどの措置を、国に要請することも必要であろう。本学の場合、教育学部に「学校ボランティア」「学校インターンシップ」等の授業科目も配置し、多くの学生を近隣の学校に受け入れてもらっている。学校によっては本学学生の役割や姿勢を評価し、そのまま教育実習にも来て欲しいと声を掛けられる場合もある。「頼りになる存在」「受け入れることがメリットをもたらす」という認識を持ってもらえるような大学側の努力も欠かせない。

＜執筆担当／学長 住吉 廣行＞

II. 全学的点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科（修士）

（1）年度当初の目標 <P>

長野県立大学や山梨学院大学スポーツ科学部・新潟医療福祉大学健康スポーツ学科など近県の栄養系・スポーツ系の大学の設置・拡充や長野医療保健大学看護学部、長野清泉女学院大学看護学部新設が相次いでいる。これらの大学は完成年度に大学院の設置が予想される。その中で差別化を図り、本大学院としてのよりよい特長を伸ばすために、

- ①カリキュラムの変更
- ②グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置
- ③入試
- ④広報活動
- ⑤その他

などあらゆる方策を検討していくこととした。

（2）目標の実施状況 <D>

1) カリキュラムの変更

- ① 杉山教授の後任として弘田量二教授が赴任され、「公衆衛生学特論」と「食品機能学特論」を、また人間健康学部スポーツ健康学科の山本准教授に「運動生理学演習」を担当していただき、科目数を1増やした。
- ② 大学院の「栄養教諭専修免許」及び「保健体育専修免許」の再課程認定に対応した。
- ③ 科目等履修生を大学院でも受け付けることとした。
- ④ アセスメントポリシーを作成した。

2) 研究倫理教育の強化

研究は社会的活動であり、いずれの時点においても倫理的配慮が求められる。研究倫理教育として、必修科目の「健康科学特論」での講義に加えて、日本学術振興会のe-ラーニングコースの受講と修了証書の提出、研究倫理に関する講習会への参加を義務化した。

3) キャリア教育にもつなげる長期インターンシップの導入

健康運動指導士資格を有するスポーツ健康学科卒の大学院生1名を公益社団法人に長期インターンとして派遣した。

4) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

総合経営学部の2021年度大学院修士課程設置に合わせて、健康科学研究科博士課程の設置を目指すことにした。趣意書の原案を作成し、文部科学省に事務相談に赴いた。

5) 入試

平成31（2019）年度入学予定者は4名（学部卒：4名、社会人：3名）となった。学部卒者は健康栄養学科2名とスポーツ健康学科1名の新卒業生と東京成徳大学からの1名であり、社会人は3名のうち1名はスポーツ健康学科卒業生、1名は管理栄養士資格保有者（病院勤務者）、1名が県立学校教員であった。社会人のうち1名を標準収容年限4年、他の2名を3年の長期履修学生とし

て承認した。

6) 広報活動

大学院全体としては、オープンキャンパスや進学説明会等にあわせた信濃毎日新聞への広告掲出や大学HPでの研究成果の随時掲載により広報した。また、海外留学を経験した院生、長期インターンシップを行った院生、大学教員・公務員として就職した修了生に関する記事もHPに掲載し、受験を考えている学生に入学後あるいは修了後の進路についてイメージしやすくした。

社会人院生向けには、社会人在学生・修了生に関する情報をHPで公開するとともに、HPや募集要項で昼夜開講制度や長期履修制度・科目等履修生制度など働きながらも学びやすい環境である点を広報した。

学報「蒼穹」において大学院特集を組み、広報した。

7) その他

- ① 院生1名が指導教員を山田一哉教授から高木勝広教授に変更した。
- ② 院生1名が長期履修制度の期間を短縮することとした。
- ③ 規程や内規等を整備した。

(3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

1) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

文部科学省との事前相談により、申請区分を既存の修士課程をベースとした「研究科の専攻に係る課程の変更」とすることを念頭に置き、具体的な準備を進めることとした。

2) 入試

平成31（2019）年度の院生総数は12名となり、収容定員を満たすことができた。

3) 広報活動

長野県総合教育センターから高木教授が依頼され、本学で開催した実験教室で大学院広報を行ったところ、1名の教員が受験・入学する運びとなった。

4) その他

- ① 修了生3名のうち1名は、信州大学大学院総合医理工学研究科博士課程医学系専攻に進学し、社会人1名は西新井看護専門学校に採用された。もう1名の社会人は引き続き現職を続けることとなった。
- ② 継続を含めて文部科学省の科学研究費に5名、6件が採択された。
- ③ 院生1名が長野県科研費に採択された。
- ④ 現研究生1名が期間延長し、新たに研究生1名の受け入れを承認した。

(4) 次年度に向けて ＜A＞

- ① 大学院入学者数を確保するためには、受け皿を増やしていかなければならない。そのために、健康栄養学科ならびにスポーツ健康学科からそれぞれ1名専任教員として迎えることにした。また、進藤教授の後任を1名任用し、退任される江原教授については非常勤講師として科目担当をしていただくことになった。結果的に、専任教員数は2減3増で12名となる。
- ② 引き続き社会人の学び直しニーズに応えられるように、社会人がより入学しやすい環境を整え

ていくとともに、あらゆる手段で大学院の魅力を広報していく。

- ③ 教員の入れ替わり時期に当たるため、大学院博士課程への課程の変更に向けて、ひきつづき教員の研究業績の蓄積と質の高い教員を確保する。
- ④ 養護教諭専修免許課程を申請すべく準備していく。

＜執筆担当／大学院健康科学研究科 研究科長 山田 一哉＞

2. 総合経営学部

(1) 計画 <P>

1) 総合経営学部全体

- ① 平成30年度から導入した「各学科の特色を活かした学びの領域」を検証し、専門教育の一層の充実を図る。
- ② 両学科に設置されている重点資格につき、合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため目標資格の再検討を行っていく。
- ③ 各種入試のあり方を検討・改革し、「量の確保」から「質の確保」への転換を図るとともに入学定員の確保を目指す。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように進める。
- ⑤ 両学科の特徴に留意し、高大連携事業ならびに地域連携事業をさらに発展させる方向で取り組んでいく。
- ⑥ 大学院の設置を模索する。「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性での設置を検討している。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、魅力ある教育課程の充実と発展を進める。
- ② ITパスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 飯田市と飯田OIDE長姫高校との三者連携協定、国土交通省が進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業ならびに地域貢献事業の推進を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科の教育課程を点検・検討し、カリキュラム・ポリシーに即し、より柔軟で魅力的なものとなるよう一層の充実と発展を図る。
- ② 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ マーケティング塾、クラーク塾等、高大連携事業ならびに地域貢献事業の推進を図る。

(2) 実施と検証 <D・C>

1) 総合経営学部全体

- ① 平成30年度から導入した「各学科の特色を活かした学びの領域」を検証し、専門教育の一層の充実を図ることに取り組んだ。
- ② 両学科には重点資格が設置されており、この合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化し変化する学生のニーズに合うように重点資格の再検討を適宜行った。
- ③ 各種入試のあり方を検討・改革し、「量の確保」から「質の確保」への転換を図るのみならず、現状の志願者の状況に合致した入試を目指すとともに入学定員の確保を行った。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように努めた。
- ⑤ 高大連携事業ならびに地域連携事業は、両学科の特徴に留意し、さらなる発展を目指す方向で取り組んだ。
- ⑥ 大学院の設置に向けて準備を進めている。「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性での設置を検討している。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、魅力ある教育課程の充実と発展に努めた。
- ② IT パスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指すべく取り組んだ。
- ③ 飯田市と飯田 OIDE 長姫高校との三者連携協定、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業ならびに地域貢献事業の推進を図った。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科の教育課程を点検・検討し、カリキュラム・ポリシーに即し、より柔軟で魅力的なものとなるよう一層の充実と発展に取り組んだ。
- ② 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士、防災士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加に努めた。
- ③ 「マーケティング塾」、「地域プライド事業」、「池田町・松川村・安曇野市観光振興の提言事業」、「なみカフェ」の取り組み等、地域貢献事業ならびに高大連携事業の推進を図った。

(3) 来年度に向けて <A>

1) 総合経営学部全体

- ① 総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の特色を活かした学びの領域を検証し、専門教育の一層の充実を図る。
- ② 両学科に設置されている重点資格につき、合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため、目標とする資格の再検討を行っていく。
- ③ 各種入試のより良いあり方を検討し改善することで、入学定員の安定的確保を目指す。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように進める。また、インターンシップの単位化に向けた準備も進めていく。
- ⑤ 公務員採用試験合格者を増やすため、公務員講座の拡充を図る。

- ⑥ 高大連携事業ならびに地域連携事業については、両学科の特徴に留意し、更に発展する方向で取り組んでいく。
- ⑦ 大学院の設置を目指して進めていく。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、更に魅力ある教育課程の発展的な編成を進める。
- ② IT パスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 「飯田市と飯田長姫高校との三者連携協定」、国土交通省が進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業ならびに地域連携事業の推進を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科のカリキュラム・ポリシーに即して教育課程を点検・検討し、学生の科目履修において、より柔軟で魅力的な教育課程となるよう一層の充実と発展を図る。
- ② 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士、防災士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 「乗鞍高原旅館組合ならびに松本市コンベンション協会との連携事業」、「池田町・松川村・安曇野市観光振興の提言事業」、「なみカフェ」の取組、「マーケティング塾」等、地域連携事業ならびに高大連携事業の推進を図る。

<執筆担当/総合経営学部 学部長 増尾 均>

3. 人間健康学部

(1) 2018 (平成 30) 年度事業計画 <P>

創設 12 年目である今年度は、2017 (平成 29) 年 1 月の定例教授会並びに法人理事会において承認された、健康栄養学科入学定員の 10 名減 (現行 80 名を 70 名に) 及びスポーツ健康学科入学定員の 20 名増 (現行 80 名を 100 名に) を踏まえて議論し成案を得た教学展開を実施に移すとともに、その点検、修正を遅滞なく行う一年となる。以上の観点を踏まえ、まず今年度の事業計画<P>について、次に、事業計画に対する実施・活動状況<D・C>について、そして最後に今年度の実施・活動状況を踏まえた次年度の事業計画<A>について、それぞれ学部全体と両学科に分けて以下に記す。

1) 人間健康学部全体

- ① 両学科及び健康科学研究科との相互理解と協力を従来に増して強化し、「健康」領域・分野における特色ある研究・教育を推進する。
- ② 昨 (2017) 年度からの両学科の入学定員の変更 (健康栄養学科 70 名、スポーツ健康学科 100 名) を念頭に、それぞれ確実に充足すべく入試・広報事業を展開する。
- ③ 「資格志向」受験生のニーズを適確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学修により積極的な学生の確保を図る。
- ④ 新たに設定したコース制の問題点などを適宜・適切に把握し、円滑な運用に努める。
- ⑤ 管理栄養士・健康運動指導士・各種教諭等の合格率をさらに向上させる。

⑥ 研究ブランディング事業に積極的に関与し、その成果を教育に還元すべく取り組む。

2) 健康栄養学科

- ① 健康栄養学科の独自性をブラッシュ・アップして他大学との差別化を図る。
- ② 上記①による教育成果を積極的に発信し、就職先についても県立大学に対する優位性を確保すべく取り組む。

3) スポーツ健康学科

- ① 3名の新任教員を迎えスタートする今年度は、教育並びに学務のスムーズな移行を図り成果を挙げるべく、学科教員間のいっそうの連携・協力に取り組む。
- ② 変更したA0入学試験を遺漏なく実施するために、入試広報室との連携強化を進め、その円滑な運用に努める。

(2) 「2018(平成30)年度事業計画」に対する実施状況 <D・C>

1) 人間健康学部全体

- ① 2年目に入った私立大学研究ブランディング事業の推進及び、新たに採用した「スポーツ栄養学」分野担当者を中心に、両学科及び健康科学研究科との相互理解と協力を強化し、特色ある研究・教育を一定程度推進することができた。
- ② 両学科の入学定員の変更(健康栄養学科70名、スポーツ健康学科100名)を念頭に、それぞれ確実に充足すべく入試・広報事業に取り組み、2019年度に向けた入試でスポーツ健康学科では120名を超える入学者を迎えることができた。一方、健康栄養学科については、栄養系学部・学科の受験者減という全国的な動向を反映し定員を満たすことができなかった。
- ③ 新たに設定したコース制の問題点などを適宜・適切に把握し、円滑な運用に努めることができた。
- ④ 従来からの課題であったキャリア教育の担当者について見直しを図り、非常勤講師の採用という形で次年度に繋げることができた。
- ⑤ 管理栄養士、健康運動指導士・各種教諭等の合格率向上について、両学科の関係教員を中心に積極的に取り組んだ。その結果、管理栄養士については80パーセントを超えたものの、健康運動指導士については従来の数字を大きく下回ってしまった。また、教員の採用においては、養護教諭の現役合格者3名(1名は公立、2名は私立)をはじめ、過年度生を含む全体で公立学校9名、私立学校2名の合格者を輩出することができた。

2) 健康栄養学科

- ① 本学科の特色ある活動としてこれまで継続してきた、「1日限りのレストラン」を例年どおり行った。また、「おいでよ♪松大健康教室」に加え、新規試みとして応用栄養学実習の授業で、松本市の介護老人福祉施設から外部講師を招き「嚥下調整食」の特別講義を実施した。ゼミ活動では、「2018 まつもと広域ものづくりフェア」でのパックスッキングのデモンストレーション、第24回市民参加料理コンクールへの出品、松本市四賀で「学生有志による食育サマーチャレンジ」などを行った。第24回市民参加料理コンクールでは、本学の4年生が長野県松本地域振興局賞(最優秀賞)を受賞した。さらに6次産業商品としての「信州産りんごバターキャラメル」の共同開発や、「食事用マットおよび食事シミュレーションツール、食事シミュレーションシス

テム」で本学初の特許を取得するなど、開学以来の活動が円熟期に入り、様々な領域で結実しつつある。

- ② 本学科におけるコース制では、事業財団と協議し健康運動実践指導者資格取得のためのカリキュラム変更を行った。これにより、「スポーツ栄養コース」で管理栄養士と健康運動実践指導者の資格同時取得が可能となった。また、信州ブレイブウォリアーズの試合時栄養サポートを実施するなど、具体的な実践活動も開始した。2027年長野県国民体育大会に向けた県の事業、「NAGANO スポーツ☆キラキラっ子育てプロジェクト」の一環として、子ども達とその保護者を対象に栄養教育プログラムを本年度3回実施した。
- ③ 上記①②による教育成果は、プレスリリースや松本大学ホームページにおいて発信した。また、今年度初めて管理栄養士として長野県職員に新卒学生が採用された。キャリア教育や公務員試験対策講座を活用し、公務員試験受験者を増やしていく。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努めた。また、具体的なゼミ活動として、県内各地で行われている運動指導への学生派遣や(受託事業含む)、やまびこドームで行われた5時間リレーマラソンの開催協力などが挙げられる。
- ② A0入試の変更など選抜方法が多様化したが、期待した狙いを一定程度達成できたと判断している。これらの実施については、入試委員を通して、入試広報室など関連部署と適宜連絡を取りつつ実施した。これらの取組の結果が、学部全体の事業報告でも述べた入学希望者の大幅な増加につながったと思われる。
- ③ 学内の異動人事により新たに2名の教員を迎えることになった。この異動によりキャリア教育の専任教員を確保することができ、これまでの課題が一つ解決できた。

(3) 2019年度事業計画<A>

1) 人間健康学部全体

- ① 両学科及び健康科学研究科との相互理解と協力をいっそう強化・促進し、「健康」領域・分野における特色ある研究・教育を推進する。
- ② 確実な定員充足と、学修により前向きな受験生確保を念頭に、本学部の魅力や成果の周知・徹底を核に据えた入試・広報事業に取り組む。
- ③ 学部・学科のアドミッション・ポリシーを踏まえた入学試験の改革・改善を通じて、「資格志向」受験生のニーズを適確に捉え、学修により積極的な学生の確保を図る。
- ④ 制定したアセスメント・ポリシーの点検と、それを踏まえた3ポリシーの見直しを進める。
- ⑤ 両学科ともにコース制の問題点などを適宜・適切に把握し、円滑な運用に努める。
- ⑥ インターンシップ科目の導入とキャリア教育の見直しを踏まえ、その円滑な実施に努めるとともに、カリキュラムのいっそうの充実を図る。
- ⑦ 管理栄養士・健康運動指導士・各種教諭の合格者数並びに合格率の更なる向上に加え、近年成果

を挙げつつある公務員試験についても積極的に位置づけ取り組む。

- ⑧ 研究ブランディング事業に積極的に関与し、その成果を教育に還元すべく取り組む。

2) 健康栄養学科

- ① 平成 30 年に行われた第 32 回管理栄養士国家試験において、本学で初めて合格率が 90%を超えた。日々の指導と国家試験対策を更に充実させ、引き続き高い合格率を維持するよう努める。
- ② 各コースの特色と学びの内容、資格との関連をより明確に提示し、3 年進学時のゼミ決定や卒業後の進路決定、生涯設計につなげる。
- ③ 少数担任制を活かしたきめ細かな指導によって、学習意欲の低下や進路での迷いの解消に努め、不本意入学者に対しては新たな目標をもたせるべく取り組む。これらの対策によって、休・退学者を減らすべく努める。
- ④ スポーツ健康学科と協働した取り組みをアピールし、新たな就職先を開拓する。また、公務員や医療系の職種については、引き続き職場確保に取り組む。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年 100 名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努める。
- ② 学科に所属する学生一人ひとりが、大学四年間および将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ③ 変更した A0 入学試験を遺漏なく実施するために、入試委員を中心に入試広報室との連携強化を図り、その円滑な運用に努める。
- ④ キャリア教育を見直すなど、学科カリキュラムのいっそうの充実に取り組む。
- ⑤ 補充人事に遅滞なく取り組むとともに、学科所属教員の退職を踏まえ採用分野の選定並びに採用人事を着実に進める。

＜執筆担当／人間健康学部 学部長 等々力 賢治＞

4. 教育学部

(1) 事業計画 <P>

1) 教育学部全体

- ① 入学定員の充足を第一目標に、過去 2 回の入試情報を詳しく分析し、入試・広報事業を展開する。そのために県内外の高校へ積極的に、松本大学教育学部の良さをアピールしてゆく
- ② 入学定員の充足を目指すとともに、高大接続改革に伴う平成 33 年度入学生募集に向けた入試改革案を策定し、段階的に実施に移していく
- ③ 甲信越唯一の教員養成系学部を持つ私立大学として、教員を目指す高校生に進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。
- ④ 初年度を通して得られた情報をもとに、より細やかな教育現場体験の指導と地域での実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。
- ⑤ 新たに認可が下りた英語免許の課程について充実した課程となるよう適切に把握し、円滑な運

用に努める。

2) 学校教育学科

- ① 第二期生を迎え、初年度の教育課程の検証と反省を進めつつ「入学後、学生を伸ばす教育」に組織的に取り組む。
- ② 第一志望率の向上を目指して、一人ひとりに手を入れた教育を実践し、学生の満足度を高め、その成果を発信していく。
- ③ 教員を希望しない学生が新たな可能性や進路を見出せるように、「幅のある教育」を大切にしていける。
- ④ 第一期生の教員採用試験合格に向けて、教職センター運営委員会を中心に試験対策の充実とマツダイモシ等の実施による学生への支援を推進していく。

(2) 実施状況 <D・C>

平成 29 年 4 月に開設された教育学部学校教育学科は、2 年を終えた。これは長野県内の私立大学の公立化が進む中で、長野県内の唯一の私立大学として、近県を含む地域での唯一の小学校教員養成課程を持つ私立大学として、独自の方向性を持つ教育を実践している。独自の教育課程を含めた教育を進めつつ、「入学後、学生を伸ばす教育」に組織的に取り組んでいる。本年度行った事業について報告の具体的な内容は、次の通りである。

- ① 4 月に、1 期生 65 名、2 期生 72 に加え 3 期生 95 名の定員を超えた学生が入学し、教育学部学校教育学科はより充実した教育の体制が整った。
- ② 教育学部では、3 年目においてはじめて定員を充足することができた。教育学部教員の高校訪問や出前授業などを積極的に行なった効果が表れているように見える。しかし学部全体としての充足率には満ちていないことから、今後は指定校推薦枠やAO入試等の改革を行っていく予定をたてた。
- ③ 一年次教育として「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を、二年次では「教職研究ゼミナール」が行われ、3～7名の少人数の学生を担当することで、手厚い指導・支援を行うことができた。4 月末には 1 年生および 2 年生と全教員が参加して、親睦と大学生活への適応を目的に「フレッシュマン・セミナー」を 1 泊 2 日で国立信州高遠青少年自然の家で行なった。
- ④ 2019 年度の教育実習に向けて、実習校への訪問などを行った。特に、2 年次の「学校インターンシップ」は、3、4 年次での「教育実習」の準備としての授業となっている。
- ⑤ 教職支援センターでは、総経・人間教職センターと連携し、教育実習および教員採用試験に向けた準備の充実を図った。
- ⑥ 英語（中学・高校）の授業は、特に小学校での英語の教科化に伴うものであり、英語教育の充実を目指して、ブリティッシュヒルズへの国内留学、マルタへの語学留学が行われた。
- ⑦ 社会進出支援センターを中心に行ってきた、障害者の雇用が実現し、8 号館の 1 階に準備室が設置された。
- ⑧ 英語教育が注目される一方で、学校現場では特別支援教育の充実が期待されており、学校教育学科では小学校教員一種免許状を基礎免許として、英語（中高）または特別支援教育の免許状を取得することを推奨している。

(3) 次年度に向けて <A>

1) 教育学部全体

- ① 入学定員の充足を第一目標に、過去3回の入試情報を詳しく分析し、入試・広報事業を展開する。
そのために県内外の高校へ積極的に、松本大学教育学部の良さをアピールしてゆく。
- ② 入学定員の充足を目指すとともに、2021年度入学生募集に向けた入試改革案を策定し、段階的に実施に移していく。
- ③ 甲信越私立大学唯一の教員養成系学部を持つ私立大学として、教員を目指す高校生に進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。
- ④ 過去、2年間を通して得られた現場での情報をもとに、より細やかな教育現場体験の指導と地域での実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。
- ⑤ 小学校教員養成課程のみならず、特別支援教育課程、英語教員養成課程についても充実した課程となるよう適切に把握し、円滑な運用に努める。

2) 学校教育学科

- ① 第三期生を向かえ、2年間の教育課程の検証と反省を進めつつ「教育実習が入学後、学生を伸ばす教育」に資するよう組織的に取り組む。
- ② 学生の将来に向け、教員以外の進路を含めた第一志望の向上を目指し、一人ひとりに手を入れた教育を実践し、学生の満足度を高め、その成果を発信していく。
- ③ 初年度生の教育実習が始まり、充実した実習がおこなえるように、教員一同の協力のもと、実施したい。
- ④ 教員を希望しない学生が新たな可能性や進路を見出せるように、キャリアセンターと協力し、卒業に向けて「幅のある教育」を大切にしていく。
- ⑤ 第一期生の教員採用試験合格に向けて、教職センター運営委員会を中心に試験対策の充実とマツダイモシ等の実施による学生への支援を推進していく。

<執筆担当/教育学部 学部長 川島 一夫>

5. 松商短期大学部

(1) 計画 <P>

1) AP事業

- ① AP補助事業を円滑に実施する。特に、下記の項目については優先的に実施する。
 - a) ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成。
 - b) 4学期制に対応した海外留学や長期インターンシップ等のプログラムの開発。
 - c) ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進と、記載内容の検討。
 - d) e-ポートフォリオの構築に向けたシステム改修の継続。
- ② 4学期制による教育効果を検証し、資格取得やコンピテンス育成等の教育効果を更に高めるためのカリキュラムの在り方についての検討を続ける。

2) 恒常的施策の充実

- ① 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育を推進する。

- ② 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集を推進する。
- ③ 国内外の他大学・短大との連携を強化し、積極的に補助金を獲得することで教育の質をさらに高める。

(2) 実施・検証 <D・C>

1) 松商短期大学部全体（商学科・経営情報学科共通）

① AP補助事業の円滑な実施と優先的に実施した事項

a) ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成

2018年度は、コア・コンピテンスの育成を非常勤講師にも拡大し、それに伴ってルーブリック評価の実施科目も増加させた。また、教職員が他の大学、短期大学のAPフォーラム等に参加することで、AP補助事業の意味や我が国の教育改革の方向性の理解を深めることができた。

b) 4学期制に対応した海外留学や長期インターンシップ等のプログラムの開発

2018年度は、以下のような大学等と4学期制を活用した海外留学プログラムを開発した。2019年度以降、順次実施する予定である。

- ・アベリストウィス大学 (Aberystwyth Uni. イギリス) : 語学留学
- ・オーストラリアン・カトリック大学 (Australian Catholic Univ. オーストラリア) : 語学留学
- ・デラサール大学 (De La Salle Uni. フィリピン) : 語学留学、ボランティア活動
- ・モーベンピック・ホテル・アンド・リゾート (Moevenpick Hotel & Resort) : ホテル研修

c) ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進

学位の補足資料としての「ディプロマ・サプリメント」を卒業時に発行した。また、在学生については、2019年度からの活用を検討している。

d) e-ポートフォリオの構築に向けたシステム改修の継続

学内基本システム(メソフィア)と学修支援システム(グレクサ)との連携が困難であることが判明したことから、両社の統合作業は一応終了した。この改修作業に伴って学修支援システムの使用が制限された時期もあったが、現在、e-ポートフォリオとしての構築が進められている。

② 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育の推進

従来のキャリア形成系の科目である「キャリアクリエイト」を再編し、キャリア教育と就職支援の棲み分けを進めた。2019年度から新たなカリキュラムでキャリア教育が進められるが、その効果については卒業生アンケート等で検証する。

③ 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集の推進

学生募集は景気動向や進学率等、様々な要因によって左右されるが、新たな取り組みである「留学支援型AO入試」等の高校生への周知が進まなかったことなどから最後まで予断を許さない状況が続いた。18歳人口の減少スピード等を考えると、本学の魅力を日本の高校生に伝えるのはもちろん、海外の優秀な高校生を引き入れることも考える必要があり、2018年度は中国の嶺南師範学院との「3+1」などその検討を始めた。

④ 国内外の他大学・短大との連携の強化

2018年度は、将来、本学の学生が海外の大学への編入等を考慮して、カナダのトンプソン・リバーズ大学（Thompson Rivers Uni.）との間で覚書（Protocol）を締結し、短期留学等においても参加費等で優遇される体制を確保した。また、中国の嶺南師範学院との間で、同学院の学生が本学で1年間学ぶことで本学の短期大学士を取得する「3+1」の取り組みを開始した。他方で、湘北短期大学との連携強化に向けて双方の教職員によるFD・SD活動の実施や相互訪問を行った。

⑤ 4学期制による教育効果を検証と資格取得やコンピテンス育成等の教育効果を更に高めるためのカリキュラムの検討

4学期制を活用して海外留学をする場合の単位認定や読替科目等の体制を整備し、2019年度入学生から1つの学期や2つの学期を活用して海外留学ができる体制を構築した。また、学生アンケートでは4学期制の方が教育効果は高いとの結果が出ているものの、検定合格率等についてはその有効性が明確になっていない。資格取得やグローバル・コンピテンス育成に対する効果については引き続き検証する。

（3）2019年度計画 <A>

- ① AP補助事業を円滑に実施する。特に、下記の項目については優先的に実施する。
 - a) ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成。
 - b) 4学期制に対応した海外留学プログラムの実施と長期インターンシップやボランティア活動（サービスマーケティング）等のプログラムの開発。
 - c) ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進と、記載内容の検討。
- ② 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育の推進、そのためのインターンシップの単位化と実施者の増加を図る。
- ③ 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集を推進する。また、松商学園高等学校との高大連携事業を推進し、そのプログラムを開発する。
- ④ 国内外の他大学・短大等との連携を強化し、学内のグローバル化と多様化を図る。また、外国人留学生を含めた学生募集を推進し、入試改革等で受け入れの仕組みを開発する。
- ⑤ 4学期制による教育効果を検証し、資格取得やコンピテンス育成等の教育効果を更に高めるためのカリキュラムの在り方についての検討を続ける。

<執筆担当／松短期大学部 学部長 糸井 重夫>

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A：教育活動支援

1. 教務委員会

(1) 全学教務委員会

各学部選出委員および教務課職員を構成員とする全学教務委員会は、短期大学部も含めた教務に関わる学部横断的課題・事項に関する審議および原案作成機関であり、さらに、共通教養・キャリア教育・資格取得支援の各部門および基礎教育センター運営部会をも統括している。原則として1ヶ月に一度開催される定例会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めている。

今(2018)年度もまた、前後11回の定例会議において、日常的な教務事項の推進並びに進捗に伴って確認、整理された諸課題について慎重に審議し決定することを中心に、報告事項についても適切かつ適確に周知を図るべく努めた。

1) 年度当初の計画 <P>

本委員会の主要な任務は、原則として1ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めることである。そのなかでも、今年度、取り組まねばならない主要な課題として、2年目となる全学共通教養科目の実施状況の点検と確認、CAおよび他学科履修の上限の再検討、演習科目の適切なクラスサイズのチェック等に加え、新たな取組として、次期認証評価受審(2022年)に向けた具体的なロードマップの作成および準備開始、新シラバスの様式決定(2020年度から施行)、全学的な成績評価基準の検討・決定(新シラバスに明示)、IRを活用したDP・CPのチェック体制および教学改革サイクルの構築、アクティブラーニングの推進と充実、時間外学修の測定および実質化方法の検討、ICTを活用した授業の充実(e-learning、クリッカー等)などが挙げられる。

加えて、①English Café および「TOEIC 講座」などのいっそうの充実によるグローバル化のさらなる推進とその実施体制の構築、②次期認証評価に向けた教学面の課題の洗い出しと準備体の選定、FD研修の実施などの対応準備、③インターンシップの位置づけとあり方の検討、明確化、それを踏まえた④インターンシップ科目の設置についての検討と具体化、⑤就職指導との切り分けを前提としたキャリア教育のあり方の検討、その上で⑥キャリア教育の内容、担当者などの課題確認と解決等もまた、本委員会が中心となって取り組むべき課題である。

2) 実績・活動現状 <D>

今(2018)年度もまた、日常的な教務事項の円滑な推進に取り組むとともに、それに伴って確認、整理された諸課題について慎重に審議し決定することを中心に、報告事項についても適時・適確に周知を図るべく取り組んだ。また、今年度の特徴として、昨年度まで共通教養センター運営部会の対象範囲であった全学共通教養教育(科目)に関する諸事項についても、当委員会において扱い適切に対応してきたことがある。この点については、資格取得支援およびキャリア教育の両部会についても同様であり、部会として独立した形ではなく、全学教務委員会の中で対応した。

以下、①全学的に共通する教学関連事項の検討・決定、②次期認証評価および私立大学等改革総合支援事業への対応、③教学関連各部会に関する事項、④その他 日常業務の4点にまとめ、今年度の活動状況を概述する。

① 全学的に共通する教学関連事項の検討および原案作成

- ・COC 事業関連科目（全学共通、地域社会関係、必修）設置の検討および原案作成（「地域入門」）
- ・インターンシップ科目設置の検討および原案作成（3年前期、2単位等）
- ・定期試験における試験時間共通化（原則70分以内）の検討および原案作成
- ・2019年度学年歴（退位・即位に伴う5月大型連休）の検討および原案作成
- ・東京オリンピック開催に伴う2020年度学年歴の検討および原案作成

② 次期認証評価および私立大学等改革総合支援事業への対応

- ・次期認証評価に向けた教務委員会関係スケジュールの作成と確認
- ・「短期大学部履修規定」変更（キャップ制導入）の検討および原案作成
- ・成績優秀学生に対する履修キャップ緩和の検討および原案作成
- ・「松本大学学則」変更（S評価と素点の記載、成績評価PとFの導入等）の検討および原案作成
- ・アセスメントポリシーの検討および原案作成 他

③ 教学関連各部会に関する事項

a) 全学共通教養

- ・定年に達する共通教養科目担当非常勤講師の後任について検討・決定
- ・「海外研修」のオーストラリア・ニューカッスル大学への引率者の検討・決定
- ・全学共通教養科目の履修状況の把握 他

b) 資格取得支援

- ・資格取得奨励金の支給、
- ・「2019年度資格取得奨励金」について検討・決定 他

c) キャリア教育

- ・キャリア系科目のあり方（キャリア教育と就職指導の区別）と担当者の検討・決定
- ・「キャリア入門」の4年生の履修制限の検討・決定
- ・インターンシップ科目設置（3年前期、2単位等）の検討・決定 他

④ その他 日常業務

- ・各種オリエンテーションの企画と実施
- ・入学式当日の新生保護者対象説明会の実施
- ・入学前セミナー・新生保護者両アンケート・プレイスメントテストの実施と分析
- ・学期末試験実施に関わる注意事項等の徹底と成績発表後の学生指導等について確認
- ・出席登録・オフィスアワー実施記録の提出催促と整理
- ・適正な出欠管理に関する周知・徹底
- ・年度別卒業・退学・留年等の状況把握と分析
- ・各学部のカリキュラムと時間割に関する情報交換
- ・次年度準備

以上が、今年度、本委員会が取り扱い一定の結論を得た事項である。このほか、教学改革に関することとして、年度別退学分析と学生指導の強化、入学年度別卒業率・留年率の分析、プレイスメント

テスト結果の分析等に取り組み、さらに、短大部4学期制の導入作業、履修登録期間の変更（開講前登録）、入学前教育および新入生保護者説明会アンケート結果報告などについても検討し、実施に移した。また、会議の都度、教務に関する諸報告も合わせてなされ、関連する情報が全学的に共有化され各学部にも円滑に伝達された。

3) 活動に対する点検・評価<C>

上述したように、本委員会の主要な任務は日常的な教務事項の円滑な運営、遂行であるが、加えて、この間課題としてきたキャリア系科目のあり方について鋭意検討し、就職指導との区別・分離を明確にした上で担当者についても新たに決定することができた。また、インターンシップ科目についても検討し、2019年度からの設置（「インターンシップ」、3年前期、2単位等）を決定することができた。こうした事柄については、数度にわたる審議、決定に加え、最高意思決定機関である全学協議会への上程、そこでの論議を反映して修正を加えるなど、懸案事項については慎重な対応を心がけ結論を見出すべく努めた。

前述した今年度の活動内容の多くは、そのようにして合意に達することができたものであり、その意味で、懸案事項のいくつかを解決できた一年であったと言える。

4) 次年度に向けた仮題 <A>

本委員会は、次（2019）年度もまた、原則として1ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めることである。次年度取り組むべき課題の主要なものは、以下のとおりである。

① 次期認証評価受審（2023年）に向けて取り組むべき事項

- ・次期認証評価受審に向けた具体的なロードマップの作成とそれに基づく準備
- ・全学的な成績評価基準に沿ったルーブリック活用等の検討（新シラバスに明示）
- ・内部質保証を実質化するIRを活用したDP・CPのチェック体制および教学改革サイクルの構築
- ・時間外学修の測定および実質化方法の検討
- ・ICTを活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等の新LMS導入検討）
- ・次期認証評価（2023年）に向けた教務委員会対応スケジュールの作成
- ・適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・アクティブラーニングの推進、充実
- ・アセスメントポリシーの見直しと、それを踏まえた3ポリシーの点検

② 教学改革に関する事項

- ・成績評価FD、シラバス作成FDの実施
- ・English Caféの通年実施
- ・英語e-learningの導入
- ・キャリア系科目の実質化
- ・短大部へのCAP制導入（2019年度～）に伴う円滑な運用
- ・履修系統図・ナンバリグの見直しと公表
- ・科目名称の英語表記公表（2019年度～）の点検
- ・アセスメントポリシーの点検と見直し
- ・成績優秀者に対するGPAを活用したCAP緩和制度の実施

- ③ 教学関係諸委員会（共通教養・資格取得支援・キャリア教育および基礎教育センター運営部会）の全学教務委員会への統合を受けた運営に関する事項
- ・共通教養科目の点検
 - ・資格取得支援金の点検
 - ・基礎教育センター専門員への協力依頼に関する調整 等
- ④ 全学共通教養等に関する事柄
- ・教育学部の完成年度である2021 年度に向けた全学共通教養課程の見直し
 - ・インターンシップ科目「インターンシップ」の新設（2019 年度～）に伴う円滑な運営準備
 - ・COC 関連科目「地域入門」の新設（2019 年度～）に伴う円滑な実施
 - ・情報リテラシー教育に関する科目（2019 年度～）の円滑な実施
- ⑤ その他
- ・試験時間（70分程度以内）の確認
 - ・高等教育段階の教育費負担軽減新制度の支援措置対象となる大学等要件への対応

以上が、次（2019）年度に取り組むべき主要な事項である。とりわけ、次期認証評価受審（2023 年）に向けた具体的なロードマップの作成と、それに基づく準備開始が急務である。具体的には、2019 年度中に新シラバスの様式を決定し、2021 年度シラバス（2020 年 12 月入力分）からの完全施行に取り組まねばならない。さらに、全学的な成績評価基準の検討（新シラバスに明示）、IR を活用した DP・CP のチェック体制および教学改革サイクルの構築、アクティブラーニングの推進と充実、時間外学修の測定及び実質化方法の検討、ICT を活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）などが、次年度に取り組むべき課題として挙げられる。また、3 年目となる全学共通教養科目に関して、新たに設置された COC 関連科目およびインターンシップ科目を含めた日常的な実施状況の点検と確認に加え、教育学部の完成年度である 2021 年度に向けた全学共通教養課程の見直しについて道筋をつけることもまた、重要な課題である。そのほか、CAP および他学科履修の上限の再検討、演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック等もまた、本委員会が中心となって取り組むべき課題である。

<執筆担当／全学教務委員会 委員長 等々力 賢治>

（2）総合経営学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

平成 30 年度当初に計画された総合経営学部教務委員会の事業は、以下の通りである。

- ・全学共通教養科目の実施状況の点検と確認などを、全学教務委員会と協力して行う。
- ・CAP、他学科履修の上限の再検討
- ・演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・次期外部評価受審に向けた、具体的なロードマップの作成および準備開始
- ・アクティブラーニングの推進、充実
- ・時間外学修の測定および実質化方法の検討
- ・ICT を活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）
- ・年度別退学理由分析と学生指導の強化
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析

- ・プレイスメントテストの結果分析
- ・次期認証評価を踏まえた、シラバスの検討開始
- ・全学的な成績評価基準の検討（新シラバスに搭載）
- ・I Rを活用したDP・CPのチェック体制および教学改革サイクルの構築
- ・入学式当日における新入生保護者説明会の実施
- ・適正な出席管理についての周知・徹底
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底
- ・欠席調査の実施
- ・卒業研究・卒業論文発表会の実施
- ・資格取得の推進
- ・教職の免許取得の推進

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

多くの事業は、計画通り実施された。

- ・年度別退学理由分析と学生指導の強化
- ・全学共通教養科目の実施状況の点検と確認
- ・CAP、他学科履修の上限の再検討
- ・演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・アクティブラーニングの推進、充実
- ・ICT を活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析
- ・プレイスメントテスト結果分析
- ・次期認証評価を踏まえた、シラバスの検討開始
- ・入学式当日における新入生保護者説明会の実施
- ・適正な出席管理についての周知・徹底（通知）
- ・「総合経営学科卒業研究発表会」が2019年2月7日（木）1・2限に開催され、21組26人が発表を行った。企業分析、経営分析、町おこし、商品分析、コンテンツツーリズム、スマホアプリ開発、株価のテクニカル分析など内容は多岐に渡り、総合経営学科らしいバリエーションに富んだ素晴らしい講演が続いた。発表は講演5、質問2分の短時間の中に、「大学4年間の集大成」ともいふべき卒業研究の成果を詰め込んだ内容の濃いものだった。

また、2月7日には、「観光ホスピタリティ学科の卒業研究、卒業論文発表会」が行われ、5つの研究室から、合計13本の発表が行われた。観光、福祉、地域の三つの観点から、実に多彩でバラエティに富んだ発表があつた。4年生は、それぞれの研究課題について堂々とした態度で発表し、中には緊張した様子も見られた。発表を終えた後の安堵と達成感に満ちた表情が印象的だった。大勢の見つめる演壇に立ち、ガチガチに緊張している学生が多くみられた。みんな持ち時間をきちんと守り、質問にも自分でしっかり答えた立派な発表だった。

- ・資格取得の結果として、専門的な資格取得の合格者は、「国内旅行業務取扱管理者国家試験」：7名、「社会福祉士国家試験」：1名、「産業カウンセラー」：2名、「学芸員」：4名、「ITパスポート」：1名、となった。その他の教養的資格取得でも多数の学生が合格した。
- ・教職総合経営学部の教職履修者数は26名、教員免許取得者数は6名であった。取得免許の内訳

は、高校（商業）1名、高校（情報）2名、高校（公民）5名、高校（地理歴史）3名、中学（社会）1名であった。また、教職関係で就職が決まった人は1名であった。

3) 点検・評価の結果 <C>

平成30年度は、議論を深めながら業務を遂行できた点は評価したい。以下に、点検・評価の結果について示す。

- ・成績評価基準の見直しを行った結果、評価基準を明確にすることができた。
- ・柔軟な学年暦（13週授業）の検討を開始した。
- ・インターンシップ科目の新設の検討を行った。
- ・COC 関連科目の新設(2019年度～)を検討し、新設することを決定した。
- ・年度別退学理由分析と学生指導の強化の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・プレイスメントテスト結果分析の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・次期認証評価を踏まえた、シラバスの検討を開始した結果、シラバスに関して見直しができる。
- ・共通教養科目の点検を行った結果、内容が充実した。
- ・資格取得支援金の点検を行った結果、資格取得のあり方がより改善された。
- ・科目名称の英語表記公表（2019年度～）を行った結果、分かりやすくなった。
- ・アセスメントポリシーの制定をした結果、ポリシーを明確化させることができた。
- ・成績優秀者に対する GPA を活用した CAP 緩和制度導入（2019年度～）をした結果、成績優秀者がより学びやすい環境を実現できた。
- ・授業中の事故報告書様式作成をすることで、事故対応がよりよくなった。
- ・試験時間（70分程度以内）の確認をした結果、移動時間に余裕ができ試験がやりやすくなった。
- ・高等教育段階の教育費負担軽減新制度の支援措置対象となる大学等要件への対応をした。
- ・備品破損紛失届の作成をした結果、紛失物への対応がやりやすくなった。
- ・教務帳票の西暦化をした結果、書類作成が明確になった。
- ・入学式当日における新入生保護者説明会を実施した結果、保護者への情報の伝達がうまく行えた。
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底をした結果、不正行為の防止に貢献できた。
- ・シラバスの充実をした結果、学生にとってより分かりやすいシラバスとなった。
- ・欠席調査を実施した結果、欠席の多い学生への指導の徹底ができた。
- ・素晴らしい卒業論文発表会を実施できた。卒業研究発表会に、各々に与えられた時間は、発表5分、質疑応答2分であった。ほとんどすべての組が、時間内に収まった。また、会場には学科に所属している2,3年生も多く集まり、先輩たちの発表に耳を傾け、メモを取り、時に鋭い質問をする姿が見られ、深みを感じた発表の数々に、後輩たちもよい刺激となった。
- ・多くの資格で合格者を出すことができた。
- ・教職の免許取得の推進を行い、教職関係で1名の就職者を出すことができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2019年度は、以下の事業を予定している。

- ・2021年度に向けた全学共通教養課程の見直し
- ・適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・アクティブラーニングの推進、充実

- ・アセスメント・ポリシーの見直しと、それを踏まえた 3 ポリシーの点検
- ・次期外部評価受審に向けた具体的なロードマップに基づく準備
- ・全学的な成績評価基準に沿ったルーブリック活用等の検討（新シラバスに明示）
- ・内部質保証を実質化する I R を活用した D P ・ C P のチェック体制および教学改革サイクルの構築
- ・時間外学修の測定および実質化方法の検討
- ・ICT を活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等の新 LMS 導入検討）

<課題>

- ・2019 年度中に新シラバスの様式を決定する。2021 年度シラバス（2020 年 12 月入力分）から完全施行。

<執筆担当/教務委員会 総合経営学部主任 小林 俊一>

（3）人間健康学部教務委員会

2018 年度の間健康学部教務委員会は、教員委員 6 名と教務課事務局 5 名の構成となった。また、学部教務委員会の部会は月一回開始し、必要に応じてメール審議も行った。

本年度は、インターシップ科目設置の検討、キャリア系科目の検討、COC 事業におけるカリキュラムの検討など、大きな課題が多く議論された。

1) 計画 <P>

資格取得率の向上を勧めるとともに、コース制導入に伴う、履修モデル、時間割等を含めたカリキュラムの検討を行っていく。資格取得、キャリア教育を含め修学指導を行う。また、成績不振学生、留年生、休退学者の動向等を含め学修指導の充実とオフィスアワー等での学生指導を行う。基礎ゼミナール等の活用による基礎学力の向上、将来像の目標設定を勧めていく。また、キャリア教育の充実を図るためカリキュラムの見直しを勧めていく。また、プレイスメントテストの結果を反映しながら、入学前教育や基礎教育に関わる学習内容の検討や教材の選定、外部テストの採用などについて検討する。改革総合支援事業での助成金獲得に向けた取り組みについて検討する。

- ① COC 事業におけるカリキュラムの検討
- ② 履修登録期間の検討（総合経営学部案）
- ③ キャリアデザイン I、II の検討
- ④ 健康栄養学科の退学率減少に向けての取り組み
- ⑤ 年間予定 15 コマから 13 コマの検討
- ⑥ 欠席考慮（スポーツ）
- ⑦ 入学前教育の検討
- ⑧ 資格取得率向上に向けた検討

2) 計画の実施と現状の説明 <D>

① COC 事業におけるカリキュラムの検討

平成 30 年 4 月より全学共通で地域社会に関する必須科目を設置する検討を行った。

② 履修登録期間の検討（総合経営学部案）

1 回目の授業から履修者が確定し、お試し授業が無くなる、クラスサイズが分かることで、授業

の進行をスムーズに行える。履修変更期間が2日から4日に増えるため、細かい学生指導ができる等のメリットを踏まえて検討した。

③ キャリアデザインⅠ、Ⅱの検討

Ⅰは「マナーと接遇」の内容を含むシラバスに変更する方向で授業の構成を検討した。また、その内数回を学科で担当することを検討し、回数や担当者について検討した。

Ⅱは講義内容および授業担当者の選定や成績評価の方法について検討した。

④ 健康栄養学科の退学率減少に向けての取り組み

2017年後期に1,2年生に実施したアンケート結果を振り返ったが、学科内で退学率減少にむけた具体案の意見募集を行った。

⑤ 年間予定 15コマから13コマの検討

2020年が東京オリンピックのため、祝日移動などにより従来の年間予定では様々な支障が出ると予想し、1コマ105分または110分の13コマ授業の案について検討した。

⑥ 欠席考慮（スポーツ）

国際大会等で長期遠征を余儀なくされる学生に対して、欠席基準や試験の考慮について検討した。

⑦ 入学前教育の検討

新規教材の導入については、アンケート調査を実施した。

⑧ 資格取得率向上に向けた検討

各資格について、健康栄養学科、スポーツ健康学科で取得率向上に向け各学科およびWGで議論検討することとした。

3) 点検・評価の結果 <C>

① COC事業におけるカリキュラムの検討

「地域入門」として開講し、学科別で開講とすることとした。

② 履修登録期間の検討（総合経営学部案）

人間健康学部では、現行の日程案での実行を意見とし、承認された。

③ キャリアデザインⅠ、Ⅱの検討

Ⅰは「マナーと接遇」の内容を含むシラバスに変更する。学科担当分の3回の内容について検討する旨を学科会議で議論した。Ⅱは非常勤講師に15回分の講義をすべて担当いただき、成績評価もお願いすることとした。

④ 健康栄養学科の退学率減少に向けての取り組み

アンケート結果も踏まえ学科内で退学率減少にむけた具体案の意見募集を行った。

⑤ 年間予定 15コマから13コマの検討

健康栄養学科は実験実習が多く、15コマで予定が組まれているため、13週変更には大きな支障を伴うため、従来の15週案を全学に提出した。

⑥ 欠席考慮（スポーツ）

従来通り担当教員の判断に委ねることとした。また、欠席5回を超える分については出席に見合う課題提出、または成績評価をWとし別日程で試験を実施した上で成績評価をするなどの対応を確認した。

⑦ 入学前教育の検討

アンケート集計の結果、現行の教材で問題ないという回答結果が得られ、新規導入は再来年度以

降に必要なとあれば行うこととした。

⑧ 資格取得率向上に向けた検討

2018年度人間健康学部の資格取得状況は下記の通りであった。

表：人間健康学部資格取得状況

資格名	平成30(2018)年度			
	受験者	合格者 (取得者)	合格率	全国合格率
健康運動指導士	28	18	64.30%	69.70%
健康運動実践指導者	19	15	78.90%	58.90%
レクリエーション・コーディネーター		3		
レクリエーション・インストラクター		4		
トレーニング指導者		0		
第一種衛生管理者		87		
スポーツ指導者(21年度入学生より適用)		5		
アシスタントマネジャー	3	3	100.00%	
中学校教諭一種免許状(保健体育)		11		
高等学校教諭一種免許状(保健体育)		11		
中学校教諭一種免許状(保健)		1		
高等学校教諭一種免許状(保健)		1		
養護教諭一種免許状		7		
小学校教諭二種免許状		0		
フードスペシャリスト	44	41	93.20%	87.50%
フードスペシャリスト専門(食品開発)	4	1	25.00%	15.70%
フードスペシャリスト専門(食品流通・サービス)	5	0	0.00%	16.60%
栄養教諭一種免許状		5		
管理栄養士	72	58	80.60%	95.50%
栄養士		82		
食品衛生管理者(任用資格)		50		
食品衛生監視員(任用資格)		50		
介護職員初任者研修		12		

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 学修指導の推進

セメスター化の実施、基礎ゼミナールのカリキュラムの見直しによる基礎学力の評価、授業成績評価(GPAの平均値)の見直し、資格取得者数と合格率の向上、時間外学修の学生へのフィードバック等実効化の検討、休退学者数の変化等を検討し、学修指導の充実と推進に努める。S,A,B,C,Dの成績評価方法および基準ををより明確にするとともにルーブリック導入を検討していく。

② キャリア教育の再検討

キャリア教育については、今後さらに関係部署と連携して見直しをしていく。

③ コース制導入への対応

学生の定員数の変更を含め、コース制導入と履修モデルの見直しと検討を進めていく。

健康栄養学科では、コース制に伴う指定された授業の履修や臨地実習Ⅳの選択など、コース制の特色をより明確にし、系統的に構築する検討を今後も継続していくこととした。

④ 教職課程の再課程認定への対応

教職課程の再課程認定について、文科省に提出した書類等への指導内容に対応していく。

<執筆担当者/教務委員会 人間健康学部主任 矢内 和博 >

(4) 教育学部教務委員会

昨年度より新設された教育学部では、学校教育学科から5名（内1名はオブザーバー）の教務委員と、教務課職員3名の8名から構成され、月一回のペースで計10回の部会を開催した。完成年度前なので未確定な案件が多く含まれ、また教務事項の共通認識を図ることが大切なことから、委員会を臨時で開催されることもあった。

1) 計画 <P>

- ① 学科開設の2年目であるため、年間スケジュールを確認し、前年度の修正点を検討し、今年度の計画を周知しながら事業を実施する。
- ② 基礎ゼミナール及び教職入門ゼミナールの内容を周知し、具体的な実施方法と評価について検討する。
- ③ 完成年度後のカリキュラム作成する。
- ④ 教育学部新APの策定を行う。
- ⑤ 卒業論文作成の方向性を確立する。
- ⑥ 2年後期からのゼミ（教職入門ゼミ）の所属決定の進め方について、検討し策定する。
- ⑦ キャリアデザインⅠ・Ⅱ及び就職支援ガイダンスについて検討する。
- ⑧ 次期認証評価について対応する。
- ⑨ 100分及び105分授業の導入について検討する。
- ⑩ 次年度時間割案を策定する。

2) 実績・現状 <D>

- ① 年間のスケジュールの確認を毎回行い、学科独自の活動と連動させながら、計画の微調整や内容の修正を行った。
- ② 基礎ゼミナールでは、各回ごとに内容を確認した。また、ポートフォリオの作成により評価基準を明確にした。さらに、アウトキャンパス・スタディ（幼稚園参観実習）やマツダイモシ、レポートの書き方指導等、多様な活動を盛り込んだ内容とした。教職入門ゼミナールでは、ゼミ決めの指針となる各教員によるゼミ紹介、調べ発表するといった研究の基礎を取り行った。
- ③ 完成年度に向けたカリキュラム検討のスケジュールについて次の通り作成した。
18 年後期：検討開始
19 年：カリキュラム確定
20 年：申請・シラバス作成
21 年：新カリキュラムスタート完成年度後のカリキュラム作成
- ④ 教育学部新APについては、学部教員3名と教務課職員3名の8名による検討委員会を立ち上げ、検討を行い、以下のように策定した。
 - ・地域を取り巻く教育に関心があり、主体的に問い、学び続けようとする人
 - ・身近な教育的課題を改善するために思考し、他者と協働できる人
 - ・教育の専門的な学習の基礎となる知識・技能を身につけている人
- ⑤ 卒業論文について議論を行い、次のことを教務委員会案とした。
 - ・論文作成は必須とする。
 - ・個人での研究・執筆とする。
 - ・ゼミ担当者への提出は12月下旬、印刷用論文と抄録原稿は1月中旬、発表会は2月上旬を

予定する。

- ・発表方法は口頭発表、ポスター発表を想定する。
- ・論文枚数は30枚以上。ただし、様式などは細かく設定する。
- ⑥ 教職研究基礎ゼミナールの選択方法について議論を行った。志望理由書を提出させることや、教員が自身の分野を説明できる機会を増やすなど、学生が研究内容等で選べるような方法を検討することとした。
- ⑦ 3年生前期「キャリアデザインⅠ」について、教員希望以外の就職希望者にも対応したキャリア教育とした。学生全員が履修するが、前期は教育実習期間と重なるため5月・6月の7回相当を2年後期に前倒して実施することとした。
- ⑧ 全学的な流れで決定することではあるが、教育学部においては新たな成績のP（合格）F（不合格）を新設することについて様々な意見が出された。
- ⑨ 上記同様、全学的な流れで決定する事項ではあるが、教育学部としては、105分授業による13週授業の実施を希望することを確認した。
- ⑩ 年次、学生が増加するため、教室を配置した具体的な時間割案を提示した。

3) 点検・評価 <C>

- ① 課題が生じた際は、関係職員との意思疎通をできるだけ早く回り、学科会議で協議を尽くして計画を推進することができた。
- ② 基礎ゼミナールはオムニバスではない授業なのだが、担当教員の対応のばらつきが確認された。教職入門ゼミナールについては、学生が調べ発表する内容をアカデミック寄りに修正することとした。
- ③ カリキュラムに見合ったDP及びCPの新たな策定、及びフィードバック可能となるルーブリック等が必要である。
- ④ 上記同様、作成したAPと整合性がとれるDP及びCPの新たな策定、及びフィードバック可能となるルーブリック等が必要である。
- ⑤ 卒業論文について、卒業年度までは時間があるため、特に意見が付いてはいないが、発表会のより具体的な日程設定や発表形式設定が必要である。
- ⑥ 計画に基づき実施している。学生の振り分け前なので現段階では特に意見が付き、遂行されている。
- ⑦ キャリアデザインⅠ・Ⅱ及び就職支援ガイダンスは計画通り遂行されている。本件については、今後、就職委員会が中心となってすすめていくこととなる。
- ⑧ 具体的な運用がされる授業がないことから、全学的な運用の推移を見守っていく。
- ⑨ 全国的な流れを見据えながら、検討は継続して行いたい。
- ⑩ 今後変更が生じたときは、個別に調整を行うこととした。

4) 今後の課題 <A>

今年度は学部学科開設の2年目となるが、まだまだ教員も学生も初めての体験が多く、教務事項のいくつかについては手探り状態の面も見られた。しかし、長期的な展望で取り組むことと短期の実施が求められることなどを見極め、計画的に推進しなくてはならない。また、完成年度までは、様々な変更点や改革の必要な事項も今後現れると思われる。臨機応変に対応していきたい。

- ・①～⑥及び⑩に見られる学科独自の教務事項について

基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、教職入門ゼミ（専門ゼミ）を始め、様々な課題については学部長・学科長の指示・指導の下、人材配置の変更による対応を行っている。

・⑦に見られるキャリアとの関連事項について

上記同様、人材の配置では教務委員会と就職委員会の両方に参加する委員を任命したことにより、今後、教務・キャリア両方に関わる事項について速やかに対応できるようにしていきたい。

・⑧～⑨に見られる全学的な動きにおける事項について

完成年度前となることより、全学的な変更に対し、対応が難しい事項が数多く見られるが、全学的な運用の推移を見守っていくようにし、完成年度後の全学的な対応に備えたい。

＜執筆担当者／教務委員会 教育学部主任 秋田 真＞

（５）松商短期大学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

2017年度の自己点検・評価報告書で報告されている、2018年度当初の計画は以下のとおりである。

① AP事業の推進

4学期化によって生じる様々な課題について取り組みながら、質の向上を目指す。

a) カリキュラム

本格的な4学期制が開始され、生じるであろう様々な課題に対して解決策を検討しカリキュラムに反映させる。また、キャップ制の導入については、キャップの対象外とする科目や例外について検討を進めた上で規程に盛り込むこととする。

また、カリキュラムを大幅に見直したことにより廃止・新設した科目が出てきたため、旧カリキュラムの再履修者への対応を考える必要がある。例えば、旧カリキュラムではハングル語や中国語はⅠ～Ⅳまでであったものを改定によってⅢとⅣを廃止したが、新カリキュラムに変更されてから入学した学生から、入学前に見た大学案内に載っていた科目一覧（旧カリキュラム）にはあったが新カリキュラムでは無くなったⅢ、Ⅳを受講したかったとの申し出を受けた事例がある。大学案内に示されたカリキュラムがパンフレット発行時点でのものであり、変更の可能性がある旨を付記していなかったことから、申し出のあった学生の要望に対応する必要があると判断し、勉強会という形で応えることとしたが、大学案内などへの付記を関係部署へ依頼するとともに、今後、カリキュラムの見直しに際して学生からの要望をしっかりと見極めながら科目の整理をする必要がある。

b) 時間割

2018年度は旧カリキュラムとの移行期となる。再履修者や他学部履修者の履修問題が生じる可能性があることから、早期の問題発見と解決を図る。

c) 年間行事予定の見直し

2018年度に特別学修期間を廃止することで生じる影響の有無と程度、その他行事等の実施状況について課題点を整理し、次年度の予定表に反映させる。

d) 長期海外研修やインターンシップの実施について

関連する委員会と調整しながら、具体案を検討する。

e) 学習支援システム

メソフィアに追加させるべき4学期制対応機能を整理し、その開発を要望する。グレクサについても、開発予算を踏まえながら追加すべき機能に優先順位を付けて順次開発を進める。

② その他

a) 授業外学修について

FD委員会と連携し、授業外学修について具体的な方策を検討する。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① AP事業の推進

AP事業では、学生の汎用的能力の育成、ディプロマサプリメントの発行、4学期制導入の3点に力を入れてきた。中でも教務委員会が最も力を入れたのが4学期制の推進で、平2018年度から完全4学期化となったため、スムーズな運に努めることに注力した。また、ディプロマサプリメントの発行に向け、各科目の担当教員へのコンピテンス評価の協力依頼にも努めた。

a) カリキュラム

2018年度は旧カリキュラムの2年生と新カリキュラムの1年生が混在し、旧カリキュラムの2年生が1年次に落とした科目の再履修をする際の対応を、個々の学生に対応する形で行った。

具体的な対応例として、前述の旧カリキュラムでは存在していた科目のうちハンゲル語Ⅲ、Ⅳに相当する内容を学習したいとの申し出のあった学生については、2学期集中科目である海外事情の担当教員に対応をお願いすることで解決することができた。

また、キャリア系の必修科目再履修者については、新旧カリキュラムの間で科目編成が大きく変わったため、1年生の時間割に合わせて再履修することができない2年生が数名であったら出てしまった。担当教員には別途集中講義を開いてもらうことで対応した。

新カリキュラムでは原則として1つの学期に週2コマ以上のペースで講義を進めるが、教育効果を考えて週1コマペースで2つの学期に渡って進める科目も設置している。「科目名Ⅰ・Ⅱ」という科目がそれにあたるが、学生には必ずⅠ・Ⅱをセットで履修し特にその科目が選択必修であれば、卒業条件を満たせるようにセットで単位を取得するように周知の徹底に努めた。これまで必修科目であった「English I」は語学系の選択必修科目としたが、語学系科目の基礎となる科目であることから、学生には必修科目に近い重要な科目であることを認識させ履修を勧めた。

新しい試みとして、「観光」フィールド新設について検討を行った。新設の意図は、本短大生の総合経営学部への編入実績としては総合経営学科へ進む例が多い一方、観光ホスピタリティ学科への編入実績は少なく、その一因として読み替え可能科目数の違いがあるとの判断から、観光科目を設置し観光ホスピタリティ学科編入後の学修を円滑化する点にあった。設置する具体的な科目として、観光概論、旅行業法、観光約款、観光地理、接客演習等、4、5科目を考案し、国内旅行業務取扱管理者の資格取得を目指す内容とした。

その他、カリキュラムの大幅な変更に伴い、本学総合経営学部編入時の読み替え科目についても再整理をして案を作成し、学部教務委員会へ承認を依頼した。

b) 時間割

時間割作成の原則として、5時限以降には科目を配置せず、集中講義やオリエンテーション、追再試験などが実施できるようにした。昨年度は存在していた1・2学期および3・4学期の間の期間1週間に設けていた「特別学修週間」を撤廃したため、平日の補講日を確保することができなくなったことが根拠の一つである。また、他学部と共用するPC教室や体育館などの施設に関しては、昨年度同様、調整を円滑に進めるために他学部へ先駆けて時間割案を全学教務委員会に提示し、変更が必要な事項を洗い出しながら時間割を調整した。

多くの科目が週 2 コマので講義を進めるようになったことで、非常勤講師から担当ができないとの申し出があり、後任者を探すこととなった事例が複数発生した。色彩学、ネイルアート、アロマセラピーなど、いずれも店舗経営の傍ら本学で講義を担当されている方で、今後も同様のケースが出てくると考えられる。

c) 年間行事予定の見直し

2018 年度の実施状況を確認しながら 2019 年度の年間行事予定を検討した。次年度も短期大学部独自のものとして組み、実施することとした。また、五輪特別措置法により 2020 年度の一部祝日が移動するのに伴い、前期の講義スケジュールの調整の仕方について全学教務委員会も交えて議論した。

d) 長期海外研修やインターンシップの実施について

「海外研修」科目履修者等の海外研修中に受験が困難な再試験への対応や、長期海外研修の学生に対する当該学期中の必修科目の扱いや追認科目および単位数について検討した。また、留学した学生が留学先の大学で取得した単位について、本学の卒業単位として認定する制度の検討も行った。検討にあたっては、原案作成を国際交流委員会に協力を依頼した。

インターンシップは、学生に社会人基礎力の向上と将来の職業を検討する機会を与えることをねらいとしたもので、全学教務委員会のもと全学的な取り組みとして検討を進めた。学外の研修会などにも参加し、国の政策や他大学の動向などを確認した上で準備委員会を立ち上げて本格的に推進することとなった。短大部では、2019 年度カリキュラムに盛り込むこととし、1 年次の 3 学期集中科目「インターンシップ A」および 4 学期集中科目「インターンシップ B」として開講することとした。

e) 学習支援システム

メソフィアについてはすべての機能が 4 学期化することはできなかったが、一部を改良した。これにより、これまでコンピテンス評価を手作業で処理していたものをメソフィア上で処理ができるようになった。グレクサについては AP 推進事業費や開発業者側の開発体制など諸事情が重なり、システムの改良作業は進まなかった。

②その他

a) 授業外学修について

昨年度に引き続き、各担当教員に事前事後学習について学習時間を含めた指示内容のシラバスへの記載依頼を徹底した。作成された全科目のシラバスについて確認作業を行い、記入漏れ等のある科目について再確認の依頼を行った。

b) 成績評価基準の見直し

全学的な取り組みとして成績評価基準の見直しを行った。成績評価基準の明確化のため S の基準を 90 点以上とし、2019 年度より規程に盛り込み運用することとした。また、学修成果の段階評価が困難な科目において、単位修得の可否のみを判断する評価基準が必要であるという観点から、評価基準に P (pass) と F (fail) を設けることとした。

キャップ制については、2017 年度に 1 年次履修単位数の上限を 45 単位と定めることまでを決定していたが、それをさらに具体的に検討を進め、対象外科目を松商ブランド基礎科目、図書館司書科目、介護職初任者研修科目とし 2019 年度より実施することを決めた。また、1 年次の成績 (GPA) が良い学生に対し履修可能単位数を 1 年次合計 49 単位までに引き上げる規程も作成した。

c) その他

全学教務委員会との取り組みとして、資格取得奨励金の見直しや開講科目名を英訳にする作業を行った。

2) 点検・評価の結果 <C>

① AP事業の推進

a) カリキュラムについて

2018年度のカリキュラムではほぼすべての科目を4学期化できたので、実際の運用状況を確認しながら次年度カリキュラムの作成を行ったが、今回は科目の開講学期を移動するケースが多くみられた。カリキュラムをデザインする段階では分からず、各科目担当教員が実際に授業を進めてみて分かることであったので、今後も現場からの声を拾いながら手を加えていきたい。

新旧カリキュラムの違いによる旧カリキュラム学生への対応は、特に学期の初めの時期に再履修者を中心に個別に対応するという煩雑な作業が伴ったが、問題なく対応することができた。これは、おそらく今年度だけの問題であり、次年度以降は留年生を除き個別対応を要することはほとんど発生しないと思われる。

新カリキュラムから必修科目から選択必修科目に変更となった「English I」は、オリエンテーションなどでの周知もあって9割以上の学生に履修してもらえた。今年度は学科ごとに開講期を変えての開講であったが、次年度からは同じ条件でTOEIC Bridgeによる評価測定を行えるように全学生が1学期に受講できるように開講時期を同一にした。また、次年度より再履修者用のリメディアルクラスを追加し、学生個々のレベルに合わせた授業の実現を図ることとした。

「観光」フィールドの新設については、総合経営学部より見合わせの要請があり再検討することとなった。特に、観光ホスピタリティ学科で取り組んでいるカリキュラムも国内旅行業務取扱管理者の資格取得を目指す内容である点が大きな理由であった。フィールド新設可否も含め、再検討する必要がある。

b) 時間割

同一キャンパス内に2学期制と4学期制の時間割が存在することで、PC教室や体育館などの施設利用の効率化に課題が残る。例えば、短大部では1学期に週2コマPC教室を占有すると、他学部では、2学期が空いていても前学期中は同一時間帯の同一教室を利用することが出来なくなる。制度的な問題なので解決策を見つけ出すのは難しいが、引き続き他学部に大きな影響を与えないように努力する必要がある。

非常勤講師の任用について、今年度は後任を探すのに苦労し年度中に全ての後任を決めることが出来なかった。決められなかった科目は、たまたま3学期開講の科目であったので開講時期まで時間的余裕があったが、今後もこのような問題が起きる可能性はある。少なくとも定年による退任予定者については早めに後任の選定に動くようにして、起こりうる問題を最小限度に止めたい。

c) 年間行事予定

2020年度年間行事予定について、全学教務委員会での議論の中で、1コマ90分15週によらない案(105分または110分×13週とするなど)も出されたが、基本的には現行の時間割をもとに年間行事予定を組む方針となった。しかし、教育学部から1コマの時間が長い方がアクティブラーニングがしやすいというメリットがあるとの意見が出されたことから、2021年度以降も検討を続けることとなった。様々な要素を考慮し総合的に判断することになると思われる。

特別学修期間をなくしたことについては、懸念された混乱はなかった。しかし、教員側の問題として、成績提出期限が短くなったことで、受講者数の多い科目を持つ担当教員にとっては負担をかける点が残った。

d) 長期海外研修やインターンシップの実施について

海外研修については、留学した学生が留学先の大学で取得した単位について、本学の学則 27 条で規定している他大学・他短期大学における修得単位を本学の修得単位とみなすことのできる単位数について、短期大学設置基準 14 条で定めている単位数より少なく定めているように読めることから、今後、学則変更について検討していく必要がある。

これまで本学が推進してきたインターンシップは、希望学生を対象としたものでごく小規模な取り組みであった。単位化したことにより、これまでより参加者が増える可能性に期待したいが、インターンシップを推進する委員会が新設されたので、双方で連携して多くの学生に参加してもらえるような取り組みとしていきたい。

e) 学習支援システム

グレクサの活用については、開発予算や開発業者の面で課題があり計画通りにシステムの改良を行うことが出来なかった。今後の課題は、現在ある機能をどうやって有効に使っていくかという点にある。FD 委員会の力も借りながら、システムの利用促進を図りたい。

② その他

a) 授業外学修について

授業外学修を実質的に増やすには、開講科目の整理や時間割の工夫、キャップ制の実質化など、様々な面から学生に学修環境を提供する必要がある。

b) 成績評価基準の見直し

2019 年度から全在學生に新評価基準を適用することとなったが、その理由は、評価基準が 2 つあることで教員の混乱を生む点や、現在の教務システム（メソフィア）で対応できないという点であった。教務委員会内では、2018 年度以前の入學生が在学中に評価基準が変更となることで學生に不利益が生じないかという懸念も上がったが、評価基準の変更は同時に在學生全員に適用されるため、個々の學生の不利益となるわけではないとの判断に至った。しかし、GPA 平均点の上昇や素点平均点の下降が起こる可能性がある点から、その旨を學生にオリエンテーションで説明し、慎重な対応を取る必要がある。また、キャップ制についても同様に在學生に周知し、ゼミ担当教員を通じて履修指導を行う必要がある。さらに、キャップ対象外にした科目の是非についても状況をみて必要があれば見直す必要がある。

3) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① AP 事業の推進

引き続き 4 学期化によって生じる様々な課題について取り組みながら、質の向上を目指す。

a) カリキュラム

新旧カリキュラムの違いによる旧カリキュラム學生の対応はおおよそ終わったので、新カリキュラムの質を高めることに力を入れていく。特に、4 学期制の利点を活かした科目の配置や教育プログラムの開発を進めたい。學生の学修時間の確保や 4 学期制の利点を活かした教育プログラムの開発を実現するためには、科目数の整理とともに時間割を調整して自習時間や自習教室の確保が必要となってくる。まずは、各フィールドの主担当教員に各フィールドの科目の見直しを再度要

請し、カリキュラムの整理と時間割作りに取り組みたい。また、非常勤講師について後任担当教員を早めに決定できるよう動きたい。

また、再検討となった「観光」フィールドについて、フィールド新設可否も含めて再度検討したい。

b) 年間行事予定の見直し

2020年度年間行事予定については、現行のコマの割り当て方法で対応することとなったが、2021年以降について、教育学部からも要望のあった1コマ90分15週によらない案について、短大部でも議論を重ねていきたい。

c) 長期海外研修やインターンシップの実施について

留学制度については、訪問先の学校がある程度そろってきたので、本学の学生が参加しやすい環境づくりを、読み替え科目の選定・新設など教務面で支援していきたい。

インターンシップは、短大部が他学部にも先駆けての実施となるので、他の委員会からの意見を踏まえながら進めていきたい。

d) 学習支援システム

学生の学修時間の確保や教材の充実等を目指したグレксаの活用方法について考えていきたい。

＜執筆担当／教務委員会 短期大学部主任 矢野口 聡＞

(6) 共通教養部会

共通教養に関しては、2017（平成29）年度より、全学教務委員会の中に「共通教養部会」（以下、部会）としておかれるよう組織改革がなされた。したがって、全学共通教養（科目）に関する議論および点検などについては、必要に応じて全学教務委員会の中で扱われることになっており、今年度もまたそのように対応した。

1) 年度当初の計画 <P>

「部会」の主たる任務は、現代的な課題・テーマで複数の科目を括ることによって学ぶべき対象・内容をより分かりやすく表現し、学生の積極的な学びを促し深めることを企図した「モジュール方式」を採用した全学共通教養科目（群）を円滑に運営し、生起する諸課題に迅速かつ適切に対処していくことである。また、個別の問題としては、インターンシップ科目の設置について検討し、結論を得ることが求められる。

2) 実施・活動状況 <D>

新方式採用2年目の今年度は、上述した点を重視して実施状況の把握と問題等への対応に努めた1年であった。なお、全学共通教養科目に関する主たる事項は以下のとおりであるが、すべて通常の全学教務委員会において扱われており、運営部会は開催していない。

- ①COC事業関連科目設置（全学共通、地域社会関係、必修、1単位）の検討・決定
- ②インターンシップ科目設置（3年前期、選択、2単位）の検討・決定
- ③全学共通教養科目の履修状況の把握
- ④「海外研修」のオーストラリア・ニューカッスル大学への引率者の検討・決定
- ⑤定年に達する共通教養科目担当非常勤講師の後任について検討・決定 他

3) 点検・評価<C>

上述のように、部会の主たる任務は「モジュール方式」を採用した全学共通教養科目（群）を円滑に運営し、生起する諸課題に迅速かつ適切に対処していくことであるが、この点については特段の問題はなかったと判断している。その上で、年度当初予定していなかったCOC 事業関連科目およびインターンシップ科目の設置について、COC 戦略会議及びキャリアセンターなど関係部署と適切に連携し、設置形態などについて関係各学部との論議を経て決定できたことは、高く評価されてよい。

4) 次年度の事業計画 <A>

個別の事項として、COC 関連科目「地域入門」の新設に伴う円滑な実施、インターンシップ科目「インターンシップ」の新設に伴う円滑な運営準備などがある。さらに、モジュール方式に関して明らかになった問題点や課題について精査するとともに、3年目となる全学共通教養科目の実施状況を点検し円滑な運用に努め、さらなる充実を図ることが求められよう。また、各学部の専門教育と共通する課題として、次期認証評価受審（2023年）に向けて学生の質・学力保証に向けた取組の強化を図るとともに、教育学部の完成年度である2021年度に向けた全学共通教養課程の見直しもまた、重要な課題である。

そうした任務上の諸課題とは別に、組織的課題・検討事項として次の点を指摘しておきたい。旧来の「共通教養センター運営委員会」は、2017（平成29）年度より全学教務委員会の中に「共通教養部会」としておかれ、この間、全学共通教養（科目）に関する議論および点検などは全学教務委員会で扱われてきたことはすでに述べたとおりである。それを踏まえ、ここ2年間の実施状況等を見たとき、「部会」としておくことの必要性を見出すことはできず、むしろ全学教務委員会への包摂、実質化を図ってもよいと判断できる。したがって、次年度は、この点についても議論し結論を得るべきであろう。

<執筆担当者 共通教養部会長 等々力 賢治>

(7) 資格取得支援部会

資格取得支援に関しては、2017（平成29）年度より、全学教務委員会の中に「資格取得支援部会」（以下、部会）としておかれるよう組織改革がなされた。したがって、資格取得に関する議論および点検などについては、必要に応じて全学教務委員会の中で扱われることになっており、今年度もまたそのように対応した。

なお、本学の学生が取得する（できる）資格は、大きく次の(a)(b)(c)の3つのタイプに分類できる。(a)は、必要単位を取得すれば資格が得られる、あるいは受験資格が得られるもの（例えば、国内旅行業務取扱管理者、自然活動（NEAL）指導者、学芸員、産業カウンセラー、管理栄養士、健康運動指導士、図書館司書、各種教員免許など）である。そして(b)は、講義内容に関連したもので、その内容理解をより深めたり技術力を高めるものであり、単独あるいは複数の科目で資格に対応するもの（例えば、日商簿記検定、証券外務員、レクリエーション・インストラクター、医療事務検定、医療事務コンピュータ能力技能検定、TOEICなど）である。さらに(c)として、学生が教養として身に付けようとするものであり、就職試験対策になっている場合もある（ニュース時事能力検定、英語検定、秘書技能検定、ビジネス文書検定など。また、TOEICは、本学の指向するグローバル化と、その具体化の一つである学生の英語力向上の一環であり向上度合いを確認するものであると同時に、学生によっては就職対策のために取り組んでいる者もあり、その意味では、タイプとしては(B)でもあり(C)でもある。) なお、資格受験・取得のタイプ分類の詳細については、『平成29

年度 松本大学大学院・松本大学・松本大学松商短期大学部 自己点検・評価報告書』の54～55ページ参照のこと）。

1) 年度当初の予定 <P>

「部会」の主たる任務は、適切な情報の提供やアドバイスなどによって学生の資格取得を支援し、その一環である資格取得奨励金の給付対象資格・額などについて慎重に審議し決定するとともに、対応窓口と連携してそれを適切に管理し、給付業務を遅滞なく行うことである。それを踏まえ、今年度は以下の3点を中心に、任務および業務の遂行にあたる。

- ① 各種資格取得の支援と資格取得奨励金の管理
今年度もまた、上記の任務を確実に遂行する。
- ② 公務員資格取得の支援
(株) LEC東京リーガルマインドの全面的な協力を得て4年前に設置した「公務員試験対策講座」について、今年度もまた引き続き開講し学生の公務員就職を積極的に支援していく。
- ③ この間、担当業務の多忙化等によって情報センターから出されていた担当の妥当性に関する疑義および検討要請を踏まえ、教務課への移行を検討し実施に移すべく取り組む。

2) 実施した活動の概要 <D>

上述のように、この間の組織改革によって資格取得支援に関する事項は全学教務委員会で取り扱うことになったものの、資格取得奨励金の支給業務等はほぼルーチン化されており、関連する議論はほとんどなされなかった。したがって、今年度の「実施・活動状況」の主要なものは下に述べるように、ほぼ学生の資格取得および奨励金支給などの実績に関するものである。

まず、資格取得に関して、詳細は『2017(平成29)年度 今、学生が輝いている 松本大学・松本大学松商短期大学部 学生版アニュアルレポート』にゆずり、ここでは冒頭に述べた3つのタイプの主要なもののみ記す。(a) タイプの資格では、国内旅行業務取扱管理者7名、自然活動(NEAL)指導者18名、学芸員4名、産業カウンセラー2名、管理栄養士58名、健康運動指導士18名、図書館司書12名、各種教員免許延べ47名などであった。(b) タイプでは、日商簿記検定2級2名、証券外務員1・2種合わせて8名、レクリエーション・インストラクター4名、医療事務検定73名、医療事務コンピュータ能力技能検定37名などであった。(c) タイプでは、従来、基礎教育センターを窓口としていたニュース時事能力検定、英語検定などは今年度より個人申込みとなったため把握できていないが、秘書技能検定では大学部と短期大学部合わせて2級で5名(3級では、159名)が合格している。また、TOEICでは、700点以上3名、600点以上700点未満12名(交換留学生を入れると14名)と、昨年度を上回る成果を上げることができた。

以上のような成果に対して今年度支給された資格取得奨励金は、表1の「2018年度 前期 資格奨励金給付状況」並びに表2の「2018年度 後期 資格奨励金給付状況」参照)のとおりである。また、公務員試験対策講座の履修状況は、表3の「2018年度 公務員試験対策講座 講座別受講者数」のとおりであり、公務員就職実績については表4の「2018年度公務員就職実績」に示したとおりである。

[表1]2018年 前期 資格奨励金給付状況

資格名	奨励金	総経	人間	教育	短大	合計	給付額
簿記能力検定試験1級会計	5,000				1	1	5,000
簿記能力検定試験1級工簿	5,000				1	1	5,000
ITパスポート試験	20,000	1				1	20,000
情報処理技能検定(表計算初段)	3,000		1			1	3,000
情報処理技能検定(表計算1級)	1,000	34	16		30	80	80,000
ホームページ作成検定1級	1,000				8	8	8,000
日本語ワープロ検定初段	10,000				1	1	10,000
日本語ワープロ検定1級	3,000	1			6	7	21,000
Microsoft Office Specialist(Excel)	5,000				49	49	245,000
Microsoft Office Specialist(Word)	5,000				28	28	140,000
ビジネス文書検定試験2級	3,800				6	6	22,800
サービス接遇検定試験2級	2,000	6				6	12,000
FP技能士3級(学科)	10,000				1	1	10,000
FP技能士3級(実技)	10,000	2			1	3	30,000
ビジネス実務法務検定3級	10,000	1				1	10,000
販売士検定3級	4,100	5			1	6	24,600
TOEIC(700以上)	30,000	2				2	60,000
TOEIC(600以上)	20,000	4		2		6	120,000
ニュース時事能力検定試験準2級	3,000				1	1	3,000
合計		56	17	2	134	209	829,400

[表2]2018年 後期 資格奨励金給付状況

資格名	奨励金	総経	人間	教育	短大	合計	給付額
日商簿記検定2級	10,000				1	1	10,000
簿記能力検定試験1級会計	5,000				15	15	75,000
簿記能力検定試験1級工簿	5,000				11	11	55,000
情報処理技能検定(表計算初段)	3,000				25	25	75,000
情報処理技能検定(表計算1級)	1,000	2			74	76	76,000
情報処理技能検定(データベース)	1,000				1	1	1,000
文書デザイン検定	1,000				22	22	22,000
ホームページ作成検定1級	1,000	12			1	13	13,000
プレゼンテーション作成検定1級	1,000	1				1	1,000
Microsoft Office Specialist(Excel)	5,000				1	1	5,000
Microsoft Office Specialist(PowerPoint)	5,000				17	17	85,000
サービス接遇検定試験2級	2,000	2				2	4,000
色彩検定3級	3,500				3	3	10,500
FP技能士3級(学科)	10,000	3			2	5	50,000
FP技能士3級(実技)	10,000	3			2	5	50,000
宅地建物取引主任者	50,000	3				3	150,000
証券外務員1種	50,000	1			1	2	100,000
証券外務員2種	30,000	2			2	4	120,000
ビジネス実務法務検定2級	12,000	1				1	12,000
国内旅行業務取扱管理者試験	30,000	7				7	210,000
福祉住環境コーディネーター3級	2,500				2	2	5,000
販売士検定3級	4,100				21	21	86,100
TOEIC(700以上)	30,000	2				2	60,000
TOEIC(600以上)	20,000			2		2	40,000
実用英語技能検定2級	5,000				1	1	5,000
ニュース時事能力検定試験準2級	3,000	2				2	6,000
合計		41	0	2	202	245	1,326,600

[表3] 2018年度 公務員試験対策講座 講座別受講者数

対象学年	講座名	受講者数	開講期間(回数)
学部4年	合格講座	3名	3/28~6/9 (全40回)
学部3年	教養講座B	16名	4/13~7/27 9/21~1/15 (全30回)
	専門講座B	9名	4/11~7/18 9/26~1/16 (全30回)
学部2年	教養講座A	26名	4/10~7/17 9/25~1/22 (全30回)
	専門講座A	9名	4/9~7/23 9/27~1/17 (全30回)
学部1年	入門講座	40名	5/14~7/16 9/24~1/21 (全25回)
短大2年	実践演習講座	8名	4/13~9/19 (全25回)
短大1年	入門講座	23名	4/12~7/26 9/25~1/22 (全30回)

[表4] 2018年度 公務員就職実績

学科	職名	人数
総合経営学科	-	0名
観光ホスピタリティ学科	長野県警察	1名
健康栄養学科	塩尻市役所(上級)	1名
	長野県職員(管理栄養士)	1名
スポーツ健康学科	朝日村役場(初級)	1名
	警視庁	1名
	諏訪市役所(上級)	1名
	塩尻市役所(上級)	1名
	長野県警察	3名
松商短大部	伊那市役所(初級)	1名
	自衛隊一般曹候補生(陸上)	1名
合計		12名

以上のような実績に加え、冒頭に述べたように組織改革によって資格取得に関する事項についても全学教務委員会において扱うことになったことを受け、「2019年度資格取得奨励金」について検討し決定した。

3) 点検・評価 <C>

上述のように、部会の主たる任務は、学生の資格取得に関して支援を行い、資格取得奨励金について適切に管理し支給業務を遅滞なく行うことであるが、この点については特段の問題はなかったと判断している。また、資格取得の実績という点では、昨年度の実績とほぼ同様ないは下回ったもの（管理栄養士、健康運動指導士、公務員など）が散見されたことは、その原因の分析と対応策の立案という点で次年度の課題としなければならないであろう。

また、資格取得支援業務の担当部署が、従来の情報センターから教務課に移行されたことについて、「年度当初の計画<P>」でも触れたように積年の課題をとりあえず解決できたという意味で高く評価される。

4) 次年度への改善に向けた方策 <A>

各種検定資格取得については、担当部署が教務課に移行されたことを活かし、関係する講義およびその担当教員との連携を密にして、有効な対応策を講ずるべく取り組まねばならない。公務員試験についても、従来の非公式な組織運営から常設の担当委員会が設置されたことを受けて組織的に取り組みを展開し、受講者数および合格者数の大幅な向上を目指すことが求められる。

さらに、以上のような諸課題とは別に、組織的課題・検討事項として次の点を指摘しておきたい。旧来の「資格取得支援センター運営委員会」は、2017（平成29）年度より全学教務委員会の中に「部会」としておかれ、この間、資格取得に関する議論および点検などは全学教務委員会で扱われてきた。それを踏まえ、ここ2年間の実施状況等を見たとき、「部会」としておくことの必要性を見出すことはできず、むしろ全学教務委員会への包摂、実質化を図ってもよいと判断できる。したがって、次年度は、この点についても議論し結論を得るべきであろう。

<執筆担当/資格取得支援部会長 等々力 賢治>

(8) キャリア教育部会

キャリア教育に関しては、2017（平成29）年度より、全学教務委員会の中に「キャリア教育部会」（以下、部会）としておかれるよう組織改革がなされた。したがって、キャリア教育（科目）に関する議論および点検などについては、必要に応じて全学教務委員会の中で扱われることになっており、今年度もまたそのように対応した。

1) 当初の計画 <P>

「部会」の主たる任務は、キャリア形成関連科目を円滑に運営し、生起する諸課題に迅速かつ適切に対処していくことである。昨年度に引き続く課題としては、キャリア教育と就職指導の区別を明確にし、その上で、適切な担当者を検討・決定することがある。

2) 実施・活動状況 <D>

上述のように、この間の組織改革によって、キャリア教育に関する論議は全学教務委員会で行うことになった。その主要なものは、以下のとおりである。

- ①キャリア系科目のあり方（キャリア教育と就職指導の区別）と担当者の検討・決定
- ②「キャリア入門」の4年生の履修制限の検討・決定
- ③インターンシップ科目設置（3年前期、2単位等）の検討・決定 他

3) 点検・評価 <C>

上述のように、部会の主たる任務はキャリア形成関連科目の円滑に運営し、生起する諸課題に迅速かつ適切に対処していくことであるが、この点については特段の問題はなかったと判断している。その上で、年度当初予定していたキャリア系科目のあり方（キャリア教育と就職指導の区別）と担当者の検討・決定について、キャリアセンターなど関係部署と適切に連携し、各学部との論議を経て決定できたことは、積年の課題を解決できたという意味で高く評価される。

4) 次年度に向けて <A>

まず、各学部の専門教育と共通する課題として、次期認証評価受審（2023年）に向けて学生の質・学力保証に向けた取組の強化を図るとともに、教育学部の完成年度である2021年度に向けた見直しもまた、重要な課題である。

そうした任務上の諸課題とは別に、組織的課題・検討事項として次の点を指摘しておきたい。旧来の「キャリア教育センター運営委員会」は、2017（平成29）年度より全学教務委員会の中に「部会」としておかれ、この間、キャリア教育に関する議論および点検などは全学教務委員会で扱われてきた。それを踏まえ、ここ2年間の実施状況等を見たとき、「部会」としておくことの必要性を見出すことはできず、むしろ全学教務委員会への包摂、実質化を図ってもよいと判断できる。したがって、次年度は、この点についても議論し結論を得るべきであろう。

<執筆担当／キャリア教育部会長 等々力 賢治>

(9) 基礎教育センター運営部会

基礎教育センターに関しては、2017（平成29）年度から、全学教務委員会の中に「部会」としておかれるように組織改革がなされた。しかしながら、センター内には4名の専門員と1名の事務局員が常駐し業務を行っていることから、全学教務委員会とは相対的に独立した打合せや各学部との調整を行う会議が必要である。そのため、今（2018）年度については、「スタッフ会議」と称する打合せと調整を主たる任務とする会議体を別途設け、専門員による授業補助や各種課題の実施希望および提出・返却方法などについて確認するなど、各学部・学科との円滑な関係の確保に努めた。「スタッフ会議」は、総合経営・人間健康・教育各学部及び短期大学部から選出された教員6名に加え、センター所属専門員4名と事務局員2名の計12名で構成された。

センターの主たる任務は、個別指導を中心とした「リメディアル教育」にあるが、近年では、各学部・学科の実状や要望に応え、キャリア系科目並びに基礎あるいは入門ゼミなどの講義に出向いて、学生全体を対象とした基礎学力の底上げなどにも携わってきている。また、課外に設置されている「公務員試験対策講座」についても、基礎教養に関する講座の一部を担当した。

1) 年度当初の計画 <P>

当該年度の事業計画は、センターの業務がほぼルーチン化していることから、前年度に立案される。したがって今年度の業務も、ほぼ前年度に立案されたものを遂行する形で取り組まれた。その内容は、従来どおり個人に対するリメディアル教育の実施を中心とする以下の7項目である、

- ① 従来からの基礎学力づくりへの取組の強化と評価
- ② 学生が来室し利用しやすいセンターの雰囲気づくりの推進
- ③ センター来室学生の実態分析と、それに基づく増加のための対策の策定
- ④ 各種課題・問題集の作成・発行と添削・返却
- ⑤ 学部・学科など他部署からの要請に基づく協力と、その適切性の確保

- ⑥ 今年度の整理を踏まえたセンター専門員と各学部・学科の講義との関係の点検
- ⑦ 読まれる「基礎教育センターだより」の発行

2) 活動状況 <D>

センターの活動状況は、スタッフ会議報告を通じて直近の全学教務委員会でも情報の共有化が図られた。以下に、スタッフ会議の内容を中心に、センターの活動について概述する。

① センターにおける個別指導

これは、当センターの主要な取組であり、2018（平成30）年4月から19（平成31）年1月までの来室学生延べ数は、短期大学部生 491（昨年度 694）名、学部生延べ 1 184（同 1695）名、計延べ 1675（同 2393）名と、多くの学生が利用した。

② 朝の学習講座の実施

これもまたセンターの取組の柱となっており、2018（平成30）年4月から19（平成31）年1月までの参加学生数は、短期大学部生 380（昨年度 167）名、学部生 704（同 879）名、計延べ 1084（同 1046）名であった。

③ 各種課題・問題集の実施

人間健康学部健康栄養学科など一部を除き、各学部・学科の要請を受けて「入学前学習用問題集」「夏季課題問題集」「春季課題問題集」などを作成し、実施した。

④ 漢字検定、ニュース検定、数学検定、英語検定、

TOEIC テスト等受験希望学生に対する指導上記の検定については、今年度より団体申込みから個人申込みが変わったため正確には把握できていないが、基礎教育センターでは、それぞれの検定を希望し相談・指導のために来室する学生には、その都度懇切に対応してきた。

⑤ 「基礎教育センターだより」の発行（年4回）

⑥ 基礎教育センター所属専門員の活動状況

基礎教育センターに所属する先生方については、一昨（2017）年度、「専門員」として明確に位置づけがなされた。今年度の活動状況は以下のとおりである。

学部・学科	講義名等	実施時期	回数
総合経営学部1年	地域社会と大学教育	前期・木2限	11回（各30分）
人間健康学部1年	地域社会と大学教育	前期・月4限	10回（各30分）
教育学部1年	地域社会と大学教育	前期・水1限	7回（各30分）
総合経営学部3年	キャリア形成Ⅱ	前期・水4限	1回（数）
人間健康学部3年	キャリアデザインⅡ	前期・水1限	1回（数）
健康栄養学科1年	基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ	通年・金4・5限	5回（国）
スポーツ健康学科1年	基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ	通年・水3・4限	4回
スポーツ健康学科2年	スポーツ科学入門	通年・水3・4限	4回
※スポーツ健康学科2年	キャリアデザイン	後期・金4限	1回（小論文）
教育学部1年	オリエンテーション（課題解説）	9月・3月	2回、4教科
教育学部2年	オリエンテーション（課題解説）	9月	1回、4教科
※人間健康・教育	地域の文学	後期・月2限	2回
※教職課程	特別活動の指導法A	後期・金2限	1回

※教職課程	道徳の指導法	後期・金4限	4回
※教職課程	教採対策（模擬面接）	前期	2回（2名）
※短大部1年	キャリアクリエイト	後期・金2限	1回（数・英）

※6件は年度当初計画がなく追加実施となった案件

この他、総合経営・人間健康学部教職センターからの依頼に基づいて教員採用試験模擬面接に協力するとともに、引き続き公務員試験対策講座（教養）の一部を担当した。

3) 活動に対する評価 <C>

センター利用学生についてみると、既述のように、個別指導学生と朝の学習講座参加学生の合計数は2759名で、昨年度の3439名より減少しており、とりわけ学部生の来室者数の減少が顕著であった。したがって、その原因の把握とそれに基づく対応策の検討が求められる。また、例年実施される「学修行動調査」によれば、「基礎教育センターを一回も利用したことがない」と回答した学生が増加しているとの2017年度調査結果もあり、その原因を調査するとともに、対策を取る必要があるものと思われる。

その他、「専門員」という形で位置づけと職務内容を検討した結果、講義支援の時間数が明確になり運用が容易になったことは評価できよう。また、各種検定受検の学生に対する指導・支援について、情報センターの負担などの面から再考を求められ、今年度からは従来どおり指導はするものの、試験については学外のものを受けるよう指導することになったが、その結果について点検する必要があるだろう。

4) 次年度の事業計画 <A>

上述した今年度の状況を踏まえ、次年度については、従来どおり個人に対するリメディアル教育の実施を中心に以下の事項に取り組む。

- ① 従来の基礎学力づくりへの取組の強化と点検
- ② センター来室学生の実態分析と、それに基づく増加のための対策の策定
- ③ センター専門員と各学部・学科の講義との関係の点検
- ④ 専門員の学外業務に関するガイドラインの策定
- ⑤ 「公務員試験対策講座」など他部署からの要請に基づく協力と、その適切性の確保
- ⑥ センター部会に代わるスタッフ会議の充実
- ⑦ 読まれる「基礎教育センターだより」の発行

<執筆担当/基礎教育センター運営部会長 等々力 賢治>

2. 全学教職センター運営委員会

平成30年度は、松本大学全学教職センターの組織として、総経・人間教職センターと教育学部教職支援センターとが双方の連携と協力により、それぞれの学部における教職課程の運営と学生の教育指導とを行うこととした。教員免許状更新講習については、従来通り、総経・人間教職センターが担当した。臨採講師に関する情報管理および学生の斡旋調整については、全学的な立場を踏まえつつ総経・人間教職センターが担当した。次年度に向け、教職センターの組織が対外的に明確になるよう、教育学部教職センター、総経・人間教職センター、全学教職センターの関係を整理した。

また、教職に就いた卒業生へのフォローアップ事業として、卒友会の開催（年2回）、採用校巡回

を行った。梓友会では、教職に関するミニ研修や講話を取り入れ、卒業生のさらなる力量向上を図った。

1) 目標 <P>

① 教員採用試験のより多くの合格を目指し、センターでの指導を具体化する

3年生から教員採用試験への受験意識を高めるために、教育委員会人事担当者説明会、業者説明会、模擬テスト、教員採用試験対策一日講座などを実施する。4年生に対しては、出願指導、小論文指導、教員採用1次試験対策のための集団面接および個人面接、次試験対策のための個人面接および模擬授業を実施する。

② 独立した部署として教職センター事務室を設置する

独立した部署として教職センター事務室を計画的に運営する。

③ 教員免許状更新講習の円滑な実施を目指す

必修領域2講習、選択必修領域10講習、選択領域20講習の開講する。

④ 教育学部における教職支援センター活動の充実

教育学部が開設され、教職支援センターに教員経験のある専門員が着任したことから、教育学部教職センターと総合経営・人間健康教職センターが共同して、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と共有化

教職センターの業務内容のシステム化と共有化を行う。そのために、教職課程科目（専門科目以外）のシラバス点検などを含む業務内容の明確化、Ridocを活用した業務内容と書類の共有化を行う。

⑥ 教育実践改善賞の創設

学校法人松商学園の創立120周年を記念し、松本大学教育実践改善賞を創設して、学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与する。

2) 目標への成果・実績 <D>

① 教員採用試験のより多くの合格を目指し、センターでの指導を具体化する

教員採用試験の合格を目指し、教職センターでの活動を具体化した。春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるため模擬試験、教員採用試験対策一日講座、面接指導等を行った。

その結果、教員採用試験において、過年度生8名（長野県、静岡県、岐阜県、山梨県、新潟県等）の合格者と私立を含めた現役での3名（長野県高校、長野県私立高校、新潟県市立高校）の合格者を出すことができた。

活動内容は、昨年度と同様に、i) 教員採用1次試験のために集団面接を実施、ii) 教員採用1次試験体育実技対策講座の実施、iii) 教員採用2次試験対策のための個人面接および模擬授業（事例対応）練習を実施、iv) 「梓友会」の開催と並行して在学生および教員採用試験を受験する卒業生のために外部講師による講座を開催、v) 3年次からの小論文添削指導、受験相談・支援活動、保健体育・養護教諭・栄養教諭・情報免許等のゼミ指導を行った。

② 独立した部署として教職センター事務室を設置する

教職課程の管理には、設置審・文部科学省の関係、課程認定の関係、教員免許状更新講習の関係、

学生の履修関係の業務など、多様で複雑な業務が重なっている。平成30年度は、事務職員の員数の関係で、教職センター事務室の仕事が特に多忙であったが、業務内容は遺漏なく適切に行われた。

③ 教員免許状更新講習の円滑な実施を目指す

平成30年度で4年目となった松本大学教員免許状更新講習を開催した。昨年と同様に5月から11月の期間において、全更新講習を順調に開講することができた。松本大学での教員免許更新講習は、必修講習（2講習）184名、選択必修講習（10講習）212名、選択講習（20講習）434名、延べ830名が受講した。

④ 教育学部における教職支援センター活動の充実

教職支援センターの教員と専門員が協力して、インターンシップ、ボランティア科目等に関する受け入れ校の確保と学生配置、調整を行い、実施することができた。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と共有化

教職課程科目（専門科目以外）のシラバス点検を実施し、教職課程の目的の明確化と共有化を図ることができた。Ridocを活用した業務内容と書類の共有化は、全学的な推進体制の中で、教職センターも遂行することができた。

⑥ 教育実践改善賞の創設

松本大学教育実践改善賞の規程、実施要項を定め、長野県内全教育委員会、信濃教育会、長野県総合教育センター、教育事務所、梓友会会員等に募集要項およびポスターを配布して、長野県内教員および教職に就いた卒業生を対象に広く募集した。その結果、一般部門に17名、卒業生部門に3名、合計20名の論文応募があり、審査の結果、一般教員部門で3名、卒業生部門で1名、合計4名が松本大学教育実践改善賞を受賞した。また、優れた論文の応募が多かったため、特別賞を7名に授与した。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

① 教員採用試験のより多くの合格を目指し、センターでの指導を具体化する

教員採用試験の受験指導の各項目の充実が図られたことは評価できる。昨年度と同様に、教職センターの教職経験者を中心に実施した面接および模擬授業練習は効果が高かった。教職課程履修学生に対する小論文指導、相談支援活動、GPA下位者への指導等が丁寧に行われており、今後も学生の実力向上につながることを期待できる。

② 独立した部署として教職センター事務室を設置する

限られた事務職員が多様で膨大な業務を適切に処理していることは高く評価できる。事務室が多忙な中で、学生の履修等に関する事務対応を丁寧に行っていることも評価できる。

③ 教員免許状更新講習の円滑な実施を目指す

教員免許状更新講習の事後アンケートにおいて、講習内容は好評であった。教職センターおよび教員免許状更新講習担当教員の努力、事務職員の適切な業務処理により、講習の管理運営をはじめ、実施内容に関しても順調な成果を上げることができた。

④ 教育学部における教職支援センター活動の充実

インターンシップ、ボランティア科目等の充実と地域の学校連携の観点から評価できる。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と共有化

教職センターが扱う必要書類については、Ridocへのアップロードがなされており、共有化が可能になっている。会議書類については、Ridocの活用がなされており評価できる。教職センターの会

議では、教職課程の改善に関する全国的情報、教職課程に関する他大学の動向等をFD活動として位置付けることにより、前向きな改善への努力を行うこととした。

⑥ 教育実践改善賞の創設

マスコミ等への広報を積極的に行った結果、教育実践改善賞に対する教育界での関心が高まり、応募総数が20件に達したことは、初年度としては十分な成果として評価できる。全応募者に対して、懇切丁寧なコメントを返しており、応募の意義を感じてもらうことができている。松本大学の社会貢献事業の一環として、また、教職に就いた卒業生へのフォローアップ事業として高く評価できる。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

① 教員採用試験のより多くの合格を目指し、センターでの指導を具体化する

教員採用試験の受験と合格を目指して手厚い指導が行われた。教職経験者を中心にした教員採用1次試験のための集団面接、体育実技対策講座、さらに教員採用2次試験対策のための個人面接および模擬授業(事例対応)練習は、今後も、継続して行われることが望まれる。当初、3月に予定していた合宿指導は、参加学生人数と日程の関係により、1日集中方式で行われた。次年度の実施方法を検討し改善を図る必要がある。

② 独立した部署として教職センター事務室を設置する

一時期より事務職員の業務負担は改善されているが、教職課程の管理と学生対応には、相変わらず多忙な状況が続いており、業務量的にはもう一人の職員(嘱託も可)が必要である。

③ 教員免許状更新講習の円滑な実施を目指す

教員免許状更新講習では、延べ830名に及ぶ受講申請者の情報を処理するため、作業量が膨大である。今後は、教員免許状更新講習の専用ソフトを導入して、業務のシステム化を図る必要がある。

④ 教育学部における教職支援センター活動の充実

教職センターの組織が対外的に明確になるよう、教育学部教職センター、総経・人間教職センター、全学教職センターの関係を整理した。また、各種実習受け入れ校の確保については、今後も教育委員会および校長会との連絡調整を図る必要がある。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と共有化

Ridocを用いた情報のシステム化と共有化は、現状よりさらに様々な分野で活用が可能と思われ、さらなる活用の方法を検討することが、今後の課題である。

⑥ 教育実践改善賞の創設

規程に準拠した審査体制および審査の円滑な実施については、今後の課題である。

<執筆担当/教職センター運営委員会 委員長 山崎 保寿>

3. 情報センター運営委員会

1) 年度当初の予定 <P>

【通常業務】

① 研究・教育の支援

パソコン教室整備、コンピュータ関連科目支援、オリエンテーション実施、学生アシスタント手配等

② 情報機器の維持・管理

ネットワーク、サーバー類の維持管理、教職員パソコンの管理、貸出ノートパソコンの管理

③ その他

資格取得支援管理、外部講習会の実施等を行っている。

【年度当初に計画された新規または単発事業】

① 研究・教育の支援

- ・ スマートセッション接続
- ・ アドビ「アニメイト」ライセンス購入
- ・ PC 教室 Windows10 入れ替え
- ・ 仮想デスクトップシステム

② 情報機器の維持・管理

- ・ 在庫管理ハンディターミナルシステム
- ・ 資産管理システム関連サーバー
- ・ 入試広報・キャリアセンターリモートアクセス
- ・ 新規ファイヤーウォール設置

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

(a) 委員会事業・活動

今年度も定期的に委員会を開催し（4月、6月、9月、11月、2月の5回）、学部・学科による様々な事情や教育方針の違いなどを考慮に入れて議論しながら、通常事業および新規事業を、若干予算の変更はあったものの計画通り実施してきた。その中でも、委員会で審議した結果、新規に実施してきた事業は以下のとおりである。とくに、Office365 メールアドレスの運用は、全教職員の業務にかかわる大きな変更であるため、慎重に議論を重ね、さらに教職員にも丁寧に説明を重ねることで準備を進めながら実施を行っている。

- ① 教職員メールの Office365 化：教職員が業務で利用するメールを Office365 のメールに変更した。
- ② ノート PC 貸出等の規程の整備：これまで内規として利用してきたものを、内容を見直すとともに規程として整備した。
- ③ Wi-Fi のスポット化：資金的な面も考慮し、整備する場所に優先順位をつけ実施した。
- ④ 教職員のノート PC 化：資金面やメンテナンスの面から、教職員の業務用の PC をノート PC に変更する準備を進めた。
- ⑤ フィルタリングの設定：学内のネットワークにフィルタリングを行い、申請により解除する等のルールを構築した。
- ⑥ 外部講習会の実施

例年通り平成 30 年 9 月 5 日～6 日にかけて、松本大学にてシニア大学の講義・演習を実施した。最近の IT 事情についての講演に引き続き、パソコンの使い方、エクセルの使い方、ワードの使い方、写真の加工など、習熟度に応じたパソコン実習を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度も定期的に委員会を開催し、議論を重ねて計画を実施してきたため、大きな混乱もなく、業務が実施されてきた。その中でもとくに、Office365 メールアドレスの運用に関しては、全教職員の

業務にかかわる部分の大きな変更であったが、当初の予定通り計画を進めることができたことは、情報センタースタッフの技術的な部分を始めとした、しっかりとした準備があったからだと感じている。次年度にはこれまでのオンプレミスのメールサーバーを止める予定となっているが、大きな混乱がないように進めていきたい。

また、ここ数年の課題となっている学内の Wi-Fi の整備だが、全体を整備するのではなく、優先順位をつけ、とくに授業で利用する教室を中心に整備していく方針に切り替えることで、安定的な接続の確保に力を入れてきた。しかし、技術的な困難さによりなかなか満足いく結果にはなっていない。今後の大きな課題の 1 つだと感じている。

学部・学科レベルはもちろん、教員・職員レベルでも、考え方の違いはあるため、それらの意見を吸収し、限られた予算の中で大学全体としての方針を立てることは困難な面が多いが、今後とも、より多くの教職員の方々と議論を重ねながら、決定を下していければと思う。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成 31 年度は、通常業務に加えて、Windows10 への対応や Office365 の利用などいくつかの新規事業を予定しており、予算申請を行っている。しかしながら、情報機器の変化は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々である。そのため、いずれの事業においても、限られた予算内で、学生の満足度を上げることができるよう今まで以上に慎重な議論を委員会でも重ね、慎重に決定していきたい。

次年度は、学生への大学からの連絡に関しても、これまで個々のメールアドレスではなく、Office365 メールを利用するように切り替える予定であり、新入生はもちろん在學生にも丁寧な説明を繰り返すことで混乱をおこすことのないようにしたい。同時に、これまで利用してきたオンプレミスのメールサーバーも止める予定であり、業務にかかわる大きな変更のため、混乱のないように慎重に行っていく。

また、今年度の当初から、松商学園のセキュリティポリシーと、本学の情報資産の運用方法に矛盾が発生していることがスタッフより指摘されており、その対策について委員長と情報センタースタッフとで審議を重ねてきた。スタッフの努力もあり、次年度には大学独自の規程を上程できる予定であるが、立場の違う多くの意見を聞きながら最善のものにしていきたい。

<執筆担当/情報センター運営委員会 委員長 浜崎 央>

4. 図書館運営委員会

1) 年度当初の計画 <P>

2018 年度は以下のことを目標として運営を進めた。

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

- ・入館者、貸出数、レファレンス、ILL 件数の拡大
- ・オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実
- ・人間健康学部、教育学部、大学院生への取り組み強化
- ・レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知
- ・広報活動、企画事業の強化

② 図書館サービスの基盤整備

- ・迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
- ・選書力の向上と蔵書構成の見直し
- ・教育および研究への支援体制の強化
- ・学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出

2) 利用統計及び点検評価 <D・C>

【利用統計】2018（平成30）年度

図書(雑誌)貸出数・AV資料閲覧点数（図書：冊、AV資料：点）

	所 属	貸出数	合 計	AV 閲覧	合 計
短 大	商学科	585(11)	1,402(16)	337	759
	経営情報学科	817(5)		422	
総合経営	総合経営学科	1,046(18)	2,455(41)	192	562
	観光ホスピタリティ学科	1,409(23)		370	
人間健康	健康栄養学科	1,639(9)	2,377(95)	205	571
	スポーツ健康学科	738(86)		366	
教 育	学校教育学科	430(0)	430(0)	50	50
	健康科学研究科	86(0)	86(0)	0	0
	教職員	1,800(135)	1,800(135)	3	3
計		8,550(287)	8,550(287)	1,945	1,945

学生1人あたり貸出数

年 度	学生数 5/1 現(人)	貸 出 数 (冊)	1人当り貸出 (冊)
2016年度	1,952	6,954	3.56
2017年度	2,004	6,229	3.11
2018年度	2,054	6,750	3.29

入館者数（延べ人数） (人)

	2016年度	2017年度	2018年度
館内利用者	80,286	77,502	68,482
学 外 者	797	892	762

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

○入館者・貸出冊数・レファレンス件数の拡大

- ・入館者数は前年比88%と減少したが、貸出冊数は入館者数に反し、前年比108%と増加している。これは、全く図書館を利用しない学生と熱心な学生に二極化していることを示していると思われる。今後は9号館の新築に伴い、入館者が減少する可能性があるが、居場所の提供としてではなく図書館本来の利用（資料利用・情報収集等）をさせるための強化が必要である。
- ・学生により図書館利用頻度に差があるため、利用頻度の高い層と利用頻度の低い層に分けてアプローチをする必要があると思われる。
- ・レファレンス数は昨年並みであったが、ここ数年で増加傾向にある。研修や実務を通して、レ

ファレンススキルのさらなる向上を図る必要がある。

- ・新たに国立国会図書館レファレンス協同データベースへ参加をした。自館記録の蓄積はもちろん、他館のレファレンス情報収集を行い、さらに充実を図る必要がある。

○オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実

- ・4月上旬の新生対象の図書館オリエンテーション、3月下旬の在学生対象の図書館オリエンテーション、及び総合経営学部・スポーツ健康学科・短期大学部の新生対象ゼミナール別図書館ガイダンスを行った。

- ・今年度より新生対象のゼミナール別図書館ガイダンスは、各学科に関連する問題を作成し、各自問題を解いて館内を回る体験型に変更。回答後に解説を行い、より理解度を深めた。教員にはおおむね好評であった。

- ・教育学部1年生全員：4月17日・24日（水）4限「図書館講習」
教室で資料種別・特徴・使い方を案内後、館内ツアー実施。

- ・短大後期オリエンテーション：7月31日（火）2年生、8月1日（水）1年生
夏休み開館スケジュール、OPACの案内／卒論関連について資料配布

- ・山田先生：10月8日（月）「バイオメディカル文献探索法」3限 受講生3名
山田先生よりご依頼があり、データベース講習会を実施。レポート・論文の書き方とデータベースを使用した文献検索方法（Pub Med、医中誌web、Science Direct）。

- ・レポート・論文の書き方講座

前期：5月21日（月）～25日（金）30分程度

後期：11月12日（月）～16日（金）60分程度、読書月間の企画として実施

後期開催の講座は参加者の集まりが悪かった。来年度は開催時期等を検討したい。

- ・教育学部1年生全員：11月21日・28日（水）1限「レポート論文の書き方講座」

レポートの書き方＋資料検索方法の説明。資料検索では実際に OPAC 検索を行い、OPAC の見方、本の探し方を説明。

- ・レポート論文の書き方出前講座

教員から要望があり、レポート論文の書き方講座を各ゼミナールの時間に開催。今後も要望があれば対応していく。

アンケートに質問があったゼミには、後日質問の回答を配布。

國府田ゼミ1年：6月20日（水）2限 受講生5名

観光基礎ゼミ：6月26日（火）2限 受講生約40名

7月3日（火）2限 受講生約40名

伊東ゼミ1年：7月24日（火）2限 受講生13名

伊東ゼミ2年：10月24日（水）2限 受講生14名

- ・司書科目授業協力として、「図書館基礎特論」の授業で図書館実習への協力。

講義と排架、重複調査、発注、検収、受入、装備、見計らい選書、新聞整理、紀要・雑誌登録、展示コーナー作成等を行った。

- ・利用教育の一環として、ゲームをしながら図書館の使い方等が学べる「謎解きゲーム」を年に2回実施した。おおむね好評であった為、今後も継続して行いたい。

○人間健康学部、教育学部、大学院生への取り組み強化

- ・人間健康学部と大学院生への取り組みとして「メディカルオンライン利用講習会」を開催した。データベースの利用も昨年度より増加した。
- ・人間健康学部の基礎ゼミ担当の教員に新入生対象ゼミナール別の図書館ガイダンス開催の呼びかけを行った。スポーツ健康学科は開催できたが、健康栄養学科は時間の確保が難しく、今年度は見送った。学科やゼミナール単位での開催が難しい場合は、希望者に対して実施するのも方法である。
- ・教育学部に対しては、特別な取り組みが実施出来なかった。統計として学生ごとの利用の仕方がはっきり分かれてしまっている傾向になっている。

○レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知

- ・ILL利用率は前年比43%と学生・教職員とも減少した。データベースの使い方等をHP上にアップしたので、それらを見ながら学生自身で入手できるようになったとも考えられる。文献検索方法については毎年学生より問い合わせがあるので、次年度は講習会を実施したい。併せて文献複写の申込み方法についても周知していきたい。
- ・利用者自身でデータベース検索ができるよう、図書館ホームページにある各データベースの使い方を最新版に更新し、OPACやその他のデータベースについても新しく使い方PDFを公開した。

○広報活動、企画事業の強化

- ・広報についてはポスター掲示などをおこなってきたが、掲示場所などを再考し、効果的な広報ができるようにしていきたい。
- ・図書館だよりを年4回発行した。企画展示の紹介や知っておくと役に立つ図書館情報を載せ、利用者教育にも役立てた。利用者にとってより身近な内容になるよう工夫をし、掲示の他に館内の机に置くなど気軽に見てもらえるようにした。
- ・積極的に企画展示を行った。本を並べるだけでなくPOPや案内を出して、興味を持ってもらえるようにした。毎年行っている就活関連やクリスマスの展示は、内容が同じにならないよう担当や選書の切り口を変えて、マンネリ化しないよう努めた。
- ・読書月間では学生の興味を惹くような展示の工夫ができ、貸出に結びついた。今後も学生の興味を惹くような展示を考えると同時に、複数の展示がある場合は展示場所を分散させ、利用者が館内全体に行くよう動線も工夫していきたい。

② 図書館サービスの基盤整備の促進

○迅速、的確でホスピタリティのある職員対応

- ・カウンターから離れて業務をするときや、別のカウンターで待っている利用者に声をかけられることがあったので、受け持ちのカウンター以外にもきちんと目を配る必要がある。
- ・利用者への対応が一樣になるよう、職員間での情報共有を図った。

○選書力の向上と蔵書構成の見直し

- ・棚担当の見直しを行い、メインとサブの2人（または3人）体制にした。また、新着図書入替時には、棚担当が担当分野の資料を戻すようにし、書架の状態を確認するようにした。
- ・シラバス掲載図書コーナーを設置。通年・前後期と色分けをした「シラバス」シールを貼付し、資料を探しやすくした。
- ・レポート・論文コーナーに情報収集について書かれている本を追加。「レポ論」「情報収集」

シールを貼付し、資料を分かりやすく排架した。

- ・郷土資料のラベル修正を行った。未済分は次年度も引き続き行う。

○教育、研究への支援体制の強化

- ・レポート課題調査を行い、教員から出された課題に関する図書購入や関係図書を集めてコーナーを設置。貸出期間、貸出冊数を制限し対応したが、お知らせして下さる教員が少ないので、継続して積極的に呼びかける必要がある。コーナーを常設したので、課題が出ていないときは、過去に課題になった本の一部を紹介するようにした。

○学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出

- ・視聴覚コーナーのモニター、デスクを2台分購入、Blu-rayにも対応出来るようにした。
- ・Wi-Fiを強化し、ネット環境が良くなった。
- ・館内照明LED化工事を行った。

3) 2019年度の計画 <A>

統計上の数値としては、減少傾向にあった貸出が増えた一方で、入館者数が減少した年となった。貸出が増えたことについて一定の評価をしつつも、利用者が減ったことを図書館利用の減少と捉え、さらなる努力を続けていく必要がある。そのために、的確な図書館資料の収集と提供、並びに安心して快適な図書館空間の提供を基本に据え、図書館サービスの拡充に努めることを目標にする。

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

- ・入館者、貸出数、レファレンス、ILL件数の拡大
- ・オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実
- ・レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知
- ・企画事業の強化
- ・ターゲットに応じた広報活動の強化
- ・学生協働

② 図書館サービスの基盤整備を進める

- ・教育および研究への支援体制の強化
- ・選書力の向上と蔵書構成の見直し、魅力ある書架作り
- ・定期的なスタッフミーティングの開催
- ・計画的な除籍、新着本入替による図書資料の整備
- ・学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出
- ・迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
- ・研修会等への参加による資質の向上
- ・レファレンスデータの蓄積

<執筆担当/図書館運営委員会 委員長 伊東 直登>

5. 国際交流センター運営委員会

1) 計画 <P>

これまで、本学の国際交流は、学内グローバル化の更なる推進、多様な留学希望に応えるための留学プログラムの拡充、留学先の確保、さらに「短期日本語プログラム」の充実による本学への留学生の確保などの目標を掲げて進められてきた。今年度は、①協定校との関係維持・強化、②海外研修先

の整備・協定校の新規開拓、③通常業務の整備・充実の3つの目標を計画の柱に据えた活動をおこなった。

2) 活動内容 <D>

① 協定校との関係維持・強化

協定校との連携維持・強化活動として下記を実施した。

<留学生受け入れ>

4月 中国・嶺南師範学院5名、韓国・東新大学2名の交換留学生 計7名受け入れ

9月 台湾・義守大学より交換留学生 3名受け入れ

2月 本学「短期日本語ウインタープログラム」へ義守大学から2名の学生が参加

<留学生向けガイダンス等参加>

6月 「外国人留学生就職支援セッション」参加（於：東京ビックハット）

10月 日韓「3+1プログラム」説明会参加（文部科学省主催、於：東京都 内）

※「3+1プログラム」は、日本国内企業への就職を目的とした留学制度であり、2020年度からの本プログラムでの学生受け入れ要請があった。

※これに関連して1月 駐新潟大韓民国総領事館林（イム）副総領事来学。「3+1プログラム」での学生受け入れの正式要請あり。

<視察・派遣など>

6月 国際交流職員会議へ事務職員派遣

（於：チェコ・パルドゥビツェ大学（University of Pardubice））

3月 松本市、松本商工会議所、松本大学の合同による台湾高雄市および台北市の視察。

目的：台湾と松本地域の健康福祉教育分野の交流、地域企業の交流と国際化、さらにインバウンド、アウトバウンドをはじめとした観光振興、大学間交流など。

<その他>

8月 集中講義「海外事情Ⅰ」における特別講義。

韓国・東新大学 柳在淵先生、台湾・義守大学 李守愛先生、中国・前嶺南師範学院（現中山大學）李國寧先生による講義。併せて情報交換会を実施。

10月 パルドゥビツェ大学文化財修復学部長、同副学部長の来日調査の同行支援。

② 海外研修先の整備・協定校の新規開拓

新規協定締結の要望としては、9月に松商学園高等学校の金正玉教諭の同行で韓国・梅香（メイヒャン）女子情報高校一行が来学した。その際、同高校から要望された留学協定締結については今後の検討課題とした。10月には、学生数16,000名の韓国・ソウル市内にある私立大学、祥明大学を視察した。同校に併設されている語学教育センターでの語学研修システムの充実などの説明を受けた。12月に台湾の醒吾科技大学国際交流センターより2名が来学した。この来学は、同大と連携協定を締結している共愛学園前橋国際大学からの紹介で、同大からは、同大観光ホスピタリティ管理学科を中心とした本学との共同研究、交換留学、文化・語学研修短期留学プログラムについて本学との交流の要望がだされた。

海外の大学等との協定・覚書締結については、全学的な取組として、湘北短期大学を通して20年近い交流のあるオーストラリアのニューカッスル大学（The University of Newcastle）との間で、学生交流並びに学術交流での覚書を次年度早々に締結することで合意した。また、教育学部では教育学部独自のプログラムを開発し、マルタでの研修を実施した。内容としては、Malta University Language Schoolでの語学

研修に加え、教育学部の特色(小学校免許と中学校英語・高等学校英語免許(1期生については中学校2種免許)を活かし、小学校での授業参観、並びに本学学生が現地の小学生に日本文化に関するプレゼンテーションを英語で行うプログラムを実施し、海外の小学校・児童についての見識を深めた。加えて、短大部では、学生交流に加えて教員交流や学生の編入プログラムの開発に力を入れており、今年度は、台湾の義守大学との間で教員交流に関する覚書を締結するとともに、カナダのトンプソン・リバーズ大学(Thompson Rivers University:TRU)との間で TRU への編入も視野に入れた覚書を締結した。さらに、短大部では、学生の留学先確保の観点から、オーストラリアのオーストラリアン・カトリック大学(Australian Catholic University:ACU)、英国のアベリストウィス大学(Aberystwyth University)、フィリピンのデラサール大学(De La Salle University Dasmarias)との間で覚書を締結することで合意するとともに、中国の嶺南師範学院との間で短期大学士の学位を取得する留学制度の構築を目指した話し合いを開始した。

③ 通常業務の整備・充実

業務の整備として、今年7月に横浜市立大学および東京経済大学の国際交流センターを訪問し、留学制度、実績、課題などのヒアリングを実施した。これらを参考に委員会として、本学の留学先紹介、学費と滞在費、学べること、経済的支援制度についての専用ページの作成、協定の締結経緯の文書化と窓口となる教員の明確化、休眠協定の見直し基準の作成を実施することとした。

LINEやcacaotalkなどの無料通信アプリの音声通話機能を用いて家族との連絡を取り合う留学生から繋がりにくいとの指摘を受けていた波田国際寮内のWi-Fiネットワーク機器を整備した。

11月開催された松本東ロータリークラブスピーチコンテストにて3名が受賞、また12月の松本ワイズメンズクラブ留学生作文コンテスト創立30周年記念大会にて3名が受賞した。平成31年2月には松本大学同窓会海外留学支援金ならびに村瀬組海外研修支援金の贈呈式が開催され、20名を超える学生に支援金が贈呈された。

3) 点検と評価・次年度に向けて <C・A>

協定校の連携維持活動については、交換留学、短期プログラム、学部学科の特性や事情を考慮した取り組みに分けて考える必要がある。ここ数年の交換留学全般の課題としては、人数的安定の実現をあげることができるが、本学への入学を検討する段階にある者への情報提供ツールとしての留学先の紹介、留学体験談の掲載、必要経費と経済的支援制度の紹介に加えて、海外から本学への留学を希望する者に対する便宜として、英語、中国語、韓国語の翻訳も併記した「国際交流ホームページ」の充実と、留学生受け入れ数の増加、大学へのアクセス向上を目指した国際寮の確保も引き続きの課題となる。また、日本企業への就職を目的とした韓国の3+1プログラムの扱いについても検討しなければならない。

短期プログラムとしては、日本の大学のスケジュールと外国の文化習慣(春節など)が合わず年度により参加人数の振れが大きいことが課題としてあげられた。ここについては、近隣の本学以外の学校に対してもプログラムを紹介することでの参加人数の確保と安定化、本学に関心を抱いた他校学生の編入の促進などを視野に入れた取り組みを次年度はおこなう。

学部学科の特性や事情を考慮した取り組みとしては、教育学部における英語プログラムなどについては各学部の事情を勘案しながらも可能な限り学内横断的な利用が可能となるプログラムの内容、協定の内容にするなど、本学のグローバル化の促進を念頭において次年度も取り組みたい。

<執筆担当/国際交流センター運営委員会 委員長 矢崎 久>

B：学生支援

1. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

平成30年度、全学学生委員会は各学部より選任された学部主任3名及び委員である教員3名（各学科より1名）、学生課長及び学生課職員4名によって構成され、計7回の全学学生委員会を開催して議論を重ねてきた。

1) 年間計画 <P>

学生委員会では正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの認識の基、これまでの積み上げを最大限に活用し、課外活動全体の活性化を図ってきた。こうした学生の活動の活性化に伴い、結果が出始め、学生からの要望も従来以上に多彩なものとなってきており、本委員会における課外活動への援助は重要なものと位置付けられるようになってきている。今年度は、教育学部が開学2年目となり学生数も更に増えることに伴い様々な活動がより活発になることから、全学学生委員会では平成30年度の計画を以下のように立てた。

- ① 学友会活動の支援
- ② クラブ活動の支援
- ③ 生活マナーの向上、特に不正乗車等の撲滅に向けた取り組み
- ④ その他（学生生活支援）

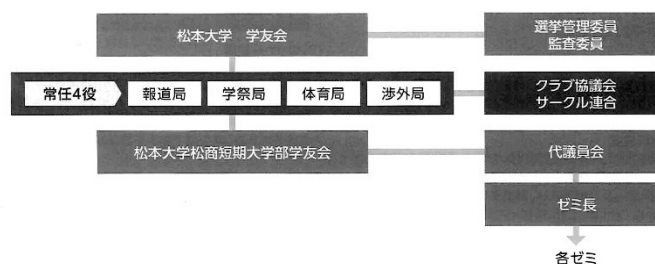
2) 現状の説明 <D>

① 学友会活動の支援

平成29年の教育学部新設に伴い、今までの学部ごとの学友会組織を一本化し（右図参照）、今年度が2年目となった。学部ごとの既存の活動に加え、全学的な連携を図り、学生同士の横の繋がりを積極的に活動へと展開してきた。

学生同士の交流も今まで以上に活性化することはもちろん、会計業務も一元化し複雑な業務を緩和した結果、効率よく作業が出来るなど多くのメリットが誕生した。今年度、全学的に取り組みされた主な行事は以下のとおりである。

- ・Welcome Party2018（4月4日）：新入生歓迎とクラブ・サークルの紹介等
- ・まつもと子どもまつり（5月3日）
- ・バーベキュー&花火大会（7月3日）：学内での焼肉&花火大会
- ・松本ぼんぼん（8月4日）：約80名参加
- ・大学祭「第52回梓乃森祭」（10月12日～14日）：テーマ「Fall into Memories」
- ・学部合同レクリエーション大会（11月3日）
- ・焼き芋大会（11月19日）
- ・秋祭り（11月22日）：新村保育園児等招待
- ・学友会主催クリスマスパーティー（12月18日）：新村保育園児等招待



- ・学部合同体育大会（1月16日）
- ・学部合同次年度学友会引継ぎ会（2月8日）：インフルエンザ蔓延のため中止
- ・スノーボード教室（2月21日）：大町市爺ヶ岳スキー場
- ・学友会新聞「Page.1」の発行（8月・12月）：豊富な学生話題を提供。

② クラブ活動の支援

- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づいて運営されている。その運用に従い、クラブ等の部長については学長より毎年、委嘱されている。
- ・学生の自主的な活動であるクラブ活動におけるリーダー育成の観点から、従来通り、「松本大学クラブ協議会・サークル連合会議」を今年度も3回開催した。
- ・新規の同好会として、アンサンブル同好会、フィッシング同好会、アーチェリー同好会など7団体の設立を審議し、承認した。また、聖書同好会の部への昇格も承認した。
- ・強化部・重点部の監督・コーチ等の選定・継続について必要性の検討、新規選考においては面接等を行った。また、学外指導者規程（内規）に基づき、学外指導者の更新を行った。
- ・スポーツ特待生の継続審査を年2回行った。

③ 生活マナーの向上、不正乗車等撲滅に向けた取り組み

ア) 生活マナーの向上への取り組み

- ・年度始めに「キャンパスガイド」を配付し、オリエンテーション時にマナー向上を呼び掛けた。
- ・学内での喫煙については、喫煙場所と喫煙時間の徹底を学生に呼びかけ、引き続き取り組みを強化した。併せて、歩きたばこや大学近隣における喫煙マナー及び、歩きスマホに対しても厳しく対応した。
- ・SNS等への不用意な投稿やネットトラブルについても、細心の注意を払うよう再三指導に当たった。
- ・今年度、新たに第3駐車場が新設された。自動車通学学生が増える中、交通法規を守り事故等無いように呼び掛けた。

イ) 不正乗車等撲滅に向けた取り組み

- ・従来同様、不正乗車や定期券偽造の撲滅に向けた大学としての姿勢を強く示すことを目的に、警告文の掲示、メールでの事前配信、オリエンテーション時での呼びかけ、キャンパスガイドでの注意喚起等を行った。

④ その他（学生生活支援）

- ・学生の修学支援に関連し、日本学生支援機構(JASSO)奨学金の貸与に際した面接や対応、及び経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査、面接を行った。
- ・経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度の運用に当たり、学生本人の自助努力の確認、利用後の効果性等、細部にわたり検討を数回行う。
- ・学長賞、地域貢献大賞、信濃育英会など各種の学生表彰に関わる機会が多いため、その都度、全学的に協力を求め、学生の活躍に目を配るように対処した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学友会活動の支援

- ・第52回梓乃森祭を中心に活発な学友会活動が展開されており、その後方支援を行う。特に予算管理について強化した。大学祭においては、9号館新設工事に伴い模擬店数が昨年度より12店

舗減ったが、学生や教職員の協力のおかげで大きな問題等はなかった。

- ・教育学部が2年目を迎え、昨年より多くの学生が学友会活動に関わる場面が見受けられ、更に活発化させたい。

② クラブ活動の支援

- ・新規同好会結成への働きかけ、及びリーダーズキャンプの研修内容充実化などより活性化しているクラブ活動に対して支援を行った。
- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づく運用で指導者の充実、責任の所在など明確になり適正な運用に寄与している。

③ マナー向上、不正乗車等撲滅に向けた取り組み

クラブ・サークルだけではなくアウトキャンパス・スタディ、ゼミやクラブの打ち上げ等、学生個人の旅行なども視野に入れた暫定版の「国内版危機対応マニュアル」（案）の内容検討を継続することになった。

④ その他（学生生活支援）

- ・「日本学生支援機構奨学金」については、863名の学生が貸与を受けた（貸与率42.3%）。
- ・「経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度」については、18期、19期含め8名の学生が支援を受けた。より多くの学生が応募できるよう周知に努めた。
- ・各種学生表彰について、運動系の学生の活躍が目立つことを評価した。また文化系の実績について積極的に情報収集を行った。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 学友会活動の支援

- ・従来同様、正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの共通認識の基、より多くの学生に学友会活動や行事への参加を促していく。
- ・4学部共通して、学友会活動が学生の自主的、かつ主体的な活動となりつつあり、積極的な支援を継続していく。
- ・予算管理や活動内容等、より中身の濃い活動内容を求めていく。

② クラブ活動の支援

- ・クラブ・同好会の設立、運営等の対し支援を積極的に行い、活動の活発化に寄与する。
- ・体育館の使用について、手狭な環境ではあるが、各クラブが平等に気持ちよく使用できるように配慮する。また、鍵の適正な使用や紛失等無いよう、周知徹底する。
- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」及び「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」を基に、責任の所在を明確にし、より活動に専念できる環境整備を今後も検討していく。

③ マナー向上、不正乗車等撲滅に向けた取り組み

- ・日々の生活の中から、学生への注意を喚起する。
- ・犯罪等トラブルに巻き込まれないよう、日々学生に呼びかけていく。
- ・不正乗車等撲滅については、毎年発生件数0件を目指す。社会的マナーの周知徹底と理解を学生に求めていく。

④ その他（学生生活支援）

- ・既存の制度や各種表彰の運営上の充実を図る。特に学生支援の観点から、その必要性を常に念頭に置いて検討を重ねることとする。

- ・学生の健康に留意しつつ、それに必要な取り組みは積極的に行う。
- ・修学困難な学生に対する支援制度については今後、学生数の増加に伴い、理由等が多岐にわたることが予想されるため、柔軟に対応する必要がある。

＜執筆担当／全学学生委員会 委員長 濱田 敦志＞

（２）総合経営学部学生委員会

総合経営学部学生委員会は、学部主任を含め５名と学生課職員３名の合計８名の委員で構成され、両学科から１名ずつ２名が全学学生委員会に出席している。学部委員会については年度の総括を行う委員会を開催したほか、委員間で適宜必要に応じて連絡や協議を行った。

１）当初の計画 ＜P＞

前年度の委員会において提起された課題は、①交通マナーの向上に関する呼びかけ、②学内における学生マナーの向上、③SNSにおけるマナーの向上、④日本学生機構奨学金及び経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における面接の４点であった。

これらの課題は、毎年取り込まれる継続的な課題であり、①～③については、学生のマナーの向上として、また④については、奨学金などの学生への経済的な支援に関する取り組みとして計画に位置づけた。さらに本年度は、学生生活への支援の充実や今後のあり方についての検討を計画として新規に位置づけた。

したがって今年度の計画は以下の通りである。

- ① 学生のマナーの向上
- ② 奨学金などの学生への経済的な支援
- ③ 学生生活への支援の充実に関する検討

２）現状の説明 ＜D＞

① 学生のマナーの向上

総合経営学部の学生が加害者および被害者になる交通事故は毎年数多く発生しているほか、通学時の自転車の危険な走行等についても学外から指摘されることもあり、大きな問題となっている。

また喫煙やごみ捨てなどの学内における不適切な行為や学外において一人暮らしのごみ捨てや騒音のマナーなどについても苦情等が寄せられるケースも見られた。特に本年は学内における学生の飲酒の事案が発生した。

さらに鉄道における不正乗車等の事案も毎年発生しており、これらの課題について学生の意識の向上を図るとともに、事案に対する迅速かつ適切な対応を行う必要がある。

また近年SNSの利用の拡大に伴い、学生が巻き込まれるトラブルが発生しているが、本年度においても学内の学生団体を巡って不適切な投稿などの事案が発生した。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

奨学金などの学生に対する経済的な支援は例年通り面接などの審査等を行ったが、本年度自宅が延焼による火災で全焼した学生から学費等の減免に関する要望があり、緊急性が高いことから災害被災学生への支援制度を援用して対応した。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

本年度においては９号館の建設工事が進められるなど、ハード面の整備が一段落する節目の年と

なった。したがって、学生委員会にはそれらの施設を活用していかに充実した学生生活を送ってもらうことができるかについて中長期的な視野で考えることが求められた。この課題は全学学生委員会において特に大学祭のあり方などを考える中で議論が行われた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生のマナーの向上

交通マナーなどについては例年のように1年次の基礎ゼミでの警察署員による研修やオリエンテーションなどの様々な機会を捉えた注意喚起や啓発をおこなった。また喫煙やごみ捨てなどの学内におけるマナー等についても掲示による日常的な注意喚起などを行った。

学外における学生のマナーについては、新村地区のものぐさの郷協議会に学生課長を含む教職員が委員として参加し地域と連携しながらその向上を図った。

一方で、SNSにおけるマナーについては、重要な事案が発生したこともあり、その対処に当たるとともに、再発防止に向けた検討が行なわれた。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

自宅が延焼による火災で全焼した学生に対する支援については、効果的であった。しかし、大規模災害を想定した制度による支援としては例外的な措置であり、今後今回のような事例を対象とする支援制度について検討する必要がある。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

学生生活への支援の充実については、大学祭やその他の行事などのあり方に関する議論が随時行われた。

4) 成果と今後の改善点 <A>

① 学生のマナーの向上

長年の継続的な取り組みから一定の成果を得られていると考えられるが、SNSなどの新しい動きや2019年度から開始される敷地内の全面禁煙への対応など、ルーティンワークにとどまらない取り組みが必要となる。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度や災害被災学生に対する支援制度などの制度を見直し、迅速かつ確かな支援ができるようにシステムを構築する必要がある。また国による支援制度の動向についても情報を収集し、適切な対応が必要となる。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

学生生活への支援の充実については、特に大学祭などのあり方について具体的に改善等を行う必要がある。またその中で学生課の職員体制を含めて十分な支援が行われる体制作りについて具体的な検討を行なう必要がある。

<執筆担当/学生委員会 総合経営学部主任 白戸 洋>

(3) 人間健康学部学生委員会

人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員2名と学生課職員3名の合計6名から構成される。各学科より1名の学生委員(学部主任と他学科の委員)が定期的開催される全学学生委員会を主な活動の場とした。

1) 計画<P>

学部学生委員会は、昨年に引き続き、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、およびより快適な学生生活への支援を目的とし、平成 30 (2018) 年度当初の計画を以下のように立てた。

- ① 学友会活動の支援
- ② その他 (主に学生の生活支援)

2) 実績・現状 <D>

① 学友会活動の支援

(ア) 人間健康学部学友会は、常任四役、学祭局、体育局、渉外局および報道局より構成されており、各局員がゼミより選出されている。

(イ) 人間健康学部学友会が独自に行った行事は、フレッシュマンフェスティバル、学生大会、体育大会および卒業文集の発刊であった。

(ウ) 全学的に取り組んだ学友会活動

※全学学生委員会に記載

② その他 (主に学生の生活支援)

学生の生活支援として、以下の項目について実施した。

[奨学金支援]

- ・ 災害被災学生への支援 (5月・8月・3月)
- ・ 日本学生支援機構奨学金申請者への支援 (6月・11月)
- ・ 第 19 期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援 (9月)
- ・ 第 20 期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援 (2月)

[講習・セミナーの開催]

(ア) 薬物防止・防犯講習会

- ・ 健康栄養学科 (12/14)
- ・ スポーツ健康学科 (11/14)

[その他]

(ア) スポーツ特待生資格の継続について審議を行った (9月・3月)

(イ) 会議等で事件・事故等の報告および学生指導を依頼した

- ・ 4月 30 日付けで男子バレーボール部に対する「学内所有の大型バス等の無期限の使用禁止」処分が解除されたことについて報告した (5月)
- ・ 学内で未成年学生 2 名 (スポーツ健康学科 2 年生) が飲酒した事件と当該学生らに対する処分について報告した (5月)
- ・ 学内トイレ洗面台にカップラーメンの食べ残しが捨ててあり、配水管等が詰まる原因となるとの報告が清掃会社からあったことを報告し、学生に対する注意喚起の依頼をした (6月)
- ・ 上高地線内における本学学生によるキセルを疑う事例があったとの報告が新村地区住民からあったことを報告し、学生に対する注意喚起の依頼をした (6月)
- ・ 午前 2 時前、6 号館に学生 (スポーツ健康学科 4 年生) が入館したことによって、警報機が鳴り、松本警察署が駆けつける騒ぎとなった事件と当該学生に対する処分について報告した (8月)
- ・ 夏季休暇の前に交通マナー及びキセル防止等について学生に対する注意喚起をお願いした

(8月)

- ・連日酷暑のため全教職員及び全学生に対して熱中症の予防と対策をメールにて促した(8月)
- ・部活動のため大学に向かう学生(スポーツ健康学科1年生)が一時停止の標識を無視し、軽自動車と衝突した事故と当該学生に対する処分について報告した(11月)
- ・原動機付自転車で大学に向かう学生(スポーツ健康学科1年生)が信号で停止している自動車の左ミラーに接触した事故について報告した(11月)
- ・原動機自転車で大学に向かう学生(スポーツ健康学科3年生)が凍結した道路でスリップし怪我をした事故について報告した(1月)
- ・マツナビ所属の未成年学生4名(教育学部2名、総合経営学部1名、栄養学科1名)がアパート自室内で飲酒し、不適切な動画を投稿した事件と当該学生らに対する処分について報告した(1月)

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学友会活動の支援

- ・学部の枠を越えた活動が活発に展開され、その支援を行った。また、各学部で計画した行事にも、他学部の学友会執行部が積極的に運営に協力できた。

② その他(主に学生の生活支援)

- ・学生が関与した事件・事故を教員の会議等でその都度報告することは、様々な場面で注意喚起が行われ、事故防止に一定の効果があったと思われる。

4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策 <A>

① 学友会活動の支援

- ・近年においては、学友会活動が学生の自主的且つ主体的な活動となっており、必要性に応じて支援を行っていく。

② その他(主に学生の生活支援)

- ・引き続き、奨学金制度の周知を行っていく。
- ・不正乗車の撲滅に向けた取組を行っていく。
- ・学内外におけるマナーやルールの遵守の徹底を呼びかける。
- ・SNSの正しい使用方法の周知を行っていく。
- ・薬物防止・防犯講習会の実施を継続する。

<執筆担当/学生委員会 人間健康学部主任 新井 喜代加>

(4) 教育学部学生委員会

教育学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員4名と学生課職員3名の合計7名で構成される。主任と1名の学生委員が全学学生委員会に出席し、定期的に行われる全学学生委員会を主軸に、学部学生委員会運営を行った。

1) 計画 <P>

学部学生委員会を立ち上げるにあたり、主に以下の4点を行った。

- ① フレッシュマン・キャリアアップセミナーの計画と実施
- ② 学友会活動やクラブ活動の支援

- ③ 大学祭参加への方向性検討と実施
- ④ 教育学部学生委員会の学生支援体制の確立

2) 実績・現状 <D>

- ① 1・2年生の実施であった。2学年体制での初めてのことであるが、2年生が全体の企画運営する形を取り、各セッションも学生企画で行った。
- ② 2019年度から軟式野球部、吹奏楽部、女子サッカー部、スケート部、水泳部、軽音楽部の部長として教育学部の教員が担当することになった。また、学友会組織常任委員会へ教育学部から引き続き学生を参加させることができた。
- ③ 大学祭「梓乃森祭」において、教育学部という特性を生かし、「おもしろ科学探検工房」理科実験、「おいでよおんがくの森」子ども向けに手作り楽器体験、「Ninja Warrior」子ども向けアスレチック、「松大ランド」簡単なゲーム、「わくわくちびっ子祭り」屋台でのゲーム、「くらふとランド」手の平水族館、「最強の食材 かぼちゃ！」食育に関する調理の7つの店を出店した。当日は晴天に恵まれたことと、全学企画の「仮面ライダーショー」が実施されたこともあり、子どもたちがたくさん集まり、大盛況であった。2年生の実行委員を中心に宣伝活動を行った効果もあると考えられる。
- ④ 学生へ教育学部学生委員の教員を案内し、基本的にはゼミ担当教員が窓口になるが、相談しづらい場合など、学生委員の教員に相談できることを周知した。

3) 点検・評価<C>

- ① フレッシュマン・セミナー終了後すぐに来年度の方向性を話し合い、1・2年生が参加すること、2年生を中心に企画運営をさせ、2年生はキャリアアップ・セミナーの準備時間を確保していくことが検討された。また、高遠は近くて便利であるが、体育館が狭いこととカメムシの大量発生があるので、場所に関しても検討することにした。
- ② 学友会組織を教育学部学生だけではなく教員にも周知し、理解と協力できる体制づくりをしていく。
- ③ 今後も1・2年生で実行委員会を組織し、近隣の小学校に教育学部の出店をPRし、多くの小・中学生に来てもらえるように宣伝をしていく。
- ④ 学生委員の教員は、本人の了解を取って相談を受けたことを主任とゼミ担当に連絡することにした。

4) 成果・改善点 <A>

- ① 12月から1年生に働きかけ、実行委員を中心に準備を進めている。4月から1年生への説明や、しおりづくり、各セッションの企画運営を行った。新2年生のリーダーシップが発揮できる場となりつつある。
- ② 教育学部の教員が、クラブ・サークルの部長を務めるようになり、学友会活動への貢献ができて始めている。
- ③ 相談窓口を周知したことにより、友人関係の問題や家庭の問題など相談しやすい教員のところへ行き、悩みを相談できるようになり、ぎりぎりまで我慢をして不登校や退学という最悪な事態を未然に防ぐことになっている。

<執筆担当/学生委員会 教育学部主任 濱田 敦志>

(5) 松商短期大学部学生委員会

1) 年度当初の計画 <P>

松本大学松商短期大学部学生委員会の平成 30 年当初の計画は以下の通りであった。

- ① 学生の自主活動の支援
- ② 学生生活における健康・安全の促進
- ③ ルール・マナーの教育

2) 現状の説明 <D>

① 学生の自主活動の支援

i) 学友会活動の支援

松本大学松商短期大学部の学友会はおよそ 40 名で構成される常任委員会と代議員会役員がリーダーとなって以下のようなイベントを行った。

a) 松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

- ・新入生歓迎会（4月5日）・・・短大生に対する新入生歓迎イベント
- ・夏季体育大会（6月30日）・・・2学期第3週目の土曜日に第一体育館にて
- ・湘北短大リーダーズキャンプ参加（8月23日、24日）・・・湘北短大内：短大生13名（うち1年生5名）、教職員2名が参加
- ・秋期体育大会（11月27日）・・・4学期2週目の平日、信州スカイパーク体育館にて
- ・学友会常任委員改選（11月）・・・選挙および互選により決定
- ・次期学友会リーダーズキャンプ、および、湘北短大との交流（12月15日）・・・学友会役員と次期役員が集まり次年度活動の構想などを相談、および、湘北短大が来訪し交流&意見交換
- ・「学友」の発行（3月）・・・教職員や学生が寄稿

b) 松本大学学友会と共同で行ったイベントについては、全学学生委員会に記載。

ii) サークル活動の支援

平成 30 年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・フットサル
- ・ファッション

8月6-9日にかけて全国私立短期大学体育大会があり、男女バスケットボール、男女バレーボールが参加したが入賞するには至らなかった。9月8日には長野県私立短期大学体育大会があり、男子バスケットボールが優勝、女子バスケットボールが2位、女子バレーボールは3位となり、参加したチーム全てが好成績を収めた。ファッションサークルは短大部のサークルとして発足したものであるが、今年度短大部学生は所属しなかった。

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対してサークル連合の予算から分担金を拠出した。

iii) 他者理解、自己研鑽のきっかけ及び場の提供

学生が他者との関わりを通して、能動的で責任感や自覚のある活動をすることができるよう指

導するため、以下のような研修会やイベントを行った。

- ・リーダー研修会（9月18日、19日）・・・1年生のゼミ長と副ゼミ長に対して、1日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。ここで学んだことを、それぞれがゼミに持ち帰り、ゼミでフィードバックを行った。
- ・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3月23日）・・・約60名のボランティア学生が参加し、新入生の履修相談などにあたった。

② 学生生活における健康・安全の促進

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに24時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1年生に対しては本学保健師作成による資料を使って、各ゼミで禁煙講習も行った。

交通安全についての講習は基礎ゼミナールの中で松本警察署から講師を派遣していただき実施した。今年度から薬物使用禁止講習も基礎ゼミナールの時間を利用して開催した。年度末のオリエンテーションでは消費者生活センターの協力のもとネット詐欺など悪徳な商法について講習を行った。

③ ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の1年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、不正乗車などについては後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の自主活動の支援

学友会活動はおおむね活発であった。常任四役は松本大学（四年制）学友会と協力して普段のランチミーティングで情報交換し合い、多くのイベントを成功させ、湘北短大との交流もはっきりできた。

体育局は例年どおりの内容ではなく、自分たちなりに考えて秋の体育大会を運動会形式に変更するなどとした。

学祭局は連絡体制が混乱したところもあったが、互いに補い合って学祭を成功させた。報道局は例年通りの仕事に加え、学祭前に各ゼミ報道局員を集めてゼミ模擬店アピールを試みるなどの活動を見せた。

渉外局も例年通りの活動に加えて、地域づくり考房『ゆめ』からの情報について各ゼミ渉外局員を介して多くの学生に伝達するなどの活動を見せた。

サークル連合は各サークル間で連絡を取り合いながら活発なサークル活動を見せた。代議員会は、教員側からのFD活動に協力し、「授業についての意見交換会」への参加・運営に加え、学生FDサミットや短大フォーラムに参加することもあった。

以上のような活発な活動の反面、不活発なところも散見される。ランチミーティングでは常任四役や各局局長が出ることになっているようであるが、参加者が少ないことも多々あった。体育局や学祭局の活動では、短大ゼミへの連絡が疎かになっているところも散見された。報道局や渉外局は活動のレベルをもっと上げてほしいと感じるのは例年通りであった。代議員会に協力要請しているFD活動も、学生が自主的に活動するようなものに繋がればと思っている。昨年は、学友会各局等の活性化を目指した教員の顧問制度を示唆していたが、次年度には実際に実施するこ

とを学生委員会で確認している。

サークル加入者は、卒業生アンケートに見る2年生のデータでは46%であり、ここ数年の中で最も高い割合となった。複数のサークルに参加する学生も散見され、活発な活動であったことが数値でも確認できた。また、サークルに加え、学友会役員活動、地域づくり考房『ゆめ』、松ナビに参加している学生も多く、およそ4分の3の学生はそれらのうちいずれかの活動に参加していたようである。より活発な活動になるよう支援したい。

自己研さんの場としてのリーダー研修会では、ゼミへのフィードバックなどで自己の活動を振り返る仕組みができています。ウェルカムフェアのスタッフにもアンケートを取っているため、それをもとに何らかの振り返りをするようゼミ担当教員に協力をしてもらいたい。

② 学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。他にも必要な講習などあれば考えていきたい。

③ ルール・マナーの教育

今年度、不正乗車は発生しなかった。引き続き、気を引き締めて指導していく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

① 学生の自主活動の支援

学友会活動を充実させるよう顧問教員を置き、活動促進を図る。

② 学生生活における健康・安全の促進

交通安全、薬物防止、禁煙、ネットトラブルなど各種講習会を開く。

③ ルール・マナーの教育

オリエンテーションなどで注意を促していく。

<執筆担当/学生委員会 短期大学部主任 川島 均>

2. 就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は各学部・学科の代表教員とキャリアセンターの事務職員で構成されており、その活動の主な目的は、全学的な観点から松本大学・松本大学松商短期大学部の学生の就職活動に対してきめ細かな支援・サービスを提供することである。

1) 年度当初の計画 <P>

平成30年度全学就職委員会の重点課題は、以下の通りである。

① 組織的意思決定のシステムの構築

全学就職委員会内部における意思決定の所在が不明瞭であるため、意思決定システムを再整備し、全学就職委員会としての組織決定を行える仕組み作りに着手する。

具体的には、内定率の公表、官庁等からの要請への対応、学内での諸行事への対応等について、全学就職委員会による組織決定を行い、意思決定の透明化を図るとともに、責任の所在を明らかにする。

② キャリア教育と就職活動支援の分離

学長が示す中長期計画にある「キャリア教育（教員マター）と就職活動支援（キャリアセンターマター）の分離」の方針に基づき、現在混在している両者を分離する取り組みに着手するとともに、単位認定科目については専任または非常勤講師が担うよう仕組みを再整備する。

③ 新たに導入された「求人NAVI」の初期運用

これまでキャリアセンター内に掲示されていた企業からの求人票が、平成30年度よりメソフィアを通じたWEB上での閲覧（求人NAVI）に変更された。これに伴い、教職員や学生に対する周知およびその運用上のトラブル等への対応を実施する。

④ 大学が主体的に実施するインターンシップ制度の構築と認証評価への対応

以前実施された松本大学が独自に行うインターンシップだが、経緯は不明ながら、現在では実施されていない。現在行われているインターンシップはA)県が実施主体となる「信州産学官インターンシップ」、B)リクナビ、マイナビ等の就職支援サイトが仲立ちを担う、1日または2日を中心とするインターンシップ、の2つである。そこで松本大学独自のインターンシップを再構築するとともに、文部科学省や私学事業団の方針に沿い、インターンシップを単位認定の対象とする取り組みを行う。

またこの取り組みは令和4年度に受審予定の日本高等教育評価機構による認証評価でも必要とされる取り組みである。

⑤ 保護者就職説明会の改革

現在、学部3年生および短大1年生の保護者向けに、就職保護者説明会を実施している。しかし内容がマンネリ化したこと等もあり、多くの保護者の方に参加して頂ける状況になっていない。そこで就職保護者説明会について、その内容やあり方も含め検討し、必要であれば改革を実施する。

⑥ 学内合同企業説明会の改革

学内合同企業説明会について、その内容やあり方を検討し、必要であれば改革を実施する。

2) 現状の説明 <D>

① 組織的意思決定のシステムの構築

年度当初より改革に着手し、すべての事案に関して原則として必ず全学就職委員会にて審議することを決定した。これにより、対外的な対応、外部への情報公開等、すべて全学就職委員会が責任を持つことに改めた。

② キャリア教育と就職活動支援の分離

取り組みの第一段階として、3年生に対するキャリア教育および就職支援講座の分離を実施した。これにより、キャリア教育は教員ならびに非常勤講師が、就職支援は教員およびキャリアセンター職員が担うよう改めた。

③ 新たに導入された「求人NAVI」の初期運用

求人票を確認する際はメソフィアから行うよう、学生への周知を徹底した。併せて教授会を通じ、教員への周知も行った。

④ 大学が主体的に実施するインターンシップ制度の構築と認証評価への対応

本件については2019年度より新設の「インターンシップ推進委員会」が担当することとなる。ついでには、全学就職委員会は本学が主催するインターンシップについて、2018年度中に可能な限りの準備を行い、新設される委員会へ引き継ぐことが任務となる。

そこで第一段階として、本学との関係が強いと判断される企業約200社を抽出し、これら企業に

2019年度インターンシップ生受入の可否についてアンケート調査を実施し、約60社から受け入れ可能との返事を頂いた。

またこのインターンシップは2019年度入学生より単位化されるため、インターンシップ期間について審議を行った結果、5日間のインターンシップに統一することと決定した。

⑤ 保護者就職説明会の対象者の拡大

保護者説明会のあり方を検討した結果、プログラムの大枠については変更の必要はないと判断した。

また就職活動の準備が3年次夏のインターンシップから実質的に始まっていることを鑑みると、現状の3年次10月の開催では間に合わない。しかし早い時期に開催すると、エントリーや試験のピークとなる3年次3月まで時が開きすぎてしまう。以上への対応を審議した結果、第一案として3年次の春と3年次の秋の2回実施、第二案として現状通り3年次秋に開催し、2年生の保護者も参加対象に含める、の2案に絞られた。審議の結果、2019年度は第二案に準じて保護者就職説明会を実施することに決定した。

⑥ 学内合同企業説明会の改革

近年の人手不足を反映して、本学の合同企業説明会への参加を希望する企業は非常に多く、またその数は年々増加している。他方で会場として利用する第一体育館は64社分のスペースしか用意できない。このような背景から、合同企業説明会の参加企業は原則64社とし、これを上回る企業が参加する場合は、第一体育館以外の別会場を用意する形を採っていたが、それでも70社が上限であった。加えて選考活動の早期化が我々の想定を上回るスピードで進んでおり、従来の3月上旬の開催では各社の選考活動と重複し、学内企業説明会に参加できない学生も散見されるようになった。合同企業説明会への参加社数が増加すること、合同企業説明会へ参加しやすい日程を組むことは、いずれも学生へのサービス向上につながるため、学内合同企業説明会の運営方法について慎重に審議した。

その結果、学内合同企業説明会は2日間開催することとした。会場は第一体育館のみとするが、2日間開催により、最大で128社の参加が可能となる。なお、会場設営業者と交渉し、2日間開催であっても費用はまったく増加しないことを確認した。

また開催時期をこれまでの3月上旬から、2月下旬に早めることとした。2019年度については2月26日・27日の実施となる。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 組織的意思決定のシステムの構築

以前と比較すれば、組織的意思決定すべき事項そのものは増加しており、また教職員ともこの仕組みに慣れつつあるといえる。他方で何を組織的に意思決定すれば良いかの基準が不明瞭であり、その結果、必要ないにもかかわらず組織的意思決定を行ってしまうケース、逆に必要にもかかわらず組織的意思決定が行われないという事案が散見される。改革途中故に仕方ないとも言えるが、引き続き、組織的意思決定の推進を図る必要がある。併せて、教職員間での「組織的意思決定を実施する基準」の共有化が不可欠である。

② キャリア教育と就職活動支援の分離

2019年度の実施のため、現状で評価を下すことは難しいが、2018年度末の段階では非常勤講師の任用も含め、順調に準備が進んでいると認識している。

③ 新たに導入された「求人 NAVI」の初期運用

周知を徹底した結果、目立ったトラブルは発生していない。ただし教員の中にまだシステム変更を知らない者もいることが明らかになっているため、引き続き周知活動が不可欠である。

④ 大学が主体的に実施するインターンシップ制度の構築と認証評価への対応

新委員会へ引き継ぐデータの収集や準備は、2018 年度末の段階では順調であると判断している。

⑤ 保護者説明会の対象者の拡大

2019 年度の実施のため、現状で評価を下すことは難しいが、2018 年度末の段階では順調に準備が進んでいると認識している。

⑥ 学内合同企業説明会の改革

2019 年度の実施のため、現状で評価を下すことは難しいが、2018 年度末の段階では順調に準備が進んでいると認識している。

4) 次年度に向けた対応 <A>

学部就職委員会は全学就職委員会の決定を忠実に実行していくことが重要となる。その上で、学部として、以下の計画に引き続き、または新たにに取り組む予定である。

① 組織的意思決定のさらなる推進

前年度に引き続き、2019 年度も組織的意思決定をしっかりと行えるよう、その仕組みを整備するとともに、教職員の意識を変革していく予定である。なお、併せて事案ごとに全学就職委員会に諮るべきもの、教職員が個人裁量で決定すべきものを明確化していく。

② 学生や保護者に対するサービスの向上

合同企業説明会、各種支援講座、就職合宿といった学内のイベント、さらには履歴書の添削や面接といった個人ごとの対応、保護者への対応などにおいて、更なる満足度と効率性の増加を狙い、必要に応じた変更や改革を実施する。

③ インターンシップ推進委員会の協働

インターンシップ関連業務は 2019 年度よりインターンシップ推進委員会へ移管されるため、全学就職委員会の担当ではなくなる。他方で就職活動におけるインターンシップの重要性が増しているため、次年度以降もインターンシップ推進委員会との協働を実施していく。

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

2018 年度では、3 年生に対するキャリア教育と就職活動の分離を行った。しかしその内容や仕組みが十分であるとは言い切れない。検証も含め、必要な措置を講ずる必要がある。また 3 年生以外の学年における、キャリア教育と就職活動支援の分離は手つかずのままである。これらについても必要に応じて取り組む必要がある。

<執筆担当/全学就職委員会 委員長 上野 隆幸>

(2) 総合経営学部就職委員会

総合経営学部就職委員会は本学部の教員とキャリアセンターの事務職員で構成されており、その活動の主な目的は、全学就職委員会の意思決定に基づき、総合経営学部学生の就職活動に対してきめ細かな支援を行うことである。

1) 年度当初の計画 <P>

平成 30 年度総合経営学部就職委員会の重点課題は、以下の通りである。

① すべてのクラス担当者に対するサポートの提供

総合経営学部内でクラスを担当する教員に対し、公式・非公式を問わず、学生の就職活動をサポートする情報を提供する。特に承諾書の取り扱いについては安易な提出をしないよう要請するとともに、企業との承諾書提出にかかわる締め切り日の延期交渉など、個別企業ごとの情報を提供する。

② キャリア支援科目の見直し作業の継続

前年に引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。

③ 総合経営学部学生の就職活動の情報収集と細かいサービスの提供

学部内の各学生の就職活動状況を正確に把握し、キャリアセンター職員の相談・面談のみならず、必要に応じて就職委員との面談の場を設けるなど、より学生の実情や心情に即したサービスを提供する。

2) 現状の説明 <D>

上記の当初の計画に対する主な改善の実施状況は、次のとおりである。

① すべてのクラス担当者に対するサポートの提供

全学ならびに学部就職委員会で有する情報を、実際に就活生を受け持つクラス担任に伝え、より効率的な就職活動の実現を狙ったが、定期的な情報交換の場を持つことは叶わず、教授会等での情報提供や依頼に留まった。

② キャリア支援科目の見直し作業の継続

全学就職委員会とともに、就職支援とキャリア教育の分離に取り組んだ。次年度より3年生向け講義においてその分離を実施することとなった。また保護者説明会についても、保護者の方々の満足度を高めるべく、内容の修正を実施した。他方でキャリア面談、就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナーについては、学部単独での取り組みは難しく、全学就職委員会にその作業を委託する形となった。

③ 総合経営学部学生の就職活動の情報収集と細かいサービスの提供

学生と直接話をする機会が限定され、従来と大きく変わらない情報収集とサービス提供となった。他方でキャリアセンター職員がこの機能を代替することとなった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① すべてのクラス担当者に対するサポートの提供

当初の目的を達することができなかった。そのためには、2つの改善方法が考え得る。第一は、クラス担当者が就職委員に就くことである。これにより、全学就職委員会・学部就職委員会の持つ情報は当然ながらクラス担当者も有することになる。第二は学部就職委員会とクラス担当者間で定期的な情報交換の場を持つことである。この方法でも、全学就職委員会・学部就職委員会が持つ情報がクラス担当者に共有されることになる。ただし第二の方法は時間的制約の観点から、実現へのハードルは高い。総合経営学部内でクラスを担当する教員に対し、公式・非公式

を問わず、学生の就職活動をサポートする情報を提供する。特に承諾書の取り扱いについては安易な提出をしないよう要請するとともに、企業との承諾書提出にかかわる締め切り日の延期交渉など、個別企業ごとの情報を提供する。

② キャリア支援科目の見直し作業の継続

当初の目的を達することはできなかった。その一番の要因は、最終意思決定が全学就職委員会にあり、学部単独で自由な意思決定が難しいことにある。今後は全学就職委員会との連携や情報共有をさらに進め、必要に応じて学部就職委員会から全学就職委員会に対して意見を具申することも必要であろう。

③ 総合経営学部学生の就職活動の情報収集と細かいサービスの提供

意識的に学生に話しかけ、また学生の話に耳を傾けるようにしたが、この取り組みは一部学生に対してのみ行われるに過ぎず、結果として満足のいく成果をあげられたとは言い難い。とりわけ、大学からの連絡・呼び出しに応じない学生については個別対応が難しく、正直なところ、有効な方策は見当たらない。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

学部就職委員会は全学就職委員会の決定を忠実に実行していくことが重要となる。その上で、学部として、以下の計画に引き続き、または新たにに取り組む予定である。

① クラス担当者と就職委員会の連携強化

教授会のみで情報を伝達し、依頼を行う形では十分な就職支援活動を行う上では不十分である。どのような方法で連携を強化するかについてはこれから検討すべき事項ではあるが、公式・非公式を問わず、学生の就職活動をサポートする情報をクラス担当者と共有していく。

② キャリア支援科目の見直し作業の継続

前年に引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について見直しを進める。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナーのあり方やその内容について、学部就職委員会から積極的に提案を行っていく。

③ インターンシップ推進委員会との連携強化

近年の就職活動ではインターンシップが重要な役割を担いつつある。そこで学部就職委員会もインターンシップ推進委員会との連携を強化し、積極的にインターンシップに参加する学生を増やしていく。また必要に応じて学生のニーズに適した受け入れ企業の開拓をインターンシップ推進委員会に要請する。

<執筆担当/就職委員会 総合経営学部主任 上野 隆幸>

(3) 人間健康学部就職委員会

1) 年度当初の計画 <P>

平成30年度、人間健康学部就職委員会では11回の部会を開催し、これまでに行ってきたことをもとに、学生たちの就職活動に対する意欲向上と情報提供のための講義や各種希望制の講座、企業説明会等を計画した。また、「就職内定時期の早期化」と「売り手市場」の現状を考慮し、早い段階からの就職活動を学生たちに促す一方で、一昨年度からは安易な進路決定を強いることなく、彼らが自らの進路や将来についてじっくりと考え、悩み、その上で“納得した”進路決定をするため

の支援を目指し、学生たちの希望と就職先のマッチングを重視するようになってきた。具体的には、ゼミ教員と密に連携し、キャリア面談等を通して多様化する学生の個々の希望や状況を把握することに務める、及び内定後における企業選択・決定の相談等にも必要に応じて対応する、等の活動を重視した。

納得した進路決定のためには、学生たちの就職に対する意識を高めるとともに、情報を提供するツールも重要であることから、スマートフォンにより求人情報を共有できるようにした。このような目的意識のもと、これまで行われていた就職支援に準じ、就職活動の支援を活性化することを目指した。

2) 実績・現状 <D>

平成30年度、人間健康学部就職委員会が行った主な就職支援に関わる活動（学年別に列挙）は以下のとおりである。

	前期（4～9）	後期（10～3）
2年		キャリアデザインⅠ（2年・必修）
	キャリア面談（5～6月）	
3年	キャリアデザインⅡ（3年・必修）	就職支援ガイダンス
	夏期就職合宿（9.6～9.7、9.13～9.14）	保護者就職説明会（10月28日） 企業・業界研究説明会（10月～1月） メイクアップ講座（12/3、12/13、12/18、1/21） 就職対策講座（12月26日） 就職活動直前対策講座（1/31、2/1） 合同企業説明会（3/6、3/20） キャリア面談（2月） 東京・長野合説バスツアー（3/7、3/9）
4年	合同企業説明会（6/16） / 単独企業説明会 就職活動状況調査（ゼミ担当） 個別履歴書添削相談・個別面接練習・集団面接練習 キャリア面談（必要者のみ）	

① 4年生に対する就職支援

- ・ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底（キャリアセンターとの連携）
- ・合同企業説明会、及び単独企業説明会への参加促進
- ・未決定者対象のキャリア面談の義務化（8月～9月）
- ・エントリー企業の分析

② 3年生に対する就職支援

- ・前期必修講義「キャリアデザインⅡ」、後期「就職支援ガイダンス」
- ・キャリア面談
- ・各種希望制講座の実施（主に夏季就職合宿（①コース9/6～7、②コース9/13～14）、12月就職対策講座（12/26）、1・2月就職活動直前対策講座（1回目1/31・2回目2/1、いずれも1Day・Harf dayを実施）、メイクアップ講座（12、1月）、企業業界勉強会、合説バスツアー（3/7、3/9））

・保護者就職説明会の計画・運営（10/28）

③ 2年生に対しての就職支援

- ・後期必修講義「キャリアデザインⅠ」
- ・キャリア面談（5月～8月）

3) 点検・評価の結果 <C>

① 就職支援

2年生後期より必修講義「キャリアデザインⅠ」、3年生前期の必修講義「キャリアデザインⅡ」、及び後期の「就職支援ガイダンス」といった講義を通して、常日頃から自己のキャリアを考えるための機会を提供した。いずれも例年並みの高い出席率であった。

また、継続して夏季就職合宿、1月就職対策講座、及び2月就職活動直前対策講座といった各種希望制講座への学生の参加状況をゼミ担当者と共有し、必要に応じてより参加を促してもらうようにしたため、多くの参加者を得た。

また、今年度は健康栄養学科において長野県職員内定者が複数であったことから、急遽、行政栄養士志望者向けの講座を開催するなど、適宜次年度に向けた対応を行うことができた。

今年度は昨年度より内定時期が早まったため、未内定者に対して、例年よりさらに丁寧な個別対応ができた。

② 就職状況

人間健康学部卒業生の就職内定率は98.9%（就職内定者173名（就職希望者175名）、学科別：健康栄養学科97.5%・スポーツ健康学科100%）、と継続して高い数字を維持している（過去3年間、平成29年度99.3%、平成28年度99.4%、平成27年度98.8%）。なお近年は、健康栄養学科では、従来どおりの専門職種（栄養士・管理栄養士）に加えて、平成30年度は行政管理栄養士として採用された。栄養士業界全体としては依然として委託給食会社が多い。また、スポーツ健康学科では、専門職種（運動指導・医療福祉分野、及び教員等）に加えて、公務員、金融業界への採用が増加しており、多様な進路選択が実現されている。これらは、本学部の専門性と教育の多様性によるものであり、これまでの先輩達の開拓した分野が在学生にも引き継がれているものと考えられる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 就職先の開拓

両学科共に、専門分野における就職先の開拓を進めていくことが重要である。特に資格を生かした分野の就職先は、まだ多くはないため、学部教員とキャリアセンターの情報を教諭していく必要があると考えられる。また、今後は、教育系の進路を希望している学生の受け皿となる分野を開拓する必要であるかもしれない。

② 「就職内定時期の適正化」と「納得した進路決定」の両立

平成30年度に続き、売り手市場の就職活動において、「就職内定時期の適正化」と「納得した進路決定」の両立を引き続き目指していく。そのためにも、就職活動への意識を高められるよう、より一層努力と工夫をしていき、より多くの求人がある時期の活動開始を促していくとともに、「納得した進路決定」を行うために、内定後における企業選択・決定の相談等にも必要に応じて対応していく。平成30年度よりメソフィア入力が可能となった、学生の就職状況調査を

活用するなど、ゼミ担当者とキャリアセンターとの連携を密にしていく。

＜執筆担当／就職委員会 人間健康学部主任 石原 三妃＞

（４）教育学部就職委員会

教育学部就職委員会は本学部の教員２名とキャリアセンターの職員３名の計５名により構成され、全学就職委員会の動向と連携し、本学部としての就職支援体制についての検討を行った。

１）年度当初の計画 <P>

- ・教育学部は２年目を迎え、１期生である２年生への調査ではほとんどの学生が教職を希望しているが、まだ就職について迷っている学生や教職以外を希望している学生もいる。そのため公務員や一般就職等全学における就職支援の情報を把握すると共に、教育学部としての就職支援をどのように行うのか意見交換を行い、教職と一般就職の支援の在り方について検討する。
- ・キャリア教育と就職指導の位置づけの区別という観点から、関連部署とも連携してキャリアデザインⅠの授業内容と就職支援ガイダンスの内容について検討する。

２）現状の説明 <D>

教育学部就職委員会を開催し、全学的な取り組みの中で教育学部としての就職支援の在り方について以下のような観点で意見交換を行った。

① 全学的な就職支援に関連する方向性と具体的な取り組みの把握

本学における就職活動のルールとして、求職カードの登録とキャリアセンターの利用について説明を受けた。３年生から始まる就職支援に関わる年間行事計画としては、インターンシップ、夏季就職合宿、保護者就職説明会、就活対策講座、就活セミナー、企業勉強会、学内合同企業説明会などがあり、内容を把握した上で教育学部としてもこの方向性に沿っていくこととした。

② キャリア系科目と就職支援ガイダンスについての検討

３年次前期に予定されていたキャリアデザインⅠは教務主導で７回分を２年次後期に前倒し、自己理解や社会人インタビューなどを行った。キャリアデザインⅠの内容を踏まえ３年次後期の就職支援ガイダンスの内容について検討したが、教育学部の学生はすでに学校ボランティアの事前ガイダンスとしてスーツの着方、身だしなみについて指導を行っているため、回数を減らし実施時期の調整を行った。

③ 教育学部としての就職支援の在り方の検討

就職支援センターやゼミ担当教員と連携し、学生の進路に関するアンケートの結果から、教職と一般就職について迷っている学生や一般就職を希望している学生を把握し、全学的な就職支援の情報を提供していくこととした。教育学部としては教職が主軸となるが、教育関連の一般就職先の開拓の必要性についても意見交換を行った。

３）点検・評価の結果 <C>

教育学部としては教職が主になるが、一般就職を希望する学生には情報提供をしつつ、今後就職センター、キャリアセンターとの連携が不可欠であることが明らかとなった。

① 全学的な就職支援の取り組み

様々な全学的な行事において教育学部独自としてはまだ実績がない中、まずは保護者就職説明会

をどのように組み立てていくかが課題である。また3年次の教育実習と並行して一般就職希望者には企業や官公庁のインターンシップ、各種対策講座への参加も促していく必要があるため、ゼミ担当教員との連携も必要である。

② キャリア系科目と就職支援ガイダンスの運用

キャリアデザインⅠの開講時期、授業担当者及び内容について次年度以降明確にしていく必要がある。キャリア系科目をキャリアセンターが担当してきた経緯から、なかなかすみ分けが難しいことも明らかとなった。3年次のキャリアデザインと就職支援ガイダンスの内容も関連しているため、受講対象者を把握しつつ再構築していく必要がある。

③ 教育学部としての就職支援の在り方

教育学部として教員採用試験に専念する学生が多い中、同時に公務員試験対策、SPI対策など学生の希望に沿って情報提供していく必要があることが確認できた。教育関連の就職先の開拓については例えば塾や出版社など、また様々な自治体の教育委員会への働きかけなどが挙げられ、大学院進学も含めて、多様な進路先の可能性についてさらに検討していく必要がある。

4) 次年度に向けた対応 <A>

世の中の就職活動の動きが前倒しに変化していく中、教員採用試験は時期的に遅いため、学生への支援をどのように行うかが難しいところである。初めてとなる保護者就職説明会を各部署と連携して行い、ゼミ担当者には学生の就職希望を早めに把握していただくよう促し、状況によって学生にも必要な情報提供を行う。また教育関連の新たな就職先の開拓に向けて具体的に検討していく必要もあろう。

<執筆担当/就職委員会 教育学部主任 安藤 江里>

(5) 松商短期大学部就職委員会

松商短期大学部就職委員会は、キャリアセンターをはじめとする各事務局と教員の連携を図り、進路支援プログラムの作成・実施を行う組織として設置され、2018年度、教員3名、事務局2名の計5名で構成され、計9回の会議を設けて、進路支援に当たった。

1) 年度当初の計画 <P>

2017年度においては、経済情勢の安定傾向が継続し、松商短期大学部学生の就職状況も過年度を上回る形で好調に推移した。結果として、内定率は98.6%と高い数値となった。2018年度においても引き続き経済情勢は安定的に推移すると見込まれるものの、就職活動時期の早期化に伴う負担の増加や就職活動に出遅れる学生の増加が懸念された。

このような情勢を踏まえ、2年生の就職活動支援については、2017年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することはもちろん、その内容の精査を行いより充実した進路支援体制を模索することとした。

1年次には、新たに設置することとなった「キャリアクリエイト集中」の中で、従来の集団面接講座を科目内実施し、面接や就職説明会等で必要となるコミュニケーションスキルの向上を図ることとした。また、2年次の「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・業種研究、マナー研修をはじめとする実践的な就職活動支援を行うこととした。後期科目となる「キャリアクリエイトⅣ」においては、

2年生後期において内定を得ていない学生に対するヒアリングおよび個別相談を昨年度同様、2回行うこととした。さらに、正規科目以外の就職活動支援として、12月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる「業界研究勉強会」への参加を促すこととした。

なお、平成24年度より原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとしている。8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促す取り組みを継続して行うことにした。

2) 現状の説明 <D>

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義、②インターンシップ、③面接練習および就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、③④の面接練習・相談・キャリア面談については、「就職委員会」および「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で、学生に周知徹底される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

まず、2年生の就職活動支援については、2017年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。なお、2年次前期開講となる「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・業種研究、マナー研修、講演など就職活動にあたり必要な知識の習得を目指すとともに、具体的企業情報の提供を行った。

2年次後期開講となる「キャリアクリエイトⅣ」においては、就職活動が遅い未内定学生に対しても当初計画通り、ヒアリングおよび個別相談を2回実施するとともに、間近に迫った卒業までの間に行う就職活動についての講座も実施し、卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

1年生の就職活動支援については、「キャリアクリエイトⅡ」において、1年次2月から3月にかけてスタートする就職活動に向けた実践的知識の習得を目指した内容の講義を実施した。これにより、就職活動期にスムーズに移行することが可能となる。さらに、1年次2月から3月において、新たに設置することとなった「キャリアクリエイト集中」内で、全学生を対象とした本学教職員を面接官とする集団面接講座を実施することで、面接や就職説明会等で必要となるコミュニケーションスキルの向上を図った。

なお、正規科目以外には、本年度で4年目となる、キャリアセンターが主催する「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対する理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。

保護者に対しては、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送した。そして、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促した。

3) 点検・評価の結果 <C>

2年生に対する支援については、昨年度に引き続きキャリアセンターを利用する学生の数が増加し

た。キャリアセンターの取り組みの成果でもある一方、2月、3月に面接練習、添削指導等の利用が過度に集中している点については、何らかの対策を検討する必要があると思われる。

内定率については、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、2016年度の100%、2017年度の98.6%に引き続き、97.9%という高い数値で学生を社会に送り出すことができた。数値に減少傾向はみられるものの、2016年度との差2%は学生個々の事情によるところが大きい。この結果は、経済情勢が好調に推移していることを背景とした地域企業の旺盛な採用意欲に後押しされたところが大きい。1年次から引き続くキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムとともに、ゼミナール教員による手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

また、基礎学力の高い学生から低い学生まで多様な学生の入学に対応するため、入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配布し、また、数学にはEラーニングも実施して入学前から基礎学力向上に力を入れ、1年次の早い段階から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、効果測定を実施している。これらの取り組みがここ数年の非常に高い内定率に寄与していると考えられる。

また、最重要課題は就職活動の早期化による学生負担の増加と、出遅れた学生への対応にあると考えている。特に、直近の2年間においては、例えば2015年度と比較して、前期までに内定を得た学生の割合が20ポイント以上上昇しており、早い段階で準備を完了させるための支援プログラムの見直し等が必要となった。

4) 次年度に向けた対応 <A>

次年度は、日本経済が好調を維持し、それに合わせて雇用環境のより一層の改善が継続すると予想される。また、2019年度においても、就職選考会解禁は6月となることが決定している。事実上の就職活動開始時期は2019年3月と変更がないものの、企業の優秀な学生を確保したいという意欲が高まっていることから、昨年同様、より一層の就職活動の早期化（内定時期の早期化）が予想される場所である。これらの情勢を踏まえ、本年同様、学生への適時の情報提供が重要となると考えられる。

学生の就職活動の活発化については、就職活動開始が遅い未内定学生に対して卒業間際まで就職支援が行えるようにし、特に未内定者への個別のヒアリングの実施回数を増やし、個々の事情に合わせた就職支援を行ってきたが、この成果も着実に表れているため、2019年度も継続していく予定である。

なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として集団面接の面接練習を「キャリアクリエイト集中」の中に取り入れたが、来年度も同様の内容で実施の予定である。

また、2019年度より、就職委員会の組織を残しつつ、従来、就職委員会が行ってきた業務（科目運営等）が本格的にキャリア教育センター運営部会に移管された。これは、キャリア教育と就職支援が現状の就職委員会の活動内に混在し、教員と職員の役割分担が不明確になることで、様々な問題が顕在化してきていることに対する対応である。すなわち、単位認定科目でありながら職員が中心となる科目、事実上就職活動支援の内容でキャリア教育科目として単位認定されている科目等があり、授業内容の見直しと教職員の職務内容の棲み分けが必要になってきた。そこで、本学のキャリア教育と就職関連科目について見直す観点から、就職委員会が行ってきた科目等をキャリア教育センターに移管し、キャリア教育の面から、キャリア教育センターが行うキャリア教育と就職委員会が行う就職

活動支援の棲み分けを行うことにしたのである。本年度は、授業内容の見直し等がある程度行われ、従来の就職委員会の役割との切り分けについても、一定の進捗を見たと考える。次年度においては、就職委員会および、キャリア教育センター運営部会の職務の切り分けをより明確にし、連携を図ること、様々な側面から就職活動支援の充実を図っていく予定である。

<執筆担当/就職委員会 短期大学部主任 木下 貴博>

II. 研究推進管理部門

1. 研究推進委員会

1) 役割 <P>

研究推進委員会の目的は、本学教員の研究活動の支援であり、そのための研究資金の配分と実際の研究活動実施の支援を委員会は担っている。しかし、研究資金として本学が支援できる金額には限度があるため、教員各人が外部資金を獲得して研究を実施することが望まれる。大学教員の研究活動のための外部資金には、科学研究費補助金を初めとし種々の公的、あるいは民間の補助金があり、教員それぞれが積極的に外部資金の獲得を目指すことが望ましい。しかし、科研費に代表される競争的外部資金は採択率が低く、さらに実績を重視した審査が行われているのが現状である。したがって、これら外部の競争的助成金の獲得のための基盤となる実績を積む目的で、可能な範囲の研究費を個人研究費、学術助成金として公平かつ必要に応じて配分し、学内の研究体制を積極的に支援することが本委員会の使命である。さらに、日本学術振興会による「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の終了に伴い、これまで行ってきた地域志向教育研究経費の助成ができなくなったため、松本大学設立時の理念である「地域への貢献」を維持、継続するため、次年度以降の対応は別途検討するとし、2018年度は「地域志向（地域総合研究）研究費」を公募することとした。

大学教員には、それぞれの専門領域における最新の高等教育を実施する能力と、それを支える研究の推進が求められている。当委員会としては、これらの要求に本学のすべての教員がこたえることができるよう、必要とされる研究が滞りなく遂行できる支援制度を維持するとともに、時代と伴に変化する要求に合わせて必要とされる改変を継続していく必要がある。

2) 活動目標の実施状況 <D>

- ① 大学院健康科学研究科河野史倫准教授が日本医療研究開発機構（AMED）へ研究テーマを申請するにあたり、採択決定時に松本大学とAMEDとの間で委託研究開発契約の締結が必要となるため、協議のうえ承認した。申請については残念ながら不採択となった。
- ② 私学事業団経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」を積極的に利用するよう学内広報を行い、2件（山田一哉教授、大阪大谷大学薬学部；守一雄教授、The University of Nottingham Malaysia Campus）を申請し採択された。
- ③ 学内研究助成費の申請は新任教員の7名を加え41件あり、すべての申請を採択した。査定後の承認額は12,703,000円となり、これまでになく高額となった。
- ④ 平成2017年度にCOC事業による地域志向研究の助成が終了することをうけ、平成2018年度に限定した対応として、地域志向研究分野については研究推進委員会において予算枠を設け、研究助成費として募集を行った。8件の申請があり、すべて採択した。総額は2,153,000円となった。

3) 点検・評価 <C・A>

- ① 科学研究費については、2018年度は32件の申請がなされ、新規に5件の研究が採択された。本学においては近年科学研究費の採択数が減少する傾向にあったが、今年度は前年度の採択数を維持する形となった。
- ② 前項の科研費申請の申請者を増やす方策として始めた学内研究助成の萌芽研究には、本年度も9件の応募があり、予算査定後すべての申請に対して助成を行った。研究成果が科研費申請につな

がることを期待したい。

- ③ 科研費以外の外部資金に関しては、専門分野ごとに状況が大きく違うので、部局ごとに適切な情報収集に努め、各教員に応募を促していく必要がある。
- ④ 2013年度から5年にわたり行われたCOC（地〔知〕の拠点整備事業）の一環として、地域志向の教育・研究・社会貢献活動費用の助成を行ってきたが、これに代わるものとして今年度は地域志向研究助成を8件実施した。成果は2月27日（水）、28日（木）の2日にかけて行った教員研究発表会にて報告され、その様子は松本大学学報「蒼穹」でも報告した。

＜執筆担当／研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫＞

（1）研究誌編集部会

研究誌編集部会は大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長を委員として運営した。事務には管理課・総務課があたった。

1) 年度当初の目標 <P>

松本大学では、研究誌編集部会が管轄する「松本大学研究紀要」、「地域総合研究」、「教育総合研究」の3誌を発刊しているが、充実した内容の研究誌の発刊を、維持・継続していく。

2) 目標の実施状況 <D>

- ① 「松本大学研究紀要」、「地域総合研究」、「教育総合研究」の3誌の原稿募集、編集出版を行った。「松本大学研究紀要」には論文4編、研究ノート5編、調査・事例報告1編、教育実践報告1編、資料1編の計12編を掲載した。「地域総合研究」には、論文5編、研究ノート4編、調査・事例報告4編、教育実践報告1編の計14編を掲載した。また、創刊第2号となった「教育総合研究」には、論文6編、研究ノート3編、調査・事例報告1編、教育実践報告2編の計12編を掲載した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

- ① 昨年度査読体制の再構築をめざし、査読手順の明文化や各研究誌に編集責任者を置くなど、編集体制の強化を行い、新体制で2018度の研究誌発刊に取り組んだ。査読者の査読内容については、各研究誌の編集責任者と研究推進委員長がその内容を検討し、必要に応じて修正及び取捨選択を行った後、編集責任者名で著者に伝えることとした。
- ② 形式査読に関しては、現状に即した内容に修正し周知を図ったが、やはりいくつかの問題点の指摘があった。いずれも論文の質保障をどのように担保するかという本質的な指摘であったが、学内研究誌の存在意義やそのレベルに対する各教員のとらえ方の違いが主たる原因となっており、直ちに解決できる問題では無かった。今後発行を続けながら共通の認識形成に向けて根気強く個別に対応していくことが必要と思われる。

4) 次年度に向けて <A>

- ① 研究誌編集部会として3誌に増えた研究誌の質の低下を招かないよう、査読体制等の強化を図った。各研究誌の発行には原稿をある程度の数集めることが必要となるが、今年度は3研究誌の発行を遂行できた。次年度以降も研究誌の質の維持と投稿数の増加という、相反する対応が求め

られるが、避けて通ることはできない。

＜執筆担当／研究誌編集部部长 木藤 伸夫＞

（２）松本大学出版会運営部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

- ① 本年度は4件の出版申し込みがあった。申し込み順に、以下に示す。
 - i. 「教職課程コアカリキュラムに対応した教育心理学」（守一雄教授）
 - ii. 「アクセシブル・ツーリズム ガイドブック IN ベトナム・ダナン編」（尻無浜博 幸教授）
 - iii. 「小学校社会科における価値判断の授業開発 一包撰主義を基軸とした価値類型の有効性」（秋田 真准教授）
 - iv. 「東日本大震災時、宮城県石巻市における学生ボランティア活動等災害支援プロジェクト活動記録集」（木村晴壽教授・尻無浜博幸教授）

各申請について協議した結果、秋田真准教授の申請については、原稿元が博士論文であることから、科研費（研究成果公開促進費〔学術図書〕）への申請を促し、不採択の場合には次年度出版会扱いとすることとし、他の3件についての出版を承認した。

また、教育学部より、外部評価委員からの指摘・提言を受け、高校訪問等に活用するために「教育学部教員の教育・研究活動報告集」を出版したいとの追加申し出があり、次年度予算で出版することを承認した。

- ② 既存の書籍についての販売、在庫管理等を行った。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 今年度は「教職課程コアカリキュラムに対応した教育心理学」（守一雄教授）と、「アクセシブル・ツーリズム ガイドブック IN ベトナム・ダナン編」（尻無浜博幸教授）の2冊を出版した。3、4については、次年度以降出版を希望する場合は再度出版申込書を提出してもらうこととする。
- ② 昨年度からの課題である在庫の確認整理を行い、出版後一定期間を過ぎた書籍については、同窓会総会などで配布した。また、情報を恒久的に保存する目的で書籍のPDF化を図ってはどうかなどの指摘がなされているので、次年度検討することとした。

＜執筆担当／松本大学出版会運営部部长 木藤 伸夫＞

（３）発明管理部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

本部会は、2016年8月1日に施行された「松本大学知的財産管理委員会規程」に基づいて設置された。発明管理部会は、上記規定に基づき、本学における職務発明等に関する事項を審議するため設置され、研究推進委員長が部会長を務めることとした。

- ① 本年度は教職員からの申請が無かったことから、発明管理部会は招集されなかった。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 本部会設置前ではあるが、人間健康学部健康栄養学科助手の水野尚子氏により出願されていた、

「食事用マットおよび食事シミュレーションツール、食事シミュレーションシステム」の特許権が2019年2月8日に登録され、本学初の特許登録となった。栄養バランスの良い食事を習慣化するためのツールとして、食事で何が足りないかを一目でわかるように工夫した食事マットの発明である。本マットを使用して食事管理を行うソフトシステム「NAO システム」も開発中であることから、次の特許申請を期待したい。

- ② 本学教職員による学内外における多彩な活動において、特許法、実用新案法、意匠法、あるいは著作権法等の申請に値するシーズはあると思われるが、規程制定後本学からの発明等の申請はいまだ行われていない。
- ③ 本学におけるサポート体制の周知、学内の学術研究の奨励と本部会の活動を一体化させ、研究成果に関連する知的財産権の保護や、研究成果に基づく特許、実用新案等の申請を積極的に行わせ、実績を積み上げる必要がある。
- ④ 本学からの助成により遂行された事業、研究に加え、受託・共同研究であっても、本学施設を用いて行われた活動の成果として規定に定められた創造的な成果が得られた際には、もれなく申請を行うよう本規定の学内周知をはかる必要がある。

＜執筆担当／発明管理部会長 木藤 伸夫＞

2. 研究倫理委員会

1) 年度当初の目標 <P>

今年度も「松本大学研究倫理委員会規程」に則り、研究の倫理および不正行為に係わる基本的事項に関する事、研究者から申請のあった研究の実施計画の審査に関する事、研究に係わる個人情報保護に関する事、その他研究の倫理に関する事を審議することを目標とする。

2) 目標に対するの実施状況 <D>

本年度、研究倫理委員会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて2名が参加した。

- ・学長が指名する大学院及び各学部から選出された教員
山田 一哉、尻無浜 博幸、室谷 心、河野 史倫、澤柿 教淳、飯塚 徹
- ・研究に関する倫理的及び法的事項を総合的に判断するにふさわしい識見を有する者
増尾 均、福島 智子
- ・一般の立場を代表する学外者
瀬川 格淳（専称寺住職）

a) 研究計画審査

2018年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおりであった。

<第18-01号>

研究者名：人間健康学部スポーツ健康学科 専任講師 田邊愛子

研究計画名：脳活性エクササイズが認知機能に及ぼす影響について

研究の意義・目的：日本では急速に少子高齢化が進み、認知症高齢者数も増加傾向を示している。

現在、認知症を完全に治す方法はなく、治療により予防や進行を遅らせることは可能であるとされる。その治療法には、薬物療法や音楽療法、回想法などが

あり、また予防法として食習慣や運動習慣、行動習慣の改善などが挙げられる。本研究では、高齢者を対象に脳活性エクササイズを用いた運動が、認知症予防へ及ぼす効果を検討することを目的とする。

研究対象者：30名

研究期間：承認日より2019年3月31日まで

<第18-02号>

研究者名：大学院健康科学研究科 教授 根本賢一

研究計画名：活動量計の活用が働き盛り世代の運動習慣の改善と身体面に及ぼす影響の探索
研究の意義・目的：我々が開発した仲間意識に訴求する運動促進プログラムを用いて、30歳代後半から50歳代の企業従業員を対象に展開することで、疾病予防や体力向上と日常生活活動動作（ADL）の向上を図ります。さらに、このプログラムを用いることで企業内でのコミュニティーが円滑になるなどの好循環を生むと考えます。

研究対象者：約300名

研究期間：承認日より2022年3月31日まで

<第18-03号>

研究者名：総合経営学部総合経営学科 准教授 矢崎 久

研究計画名：『研究ブランディング事業』における運動指導によるPOMS2を用いた気分状態の研究

研究の意義・目的：平成27年度11月のストレスチェックを契機として企業は従業員の健康をいかに確保・増進する「健康経営」という考え方への関心の高まりを見せているなかで、本研究において企業が取り組むべき具体的な方途、および得られる心理的变化などについて明らかにしてゆく。

運動指導開始時点、6ヶ月時点、および指導終了時点を1クールとして、7項目の気分状態の変化を、WHOのコア・テストとして採用されているPOM2を用いて明らかにするものである。

1. 対象者に対してあらかじめ、①本研究の目的 ②気分状態の変化を測定するために用いる心理検査（POMS2）でわかること ③スケジュールの概要について書面で説明し、十分な考慮時間の後に書面で同意を得る。
2. 本研究計画に沿い、①運動指導開始時点、②開始後6ヶ月経過時点、③指導終了時点の計3回、POMS2全項目版を対象となる事業所経由で対象者に配布、記入してもらう。
3. 記入された検査用紙を企業担当者経由で回収、結果算出後に松本大学内の外部ネットワークから切り離されたパソコンを用いてデータ入力作業をおこなうと同時に、結果フィードバックシートを作成する。
4. フィードバックシートをプリントアウトして封筒に氏名を記し厳封する。封筒を事業所経由で対象者に手渡しする。

研究対象者：約300名

研究期間：承認日より2022年3月31日まで

<第 18-04 号>

研究者名：人間健康学部スポーツ健康学科 専任講師 中島節子

研究計画名：豆乳飲用が女子新体操選手の骨に与える影響について

研究の意義・目的：スポーツ界では、女性アスリートにみられる利用可能エネルギー不足、運動性無月経、骨粗鬆症という女性アスリートの三主徴が問題視されている。新体操は審美的スポーツとされ、競技そのもののみでなく体型も関係していることから、体重管理などが必要である。思春期における激しい運動と体重制限は、身体の正常な発達や発育を妨げかねない。そこで、この時期に三主徴を回避しておくことは将来の健康管理において重要である。そこで、新体操選手の体調管理をしつつ、食事や女性ホルモンに影響があると言われている豆乳に多く含まれているイソフラボンなどの摂取と骨密度、骨代謝マーカー、月経状況との関係を明らかにするものである。

研究対象者：30名

研究期間：承認日より 2022 年 3 月 31 日まで

<第 18-05 号>

研究者名：教育学部学校教育学科 准教授 和田順一

研究計画名：Paraphrasing 技法の習得が Speaking 能力に及ぼす影響

研究の意義・目的：文部科学省が次期学習指導要領において Speaking の能力を発表とやり取りという項目に CEFR の指標に基づいて分類がなされた。Output に関しては文部科学省答申 (2016, p. 193) にあるように、「書くこと」や「話すこと」に課題があるという現状がある。そのため Communication Strategies が実際にどのように影響をするかを検討し、学生の Speaking 能力の向上を調査する。

この研究は前年 (2017 年度) のパイロットスタディを経て実施するものである。

募集した学生に、話すこと的能力育成の一環として、Paraphrasing についての理論を教え、その理論がいかに関に Speaking に活用されているかをビデオ撮影、並びにインタビューとアンケートを用い調査する。

具体的には以下の手順で行う。

1. あるトピックについて学生に発表させる (ビデオ撮影)
2. 英語コミュニケーションに関するアンケート
3. 授業中での Paraphrasing の理論等の講義 (複数回)
4. あるトピックについて学生に発表させる (ビデオ撮影)
5. 英語コミュニケーションに関するアンケート
6. 回顧的にどのようなプロセスが起こっているのかインタビューする。

(ビデオ撮影)

(上記は計画であり一部に変更がある可能性がある)

研究対象者：15名

研究期間：承認日より 2019 年 2 月 2 日まで

<第 18-06 号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 助手 水野尚子

研究計画名：ブランディング事業に関わる働き盛り世代の栄養調査と栄養改善に向けた介入試験

研究の意義・目的：管理栄養士が開発し、食事バランスチェックを可能とした「食事の基本のかたち」・ランチョンマットなどを用いて、20歳代から50歳代の企業従業員を対象とする栄養指導を行う。指導を介して日常生活における食行動の変容を図り、栄養改善と他の研究グループによる運動指導との協同により、被験者の健康状態の改善をめざす。さらに本研究の推進により、生活習慣病対策を進めるうえで、より栄養改善効果が期待できるプログラムを展開するための実践データの集積を行う。

20歳代から50歳代の従業員全体を対象に、日常生活における食行動変容と健康状態の改善、生活習慣病対策を目的として、メタボリック・シンドロームについての栄養講座を実施する。また、「食事の基本のかたち」・ランチョンマットを使用した食事バランスチェックデータをもとに、管理栄養士が食事摂取状況の説明や食行動に関するアセスメントを実施する。初回および6ヵ月後、1年後に継続調査を行い、毎回行う個別面談により、対象者の食行動の改善を効果的に導くための具体的な目標を提示する。さらに、6号館2階のトレーニングルーム及び池の平ホテル、エア・ウォーター株式会社（梓水苑）などにて行う被験者の形態・体力測定データ、医療機関での血液検査結果データ、及び食事摂取状況との関連から、改善すべき食事の問題点を明らかにするとともに、栄養改善の効果を評価する。

研究対象者：約300名

研究期間：承認日より2023年3月31日まで

<第 18-07 号>

研究者名：総合経営学部総合経営学科 専任講師 古川智史

研究計画名：地方圏における広告産業の変容に関する研究

研究の意義・目的：従来、マスメディアを中心とした広告市場が大きく変わるなど、広告産業を取り巻く環境は変化していることから、地方圏の広告産業の存立基盤が大きく変容していると考えられる。しかし、地方圏の広告産業の実態については、十分に明らかになっているとはいえない。そこで、本研究では、広告産業のアクターへのヒアリング調査を通じて、地方圏の広告産業の存立基盤の変容の解明を試みる。

研究対象者：20名

研究期間：承認日より2022年3月31日まで

<第 18-08 号>

研究者名：健康科学研究科 教授 廣田直子

研究計画名：がん患者の治療と就労に関する支援のあり方

～医療関係者へのインタビュー調査から～

研究の意義・目的： 目的；2016年12月のがん対策基本法改定により、国はがん就労者の雇用継続に配慮する努力義務を企業に課している。しかしながら、わが国の多くを占める中小企業においては取り組みが不十分である。既にごがん患者の就労支援についての先行研究は行われており、患者のニーズとその理由に加え、企業側についてもがん患者への支援の実態や課題が挙がっている。更には、医療者側については全国的にごがん診療拠点病院の相談支援センター等の設置がされており、現状でも多種多様な支援体制は整っている。就労世代のごがん患者の80.5%は仕事を続けたいという意識を持っているものの、今なお34%は依頼退職や解雇をされている、といった就労継続が困難な実態がある。厚生労働省は本年（平成30年）7月、「がん患者の仕事と治療の両立支援モデル事業」を開始した。この事業は、がん相談支援センターに「両立支援コーディネーター」の資格を持った相談支援員を専属で配置し、がん患者個人ごとの状況に応じて治療と仕事の両立プランを策定し活用した両立支援を行う、といったものである。全国401施設あるがん診療連携拠点病院（H.30.3現在）のうちの対象病院（7病院）として、長野市民病院がん相談支援センターが選ばれている。

そこで今回、同病院におけるがん患者への就労支援の取り組みをインタビュー調査し、支援開始時からそれぞれの患者の病期（診断期・治療期・社会復帰を中心とした長期生存期・再発期・終末期）を軸として、患者一人ひとりの病状変化に応じて生ずる、身体的・精神的側面における苦痛やニーズなどについて探る。更にそこから、患者の就労先の企業側の対応状況や課題についても探った上で、病院と患者・企業との連携の実態についても知る。そして、がん患者一人ひとりの状況に応じた医療関係者側の支援の実態を探り、がん患者が治療をしながらその人らしい日常生活を送るための、治療と就労に関する支援のあり方を検討することを目的とする。

意義；この研究により、就労に困難を感じているがん就労者が、病院（治療）・企業（就労）それぞれの立場からの支援策を知ることで、就労継続の一助となることを目指す。更に中小企業に対しては、がん就労者への雇用継続のための対応のヒントの提示になることを期待する。。

研究対象者： 長野市民病院がん相談センター 両立支援スーパーバイザー特定社会保険労務士1名、同両立支援コーディネーターがん看護専門看護師1名、同両立支援コーディネーター医療ソーシャルワーカー1名の計3名

研究期間： 承認日より2020年1月31日まで

<第18-09号>

研究者名：健康科学研究科 准教授 福島智子

研究計画名：松本医療圏における在宅看取りの現状と課題について、介護支援専門員（ケアマネジャー）への聞き取り調査

研究の意義・目的：本研究では、日本で今後も加速する高齢社会の課題の一つである多死社会に対応すべく、国が進めている「地域での在宅看取り」の松本医療圏の現状を、要介護高齢者を支援する地域の医療・介護連携の調整役であり、要介護高齢者とその家族と関わる機会が多くある介護支援専門員（ケアマネジャー）のインタビュー調査から明らかにする。在宅看取りに至った症例と至らなかった症例の要介護高齢者を取り巻く環境（地域性、介護者状況を含む家族状況、経済状況、かかりつけ医・訪問看護師との関係）を比較することにより、松本医療圏における在宅看取りの現状と課題を明らかにする。研究結果は、国が目指している「地域での在宅看取り体制」を松本医療圏で推進するための有効な情報になることが期待される。

研究対象者：5名

研究期間：承認日より2020年3月31日まで

<第18-10号>

研究者名：教育学部学校教育学科 教授 守 一雄

研究計画名：小学校3年生用集団式潜在連想テストの開発と試行

研究の意義・目的：Mori, Uchida, and Imada (2008)が開発した中学生以上を対象とした集団式潜在連想テストの小学校3年生版を作成する。集団式潜在連想テストは従来のアンケートでは調べられなかった被験者の潜在連想構造について探ることができる。このテストが小学校児童にも使えるようになることは学校教育において意義がある。

研究対象者：長野市立山王小学校3年生2クラス全員（約50名）

研究期間：承認日より2019年7月31日まで

b) 大学院生向けの研究倫理教育

昨年度に引き続き、大学院生の必修科目である「健康科学特論」の第1回目に研究倫理に関する講義を行った。また、日本学術振興会編集のe-learning システムを受講させた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

a) 研究計画審査

審議の際、すべての研究計画について規程・ガイドラインに照らした問題点の指摘とその解決策の例示を行った。<第18-10号>は「非該当」とし、それ以外については、委員長から、各申請者にそれらの点について修正を要求した。修正の確認に関しては委員会で委員長に一任した。委員長は、関係委員と申請書の適切な修正がなされたことを確認したあと、承認したというメールを全委員に配信した。また、修正審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

b) 教員・大学院生に対する研究倫理教育

研究倫理に関する最低限の教育を導入できた。また、大学院生は全員に、e-learning の修了証を提出させた。

4) 次年度に向けて <A>

次年度も研究倫理の厳格なる審査と研究倫理教育を推進していく。教育学部においては、個人特定研究については当然、倫理委員会にかかる必要があるが、無記名の研究アンケート調査等については、

入学生の保護者宛に、入学後、そのような研究アンケートをとることについての同意書を求める等することを検討した方がよい。

＜執筆担当／研究倫理委員会 委員長 山田 一哉＞

(1) 動物実験部会

1) 年度当初の目標 <P>

従来通り、動物実験の審査を適切に行うこととした。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度、動物実験部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

- ・動物実験等に関して優れた識見を有する者／山田 一哉、河野 史倫、澤柿 教淳、川島 均
- ・倫理等の学識経験を有する者／福島 智子
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者／実験動物管理者 塚田 晃子

a) 動物実験審査について

本年度分と次年度分を含めて下記の6件の申請を審査した。

＜受付番号 第18-06号(新規)＞

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 木藤伸夫

研究課題：不飽和脂肪酸の寿命への影響を、キイロシヨウジョウバエのインスリン受容体変異体を用いて調べる。

研究目的：不飽和脂肪酸を餌に加えるとキイロシヨウジョウバエの寿命が極端に短くなることを明らかにしたが、この寿命の変化にインスリンシグナルが関与しているか調べる。

動物実験実施者名：健康科学研究科 教授 木藤伸夫

実験実施期間：承認後～平成31年3月

使用動物：遺伝子組換えシヨウジョウバエ(雄・雌)交配し常時100匹を越えない

＜受付番号 第19-01号(継続変更あり)＞

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手、他に院生1名、学部生15名

実験実施期間：2019年4月1日～2020年3月31日

使用動物：ラット(雄)50匹 マウス(雄)60匹

＜受付番号 第19-02号(継続変更なし)＞

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：生化学実験(健康栄養学科2年生後期)

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝

酵素遺伝子の発現変動を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手

実験実施期間：2019年9月～2020年1月

使用動物：ラット（雄）15匹

<受付番号 第19-03号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 高木 勝広

研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 近藤史貴、塩島なつみ、藤原昌伍、古屋友梨奈、宮澤愛佳、他に学部生7名

実験実施期間：2019年4月1日～2020年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

<受付番号 第19-04号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 河野 史倫

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。また、それらの変化を裏付けるヒストン修飾変化を明らかにするため、遺伝子ノックアウトやノックダウン、薬剤を適宜組み合わせて検討を行う。

動物実験実施者名：健康科学研究科 増澤諒、吉江俊浩、大沢育未、金野遼太郎、内山菜南他に学部生6名

実験実施期間：承認後～2020年3月

使用動物：ラット（雄）24匹、マウス（雄）108匹

<受付番号 第19-05号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学人間健康学部健康栄養学科 教授 木藤 伸夫

研究課題：不飽和脂肪酸の寿命への影響を、キイロショウジョウバエのインスリン情報伝達系変異体を用いて調べる。

研究目的：不飽和脂肪酸を餌に加えるとキイロショウジョウバエの寿命が極端に短くなることを明らかにしたが、この寿命の変化にインスリンシグナル伝達経路が関与しているか調べる。

動物実験実施者名：健康科学研究科 教授 木藤伸夫

実験実施期間：承認後～2020年3月

使用動物：キイロショウジョウバエ 100匹

b) 公私立大学実験動物施設協議会総会・研修会への参加

平成30年6月1日に開催された公私立大学実験動物施設協議会総会に山田一哉教授と塚田晃子助手が参加した。

c) 動物実験に関する情報開示等

最新の規程・自己点検評価・実験動物の飼育数・教育訓練参加者数・動物実験部会委員構成、

承認された計画数をホームページ上で公開した。

d) 教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

平成30年8月3日 教育訓練（教職員・院生向け） 参加者 9名

平成30年10月2日 教育訓練（学生向け） 参加者 71名

e) その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、平成30年5月23日に挙行了。河野倫史准教授が、実験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 動物実験計画について

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。本年度の実験に用いた動物数は、ラット36匹、マウス430匹であった。

4) 次年度に向けて ＜A＞

次年度も、動物実験をより適正に実施できる体制を維持していくことが重要である。

＜執筆担当／動物実験部会長 山田 一哉＞

(2) 遺伝子組換え実験安全部会

1) 年度当初の目標 ＜P＞

目標は、遺伝子組み換え実験が安全に行われるように、遺伝子組み換え実験計画の審査を厳格に行うこと、および規程等の改訂を行うことである。

2) 目標の実施状況 ＜D＞

本年度、遺伝子組み換え実験安全部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

- ・ 遺伝子組み換え実験等に関して識見を有する者／山田 一哉、河野 史倫、澤柿 教淳、川島 均
- ・ 倫理等の学識経験を有する者／福島 智子
- ・ 学長から任命された安全主任者／浅野 公介

a) 遺伝子組み換え実験計画の審査について

今年度分機関承認実験計画1件と、次年度に向けて6件を審査した。

＜第18-07号（機関承認実験）＞

実験管理者：健康科学研究科 教授 木藤 伸夫

実験課題名：不飽和脂肪酸の寿命への影響を、キイロシヨウジョウバエのインスリン受容体変異体を用いて調べる

場所名称：動物飼育室、微生物実験室内飼育用インキュベーター

実験種類：動物接種実験

実験期間：2018年9月1日～2019年3月31日

実験目的：不飽和脂肪酸を餌に加えるとキイロショウジョウバエの寿命が極端に短くなることを明らかにしたが、この寿命の変化にインスリンシグナルが関与しているか調べる。

<第19-01号（機関承認実験）>

実験管理者：健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：2019年4月1日～2020年3月31日

実験目的：1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。
2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第19-02号（機関承認実験）>

実験管理者：健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名：新規転写因子ファミリーZHXの生物学的役割の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：2019年4月1日～2020年3月31日

実験目的：1) 新規転写因子ファミリーZHXの機能解析と標的遺伝子の検索
2) ZHXファミリー、グルコキナーゼ (GCK)、Brdファミリー、LacZおよびEGFP遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第19-03号（機関届出実験）>

実験管理者：人間健康学部 助手 浅野 公介

実験課題名：概日リズム調節因子・メラトニンは血糖上昇ホルモンとして肝臓に作用するか？

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：2019年4月1日～2020年3月31日

実験目的：肝におけるメラトニンによる糖新生系酵素遺伝子の発現調節機構を解析する。

<第19-04号（機関承認実験）>

実験管理者：健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：2019年4月1日～2020年3月31日

実験目的：1) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

- 2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを複製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 19-05 号 (教育目的実験) >

実験管理者：健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名：酵母の形質転換

場所名称：共同実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：2019 年 7 月 8 日～2020 年 7 月 22 日

実験目的：お酒の発酵等に用いられる麹菌 (*Aspergillus oryzae*) 由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌 (*Saccharomyces cerevisiae*) に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになることを確認する。

<第 19-06 号 (機関承認実験) >

実験管理者：健康科学研究科 准教授 河野 史倫

実験課題名：筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称：動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

実験目的：骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動が、どのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのかを追求する。

3) 点検・評価の結果 (目標の達成状況) <C>

a) 遺伝子組換え実験計画の審査について

すべての実験計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、かつ、従事者が変更されるだけの継続実験であるため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

4) 次年度に向けて <A>

本学では遺伝子組み換え実験を行っている研究者が少ないため、詳細にわたって実験計画を審査することができる。次年度も、このような体制で進め、安全に実験が行われるよう努めていきたい。

<執筆担当/遺伝子組換え実験安全部会長 山田 一哉>

3. 競争的資金事業推進委員会

(1) 研究ブランディング事業推進委員会

2017 (平成 29) 年 11 月 7 日、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に、本学が申請していた事業プランが選定され、今後 5 年間にわたって助成を受けることになった。本学の事業プランは、地元自治体・企業、医療機関などと連携して、健康づくりを企業で働く現役世代にまで拡げ、企業従業員の健康リスクを軽減し、医療費や健康保険料の抑制・削減を図ろうというものである。それに加え、関連するヘルスツーリズムを企画・実施して宿泊施設利用者を増加させることや、健康づくりに関連するソフトや機器類などの開発と、それらを商品とする事業化や起業なども視野に入れ

て取り組みを進め、総体として「元気な地域づくり」に繋がり推進することを目指している。

以上、本学研究ブランディング事業の選定結果並びに目的を確認した上で、以下に2018(平成30)年度の取り組みについて述べる。

1) 年度当初の計画・目標 <P>

当初計画に示したように、本事業は実施期間5年であり、2017(平成29)年度を第一年目と位置づけていたものの、選定が11月であったために一年目は実質的な活動を展開することはできず、翌年度からの準備に忙殺されたというのが実際のところであった。したがって、今年度の計画・目標は、第一年目のものを引き継ぐものにならざるを得なかったこともあり、次のような11項目となった。具体的には、①(株)池の平ホテル&リゾートとエア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実施及び医療費データの整理、②(株)池の平ホテル&リゾートの宿泊者に対する運動指導に関する聞き取り調査と結果整理、③松本市「健康経営研究会」加入企業の中から選定した協力企業の経営者と従業員に対する説明と理解、④全参加企業のメンタル面の不調による休退職者数の把握と整理、⑤松本市立病院の人間ドック担当者及び宿泊施設の梓水苑の責任者に対する本事業の説明と理解及び取組に関する合意、⑥松本地域のヘルスツーリズムに関する実態調査の企画・実施、⑦主として企業経営者を対象としたエア・ウォーター(株)と(株)池の平ホテル&リゾートの宿泊を伴う運動指導の体験ツアーの企画・実施、⑧次年度に実施する健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画、⑨上記公開講座の告知を中心に本事業に関する広報への適切な取り組みの推進、⑩本事業に関するテレビ番組ないしはプロモーションビデオの収録・放映、⑪本事業遂行に必要な機器類の整備等であった。そのなかでも、まず①②④にあるように、エア・ウォーター(株)従業員の形態・体力測定を、本学6号館2階のトレーニングルームにおいて実施し、データを収集し記録した上で活動量計を配布し、さらにアンケート及びPOMS検査を実施する。その後、集団・個別の運動指導を実施するとともに、データ収集用パソコンを適宜配置し2週間に1回程度の頻度で活動量計データを吸い上げ整理する。また、新たに参加する(株)池の平ホテル&リゾートの担当者と従業員に対しても、活動量計の個人設定及びデータ吸い上げ用パソコンの設置場所の確認、医療費データの整理等を行う。なお、両企業については、今年度より設置、稼働している本事業推進室の2名の室員により諸々の作業を進める。以上のような諸作業と並行して、③⑤にあるように、本事業の内容及び社会的意義を十分に説明し、理解と協力を得る。また、⑥⑦についても、総合経営学部の担当者と協力して遅滞ないよう進めつつ、⑧の公開講座を計画し実施することを通じて⑨に掲げた本事業に関する広報活動の適切な推進に努めることなどが年度当初の計画・目標である。

2) 実施状況 <D>

本事業は、昨年度(事業第一年目)に立ち上げた15名の委員と4名の協力員からなる「松本大学研究ブランディング事業推進委員会」に加え、今年度新たに設置した2名の要員を擁する推進室を実働部隊として展開された。ここで取り組まれた活動は多岐にわたるが、それらを以下のように、①タグフィットネスの効果検証事業、②広報活動・ブランド調査、③事業推進体制の強化、④次年度に向けた事業拡大の取り組み、⑤その他の4点にまとめ概述する。

① タグフィットネスの効果検証事業

1) 企業従業員対象

・池の平ホテル&リゾート・エアウォーター(株)・(株)村瀬組など計17社363名

2) 自治体(長野県原村)1村100名

② 広報活動・ブランド調査

- 1) キックオフ・シンポジウムの開催(5月24日)参加者約250名
- 2) 大塚製薬との共催による「健康経営実践セミナー」ライブオンセミナー開催(9月20日)参加者約50名
- 3) 「企業対象特別講座」(2019年2月4日)参加企業5社
- 4) 事業パンフレットの作成・配布4000部
- 5) 事業専用ホームページの作成・公開
- 6) 長野県内2487社を対象としたブランド調査実施(回収数520件、回収率20パーセント)

③ 事業推進体制の強化

- 1) 事業推進室の設置と推進室要員2名の採用・配置
- 2) 事業推進室と地域健康支援ステーションの関係調整
- 3) 繁忙期における人材確保(派遣指導員の確保と事務手続の確立)
- 4) 事業推進に要する機器類の購入

④ 次年度に向けた事業拡大の取り組み

- 1) タグフィットネス等の実施にかかる料金の検討・設定
- 2) 事業拡大に向けた人材のいっそうの確保
- 3) ヘルスツーリズム実施に係る池の平ホテル&リゾート(株)との協議
- 4) 企業および自治体への働きかけ・売り込み
 - ・予定企業・従業員数/21社・約570名
 - ・予定自治体数・住民数/3自治体・約350名
- 5) 推進室要員(運動指導士)の派遣業務受託

⑤ その他

- 1) 研究倫理審査受審・認可による研究推進体制の整備
- 2) 摂取カロリー推定アプリ開発に関する開発会社との協議・打合せ
- 3) 事業に対する外部からの調査・聞き取りへの対応
 - ・丹羽秀樹文科省副大臣(当時)(7月9日)
 - ・北海道科学大学(6月29日、2名)
 - ・田園調布学園大学(8月31日、5名)
- 4) 事業に関する講演会依頼への対応
 - ・長野県経営者協会・連合長野労使懇談会(8月22日)
 - ・長野県生活協同組合学習会(8月24日)他
- 5) 事業参加者への便宜供与の取り組み
 - ・ミズノ(株)との協定による同社スポーツ用品の廉価提供
 - ・上記協定を通じた大塚製薬(株)のスポーツドリンク等の廉価提供

3) 点検・評価の結果(目標の達成状況) <C>

上記の実施状況でも記したように、今年度の大きな成果は、昨年度の事業推進委員会の編成、立

ち上げに続いて、①活動を実質的に担う推進室および推進室員（2名）を整備、確保することができたことであり、それは今年度以降の実施体制を構築できたという意味で非常に高く評価している。また、昨年度に続いて②機器類を充実させることができたことも同様である。さらに、③研究部門において、健康づくりに関する運動指導・栄養指導・メンタルケア各分野の研究推進上不可欠な、「研究倫理委員会」における承認を得て研究推進体制を整えることができたこと、④昨年度課題として残されたヘルスツーリズムについて、（株）池の平ホテル&リゾートの実施している取り組みを調査してそれを参考に検討・企画することとなり、次年度以降の具体的実施に向けて筋道を立てることができたことも評価でき、今後の展開を期待している。さらに、⑤「広報活動・ブランド調査」において、5月24日に開催した「松本大学研究ブランディング事業 キックオフ・シンポジウム」では約250名の参加者を得ることができ、それを通じて長野県内の企業をはじめ、多くの関係者に本事業の存在と意義を周知することができるなど抜群の広報効果を上げることができたと評価している。

とは言え、広報活動・ブランド調査部門において実施した、長野県内2487社を対象としたブランド調査（回収数520件、回収率20パーセント）では、大勢として認知のレベルはまだまだ低いことが明らかになっており、その向上が今後の大きな課題であることは間違いない。また、計画していたプロモーションビデオの作成については、推進・実施委員会で検討した結果、さらに取り組みを増やし、その一環として作成するのが望ましいとの意見が大半を占めたため、次年度以降の課題として残された。また、「タグフィットネスの効果検証」では、既述のように、池の平ホテル&リゾート、エウォータ(株)、(株)村瀬組など17社363名に加え、当初は予定していなかった長野県原村の村民約100名も含め計17社1自治体、約463名を対象に事業を進めることができたものの、一部を除いて開始時期が年度後半にずれ込んだため計測、データ収集の期間が短く、最終計測を年度内に修了できず次年度に持ち越すこととなった。この点は大きな反省点であるが、一方、推進室および推進委員の取り組み努力によって、次年度には21社約570名に加え3自治体約350名、計約920名を対象とする目処が立ち、この点は事業の持続的展開という観点から高く評価してよいであろう。

4) 次年度に向けて <A>

次年度に向けては、上述した今年度未達成にであった点、とりわけタグフィットネスの効果検証とヘルスツーリズム具体的実施に向けて着実に取り組まねばならないと考えている。それらに加えて、「平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書」に記載した当初計画の遂行に注力する。その項目は、以下のとおりである。

- ① 新たに参加する企業従業員に対する体力測定と運動指導の実施及び活動量計データの整理
- ② ①の結果を踏まえた、医療機関や宿泊施設などへの本事業への参加要請の企画と実施
- ③ ②によって応募した医療機関や宿泊施設に対する説明と実施に向けた取り組みの促進
- ④ 研究部門について、事業開始から2年間で得ることのできた成果や効果の、学会発表や研究誌への投稿・掲載等による外部への公表促進

以上が、次年度に取り組むべき主要な事柄であるが、加えて、2019年になって文部科学省より明らかにされた「私立大学研究ブランディング事業」の打ち切りという予期せぬ事態に対してどう対処

するかということもまた、次年度とり組まねばならない大きな課題である。ちなみに、対応策は事業の中止をはじめ幾つか考えられるものの、現時点では、申請時に構想していた本事業の収益化を中心に考えていくべきであると判断している。最終的にどのような形になるか定かではないが、外部からもたらされたこの課題解決が、次年度の最たる課題であるのは間違いない。

＜執筆担当／松本大学研究ブランディング事業推進委員会 委員長 等々力 賢治＞

（２）大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）事業推進委員会

１）2018年度の取組概要 <P・D>

今年度は、「ルーブリック」によるコンピテンス評価を非常勤の科目を含めたより多くの科目で実施するとともに、「ディプロマ・サプリメント」の発行に必要なシステム改修が終了したため、卒業時にこれを発行した。また、前年度までに本AP補助事業で実施される取組の体制整備がほぼ終了したため、本年度は、教職員間のコンピテンス育成を意識した授業改善と評価手法等の工夫、コア・コンピテンスに対する共通認識の醸成、学生に対しての本取組の周知など、本AP補助事業で実施される本学の教育改革の実質化に取り組んだ。

① ルーブリック評価の問題点の抽出と改善に向けた議論

今年度は、7月にルーブリック評価に対する専任教員アンケートを実施したが、約3分の2の教員が「評価が難しい」と回答した。理由としては、「個々の学生の観察・把握が困難」、「ルーブリックが抽象的な文言で表現されているため、教員間、学生間での評価に差が出やすい」などの指摘があった。そこで、ゼミ生自身による評価基準の検討を実施したゼミや、コンピテンスの自己評価記載の際に具体的事例やその事例で身に付けたことなどを記載させる取組を実施したゼミ、ルーブリックに記載されている内容を具体的な例で示すことで担当科目に適した文言に改善する取組を実施したゼミなど、各専任教員レベルでの改善に向けた議論が進んだ。また、このようなゼミでの議論を通して、コア・コンピテンス育成の重要性やルーブリック評価についての認識の共通化を学生間でも進めることができた。加えて、8～9月に実施した企業アンケートを通して、本学卒業生の“強み”と“弱み”が明確になってきたため、本学の学生が身に付けるべき知識や技能、コンピテンスを明確化し、授業を通して在学生に周知するとともに、本学の教育で身に付けさせる能力についての議論が進んだ。

② ディプロマ・サプリメントの記載内容の検討と活用の在り方

ディプロマ・サプリメントについては、前年度のAP外部評価委員会での指摘やAP実施委員会での議論で、「コア・コンピテンスが低い学生が就職活動時にマイナス評価となる可能性がある」、「コンピテンス評価の客観性や評価根拠の点で課題が残る」などの指摘があった。そのため、ディプロマ・サプリメントの活用については、2018年度は卒業時に卒業証書とともに配布するにとどめ、コンピテンス評価の客観性を高めるとともに企業への周知を図っていくこととした。他方で、8～9月に実施した企業アンケートでは、「書類選考時の補足資料としての活用」や「面接時の基礎資料としての活用」、「学業成績以外での多様な人材を得るための活用」など、7割程度の企業はディプロマ・サプリメントの導入を前向きに捉えており、本学としては、コンピテンス評価の客観性を高めるためのエビデンスの可視化や、企業と連携した共同ルーブリックの開発等を検討することになった。

③ 4学期制を活用したプログラム開発

今年度は、4学期制を活用した留学先として、カナダのトンプソン・リバーズ大学(Thompson Rivers

Univ.)と覚書を2月に締結するとともに、英国のアベリストウイス大学(Aberystwyth Univ.)、オーストラリアのオーストラリアン・カトリック大学(Australian Catholic Univ.)とも2019年度に覚書を締結することになった。また、フィリピンのデラサール大学(De La Salle Univ.)や中国の嶺南師範学院と連携して、海外インターンシップや海外ボランティアの実施に向けた議論を開始した。他方で、4学期制を活用した海外留学者は第1学期に台湾の義守大学に留学した学生1名であり、本補助事業(以下本事業)で導入された海外留学支援型A0入試で入学した学生はいなかった。次年度以降、高校生への周知、特に高大連携を実施している高校生への周知を徹底することとした。

④ システム改修

今年度のシステム改修は、学修支援システムと学内基本システムの個々の作業は予定通り終了し、本学の教育改革を加速させることができた。しかしながら、両者の連結の改修作業で問題が発生した。システム改修はオーダーメイドで実施しているが、業者との打ち合わせの中で、費用の面と業者の技術力の面で妥協点が見いだせず、最低限本事業の遂行に必要な改修にとどめた。

2) 評価と普及 <C>

本年度もAP実施委員会を中心に本事業の進捗状況を点検するとともに、AP外部評価委員会や外部評価・助言委員会を開催した。両委員会による本事業に対する評価は、概ね「A」評価が多い評価となった。

また、本事業は、広く社会への普及も重要視されており、本年度も本事業の成果報告と本学の教職員の意識の共通化を意図して「APフォーラム」を2回、10月と3月に実施した。さらに、経済教育学会でコンピテンス育成に関する報告を行った(当日は台風の影響で口頭報告はできなかったが、次年度発行の学会誌『経済教育』に論文を掲載することになった)。加えて、本事業に関連した講演を、5月と2月に神奈川と佐賀の短大が実施したFD研修会で、また2月と3月に日本私立学校振興・共済事業団が開催したフォーラムで行った

3) 次年度の対応 <A>

①のルーブリックについては、次年度以降も議論と実践を重ね、数年かけて改善を図る。特に、今S後は「学生FD」活動を定着させ、学生参加型の評価指標の作成にも取り組む。また、②についても、時間をかけて、地域社会や地域企業に対してディプロマ・サプリメントを説明し、着実にこれを普及させる。③の4学期制対応プログラムについては、この4~5年間で開拓した海外の大学との連携を定着させ、派遣学生数の増加に努める。これに加えて、国内外のインターンシップやボランティア・プログラムの開発を進める。

<執筆担当/大学教育再生加速プログラム(AP)事業推進委員会 委員長 糸井 重夫>

Ⅲ. 地域連携部門

1. 地域防災対策委員会

1) 年度当初の計画 <P>

本委員会は、本学における地域連携強化のために防災対策を切り口とした体制整備、防災訓練の計画と実施、また人材の育成を目的としている。無論、自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会（具体的には松本市新村地区）との関係性の中での取り組み、構築を主眼におきながら計画するものである。

2) 今年度の活動実績 <D>

- ① 防災士養成講座（日本防災士機構）開講
 - i) 8月25日（土）・26日（日）
 - ii) 2月9日（土）・10日（日）
- ② 防災士フォローアップのための組織化
防災士資格を取得後の研修を実施することで組織化を図る
- ③ 地域社会（松本市新村地区）との防災訓練の実施

3) 点検・評価の結果 <C>

- ① 防災士養成講座（日本防災士機構）開講
多数の受講希望者に応えるため今年度から養成講座を2回開講した。ある自治体は自治体独自の取り組みとして養成講座に人材を派遣するなど団体、会社などへの普及が図られつつある。事務局体制を整えて開講に至った。
- ② まずフォローアップ研修会を実施した（6月30日）。これまで防災士の資格を取得した方を対象に長野県、日本防災士機構長野県支部等との共催で、本学で実施した。資格を取得しても活躍の場がないとのニーズに応えるもので研修会を通じた組織化を検討している。
- ③ 防災訓練の実施は、7月において新村地区との合同訓練で、地域の施設である保育園の園児救出に松本大学の学生がどのように関与できるかの訓練を行った。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

防災士の養成は、地域からの要請に加え、平成30年度から正課内授業で取り組みを開始、防災に関わる本学の取り組みが地域社会の牽引役になっていくことを今後目指すことになる。さらなる学生を巻き込んだ災害時の人的資源となり得る取り組みを構築するものである。

<執筆担当/地域防災対策委員会 委員長 尻無浜 博幸>

2. 地域健康支援ステーション運営委員会

文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決への意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」(申請責任者：廣田直子教授)の採択を受け、人間健康学部健康栄養学科内に設置され平成22年4月から本格的に活動を開始した。平成24年度からは本学の特徴ある取り組みとして継続され、平成25年9月に文部科学省COC事業の採択を受け、健康運動指導士を専任スタッフとして配置したことから、栄養と運動の両面から地域貢献を理念とし、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動の幅を広げている。

1) 組織と会議

- a) 組織：運営委員長 1 名（健康科学研究科教授） 委員 5 名（スポーツ健康学科長、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科、学校教育学科） 事務局 5 名
- b) 運営委員会：1 回 5 月 10 日

2) H30(2018)年度当初の事業計画 <P>

地域健康支援ステーションの H30(2017)年度の事業計画は以下の通りである。

- a) 健康づくり指導事業
 - ① 栄養健康教育 ② 運動実践指導・レクリエーション
- b) 学生との連携による実践的活動
- c) サポート教員
- d) その他専門活動
- e) 広報・啓発事業

3) 事業報告 <D>

a) 健康づくり指導事業

公共機関、企業、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行った。主として指導教員と専任の管理栄養士・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行った。

① 栄養健康教育

依頼元からのテーマに応じて、本ステーションの専任スタッフ（管理栄養士）がクイズや試飲、食事診断などの参加型の内容を組み入れての指導や講話を行った。学生の同行が可能な場合には学生の補助により実施した。以下は指導教員として廣田直子が当たった。

- ・「ハイリスク学生個別栄養指導」（4回）（依頼元：松本大学健康安全センター）
- ・「血管若返り健康教室 in 信州」の講師（2回）（依頼元：クラブツーリズム(株)池の平ホテル）
- ・「林業作業士初任者研修」の講師（依頼元：(財)長野県林業労働財団）
- ・「里山辺地区健康づくり研修会」の講師（依頼元：松本市里山辺地区保健補導員）
- ・「健康づくり推進員研修会」の講師（依頼元：山形村健康づくり推進委員）
- ・「食べたら動こう！」の講師（全3回）（依頼元：自立訓練事業所あかしや）
- ・「基本的なケールグダウン方法と補食について」の講師（依頼元：上伊那農業高校）
- ・「夏バテ対策！栄養教室」の講師（依頼元：塩尻市社協床尾分会）
- ・「保健補導員会研修会」の講師（依頼元：南相木村保健補導員会）
- ・「和食を作ってみよう」調理実習の指導（依頼元：日本語学習サロン）
- ・「保健補導員会研修会」の講師（依頼元：御代田町保健補導員会）

② 運動実践指導・レクリエーション

健康運動指導士スタッフが中心となり、時にスポーツ健康学科の学生も参加して地域住民及び企業社員並びに障害のある方に、講話と運動指導を行った。学生はスタッフ及び参加者を補助した。企業からも社員の体力測定を依頼され実施した。年間を通して定期的に開催される運動講座では、参加者が継続して楽しく通えるよう、運動の意義についての資料を毎回配布、その後できるだけ講話に沿った内容で運動を行った。内容に変化を持たせるため、音楽療法などの外部講師を招いたり

ゲームで競い合わせたりするなど工夫した。定期的で開催されるいずれの講座でも、初期の段階で簡単な体力測定を実施し、参加者一人ひとりの体力を数値化することで実施に向けた目標を持てるよう指導した。以下は根本賢一が指導教員として担当した。

【介護予防教室（通年）】

- ・「転ばんジェントルマンとレディーの会」の講師（全12回）（依頼元：朝日村社会福祉協議会えべや かたくりの里）
- ・「健康教室」の講師（全22回）（依頼元：塩尻市社会福祉協議会床尾分会）
- ・トレーニングマシンを用いた「健康運動教室」の講師（全24回）（依頼元：塩尻市社会福祉協議会ふれあいセンター広丘）
- ・「健康サポート教室」の講師（全6回）（依頼元：甲信越エア・ウォーター（株））

【介護予防講座（単発）】

- ・「自分のからだを強化しよう！～転倒・要介護予防の身体づくり～」の講師（依頼元：松本保健福祉事務所）
- ・「認知症・転倒予防と脳トレ」の講師（依頼元：塩尻市社会福祉協議会奈良井分会）
- ・「お元気づくり広場」の講師（依頼元：塩尻市社会福祉協議会地域福祉推進センター）
- ・「運動による健康づくりで健康寿命を延ばそう！」の講師（依頼元：松本市東部地域包括支援センター）
- ・「筋力アップ講座～いつまでも元気に歩こう～」の講師（依頼元：塩尻市社会福祉協議会ふれあいセンター洗馬）

【健康講座】

- ・「効果的なウォーキング方法・冬の家トレ」の講師（2回）（依頼元：原村福祉保健センター）
- ・「楽々エクササイズ～音楽で楽しくエクササイズ～」の講師（依頼元：信州メディビトネット）

【レクリエーション指導】

- ・「精神障害者デイケアたんぼぼ」の講師（全4回）（依頼元：朝日村長）
- ・あかしや「食べたら動こう！」の講師（全11回）（依頼元：村井病院自立訓練事務所あかしや）

【健康づくり運動指導】

- ・「健康づくり推進員視察研修」での運動指導（依頼元：山形村健康づくり推進委員会）
- ・「保健補導員会視察研修」での運動指導（依頼元：南相木村保健補導員会）
- ・「御代田町保健補導員研修会」での運動指導（依頼元：御代田町保健補導員会）

【その他】

- ・「基本的なクーリングダウン方法と補食について」の運動指導（依頼元：上伊那農業高校）

b) 学生との連携による実践的活動

県・市町村、企業からの依頼を受け、人間健康学部の学生が主体となり、当ステーションの管理栄養士、健康運動指導士の専門的サポートと学科教員の指導のもとに、メニュー開発や大学の専門的な機器を使った体力測定などを実施した。

① メニュー開発、メニュー提案（指導教員：廣田直子）

- ・「松本山雅FC×松本大学コラボ スタめし新メニュー開発企画」（3品商品化）（依頼元：株式会社松本山雅）
- ・「商品展示会におけるメニュー提案」（20メニュー提案）（依頼元：三陽商事有限会社）

- ・「タウン紙 2019 正月号『残したい・伝えたい味』特集」アレンジメニュー提案（依頼元：松本平タウン情報 MG プレス編集部）

② 地域住民の健康づくり支援

- ・「新村ニュースポーツ大会における体力測定ブース担当」（依頼元：新村公民館、指導教員：根本賢一）
- ・「まつもとの街中で ACE 体験」（依頼元：松本保健福祉事務所、指導教員：根本賢一）
- ・「まつもと広域ものづくりフェア パッククッキングブース」（実施元：ものづくりフェア実行委員会、指導教員：沖嶋直子）

③ イベントへの協力

- ・「がん患者支援イベント（リレーフォーライフ）ブース設営」協力打合せ（依頼元：リレーフォーライフ実行委員会）
- ・「世界健康首都会議 健康弁当企画への参画」完成発表会プレゼンテーション（依頼元：松本市健康産業・企業立地課）

c) サポート教員

授業を担当する教員から、講義のサポートを依頼され実施した。

- ・「地域課題研究 B（現場実習の事前事後学習）」の講師（2回）（担当教員：廣田直子）
- ・「大学入門 行政栄養士の活動の実際について」（担当教員：矢内和博）
- ・「臨床栄養学実習Ⅱ ロコモ度テストの演習」（担当教員：藤岡由美子）

d) その他専門活動

- ・「一日限りのレストラン」運営支援（健康栄養学科主催の事業、指導教員：成瀬祐子）
- ・「食育情報パネル展」パネル展示（依頼元：松本市健康づくり課）
- ・「信州の食を育む県民大会」パネル展示（依頼元：長野県健康増進課）
- ・「市民参加料理コンクール」学生引率・支援（主催者 松塩筑調理師会ほか）
- ・「信州ブレイブウォリアーズホームゲーム健康デー」学生引率・支援（主催者 株式会社信州スポーツスピリット）

e) 広報・啓発事業

ホームページ、学報「蒼穹」、キャンパスガイド等で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介したほか、在学生へのオリエンテーションにて当ステーションの活動を紹介し学生の参加を促した。

また学外の講演会や研修会、イベント等の場を活用して当ステーションの具体的な取組みを紹介した。

- ・「地域健康支援ステーションのホームページ更新」（随時）
- ・「蒼穹」第 131,132,133,134 号への原稿執筆
- ・在学生オリエンテーション「ステーションの活動紹介」（新 2・3・4 年生対象）

4) 点検・評価の結果 <C>

a) 健康づくり指導事業

- ① 栄養健康教育 ② 運動実践指導

地域からの依頼を受け入れた健康づくり指導事業は 46 件で受講者は延べ 1,855 名であった。そのうち松本大学研究ブランディング事業への支援スタッフとして 17 件実施した。また、学生の同行し

た事業は9件で延べ26名の学生が参加した。

ステーションスタッフが講師となってそれぞれの会場に出向き指導したことにより、地域の健康づくりの意識の啓発および実践者の増大に寄与したものと考えられる。

栄養健康教育は、高校生、勤労者、高齢者など様々な世代、自立訓練施設、地区組織、日本語教室など様々な背景を持つグループにそれぞれのテーマに対応した内容や方法により指導を実施した。

運動実践指導では、高齢者の健康づくり教室を中心に活動を行った。通年で行う教室では、リピーターの皆さんから「運動を続けているからか、同級生よりも自分が若々しく思える」「以前よりも姿勢がまっすぐになった」「ストレッチや体操がこんなに気持ちいいものだとして初めて知った」などの感想をいただいた。一方で「膝や腰に痛みがあり、ほかの人と同じ運動ができないのが切ない」「どうしても三日坊主で継続ができない」など、個人にあった運動を提供する重要性をより一層感じた。

現場に同行した学生にとっては、活動においては健康教育におけるプロセス（PDCA）を、実践的に学ぶことができ、学内で既習の内容を指導現場で活用することで深く学ぶことができ、未習の内容は指導現場が予習となり授業での学びへのモチベーションの向上にもつながった。また、地域の人々と接する中で言葉づかいや態度等を学び、就職活動や卒業後の就業にも活かすことのできる経験となっている。学生の同行が難しい講座では、事前に教育教材の作成補助など教育現場を想定しながら健康教育の内容の企画立案を学生と連携する活動も行った。

なお依頼者からは、学生が関与することにより事業に活気が生まれる、モチベーションが上がる等の効果が出るとの声も聞かれ、おおむね好評であった。

b) 学生との連携による実践的活動

学生との連携による実践的活動は8件で活動に参加した学生は延べ90名であった。学生はこれまでの学習の振り返りができるとともに今後の学習のポイントを掴むことができた。

メニュー開発については、指導教員とステーションスタッフのコーディネートのもと学生が主体となって試作調理しながらアイデアを提案するもの、アイデアを採択した飲食業者とともに商品化に取り組むもの等、幅広く活動を展開することができた。松本山雅フットボールクラブのスタメシ開発では3品目を商品化し販売日にはそれぞれが好評で完売することができた。商品展示会でのアイデアメニュー紹介は展示会の来場者が興味深く閲覧しており、展示会参加の業者からは次回は我が社の商品のアイデアメニューを考案してほしいとの申し出もあった。これらの活動は、学生が自分のアイデアが具体化され商品となる過程でマーケティングなどの具体的な学びが多く、また実際に販売され喜ばれるという達成感が大きいと思われる。

運動指導現場への学生参加は、ゼミ等で実際に地域で運動指導をしている学生にとって、様々な対象の方と触れ合う機会になり指導の幅を広げる勉強の場に繋がっている。また、現場経験が少ない学生にとって、地域の方々への運動指導は指導者として重要な経験になっている。さらに、他のゼミの学生と協力して指導を行うことがあるため、お互いに刺激を受けスキルアップの場となっている。

低学年での現場参加は高学年で履修する現場実習の予習の位置づけとしても活用できる。学生の多くは参加したことは大変有意義だったと答えていることから今後も積極的に当ステーション活動に勧誘していきたい。参加学生の活動はテレビ・FMラジオ・新聞等に数多く取り上げられ、地域に学生の活躍が広く知られることとなっている。

c) サポート教員

サポート教員を依頼された講義を4回実施し、うちステーションの実施する地域活動に関する講義が2回、また管理栄養士、健康運動指導士の専門性における講義を各1回実施した。学生たちのそれぞれの学びに貢献するとともに、ステーションの実施する地域活動を多くの学生に知らせ、学生参加の促進にもつながった。

d) その他専門活動

健康栄養学科主催の事業や、各教員の実施する事業への支援や学生引率など状況に応じて実施した。

e) 広報・啓発事業

ホームページへ実際の活動内容を逐次掲載するように心がけ、ホームページへの訪問数は延べ718回で広く当ステーションの活動を披露することができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回実施し、内外への広報を行うことができた。

掲示板や在学生へのオリエンテーションを通して学生の活動参加を促すと共に、学外の講演会や研修会、学会、イベント等あらゆる機会を活用して当ステーションの活動と具体的な取組みを発表することで健康づくり関係機関等に存在をアピールできた。

5) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域から当ステーションに依頼される件数は、口コミや広報により年々増加している。限られた専任スタッフでは、すべての依頼に対応することが難しくなっており、人材の確保をどうするのか依然として当ステーションの課題である。この問題を解決するためには大学全体の方向性の中で探っていく必要がある。

a) 健康づくり指導事業

健康づくりには栄養と運動のバランスが重要である。地域の健康づくりを効果的に支援するために、地域や企業において管理栄養士スタッフと健康運動指導士スタッフが有機的に連携した活動を展開した。今後においてもこうした連携により、人間健康の視点を意識した活動を充実させるとともに、栄養と運動の両面からの地域活動をさらに推進していきたい。

b) 学生との連携による実践的活動

イベントでのブース担当や体力測定や食事診断を伴う研修会などは、広く地域住民に松本大学を知っていただく貴重な機会であるため積極的に参画し、必要に応じて学生が参加できる体制を整えていきたいと考えている。

c) サポート教員

依頼があれば引き続き実施していきたいと考えている。

d) その他専門活動

依頼された事業に限らず、地域の健康づくりの支援に繋がる案件については可能な限り対応し、加えてステーション企画事業も積極的に展開したいと考えている。

e) 広報・啓発事業

当ステーションの概要や活動内容を外部の方に紹介する媒体としてリーフレット及びホームページのリニューアルを行うとともに、活動状況を学報「蒼穹」やブログ等に掲載し、ステーションの活動状況を内外に積極的に公開していく。

<執筆担当/地域健康支援ステーション運営委員会 委員長 廣田 直子>

3. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

2018年度も昨年度に引き続き、地域づくり考房『ゆめ』（以下『ゆめ』という）専任教員不在であり学生と地域を実質的にコーディネート及び学生の教育的なサポートをする常駐スタッフ不足の体制であった。7月より非常勤職員1名増員したが、常駐スタッフによる地域や学生への支援力不足は解消せず、結果的に『ゆめ』常駐スタッフが状況を判断し決断する体制確立への課題が明確となった1年である。運営委員は、教員7名（各学部学科より1名）、事務職員4名（課長1名、非常勤3名）にて運営した。運営委員の教員は、専任教員が不在となった時にやむを得ず各プロジェクトの指導を担当していただいていたが、委員の異動により学生活動（プロジェクト）への日常的支援は困難であることから運営委員会の機能を以下のように見直した。

- ① 運営の方向性を審議
- ② 学生生活に支障がないよう学生の所属する学部学科との連携
- ③ 各学部学科の専門性と学生の活動のコーディネート

また、昨年度より取り組んでいる、学生の参加状況の改善により、多くの学生がゆめの活動に関わることができるようになってきている。しかし、学生の活動の活発化は、学への支援や地域との連携業務の負担は増大するため、地域や学生のコーディネートや支援を専門とする常勤スタッフを確保することが重要である。

1) 平成30年度当初の事業計画 <P>

地域づくり考房『ゆめ』の2018年度当初の計画は以下のとおりである。

- ① 学生の地域活動促進事業
- ② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業
- ③ 『ゆめ』自主事業
- ④ 『ゆめ』運営組織の整備
- ⑤ 広報啓発事業

2) 2018年度事業報告 <D>

① 学生の地域活動促進事業

新入生の『ゆめ』への活動促進を図るため、ウェルカムパーティーにて活動紹介を行ったり、各プロジェクト等の活動を紹介するチラシや小冊子を配布したり、学生スタッフ及び各プロジェクトによる説明会「ゆめカフェ」を行った。

今年度の『ゆめ』に対して地域からの年間受入れ件数は71件、そのうち学生の年間参加件数は33件あり、参加学生の延べ人数は177人となった。

② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

i) 学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが7チーム、対象外プロジェクトが2チーム稼働した。

ii) 地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO等からの依頼を受けて学生が参加したイベントは71件あった。また、新村地区との関係も重視し、地域づくりセンターや公民館との情報交換を行い、新村地区運動会のお手伝いやオープン大会・新村文化祭・ウォークラリーへの参加などにつながった。

③『ゆめ』自主事業

i) 2018年度学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

2018年度の地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については3月(前年度)に行うことができず4月延期、1年生などが加わることができる新規事業については、9月に行った。本年度は7プロジェクトが活動し、2団体は9月に応募したプロジェクトである。9月の審査会では、前期の活動が活発化となったため予算不足が生じ、活動費の追加補正を行うプロジェクトがあった。活動の内容によって後期の活動計画を見直し、必要に応じて助成額上限までは補正を認めることも、能動的に活動するための支援として今後も継続させたい。

プロジェクトの支援については、昨年度に引き続き、日常的な支援について可能な限り『ゆめ』の常駐スタッフで行い、運営委員に限らず本学全体として専門分野の教員との連携を進めることとした。運営委員の教員には、各学部学科とのパイプ役としての役割をお願いした。

昨年度まではチャレンジ奨励制度の活動報告会は会計報告の関係から、『ゆめ』全体の活動報告会と別に実施していたが、同じような報告を2度実施することが学生の負担となっていた。そのため、本年度は2月28日(木)の『ゆめ』の年間活動報告会と一緒に行った。会計報告については、2月1日現在の暫定版として報告し、決算報告は確定後に書類にて行った。

④『ゆめ』運営組織の整備

専任職員4名(課長・パート3名)、学生スタッフ7名により、学生活動の相談・支援体制に加え、運営委員7名が各学部・学科との調整を図りながら補助的支援を行った。また、専任職員が地域からの二ーズの相談窓口となり、活動に関する情報の収集・整理、学生への活動紹介等を行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

⑤ 広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト(ゆめHP)・学生ブログによる情報発信やゆめ通信による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、(株)アルピコの好意で設置していただいている北新松本大学駅前の掲示板を活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイには、毎号活動を紹介し学生プロジェクトへの参加者を募った。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の地域活動促進事業

学生が、自ら学習、行動し結果に繋げ、その反省から次の活動に取り組む『ゆめ』本来の学生活動の展開が進んでいる。活動が停滞していたプロジェクトは、職員と協力し新たな活動の展開に結びつけたり、本年度の活動の反省を次年度にどう活かすか地域関連団体との調整(目的の共有)をしたりすることで、学生の自主的活動を支援している。

参加希望学生の募集についても、ここ数年は、チラシや掲示物、映像資料などについて「まず『ゆめ』に興味関心を持っていただき、『ゆめ』に来ていただく」ことを目的に改善を図ってきた結果、学生が『ゆめ』を訪れる機会が増えてきた。また、『ゆめ』を訪れた学生に学生自ら活動を紹介し、学生を勧誘することが定着してきたことで、活動に参加するメンバーも増えてきた。

2月28日に行われた『ゆめ』活動報告会では、一緒に活動してきた地域の皆様が28名参加した。これは昨年度3名から大幅に増えているが、活動を通じて地域の方との関係性が構築されてきたことによると考えられる。次年度の活動について積極的な意見交換が行われた。

② 地域からの依頼による活動

地域からの依頼については、積極的なコーディネートは実施していないが、前年度と比較して若干増加している。これは、学生の自主活動やプロジェクト活動が活発になることで地域との関係が構築され活動の場や機会が増えることが望ましいと考えているからであり、少しずつであるがその成果が出てきていると考えられる。

また、新村地区との関係も重視し、地域づくりセンターや公民館との情報交換を行い、オープン大会・新村文化祭・ウォークラリーへの参加などプロジェクトを中心につながった。

③ 考房『ゆめ』自主事業

2018年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、前年度からの継続及び在学生の新規事業の第1期募集を4月に行い、追加募集として1年生の企画も含めて第2期募集を9月に追加募集を行った。しかし、本来は3月第1期募集を実施する予定だったが、学生への情報提供が遅れたため4月となった。4月から新生を迎え活動を展開することを考えると、3月の実施が望ましい。

④ 考房『ゆめ』運営組織の整備

学生が自主的に『ゆめ』を運営していけるようにするために、学生スタッフを中心となり、各プロジェクトの横の繋がりを知り、お互いに支え合っているような体制を目指した。4年目を迎えた夏の研修会（合宿）は、他大学（共愛学園前橋国際大学、田園調布学園大学、長野大学）と合同で実施した。学生スタッフを中心となって他大学の学生とプログラムを検討し活動報告（ポスター発表）は松本大学で行い、その後「国立妙高少年自然の家」に移動しグループワークなど合宿形式で行った。それぞれの団体によるポスター発表により、他大学の活動からも学びを深めた。また、2月28日の活動報告会も学生スタッフを中心となり企画し、地域の皆様も参加できるような工夫をし、学生だけではなく地域の皆様も加えて次年度の活動について話し合う場を設けることができた。学生の企画力やプレゼンテーション能力、そして地域の人との交流を通して、地域のニーズを直接受け止めることができた。

『ゆめ』の活動に学生参加を促したり、地域のニーズを受け止めるための前方支援体制は、ここ数年で確立してきていると思われるが、継続して活動を続けている学生プロジェクトへの支援については課題を残している。継続しているからこそ地域（連携先の企業など）からの期待は大きくなるが、参加学生は入れ代わっていくことから活動の停滞や問題が表面化することがある。活動の継続や学生の入替わりに対応した連携の在り方を支援する『後方支援体制』に課題を残している。

⑤ 広報啓発事業

広報誌「ゆめ通信」を2回発行した。内容も学生が中心となって情報を発信できるようにするため、学生に記事の作成を依頼し、教職員で内容の確認をした。分かりやすく興味を持って読んでいただけるよう、文字数を大きくするなどの工夫をした。学生の活動や本学の教育・学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促す効果となった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

① 学生の地域活動促進事業

学生の地域活動の原点となる開設以来の「地域受け入れ表」については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えていく。学生が地域活動

に興味を持てるような情報提示を模索する。学生に対してはプロジェクトへの参加のみにとらわれず、『ゆめ』を通じて地域と関わる活動への参加を促す取り組みを検討する。

② 学生と新村地域とのコーディネートの促進

新村地区と松本大学は「地域づくりに係る包括連携協定」を締結したことで、学生の地域活動への参加も期待されている。学生も勉学と両立できる新村の活動に参加しやすいようにコーディネートを促進したい。また、新村地区には学生に参加を求めるだけでなく、学習の場となるように工夫する姿勢もあり、学生成長の場として期待したい。

③ 考房『ゆめ』自主事業

地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、3月と9月の年2回の募集とすることで、既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめ、未熟な自主企画については時間をかけて企画から支援を展開していく。プロジェクトは、計画を立案し予算に基づき事業を展開しているが、当初の計画が実施できない場合に方向転換をすることが難しい。プロジェクトに対する『ゆめ』職員による支援は、受動的にならざるを得なかったが、計画遂行や地域との関係を踏まえ能動的に関わり、支援を展開していくことが望まれる。

④ 『ゆめ』運営組織の整備

専任教員が不在のままでは、教育的視点に基づく学生への支援が展開できないことが分かってきた。学生の活動は自主的に展開されるようになってきたが、活動内容や活動の成果のみを追及するのではなく、そこから何を学び今後の専門教育に発展していくのかについて学生支援体制が求められる。また、学生が自主的に活動を展開し問題なく事業画展回されているときは良いが、事業が滞ったり、問題が表出したりしたときに職員のみに対応には限界がある。初期対応から教員が関わり、学生対応とともに地域への対応を積極的に進めることが必要である。

『ゆめ』が学生の活動やボランティア支援組織にとどまらず、地域や地域の人に学ぶ教育機関としての役割を果たすための組織にすることが求められる。将来的な活動の継続を視野に入れると、組織体制（職員や教員の配置）をもう一度見直す必要がある。

⑤ 広報啓発事業

ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、実施していない講座の情報がトップページに掲載されているなど実情にそぐわない内容があるため更新が必要と考えている。次年度はホームページの内容の検討を進めなければならない。ゆめ通信についても掲載する情報量を吟味し、分かりやすい紙面を工夫するなど、読み手に伝わるような工夫が求められる。

＜執筆担当／地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 委員長 廣瀬 豊＞

4. 高大連携推進委員会

1) 2018(平成30)年度当初の計画 <P>

当年度の連携事業は、いずれも昨年度からの継続事業であり、総合経営学部では県内商業系高校を中心としたデパートサミット事業と飯田 OIDE 長姫高校との地域人教育事業、人間健康学部スポーツ健康学科では岡谷東高校との連携事業、松商短大では穂高商業高校との連携事業が計画されている。なお、新設の教育学部についても昨年度と同様、連携先となる高校および連携内容の検討を年度当初の計画とした。

2) 2018(平成30)年度の実績～現状の説明～ <D>

i) 総合経営学部を取組

① デパートサミット (マーケティング塾・デパートゆにっと)

デパートサミット事業は、長野県商業教育研究会が主催し、松本大学が共催して2013(平成25)年度より実施している県内の商業高校を中心とした高校生の人材育成事業であり、毎月1回松本大学において開催される

「マーケティング塾」とその成果を検証する合同販売会の「デパートゆにっと」によって構成されている。

〈第6期 2017年12月～2018年10月〉

第6期として9回に亘りマーケティング塾を開催し、その成果の発表として、平成29年8月に井上百貨

マーケティング塾 2018

		開催日	テーマ
第6期	第4回	4月21日	消費者行動とデザイン 経営戦略「リーダーとしての行動」
	第5回	5月26日	広報活動と表現・POP制作 経営戦略「企画力・行動力」
	第6回	6月30日	販売(接客)マナー講座
	第7回	7月16日	開発商品の情報交換会とプレゼンテーション
	第8回	8月11日	販売員マナー(販売と金銭授受)
	第9回	10月6日	マーケティング塾とデパートゆにっとの総括・終了式
第7期	第1回	12月22日	PD「マーケティングと活動目標」 マーケティング塾先輩の講演
	第2回	2月11日	地域とマーケティング リーダーとして必要なもの
	第3回	3月16日	ブランド戦略と市場調査

店にて、「デパートゆにっと」として3日間実施し、高校生が県内の9校から50名、教員29名が参加した。また県外より3校の高校も参加した。

〈第7期 2018年12月～2019年3月(継続中)〉

第7期のマーケティング塾として3回(2019年3月まで)実施し、高校生が8校から56名、教員28名が参加した。28年度より松本大学は事業の支援にとどまらず、学生組織「ゆにまる」の学生が高校生と一緒に学び、具体的な活動に取り組んでいる。「ゆにまる」は、高校時代にデパートサミット事業に参画し、卒業後に本学に進学した学生を中心にデパートサミット事業を支援することを目的とした学生組織であり、商品開発等を行なうなど主体的にデパートサミット事業に参加している。

〈バレンタインスイーツ販売 2019年2月9日・10日〉

2日間にわたり、諏訪実業高校、穂高商業高校、長野商業高校、南安曇農業高校、赤穂高校と短期大学部金子ゼミ、「ゆにまる」など約80名が参加して商品開発を行なったスイーツの販売をアイシティ21(井上百貨店)にて行なった。事前の準備として商品発表会等を行なった。

② 地域人教育

「地域人教育」は、2012(平成24)年度から飯田長姫高校が開始した地域社会に貢献できる「人材」を育成することを目指し、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育む教育プログラムであり、2012年度に飯田長姫高校(当時)、飯田市、松本大学による「地域人教育の推進に向けての3者の連携協定」を締結し実施している。

「地域人教育」は、1年次は大学教員や地域の専門家による飯田の歴史や地域資源に関する講義と街中を歩いて地域の魅力や課題を把握する「フィールドスタディ」を通じた「地域を知る」、2年次は地域のイベントへの参加や商品開発、情報発信を行なう「地域で活動する」、3年次はグループごとに地域課題について地域と連携して解決に取り組む「地域の課題解決に向けて行動する」

という3年間で8単位、280時間の正課のカリキュラムによって構成されている

本年度は、総合経営学部より述べ6名の教員が高校にて講義や実習指導を行なったほか、松本市内におけるフィールドワーク実習や高校生の活動を大学生が評価する交流事業などを実施した。また、地域人教育の円滑な推進のために、高校教員や飯田市職員との協議や学習会、研修などを行い、信頼関係を構築するとともに、事業の目的などの共通理解を図った。

③ 高校と地域の連携教育への支援および高校教員の研修など

2016年度県内の高校としては唯一のコミュニティ・スクールとして「国際観光学科」を新設した白馬高校の学校運営委員会・会長を派遣した他、諏訪実業高校に対しては、「スーパープロフェッショナル・ハイスクール」事業の「文化ビジネスエキスパート育成事業」に対し、講義の実施や研究推進委員会・運営指導委員会への委員の派遣を行った。

また高校の教員を対象としてマネジメントゲームに関する研修会等を開催した。

ii) 人間健康学部

① 大学授業チャレンジ型連携

スポーツ健康学科では、高大連携協定校である岡谷東高校の1年生および2年生を対象として本学において、模擬講義の受講およびキャンパスライフ体験を通じて、大学での「学び」、「生活」について理解すると同時に、運動やスポーツに関する専門的内容に触れることを狙いとしている。具体的には以下のとおりである。

① 大学授業チャレンジ型連携（会場:松本大学）

No.	開催日	対象	人数		時間	担当	授業科目名等
1	6月21日	1年生	50	オリエンテーション	9:40~9:55		
				1時限	10:00~11:00	根本	効果的なトレーニング法
				2時限	11:10~12:10	齋藤	スポーツ心理学入門
				昼食	12:10~13:00		本学学生食堂にて
				3時限	13:00~14:00	中島節	からだのしくみ
2	6月21日	2年生	35	オリエンテーション	9:40~9:55		
				1時限	10:00~11:00	新井	ジェンダーとスポーツ法
				2時限	11:10~12:10	山本	科学的トレーニング
				昼食	12:10~13:00		本学学生食堂にて
				3時限	13:00~14:00	田邊	体脂肪率とVO ₂ max
3	9月13日	1年生	50	オリエンテーション	9:40~9:55		
				1時限	10:00~11:00	岩間	スポーツの技術分析
				2時限	11:10~12:10	丸山	上高地線電車の運動解析
				昼食	12:10~13:00		本学学生食堂にて
				3時限	13:00~14:00	中島弘	遊びの先の学び
4	9月13日	2年生	35	オリエンテーション	9:40~9:55		
				1時限	10:00~11:00	小松	「教職論」模擬授業
				2時限	11:10~12:10	江原	肥満と生活習慣病
				昼食	12:10~13:00		本学学生食堂にて
				3時限	13:00~14:00	河野	宇宙生理学

② 教員実務参加型プログラム

本学科において教職課程履修者である学生が岡谷東高校を訪問し、同校の保健体育等の授業に参加し、高校教育現場の実体験を通して将来の教職に役立つ知識を獲得することを狙いとしている。具体的には以下のとおりの実施となった。

② 教員実務参加型プログラム（会場：岡谷東高校）

No.	実施日	学生人数	参加授業
1	2月15日	4	2限「スポーツ栄養学」 3・5・6限「保健体育」
2	2月18日	4	2限「保健、福祉」 3・5限「体育」
3	2月19日	4	1限「スポーツ栄養学」 2・3・4限「保健体育」
4	2月20日	5	1・2・3・5限「保健体育」
5	2月21日	2	1・2・3限「保健体育」 4限「ロングホームルーム」

iii) 松商短期大学部

① 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み、春休みを利用して、本学教員の教育資源を活用した大学の経済・ビジネス系等の専門科目の受講および学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフの疑似体験を通して、高校生の勉学意欲および進学意欲の高揚を図ることを狙いとした連携である。

今年度は穂高商業高校(2年生 89名)、諏訪実業高校(12名)との連携事業となった。

大学授業チャレンジ型連携(2018年夏) 講義時間割(案)

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
7月25日	会計学入門① (香取) 121教室	経営分析① (山添) 121教室	金融論入門 (藤波) 232教室	UD入門① (廣瀬) 232教室
7月26日	心理学入門① (中山) 232教室	会計学入門② (香取) 232教室	経営学の基礎 (飯塚) 232教室	マーケティング① (金子) 232教室
7月27日	経営分析② (山添) 121教室	マーケティング② (金子) 121教室	キャリアクリエイト① (糸井) アンケート記入 232教室 (13:30～15:00)	

7月25日(水)9時20～40分 開講式 121教室

大学授業チャレンジ型連携(2019春) 講義時間割

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
3月19日	経営学の基礎② (飯塚) 232教室	ブライダル入門 (小澤) 121教室	会計学入門③ (香取) 121教室	UD入門② (広瀬) 232教室
3月20日	心理学入門② (中山) 121教室	医療事務入門 (浜崎) 232教室	銀行論入門 (藤波) 232教室	松商短大の学び(金子) 閉講式(+香取) 232教室

② 高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校においてすでに日商2級レベルに達している3年生徒を対象として、本学教員(香取・山添)が同校に週1回出向いて日商1級レベルの「会計学」「原価計算」の講義を行う取組であり、高いレベルの学習への意欲促進を狙った連携である。今年度は4月16日から1月21日の

間で、毎月曜日 10:20～12:10 に全 22 回実施、参加生徒数は 3 年生 19 名であった。

高校授業グレードアップ型連携 2018

回	日程	科目	担当
1	4月16日 月	工業簿記・原価計算1	山添
2	4月23日 月	工業簿記・原価計算2	
3	5月7日 月	工業簿記・原価計算3	
4	5月14日 月	工業簿記・原価計算4	
5	5月21日 月	商業簿記・会計学①	香取
6	5月28日 月	商業簿記・会計学②	
7	6月4日 月	商業簿記・会計学③	
8	6月18日 月	商業簿記・会計学④	
9	6月25日 月	工業簿記・原価計算5	山添
10	7月2日 月	工業簿記・原価計算6	
11	7月23日 月	工業簿記・原価計算7	
12	9月3日 月	工業簿記・原価計算8	
13	9月10日 月	工業簿記・原価計算9	香取
14	10月1日 月	商業簿記・会計学⑤	
15	10月22日 月	商業簿記・会計学⑥	
16	11月5日 月	商業簿記・会計学⑦	
17	11月12日 月	商業簿記・会計学⑧	山添
18	11月19日 月	商業簿記・会計学⑨	
19	12月3日 月	工業簿記・原価計算10	
20	12月10日 月	工業簿記・原価計算11	
21	12月17日 月	商業簿記・会計学⑩	香取
22	1月21日 月	商業簿記・会計学⑪	

3) 点検・評価の結果 <C>

i) 総合経営学部取組について

マーケティング塾は今年度7年目を迎え、この間一貫して高校側のニーズを尊重し、高校の授業では扱うことの難しい教材や指導法を導入することで新たな学びを展開してきている。具体的には、グループワークやプレゼンテーションを多用し、生徒を主体とした生徒自らが考える授業の導入に取り組んでいる。教材の対象は商品開発にとどまらず、地域を知り、地域の資源を考え、地域の課題を考えるといった広がりのある学びとなり、また、昨年度、農業高校生徒の参加が始まったことにより、ものづくりから流通までを広く考える視野の広い学びとなってきている。

ii) 人間健康学部取組について

スポーツ健康学科では、2007(平成 19)年度に岡谷東高校との連携についての話し合いが行われ、翌年 6 月には試行的に、高校生が大学の講義を受講し、同年 12 月に正式に人間健康学部スポーツ健康学科と岡谷東高校との連携協定が締結され、本格的な連携事業がスタートした。試行的な活動も含めれば、今年度は 10 年目の活動となった。チャレンジ型連携については、昨年度に引き続き、高校性の受講態度が真剣なものとなり、大学の講義を受講する意味の浸透が見られた。また昨年度の課題の一つであった活動の幅を広げるという点では、本学の教職課程履修者による高校授業の見学及び研修が実施され、参加した学生からは「教職の学びに参考になった。高校教員は将来の目標として良いと思った。来年度もぜひ行きたい。」などの感想が寄せられ、有意義な体験となった。また、高校側からも「一生懸命活動している様子が、高校生にとっても良かった。先生方への刺激になってよかった。」といった感想が寄せられ双方にとってメリットのある取組となった。

iii) 松商短期大学部取組について

チャレンジ型連携においては昨年度の高校側の要望を踏まえて今年度も、本学の教育を高校性に

PRする時間を設定し、高校2年生の段階から本学を含めたビジネス系大学への進学を意識させることができた。また、グレードアップ型連携については、日商簿記検定2級の出題内容の大幅な変更にもなって、高校生では合格がかなり難しい検定試験となったことを受け、高校側と協議の上、来年度は、これまでの日商1級から日商2級の合格をサポートする内容に変更することが決定した。また、松商学園高校との連携については、その実施について再検討の機会を持つべきところであったが残念ながらかなわず、今年度事業は見送りとなった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

昨年度と同様、高大連携事業は、政府の最優先課題の一つでもある「地方創生」の具体的取組として若者を地元に着させるための有効な方策とも言える。また、この事業は、高校生に対するキャリア教育という観点から大学の社会貢献の一つとも捉えられ、長期的に継続すべき取組である。したがって、長期継続が可能な実施体制の整備が大きな課題と言える。ここ数年の実施状況を見てみると、一部教員の負担が年々増大する傾向にあり、また、特定教員に対する担当硬直化により、各事業の長期的継続性に問題が生じる可能性も垣間見える。高大連携委員会の構成や事務局体制など現状の実施体制を踏まえてさらに強化を図ることが求められる。

各学部個々の事業については、それぞれに生じた課題に対して、担当者間で協議し改善策を検討することになるが、いずれにしても目先の結果にとらわれずに長い目で見て、参加する高校生、大学生にとって教育効果のより上がるような改善策が求められる。一昨年度まで実施していた松商学園高校との連携事業についても、同校からの本学入学生の確保の観点も含めた再検討が必要な段階となっている。また、新設の教育学部については完成年度までを一応の目標として、今後の連携に向けて焦らず歩を進めていくことが望まれる。

<執筆担当/高大連携推進委員会 委員長 山添 昌彦>

5. 地域総合研究センター運営委員会

地域総合研究センター運営委員会は地域連携戦略会議のもとにおかれ、研究推進委員会委員長が責任者となり、教員6名（総合経営学部2名、人間健康学部2名、教育学部1名、短期大学部1名）の運営委員に加え、特別調査研究員9名、事務局9名で構成される。特別調査研究員については、地域連携戦略会議より推薦のあった継続6名に加え、新規に3名を採用した。

1) 年度当初の計画 <P>

2018年度の活動計画は次の通りであった。

- ① 地域総合研究第19号の発行。Part I, IIの2部形式を踏襲し、Part IIはアニュアル・レポートとする。ただし、地域総合研究センターは出版を受け持つものであり、Part Iの編集作業は研究推進委員会研究誌編集部会が行い、Part IIは自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。
- ② 外部団体等から大学に持ち込まれる、新規・継続を含めた受託事業（研究、共同事業、調査など）の受付窓口となる。また、教員個人の受託事業についても当センターがその受入窓口となり、受託費管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。
- ③ 松本市ととの提携活動（継続事業）
 - (ア) 「地域づくりに係わる松本大学との連携協力に関する協定」に基づき、地域づくりインターンシップ事業の一環として、以下の事業を行った。

- a) 人材育成（地区コーディネーター、職員等育成・研修事業他）
 - b) 地域づくり・市民活動に関する研究集会事業
 - c) 各地域への指導・助言
 - d) 上記を実施するために必要とみなされた、調査研究
- (イ) 観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。
- (ウ) 講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ
 (特にチラシ作成、報告集の作成など)
- ④ 石巻市より、松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトの業務依頼（運営管理と会計処理）をうけ、花山合宿支援／6月24日～26日（教員1名、学生4名）を遂行する。
- ⑤ その他自治体と連携して実施する事業
 松川村、築北村、生坂村、安曇野市などとの連携事業については、年度ごとに更新しつつその活動を継続する。

2) 活動状況 <D>

本年度の活動計画に沿って下記のような活動を実施した。

- ①『地域総合研究第19号』発刊
- ②受託事業窓口業務

平成30（2018）年度 受託事業一覧

	受託先機関	業務内容	期間	担当者
1	松川村	平成30年度「松川村観光振興支援業務」	H30.4.1～H31.3.31	山根 宏文
2	築北村	平成30年度キラリ☆アクア健康教室	H29.5.1～H31.2.28	根本 賢一
3		こたろう大学	H30.4.1～H31.3.31	犬飼 己紀子
4	生坂村	いくさか歩こう部講師派遣	H30.4.1～H31.3.31	田邊 愛子
5		通学合宿	H30.4.1～H31.3.31	廣田 直子
6	安曇野市	安曇野市子ども学習支援事業	H30.8.1～H30.9.30	尻無浜 博幸
7	松本市	地域づくりインターンシップ戦略事業（平成30年度分）	H30.4.1～H31.3.31	濱 由佳子 (考房ゆめ)
8	国営アルプスあづみの公園管理センター	健康ウォーキング事業におけるイベント運営	H30.4.30、H30.5.1	田邊 愛子
9		ヘルシーウォーキング事業におけるイベント運営	H30.10.5	田邊 愛子
10	安曇野市	親子プログラミング教室業務委託	H30.7.1～H31.3.31	室谷 心
11	マルサンアイ	豆乳摂取が女子新体操選手の骨に与える影響について	H30.5.16～ H30.3.31	中島 節子
12	日本レクリエーション協会	研究助成「子どもの育ちの環境づくりが地域興しに及ぼす効果」	H30.6.27～H31.3.25	犬飼 己紀子
13	きんたろう倶楽部	里山を活用した環境教育プログラムの開発研究	H30.10.2～ H31.3.31	田開 寛太郎

14	齋藤農園	6次産業	H30.4.1~H31.3.31 (H33.03.31)	矢内 和博
15	有限会社あづみの食品(株式会社まるたか)	6次産業推進にかかわる研究開発業務	H30.4.1~H31.3.31	矢内 和博
16	長野県生活協同組合連合会	健康教室	H31.2.23~3.23	田邊 愛子
17	日本電熱株式会社	ミノロン検証	H30.8.2~H31.3.31	田邊 愛子

③地域との連携事業

松本市との地域づくりインターンシップ戦略事業 他

3) 点検・評価 <C・A>

- ① 松本市と締結した「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託」によって、今年度も新たなインターン生を本センター特別調査研究員として受け入れた。地域連携部門と連携し、インターン生の業務目的達成にむけて活動を支援する。また、その他事業についても必要なサポートを続けて行く。
- ② 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトに関しては、活動のまとめと成果の出版という業務を次年度行う予定とした。

<執筆担当/地域総合研究センター運営委員会 委員長 木藤 伸夫>

IV. 入試広報部門

1. 入試・広報委員会

(1) 全学入試・広報委員会

本委員会は、大学院、総合経営学部・人間健康学部・教育学部、松商短期大学の代表計8名および入試広報室の職員により構成されている。2018年度も大学院代表が委員長を務めた。

全学入試・広報委員会の役割は、①学生募集に関すること（オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問など）、②入学試験に関すること（入試改革、入試問題の作成と確認、入試の運営など）、③①～②で全学的調整が必要な場合、各学部学科、または全学運営会議・全学協議会との連絡を行うこと、および④受験生・在学生・保護者・地域住民等に対して、本学で行われている教育・研究・社会貢献活動等についての情報を発信し、広報していくことである。

1) 年度当初の計画 <P>

2018年度（2019年度学生募集）も入学者定員1.15倍問題と収容定員充足への対応もあることから、厳密な入学者数の管理と編入試験入学者数の増加を目指さなければならない。その点を勘案し、下記の項目の達成を目標とした。

① 今年度入試改革

- ・各学部学科で入試戦略を練り直し、各入試区分での試験科目等の見直しを行う。
- ・強化部・重点部からの入学者人数についても詳細に把握する。
- ・松商学園高等学校との間で、引き続き入試に関するルールを明確にし共有する。
- ・入試科目の英語に外部試験を導入するかを議論する。
- ・人間健康学部と教育学部では指定校枠数について、基準値を超えている学生であれば枠数にとらわれずに人材確保を目指すため、人数ではなく、「複数名」と表記するかどうかを検討する。
- ・強化部対象のスポーツ推薦入試等についても全学で導入するかどうかを検討する。
- ・一般入試問題のミスを防ぐために、年内印刷とそれに伴う作問スケジュールの前倒しと一部外注化を検討する。

② 高大接続入試改革への対応（2020年度受験入試改革）

2021年度新入試に対応するべく、様々な方策を講じる。

③ オープンキャンパスについて

オープンキャンパスの内容およびタイムスケジュールについて再検討を行い、参加者の分散を図る施策を検討する。

④ その他

入試の運営の事故を防ぐ。一般入試問題の出題ミスを防ぐ。

⑤ 広報について

日常的に大学ホームページ（HP）の更新・充実を行うとともに、年4回、学報「蒼穹」を編集・発行する。

2) 目標の実施状況 <D>

① 今年度入試内容

今年度の各学部学科の入試について、下記のように行った。

a) 総合経営学部

【AO】

- ・ I 期のみの実施とし推薦前期（指定校・公募）と同時に判定できるようにした。
- ・ 提出書類として「活動報告書」を追加した。

【自己推薦】

- ・ 提出書類として「活動報告書」を追加した。

【指定校推薦】

- ・ 公募推薦と同様に、文章理解を導入した。

b) 健康栄養学科

基本方針は前年度と同様とした。

【AO】

- ・ AO説明会で、過去 5 年分の模擬授業と課題についての説明を行うこととした。それに伴い、今後は過去実績（模擬授業パワーポイントの保存、課題のリスト化）を資料として蓄積し活用できるようにした。
- ・ 面接の質問項目は課題審査内容とは切り離し、アドミッションポリシーを始めとする学科理解の深度を確かめる内容とした。

【指定校推薦】

- ・ すべての指定校に対して、募集人員を「複数名」とすることとした。

【編入学試験】

- ・ 編入学試験において、過去に実績のある山梨学院短期大学、飯田女子短期大学、会津短期大学に指定校枠を設定し、指定校推薦入試を導入した。

c) スポーツ健康学科

【AO】

- ・ アドミッションポリシーに「入学後、勉学に励むとともに、興味やその他の競技スポーツを継続して活動しようとする人」を追加した。
- ・ 「一般選抜方式」と「運動選抜方式」2方式で実施した。一般選抜方式は従通りの選考方法で行い、運動選抜方式は「運動能力テスト」と「プレゼン面接」、「書類審査」にて選考した。なお、この運動選抜方式は強化部・重点部入部希望者は含めないこととした。

【指定競技特別推薦】

- ・ 強化部、重点部、強化指定選手獲得のため、新しい入試として実施した。
- ・ 選考方法は「書類審査」「小論文」「プレゼン面接」とした。
- ・ I 期を推薦前期と同時期、II 期を年明け（2月）に実施した。
- ・ 各強化部、重点部と連携をとりながら詳細を詰めた。

d) 教育学部

【AO】

- ・ 集団面接を廃止した。
- ・ エントリーシートに記載内容の変更を行った。
- ・ 「学修計画書」及び「活動報告書」を提出書類に追加した。
- ・ 一芸（外国語等）に秀でた高校生に受験してもらえるように、募集要項にその旨記載した。

【一般入学試験】

- ・一般 A, B では国語を必修科目とし、他教科を 1 または 2 科目として選考することとした。

e) 松商短期大学部

【AO】

- ・エントリーシートに記載内容の変更を行った。
- ・年明けの受験機会増を目的とし、Ⅲ期、Ⅳ期を実施した。Ⅲ期、Ⅳ期についての AO 入試説明会は年明けの入試相談会等で実施した。また、Ⅲ期、Ⅳ期については選考方法も簡略化し、エントリー方式を廃止、出願時にエントリーシートに代わり、「プランニングシート」を提出させ、選考方法は書類審査、小論文、60 分の面談とした。

【推薦】

- ・筆記試験導入は見送ることとした。

【一般】

- ・ABC ともに面接試験を追加した。一般 A では地方入試にも対応した。面接を導入することにより、学部一般 A 両日受験者及び 1 日目受験者の併願は出来なくなるが、別日での受験を勧めるなどして対応した。
- ・特待生資格試験について、推薦入学合格者の成績が低迷しており、その底入れを図るために、受験料を 5 千円から 1 万円に値上げし、それでもトライしようとする意欲ある者の受験を促した。

f) その他

- ・強化部・重点部については以下を募集人員の目安とすることとした。
 硬式野球部(総合経営学部：12-13、スポーツ健康学科：個別対応)
 女子ソフトボール部(総合経営学部：個別対応、スポーツ健康学科：10)
 男子サッカー部(総合経営学部：4-5、スポーツ健康学科：5)
 女子陸上部(総合経営学部：2、スポーツ健康学科：2)
 ※他の部活は個別対応とし、その場合は各学部長が主導・判断するものとした。

② 高大接続入試改革への対応 (2021 年度入試改革)

2021 年度新入試に対応するべく、数ヶ月間にわたって、改革案を練り上げてまとめた。

- ・大学入学共通テストの国語については、近代以降の文章と古典・漢文が別々に採点されなくなることから、全学としてそれらを含めて「国語」とすることにし、HP にて公開した。
- ・英語外部試験利用(英検、GTEC-Student 等)については、次年度以降の利用に備え、学科ごとに利用の必要性、対象入試区分、条件などを検討することとした。
- ・次年度推薦入試を「学校推薦型選抜」、AO入試を「総合型選抜」、一般入試を「一般選抜」・大学入試センター利用入試を「大学入試センター試験利用選抜」に名称変更することとした。
- ・文部科学省からの通知に従って、入試形態と連動したより詳細なアドミッションポリシーを策定した。

③ オープンキャンパスについて

本年度の開催概要、人員配置についての確認がなされた。オープンキャンパスでは予約型を廃止し、ミニ講義 2 本立て、または、体験講座とミニ講義を行った。

④ その他

- ・松本大学・松本大学大学院・松商短期大学部の卒業生の子女に対しても入学金を半額免除する家

族割引制度と「沖縄出身者奨学金制度」に佐渡を念頭に離島も加え、「沖縄及び離島学校出身者優遇制度」を導入し、あわせて「入学金免除規程」と「特待生規程」を改正した。

- ・文部科学省からの通知に従って、2019年度大学入学者選抜試験問題と模範解答を公表することとした。
- ・「世界史」の入試問題を校正できる教員が転出したため、株式会社進研アドに校正を依頼した。
- ・教務課からのデータ（GPA、退学・除籍者分析、卒業率・退学率・留年率、新入生プレイスメントテスト結果）を踏まえ、今後の入試にどのように反映させるかを各学科で議論した。
- ・沖縄県での入学試験会場設置については受験者数が伸びないため、存廃について判断することとした。
- ・授業公開日について、授業公開日の参加者が入試にどのように影響しているかを分析した上で、存廃を決定することとした。
- ・先生方の授業や取り組み内容について、Web動画を作成して公開していくこととした。
- ・松商学園高等学校との間で、入学者に関する互いの希望人材の情報の齟齬を無くし、互いに理解し合っていくために、入試委員が大学の2年生の担任への説明会と懇談会を実施した。
- ・一般C入試において、人身事故の影響でJR遅延の影響から上高地線への乗り換えが遅れた受験生が2名いた。この2名については、電話連絡を適切に行い、時間を繰り下げて別室受験させた。うち1名は、3限目の受験科目から通常試験枠に合流した。

⑤ 広報について

蒼穹の記事の内容を、おもにメール会議で審議し、第131号～第134号を編集・発行した。特集として、「全国モデルとして注目される教育課程に取り組んだ実践型教育」（2018年6月号）、「予防医学的総合科学に特化した先駆的研究を展開する大学院」「教員養成への挑戦」（2018年9月号）、「学生目から見た教育学部での学びの魅力」「松商短期大学部時代の変化に対応した教育の推進」（2018年12月号）、「地域の発展と人材育成に向け絆新たに」（2019年3月号）とした。大学HPを完全リニューアルし、スマートフォン対応とした。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 今年度入試改革

- ・大学院、全学部、松商短期大学部においては、定員を満たすことができたが、健康栄養学科は定員を割り込んだ。スポーツ健康学科については、過去最高の入学者となったが、A0（運動）で合格者を出しすぎたことが原因と思われる。教育学部については、設置以来3年目にして初めての定員充足であった。
- ・松商学園高等学校との間では、2年連続であらかじめ合意したルールの運用ができた。
 - ・強化部・重点部入試についても、あらかじめ設定した内容での運用がほぼできた。

② 高大接続入試改革への対応（次年度実施入試改革）

- ・「総合型選抜（A0入試）」は、「一般」「運動」「指定競技選抜」「社会人」「特別技能」の5つから各学科の特性に合わせて選択して採用することとした。今年度スポーツ健康学科でのみ行った「指定競技特別推薦入試」は、全学的に「総合型選抜（A0入試）」の「指定競技」に含めて、強化部・重点部のみの受験形態とすることとした。
- ・2021年度入学者選抜の予告をHP上で行った。

③ オープンキャンパスについて

人数の割り振りや情報伝達などである程度の改善が見られた。しかし、予約型の体験講座等では、予約しなかった生徒が敬遠する傾向が見られた。

④ その他

- ・健康栄養学科の編入学試験での短期大学への指定校入試の導入により、編入学者のレベルが上がり、人数も6名と定員を上回ることができた。
- ・佐渡高校から人間健康学部への受験・合格者3名のうち2名が入学した。
- ・松商学園高等学校に関しては、年内入試については当初のルール通りに行う事ができた。高校側も、明らかに学力の高い層を送り込む方向であることが感じられた。
- ・沖縄県での入学試験会場設置については今年度も受験者数が伸びなかったため、費用対効果の点から廃止を決定した。
- ・授業公開日について、少なくとも次年度については日程的にも難しいため、行わないことを決定した。
- ・JR 遅延により、一般C 入試の開始時間を遅らせた対応は、初めての経験であったが、とっさの判断でスムーズに対応できた。

⑤ 広報について

大学ホームページは随時更新を行っており、ほぼリアルタイムで大学の動きを伝えられた。「蒼穹」も、広報誌として大学の動きをタイムリーに伝えられた。高校生の情報獲得手段であるスマホに大学HPが対応したことで、1画面スクロールで情報を得ることができるようになり、非常に見やすくなった。。

4) 次年度に向けて <A>

- ・入学者定員の1.15倍問題にも注意を払いながら、同時に、5月1日時点での編入学生の定員を含めた収容定員における充足率にも留意し、定員割れとにならないようにする。
- ・入学定員充足率は学部単位、収容定員充足率は学科単位での確認となるため、2年次、3年次の編・転入学選抜を強化（総合経営学部ではすでに実施している）し、充足率を補充できるように検討していく。
- ・今年度の入試の内容を分析し、各学部学科で入試戦略を練り直し、それぞれの入試の定員の改訂と指定校等の見直しなどを行った上で、できるだけ早期に高校に提示する。
- ・2021 度の入試制度の変更を受け、次年度の受験生は浪人したくない意志が強くなると思われる。したがって、安全志向が働くため、年内入試の志願者が増加する可能性が高いため、その情報を探りつつ入試を行う。
- ・一般入試の第一から第三志望において複数学科を志望する受験生が多かったため、学部学科間(短大も含めて)の連携がより必要になってくる。特に、総合経営学部と短期大学部は、入学後の編入指導も見据えての連携がより必要となる。
- ・長野県内の受験生の受け皿となれるようにすることも重要である。
- ・英語外部試験利用(英検、GTEC-Student 等)については、次年度以降の利用に備え、学科ごとに利用の必要性、対象入試区分、条件などを決定する。
- ・引き続き、松商学園高等学校との間で、入学者に関する相互理解を深めるために交流を続ける。
- ・次年度、県外受験会場として新たに高崎会場を追加する。
- ・「総合型選抜(AO入試)」の定義を明確にする。

- ・留学生入試について大学としてどのような方策をとるか検討する。
- ・編入試験での事前相談等の流れについて、よりわかりやすく募集要項に記載する。
- ・障がいを持った学生への入試の対応について整理する。
- ・高等教育の無償化が開始となった場合、短期大学部で実施している経済特待生の学費に影響があることが推測されるため、対応方法について検討する。
- ・引き続き、大学 HP では、大学の諸活動や成果を可能な限り早くかつ正確に、「蒼穹」では厳選した活動情報をまとめた形で発信していく。また、対応が遅れていた教員による講義等の動画ファイルを大学 HP にて公開・充実化を図ることが重要である。大学広報としてより大規模な広報を行う必要性はあるが、そのための人的パワーが圧倒的に不足していることは大きな課題である。

＜執筆担当／全学入試・広報委員会 委員長 山田 一哉＞

（２）総合経営学部入試・広報委員会

総合経営学部の入試委員会は教員 6 名と入試広報室の職員により構成されている。今年度は学部主任が交代したため、前年度からの課題を明らかにしつつ業務を行った。学部入試委員会の役割は、①学生募集に関すること、②入学試験に関連すること、③学部・学科の特性を広報すること、その他調整であり、ここでは主に①②の 2 つの業務について記すとともに③についても触れる。

1) 年度当初の計画 <P>

① 入試改革に伴う対応

2020 年度入試からの入試改革に向けた全学における新方針の元、学部としては大きく入試が変わるタイミングであり、具体的には以下の検討を行う。

- ・アドミッションポリシーを詳細に改訂する
- ・新しく採用する入試枠と、各試験における試験内容・科目・面接等の評価項目について
- ・強化部対応の入試の適正なあり方について
- ・大学入学共通テストの扱い、英語 4 技能の把握方法について
- ・全学的な入試スケジュールの適正化について

② 2019 年度入学者の定員確保と意欲ある学生の確保

定員を満たしつつ、意欲ある学生を確保するために、アドミッションポリシーにおける求める人物像を明文化するとともに、各入試の特性と試験内容及び評価基準を再整理する。また、昨年度は学部として指定校枠の削減を行ったが、今年度はその運用を受けてさらに指定校枠の見直しを行う。高校への細やかな情報提供と理解を得るため、説明会等を活用して周知する。

③ 広報活動の充実

入試情報については、オープンキャンパス、高校生向け説明会、高校の教員向け説明会にて、入試改革に向けた変化を軸により丁寧に説明を行う。

オープンキャンパスはその効果を検証し、適正な運営を目指す。広報ツールの内容を充実させ、大学紹介パンフレットの作成、ホームページや学報「蒼穹」での PR により、学部学科の特性を表現する。

④ その他

入試運営の事故を防ぎ、公正で円滑な運営に努める。。

2) 目標の実施状況 <D・C>

① 入試改革に伴う対応

- ・アドミッションポリシーの前文、本文、選抜基準を詳細に改訂し、教授会で合意を得た。
- ・2019年度入試から新しく採用する入試枠として、総合型選抜（一般）、総合型選抜（指定競技）とし、従来のA0入試及び自己推薦入試を廃止することを決定した。総合型選抜への変更に向けてエントリーシートを改善し、模擬授業と理解度テスト、小論文の出題、面談の評価について検討を行った。その他試験における内容についても、新アドミッションポリシーを軸に必要な修正を行った。
- ・強化部対応の入試の適正なあり方については、総合型選抜（指定競技）で基本的に一本化していくことにした。
- ・大学入学共通テストの扱いについて、必修である国語の扱いは従来通りとすることにした。英語4技能の把握方法については全学入試委員会に倣い、継続審議とした。
- ・全学的な入試スケジュールについて、2019年度入試は従来スケジュールで行い、2020年度から入試改革で指定されるスケジュールに移行する意見をまとめた。

② 2019年度入学者の定員確保と意欲ある学生の確保

アドミッションポリシーにおける求める人物像、学修内容、試験区分を明文化した。同時に各入試の特性に合わせた試験内容及び評価基準を再作成したが、評価項目と方法についてはより詳細に設計する必要がある。

昨年度の指定校枠の削減を経て、今年度もさらに指定校数の見直しを行った。高校の統廃合の動きや新学科再編の動きに合わせて新たに基準を作成する必要があり、くり返し審議を行った上で、両学科共に若干数の削減を行った。

③ 広報活動の充実

入試説明としてオープンキャンパス、高校生向け説明会3回、出前講座での対応、高校の教員向け説明会にて丁寧に説明を行った。

オープンキャンパスは参加者と受験者が単なる比例関係にあるのではない状況を受けて、さらに近年の訪問者数が安定している。このことから、昨年度よりもオープンキャンパスに対応する教員の数を少なくし、その分、入試広報関連の作業に力を入れた。結果、円滑に実施することができた。

広報ツールについてはその内容を充実させ、大学紹介パンフレットの作成およびホームページや学報「蒼穹」でのPRにより、学部学科の特性を表現した。

④ その他

学部内での入試スケジュールの確認を丁寧に行うため、学部委員会の責任において会議での周知に加え、随時メールで配信した。当日の入試の運営は、担当者間で役割と目的を明確化した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 入試改革に伴う対応

2020年度入試改革に伴い多くの作業があるが、スケジュールについては2019年度入試まで現状を維持し、内容の変更を徐々に進める方針の上、周辺高校の反応を見ながら進めることができた。

② 2019年度入学者の定員確保と意欲ある学生の確保

昨年に引き続き多くの志願者を得ることができ、定員が欠如せずまた過剰定員とならないよう、適正定員の学生確保ができた。また、入学者の能力は、各試験区分の特性ごとに年々適正化されており、特に総合型選抜には学部の独自の選抜方法を導入できることから、各学科の方針と併せて深

く議論を重ねることができた。

アドミッションポリシーについては初版の作成後、初の改訂であり、より詳細にわたる表現ができた。指定校評定値については学部開設以来、最大の変更が必要となり、入試広報室職員と連携し、高校の反応をみながら丁寧に設定していく方針で進めることができた。

③ 広報活動の充実

従来の方策に従い、概ね実施することができた。

④ その他

入試における事故はなかった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 入試改革に伴う対応

入試改革が進む中、新たな追加点や従来の変更点が多数発生している。受験生に対しては入試区分と選抜方法（評価）について、募集要項等でより分かりやすく表現する必要がある。また、高校とのコミュニケーションを増やし、進路指導に限らず多くの教員に理解を求めることが重要である。

② 2019年度入学者の定員確保と意欲ある学生の確保

入試定員のバランスを考えた時に、本学部において最も重要な課題は、指定校評定値の変更である。学部設立時より設定した数値は、その後開設された他学部と比較して低いものであるが、入学者の実態とは格差があり、適正な数値に上げていく必要がある。しかし、これまでの高校との関係において急激な変更は将来的に信頼を失いかねない状況に配慮して、慎重かつ丁寧な姿勢で数値変更作業を行い、周知することが求められる。

前期入試である推薦選抜について、学校推薦型選抜では評定値検証を含む適正な運用を図るとともに、総合型選抜といった特性を発揮する入試形態も適切に行われるよう、定員管理と評価方法についてはさらなる充実が求められる。

後期入試の一般選抜については、私立大学への定員の厳格化政策及び周辺大学の情勢などの外部要因から、本学部への競争率が急激に上がっている。入学手続きの可能性を適切に判断するために、合否判定において当日の試験結果だけでなく、客観的データを元にした判定資料の整備が求められる。

③ 広報活動の充実

依然として総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の違いが分かりにくい、との高校側からの指摘もあり、今後、既存の媒体や説明機会以外の新たな広報も模索したい。

④ その他

近年は豪雨等天候不順も見込まれるが、引き続き、事故のない入試運営が求められる。

<執筆担当/入試・広報委員会 総合経営学部主任 中澤 朋代>

(3) 人間健康学部入試・広報委員会

2019年4月、健康栄養学科には64名（定員70名）・編入生6名（定員5名）、スポーツ健康学科には125名（定員100名）・編入生1名（定員5名）が入学した。また、健康栄養学科では9期生（平成30年度卒業生）の管理栄養士国家試験の合格率が80.6%（合格者：58名/72名、全国管理栄養士養成課程平均合格率95.5%）、スポーツ健康学科では平成30年度卒業生の健康運動指導士の合格率は64.3%であった（合格者：18名/28名、全国平均合格率：68.2%）。

[大学を取り巻く社会環境について]

<長野県>

現在長野県内には、大学 10 校と短期大学 8 校が存在し、大学 10 校の内訳は、国立大学 1 校、公立大学 4 校、私立大学が 5 校となる。長野県における大学の情勢において、特筆すべき点は、昨年今年のわずか 2 年間で、2 校が公立化し 1 校が開校したことだ。長野県においても 18 歳人口の減少が深刻化しており、私立大学の公立化への動きもその反映と考えられる。

昨年度（2017 年度）、長野大学（社会福祉学部・環境ツーリズム学部・企業情報学部、上田市）は公立大学法人化、そして本年度（2018 年度）、諏訪東京理科大学（工学部：情報応用工学科/機械電気工学科、茅野市）もまた公立化した。また県内では、長野県立大学が開校した。長野県立大学には、グローバルマネジメント学部（定員 170 名）と健康発達学部（定員 70 名）があり、特に後者には管理栄養士養成を含む食健康学科（定員 30 名）が存在し、これは本学健康栄養学科と重複するため、入試での影響は避けられないと考えられる。

<県外>

2016 年 4 月に、山梨学院大学にスポーツ科学部スポーツ科学科[定員 170 名]が新設（既設：健康栄養学部管理栄養学科定員、40 名）、また、石川県内初の管理栄養士養成課程である金沢学院大学健康栄養学科[定員 80 名]（既設：スポーツ健康学科、定員 120 名）がそれぞれ新設された。2015 年北陸新幹線が開通したことにより、長野県下の受験生は首都圏のみならず北陸へも流出することが想定され、ここ数年は受験動向にも注意が必要である。

2018 年度における学生募集は、こういった状況を見極めながら第一義的には定員確保を目指し、さらに質の高い学生を獲得するために活動した。

1) 年度当初の目標 <P>

- ① 入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。
- ② 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。
- ③ 入学後のミスマッチを起こさないようにするため、オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の教員に、学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。
- ④ 編入学受験者の増加を目指す。
- ⑤ キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。
- ⑥ アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試制度の改革
- ⑦ 詳細アドミッションポリシーの作成

2) 目標の実施状況 <D>

① について

例年通り健康栄養学科では、1～8 期生の管理栄養士国家試験合格結果を基に、合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しを行った。

スポーツ健康学科においても、これまでの全入学者の GPA 値や異動（退学者・休学者）に関する分析を同様に行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しを行

った。

また指定校枠・評定値については、各学科会議での確認と相前後して、入試広報室との議論を通して作成した最終案を教授会に上程し、承認された。

② について

両学科会議において、本年度入試の方針について議論した。

健康栄養学科では定員確保のため、年内入試（推薦入学+A0入試）による入学者の目標数を40+α名に設定すること、そして全体では77名を目指すことが確認された。

また、スポーツ健康学科では、学科定員に配慮しつつ、良い成績が期待される学生、競技実績や運動能力など競技者、指導者として高い資質を有する学生を積極的に取っていくこと、また志願者の動向に応じて審議していく方向性が確認された。

③ について

高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースが見受けられる。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に、健康栄養学科は数物系ではない生化学系の理系であることを強調し、進学を希望する生徒には、必ず化学や生物を履修しておくことを生徒に説明してもらえるように、引き続き依頼した。

スポーツ健康学科においてもスポーツを学際的・科学的に学ぶことを念頭に、進路指導の中で基礎学力及び対人関係を構築できる能力が必要であることを教示していただくようにした。

また、進学説明会における出席者や県内の高等学校の教員にも、同様に入学者の動向について説明し、高等学校のうちからどういうことに気をつけて大学入学に向かうべきかを説明した。

④ について

編入学受験者増加のため、大学公式ホームページやオープンキャンパス等において、編入学を検討している学生に対して、学科における学びの特徴や取得可能な資格等を分かりやすく提示または説明することに努めた。

また健康栄養学科では、今年度初めて編入学試験において指定校制度を導入した。既に編入実績のある短期大学（5校）に対して、編入生の本学における成績（GPA）や国家試験の可否、短大偏差値等から分析を行った。その分析結果に基づいて指定基準を設定した。

健康栄養学科の編入学受験者は6名で、またスポーツ健康学科では1名であった。

⑤ について

キャンパス見学会、出前講義及び模擬授業の回数は表の通りである。

◆キャンパス見学会

回数（全6回）	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日程	5月20日	6月24日	7月22日	8月5日	8月19日	9月22日

◆出前講義及び模擬授業等の回数 2018年度（人間健康学部）

模擬講義・出前講義	学校見学に於ける講義	オープンキャンパスミニ講義	高大連携の模擬講義（岡谷東高校）
31講座	5講座	24講座	12講座

また、高校生の大学選びとしてキャンパス見学会だけではなく、ふだんの授業や本学の学生の生活実態をみるという流れから公開授業を行った。実績を以下に示す。

◆高校生のための公開授業

回数	第1回
日程	10月8日

⑥ について

スポーツ健康学科においては新たに、競技者や指導者として必要な「競技力」、「運動能力」、「プレゼンテーション能力」等の資質を重視した入試制度を導入した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

① について

両学科とも、年度当初の学科会議で、大卒を了承してもらったおかげで、円滑に入試業務を進行することが出来た。

② について

健康栄養学科では本年度、最終的に64名の入学生を確保した。

本年度におけるキャンパス見学会および公開授業の参加者数（累計）は、健康栄養学科では昨年とほぼ同数（本年：264名、2017年：262名）であったが、リピーター数は減少した（本年：71名、2017年：103名、2016年：129名）。この減少傾向は、2年前からみても確認できた。

一方、スポーツ健康学科の累計参加者数は38名増加（本年：329名、2017年：291名）した。しかし、リピーター数は、昨年と同数（本年・2017年：116名）であった。

健康栄養学科の志願者、合格者および手続き者（歩留まり）については、指定校の志願者数は20名で、昨年より5名増加した。公募制（前期・後期）推薦は昨年とほぼ同数だった。またA0入試の志願者は12名で、昨年より4名減少し、過去最高だった一昨年（志願者数24名）の半数であった。その結果、年内入試では39名（内訳；指定校推薦：20名、公募推薦：9名、A0入試：10名）を確保することができた。その一方、年明け入試（一般入試およびセンター入試）における志願者総数は、昨年と比べ10名近く減少した。過去の志願者状況を区分別にみると、一般Aでは、昨年から微減、一般B・Cに至っては経時的に減少しており、本年の志願者は一般Bが3名、一般Cは志願者無しであった。これらの結果から、今後の傾向を考察すると健康栄養学科における一般B・Cの志願者は期待できないと言える。

過去5年間の歩留まりと昨年の歩留まりを参考にしながら、試験結果から合格ラインを決定した。その結果、一般入試における入学者は17名、センター入試は9名で、健康栄養学科として合計65名（定員70）となり、入学定員を確保することができなかった。

スポーツ健康学科では、延べ志願者数が274名と過去最高であり、昨年と比しても95名増加となった。入試区分別に見ると指定校の志願者数は52名で、昨年と比べ14名増加した。また、今年度から導入された指定競技推薦で29名の志願者があったことも影響し、公募制推薦は5名減少したものの、新たに運動選抜方式を採用したA0入試の志願者は昨年より12名増えた。そしてその結果、推薦及びA0入試では109名（内訳；指定校推薦：52名、公募推薦：10名、A0Ⅰ期入試：17名、指定競技：29名、A0Ⅱ期入試：1名）を確保することができた。一方、年明け入試（一般入試およびセンター入試）における志願者数は、昨年とは異なり52名増加した。過去5年間の歩留まりと募集定員を参考にしながら、試験結果から合格ラインを決定した。その結果、一般入試における入学者は8名、センター入試は7名で、留学生1名を合わせて、スポーツ健康学科として125名の入学者を確保でき、定員を大幅に上回った。

③ について

松商学園高等学校および県内の高等学校の進路指導の先生に対する説明会を行った。説明会で、両学科が求めている学生像は十分に伝わったと思われる。

④ について

引き続き、編入学受験者の増加のための編入希望者への対応を行っていく。

⑤ について

表に示したように、2018年度のキャンパス見学会参加者（全学年および3年生）は、前年度と比較して健康栄養学科は11名の増加、スポーツ健康学科は24名の増加であった。このうち、リピーター数は、前年度と比較して健康栄養学科は減少、スポーツ健康学科はほぼ同数であった。昨年に引き続き、高校生からの注目度は維持しており、広報活動が効果的に機能していると思われる。

表. オープンキャンパス参加者数（春のオープンキャンパスを除く）

	2018年度				2017年度			
	全学年		3年生のみ		全学年		3年生のみ	
	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター
栄養	171	29	112	27	156	36	101	34
スポーツ	229	49	173	46	208	45	149	45
合計	400	78	285	73	364	81	250	79

⑥ について

先に示したスケジュールにしたがって、無事に行われた。

4) 次年度に向けて <A>

入学定員確保を第一義とし、かつ恒常的に定員を維持していくことは最重要課題であると捉えている。したがって、次年度も精力的に本学・学部・学科のアドミッションポリシー及びそれに基づく多様な情報を、オープンキャンパスはもちろん、高等学校等進路室訪問、高等学校及び相談会場等において受験関係者に直接伝える機会を増やしていくことに努める。また、大学案内、募集要項、大学ホームページへなどに加え、SNS など様々な媒体をとおして、広く内外に周知し、受験生や保護者、高等学校の教員が必要とする情報を詳しく精査したうえで、正しく理解されるよう工夫を凝らし、積極的な広報活動を通して認知度を一層高め、最終的に志願者増に結びつけるべく取り組んでいくべきである。

[健康栄養学科]

今年度、健康栄養学科では64名の入学生を確保したが、結果として学科定員（70名）を満たすことができなかった。結果を分析すると、年内入試は39名（目標：40+ α ）で、ほぼ目標どおりだったが、年明け入試は25名で予想を大きく下回った。特にセンター利用入試における合格者の歩留まり率が例年になく低かった。

来年度は2年連続で定員を割らないことが第1目標である。しかし、定員確保を目指すあまり基礎学力が足りない学生を入学させるのは、将来の国家試験の合格率に影響するため、決して良い選択とはいえない。そこで来年度は、指定校推薦入試の入学者を増やすために、指定基準の見直し、新たな地域（主に群馬県）への指定校の拡大を検討していく。それでも、定員を確保できないということになれば、本学を取り巻く環境に鑑み、管理栄養士養成課程を減らし、農学系など受験生に

とって魅力的な学びを増設するなど、学部として抜本的な学科再編などの議論も行わなければならない。

[スポーツ健康学科]

スポーツ健康学科として125名の入学者を確保することができ定員を大幅に上回ったが、そのことが入学後の教育面への圧迫とならないよう留意し、学習成果並びに資格取得・就職状況などへ悪影響を及ぼさないよう継続的に点検をしていくことが、今後の最大の課題である。

また、今年度は新たな試みとして、競技実績や運動能力やプレゼンテーション能力を重視した入試制度を採用したことは志願者増加の一因となったと考えられるが、そうした入試を経て入学してきた学生の指導についても今後の課題として忘れてはならない点であり、同時に、志願者増加の状況を冷静に分析しながら、指定校及び指定校評定値の見直し、プレゼンテーション面接、体力テストなど入試判定基準の明確化など、入試制度を総合的に再考していかなければならないと考えている。

5) 委員会業務内容等について

予備合否判定会議

- ・入学試験の合否について、学部長・学科長を交えて事前に「予備合否判定会議」で検討し、原案を作成することにより、教授会判定会議における審議に役立てた。

主な業務内容

- ・学部・学科教育理念・教育目標の入試要項への記入及び説明による、進路指導教員や受験生への本学の教育理念等の明確な提示と工夫
- ・アドミッションポリシーの高校教員及び受験生等への徹底
- ・入試関係書類の誤記載防止への協力体制
- ・IRとしての入学生選抜のための分析
- ・指定校及び指定校評定値の見直しについて
- ・編転入試験に伴う作問委員会への作問依頼
- ・編転入学試験受験者との事前面談と面談結果の伝達
- ・編入における指定校の検討及び実施
- ・入試実施ごとの教員担当業務についての割り振り依頼
- ・入試問題作成・校正・採点についての依頼
- ・入試当日の責任業務
- ・入学試験の実施・評価・合否判定会議までの進行
- ・次年度入試関連業務の検討事項の抽出
- ・キャンパス見学会・公開授業・出前講義・進路説明会の担当教員についての割り振り依頼
- ・キャンパス見学会での学科説明会の内容けん検討

<執筆担当/入試・広報委員会 人間健康学部主任 高木 勝広>

(4) 教育学部入試・広報委員会

教育学部は2017年度に開設され、定員80人に対して入学生は一期生65人、二期生は72人であった。昨年度の反省から教育学部の魅力の発信や、入試の在り方についての検討が迫られ、定員の充足が最優先される課題となっていた。しかし一方では、在学学生の学修、特に実習系の授業につ

いて、地域の学校や教育委員会との関係構築を進めながら確実に実施して、来年度の教員採用試験に万全の体制で臨まなければならない現状がある。学生の育成と共に、入試区分による学生像を明確にしなが、今後の入試・広報の方向を考えていく。

一期生と二期生の入試では A0 入試の内容に変更があったりしながらも、学生の実態に合わせた改革が行われてきた。その実態が高校現場でどのように認識され、教育学部の存在が認知されているかを把握する必要がある。

1) 年度当初の計画 <P>

① 指定校推薦入試のあり方を検討し改善する

高等学校の評定値と入学後の成績や異動状況、学習態度などを分析して、指定校枠と評定値を再考する。

② 各入試区分による学生の実態を把握し、求める学生像を改めて明確にする。

③ 教員による高校訪問を行い、教員養成の考え方を理解してもらうと共に、学生の学修等の実態を紹介し、学部の魅力や在り方を発信する。

④ オープンキャンパスの学科説明や、出張講義、あるいは先生サポート支援等の地域貢献によって、地域の中の松本大学教育学部という方向を、学生の実態と教員の魅力と共に発信する。

⑤ A0 入試の内容を検討する。

以上の計画により、定員の確保を最重要課題として取り組む

2) 状況の説明 <D>

① 指定校推薦

入試区分や高等学校の評定値と入学後の成績等を分析して、より多くの学生が受験し易い様に、指定校枠の選別と評定値の設定を変更した。

② 求める学生像

入学者の多くは、教職あるいは教育に関わる職種を目指すことを想定して、これまでの各入試で求める学生像を再確認した。

③ 学部の魅力の発信

教員が手分けして高校訪問を実施し、当該校の出身学生の様子を伝えると共に、教育学部の3つのポリシーを基に求める学生像を説明した。

④ オープンキャンパス等

オープンキャンパスでは教育学部として保護者専用の説明会を設定したり、独自に教育学部の学生と語ったりすることのできるブースを設置し、教育学部について知ってもらえる機会を提供した。

⑤ A0入試の内容の検討

A0 入試の内容を検討し、今年度は前年度と同様とした。受験生が昨年度の受験を踏襲できるようにし、入試の入学者像に従い選抜を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 指定校推薦のあり方

受験しやすい状況にするために、指定校枠の選別と評定値の設定を変更したが、結果は低調であった。教育学部の特性として、国公立大学を第一希望とする学生が圧倒的に多く、指定校推薦入試で教職を目指す学生を確保することは難しい。今後、教員採用試験で実績を積んで知名度を上げる

ことが重要である。

② 求める学生像

教職の特性を考えて、学力のみに偏った人材育成ではなく、人としての魅力や個性を重視した推薦系の入試を行った。魅力ある学生は多いが、入試の段階で個性や魅力を見出して評価することには困難が伴う。

③ 学部の魅力の発信

入試広報室の協力を得ながら、教員による高校訪問を実施した。担当者が昨年と同じ高校を訪問することで、顔の見える関係が築け、具体的な情報を得ることができるようになってきた。

④ オープンキャンパス等

オープンキャンパスの実施については良好であったが、集客に関しては低調であった。前述の通り、国公立が第一希望となっている傾向が強く、オープンキャンパスの参加まで至っていない。

⑤ AO入試の内容

年度内入試全般について、国公立を第一希望としている学生が多くみられるため、AO入試についても受験者数は低調である。その中でアドミッションポリシーに示した入学者像に添った学生を選抜できるよう、工夫を加え今後のAO入試について変更を考える必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

三期生においては入学者が95人と定員の確保はできたが、次年度以降も恒常的に定員の確保を目指していかなければならない。ただし、定員が大きく超過したため、教務的・施設の問題（人数が多いため教室の容量の問題・教具の不足の問題・授業の人数による時間割の問題）が発生している。

これから完成年度後4年間を考え、定員を毎年適正に獲得していく方策が求められる。そのためには来年に迫った教員採用試験において実績を挙げることで地域や高等学校に認知されることが必要である。それにより受験者数の安定や、歩留まり率の読みをより正確にし、定員の確保に努めたい。しかし教員採用試験の受験者の減少が、全国的に課題になっている中で、教員の魅力ややりがい等を、各講義やガンダンスにおいて発信していく必要もあると考えている。

また定員の確保の観点ならびに、学生の状況、教育学部を取り巻く状況から、入試状況・受験者数・合格者数等の分析を更に実施する。

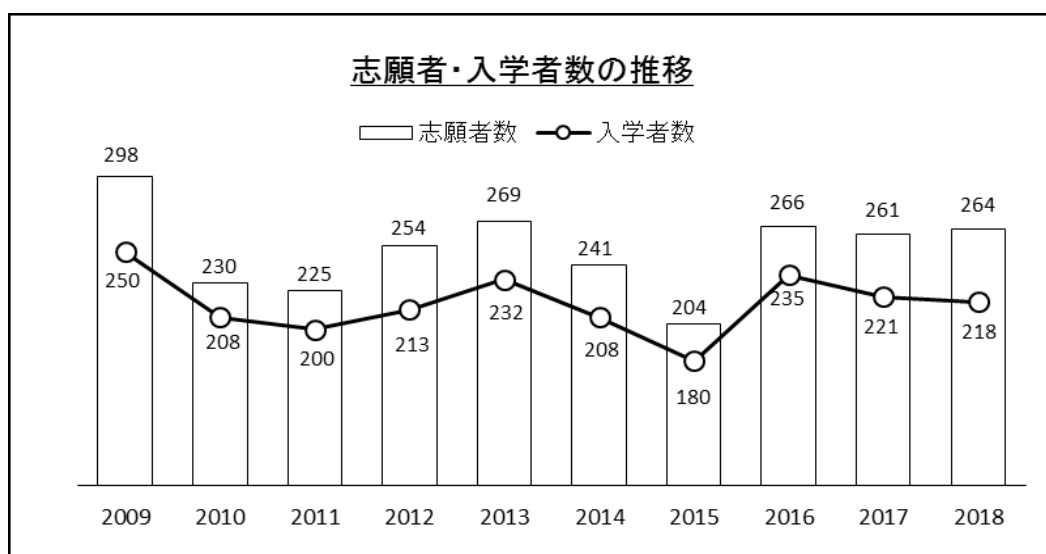
<執筆担当/入試・広報委員会 教育学部主任 岸田 幸弘>

(5) 松商短期大学部入試・広報委員会

1) 2018(平成30)年度当初の計画 <P>

本学の志願者数は以下のとおり26年度204人にまで減少し、その後27・28年度と260人を超えるまで回復したが、この2年間は入学者数が14人の減となり、いわゆる歩留まりの面でやや悪化していると言える。県内高校生の進路状況を見る限り依然として、四年制大学進学志向の増大、根強い専門学校志向、高卒段階での好調な就職環境など、本学の学生募集にとっては厳しい状況が続いている。この状況における本学の課題は、四年制大学志向による志願者減少分を、専門学校や就職を志向する層から如何に本学志願に結びつけていくのかということに尽きる。つまり、昨年度と同様、今年度の学生募集活動は、高校就職希望者および専門学校志願者に対する働きかけが、さらに重要になるということである。今年度も引き続き、高校生に対して本学の教育実績および就職実績

における優位性を強くアピールして入学志願者 250 人・入学定員 200 人の達成を目指す。



2) 2018 (平成 30) 年度 (2019 年度入試) の実績～現状の説明～<D>

① 松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去 3 年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入 試 区 分		特待生	推 薦	一 般	センター・留学	AO	計
2019年度入試 (2019年3月末)	商&経営情報	経済支援 10	指定 104	A 12	センター 40	I 期 13	246 (入学205)
		学業学力 4	一般 33	B 4	留学 2	II 期 11	
			自己 10	C 3		III 期 0	
計	14	147	19	42	24		
2018年度入試 (2018年3月末)	商&経営情報	経済支援 5	指定 143	A 20	センター 30	I 期 7	264 (入学218)
		学業学力 5	一般 30	B 5	留学 0	II 期 12	
			自己 3	C 4		社会人 0	
計	10	176	29	30	19		
2017年度入試 (2017年3月末)	商&経営情報	経済支援 5	指定 133	A 17	センター 32	I 期 22	261 (入学221)
		学業学力 4	一般 30	B 8	留学 1	II 期 6	
			自己 1	C 2		社会人 0	
計	9	164	27	33	28		

今年度の志願者数は昨年度から 18 人減の 246 人となり、年度当初の目標 260 人には届かず、過去 10 年間では 5 番目に低い水準となった。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、昨年度と比べて、特待生入試での 4 人、センター利用入試で 10 人、AO入試で 5 人増えたものの、推薦入試、特に指定校推薦入試での 39 人の減、一般入試での 10 人の減という結果となった。例年、特待生入試およびAO入試での増加はそのまま入学者数の増加につながる傾向があるが、センター利用入試での増加は必ずしも入学者数増にはつながらず、今年度の入学者数は 205 にとどまった。

② 本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去 3 年で比較してみると次表のとおりである。

2018年度 試験日	入試区分	志願者数			合格者数			入学者数		
		2019	2018	2017	2019	2018	2017	2019	2018	2017
11月3日	特待生(経済支援) (学業学力)	10	5	5	1	3	3	1	3	2
		4	5	4	2	2	0	2	2	0
11月17日	推薦前期(指定) (一般)	104	143	133	104	143	132	104	143	131
		24	26	25	24	26	24	24	26	23
12月9日	推薦後期(一般) (自己)	9	4	5	9	4	5	9	4	4
		10	3	1	10	2	1	10	2	1
12月9日	留学生(前期)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月14日	A O I 期 社会人A O I 期	13	7	22	13	7	22	13	7	22
		0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月3日	A O II 期 社会人A O II 期	11	12	6	10	11	6	10	11	6
		0	0	0	0	0	0	0	0	0
年内計		185	205	201	173	198	193	173	198	189
2月2日	一般 A	12	20	17	12	17	17	10	7	7
3月1日	一般 B	4	5	8	4	3	5	4	2	5
3月18日	一般 C	3	4	2	2	4	1	2	3	1
2月	センター I 期	29	25	14	27	23	15	9	4	10
3月	センター II 期	3	3	15	3	3	8	2	2	7
3月	センター III 期	8	2	3	8	2	2	3	2	1
2月22日	留学生(後期)	2	0	1	2	0	1	2	0	1
年明け計		61	59	60	58	52	49	32	20	32
総計		246	264	261	231	250	242	205	218	221

年内実施の試験における志願者数は昨年度に比べ 20 人減となり、年明け実施の試験における志願者数は昨年度とほぼ同数、合格者数については年内が 25 人減、年明けが 6 人増となった。入学者数については、年内試験で 25 人の減、年明け試験で 12 人の増加となった。年内試験では、指定校推薦入試での 39 人の減少が大きく、他の試験ではほぼ昨年度を上回り計 16 人の増加となっている。年明け試験では 3 回の一般入試で 4 人、センター利用で 6 人、留学生で 2 人の増加となった。

③ 志願者・入学者の出身地区別状況

過去 3 年間の志願者・入学者の出身高校地区別一覧は次表のとおりである。

地区	2019			2018			2017		
	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者
中信	20	148	125	15	121	106	21	135	120
南信	14	35	27	18	68	59	20	62	58
北信	16	37	28	20	52	34	18	43	29
東信	8	18	17	6	18	16	6	10	8
計	58	238	197	59	259	215	65	250	215
県外	5	6	6	5	5	3	8	10	5
計	63	244	203	64	264	218	73	260	220
留学	2	2	2	0	0	0	1	1	1
計	65	246	205	64	264	218	74	261	221

県内外を合わせて志願実績のあった高等学校数は昨年度より 1 校増えて 65 校となった。内訳を見ると中信地区で 5 校、東信地区で 2 校、留学が 2 校の増加、南信地区で 4 校、北信地区で 4 校の減少であった。志願者数の全体は昨年より 18 人の減であったが、中信地区で 27 人の増加に対して南信ではほぼ半減の 33 人減、北信でも 15 人の減少となった。今年度は、中信地区の 3 年ぶりの志願者増加があったものの、残念ながら南信地区、北信地区での大幅な減少に飲み込まれてしまったということである。とりわけ、入学者数で見る南信地区の 32 名の減少は非常に大きなダメージとなったと言える。

2019年度入学		
①	松商学園	28
②	穂高商業	15
③	塩尻志学館	12
	豊科	12
⑤	田川	11
	東京都市大学塩尻	11
⑦	松本美須々ヶ丘	9
⑧	上田東	7
⑨	諏訪実業	6
⑩	須坂創成	5
	長野東	5
		計 121

⑫	松本筑摩	4
⑬	梓川	3
	松本県ヶ丘	3
	明科	3
	松本国際	3
	篠ノ井	3
	松代	3
	長野南	3
	諏訪二葉	3
	下諏訪向陽	3

2018年度入学		
①	松商学園	25
②	穂高商業	16
③	豊科	13
	田川	13
⑤	諏訪実業	10
⑥	梓川	8
	岡谷東	8
⑧	上田東	8
	下諏訪向陽	7
⑨	長野南	7
	塩尻志学館	6
⑪	赤穂	6

⑬	長野商業	5
	松本蟻ヶ崎	5
	松本美須々	5
	大町岳陽	5
	辰野	5
		計 152

2017年度入学		
①	松商学園	29
②	松本美須々ヶ丘	19
③	田川	18
④	塩尻志学館	10
⑤	赤穂	8
⑥	東京都市大学塩尻	7
⑦	豊科	6
	梓川	6
	下諏訪向陽	6
⑪	諏訪実業	6
	穂高商業	5
⑬	岡谷南	5

⑬	松本筑摩	4
	松本第一	4
	岡谷東	4
	松代	4
	長野商業	4
	須坂商業	4
		計 149

④ 入学者の出身高校別状況

過去3年で本学への入学実績が5人以上であった高校は次表の通りである。

上位校の顔ぶれは、1位が5年連続で松商高校、2位には昨年度と同じ穂高商業、3位には塩尻志学館、豊科高校、5位には田川高校と本学にとっての常連校が連なった。昨年度圏外となった都市大塩尻高校も5位に返り咲いた。また、昨年度初めて東信地区からランクインした上田東高校が今年度も8位と着実に実績を上げている。その一方で、南信地区の高校が軒並み順位を落とした。諏訪実業高校と下諏訪向陽高校がそれぞれ4人減、今年度圏外となった岡谷東高校が6人、辰野高校が4人、赤穂高校が5人の減となり、この南信5校で23人の減少となった。

⑤ 学費免除制度の運用状況

今年度を含む過去3年間の特待生の採用状況は以下の通りである。

	2019年度			2018年度			2017年度		
	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
経済支援Ⅰ種	0		0	1		1	1		1
経済支援Ⅱ種	1		1	2		2	0		0
学業学力Ⅰ種	0		0	0		0	0		0
学業学力Ⅱ種	2		2	2		2	1		1
松商Ⅰ種	1		1	1		1	1		1
学力Ⅰ種	3	0	3	0	0	0	0	0	0
学力Ⅱ種	0	1	1	2	2	4	2	1	3
留学生	0	2	2			0	0	1	1
計	7	3	10	8	2	10	5	2	7

Ⅰ種	4	730,000	2,920,000	2	730,000	1,460,000	2	730,000	1,460,000
Ⅱ種	6	365,000	2,190,000	8	365,000	2,920,000	5	365,000	1,825,000
免除額計			5,110,000			4,380,000			3,285,000

特待生のⅠ種およびⅡ種については、昨年度と同額の免除となったが、今年度は留学生2人に対してⅡ種と同額(365,000円)の免除をおこない、その分が増額となった。

⑥ 入学金免除制度の利用状況

入学金免除制度には、取得有資格者優遇制度(1資格あたり 50,000 円免除)、父母兄弟姉妹優遇制度(半額免除)、松商高校優遇制度(全額免除)、沖縄県及び離島高校優遇制度(全学免除)がある。父母兄弟姉妹優遇制度については、昨年までは兄弟姉妹を対象としていたが、今年度から父母が本学(あるいは松本大学)の卒業生である場合にも適用されることとなった。

有資格者優遇制度

	2019年度				2018年度				2017年度			
	推薦入	他入試	入学時	計	推薦入	他入試	入学時	計	推薦入	他入試	入学時	計
日商簿記2級	0	0	2	2	6	0	1	7	1	0	1	2
漢字検定2級	4	1	6	11	4	1	7	12	2	1	6	9
英語検定2級	2	2	1	5	1	0	0	1	2	1	0	3
数学検定2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ITパスポート	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1
計	6	3	9	18	12	1	8	21	6	2	7	15

免除額計	50,000	18 人	¥ 900,000	21 人	¥ 1,050,000	15 人	¥ 750,000
------	--------	------	-----------	------	-------------	------	-----------

今年度を含む過去3年間の利用状況は以下の通りである。

入学金免除制度

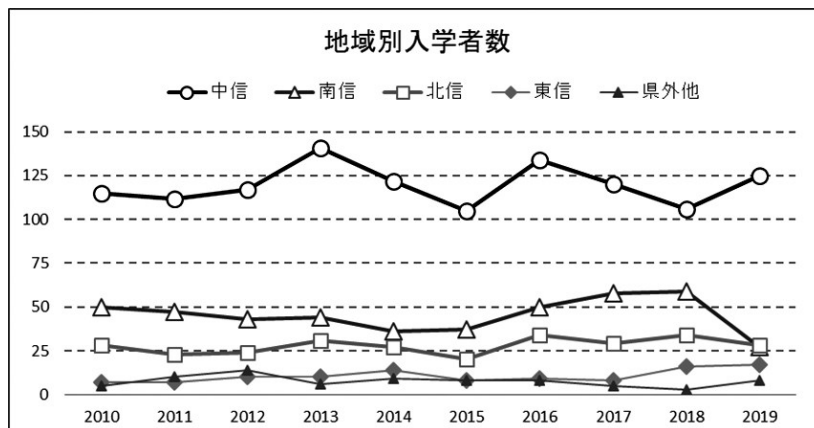
	2019年度			2018年度			2017年度		
	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
家族免除(半)	20	4	24	8	1	9	15	1	16
松商免除(全)	24	4	28	22	4	26	28	1	29
松大免除(全)	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	44	9	53	30	5	35	43	2	45

	24	125,000	3,000,000	9	125,000	1,125,000	16	125,000	2,000,000
半額免除	24	125,000	3,000,000	9	125,000	1,125,000	16	125,000	2,000,000
全学免除	29	250,000	7,250,000	26	250,000	6,500,000	29	250,000	7,250,000
計			10,250,000			7,625,000			9,250,000

今年度は、松本大学人間健康学部健康栄養学科からの入学生1名があり、全額免除となった。

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度は志願者246人、入学者205人となり、年度当初の目標であった志願者数260は残念ながら達成できなかった。この低い志願者数からすれば、入学者数が200を超え、なんとか定員を確保できたことは幸運と言わざるを得ない。志願者数の減少は入試区分で見れば、指定推薦入試での39人の減少がそのまますべて入学者数の減少につながり、また、志願地域別に見れば、南信地区と北信地区での48人減、地域別入学者数で見れば南信地区での32人の減が非常に大きなダメージとなったと言える。今年度、年内入試が終了した地点での入学者数は173人であり、年内定員確保という当初の目標からはほど遠い数字となった。実際この数字はこの10年間でただ一度定員割れを起こした2015年度の166人、定員ちょうどであった2001年度の174人に並ぶ低い水準であり、最終的な定員割れを誰もが予想する状況であった。しかしながら、



初めの目標からはほど遠い数字となった。実際この数字はこの10年間でただ一度定員割れを起こした2015年度の166人、定員ちょうどであった2001年度の174人に並ぶ低い水準であり、最終的な定員割れを誰もが予想する状況であった。しかしながら、

この定員割覚悟の非常に厳しい状況にもかかわらず今年度、入学定員が確保できた理由は、誰もが予想しなかった年明け入試における歩留まりの高さにある。

年明け実施の入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留率は 55%（留学生入試を除く）となり、昨年度の 38%（一昨年度 65%）を大きく上回る結果となった。3 回実施の一般入試の歩留率は全体で 89%（16 人/18 人）であり、昨年度の 50%（一昨年度 54%）を大幅に上回りこの 10 年間でも最高水準となった。また、センター利用入試の歩留率は全 3 回の全体で 37%（14 人/38 人）であり、昨年度の 32%（一昨年度 72%）をやや上回った程度であった。とりわけ、一般 B 及び C 入試では歩留まりが 100%となったが、一般 A も含めて、今年度入試では、松本大学総合経営学部の入試難易度の上昇にともない、同学部を不合格となった受験生が、編入学をねらって本学を受験・合格し、入学したというケースが少なからずあった。実際、本学の 2019 年度入学段階では 20 人を超える新入生が総合経営学部への編入を希望しているという調査結果もある。

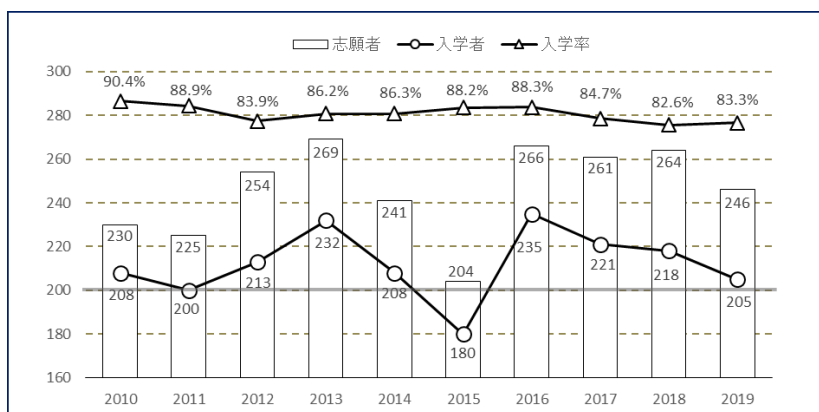
入学者の出身地区をみると、今年度は中信地区が 27 人の増加となり、当初の「中信地区における志願者回復への取組」は功を奏したと思われるが、その一方で南信・北信地区、特に南信地区の大幅な減少が予想外であった。南信地区に関しては、入学者を減らした各高校において、高校性の就職の状況が非常に好調で、進学よりも就職という傾向が強かったようである。

学費免除制度の運用状況は、Ⅰ種特待生（全額免除）が昨年度より 2 人増え、Ⅱ種特待生（半額免除）が 4 人減となった。特待生に対する免除総額は昨年と同額ではあったが、今年度は留学生 2 人が入学し、それぞれに半額免除となった分が増額となった。

入学金免除制度のうち 2011（平成 23）年度から始めた有資格者免除制度は、漢検 2 級取得者が平年並みの 10 人前後であったが、日商簿記 2 級については、検定試験の難易度が上昇している影響を受け、5 人の減となった。その一方で、英検 2 級については、昨年より 4 人増え、本学の推進するグローバル化にとっても嬉しい増加となった。また、父母が対象に加わった家族入学免除制度の利用は、昨年度の 9 人から大幅に増え、24 人となった。松商高校卒業生に対する免除は例年並みの人数となった。入学金の免除総額は、有資格者免除も含めて、11,150,000 円となり、家族（父母）入学者の増加により昨年度から 2,475,000 円の増加となった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 < A >

以下のグラフは、本学の志願者に対する入学者の割合を入学率として表したものである。これまでに述べてきたように、2016 年度からの 3 年間は本学への志願者数が 260 人超でほぼ一定と見ることができた。しかしながら、その間も入学率は徐々に下がり続けてきた。それに対して今年度は、志願者が大きく減少し、にもかかわらずかろうじて定員を確保できた。これは、入学率がやや持ち



直したことによるものと思われる。来年度は、この入学率を維持すべく、加えて、志願者数の回復が最大の課題となる。特に、今年度大きく志願者を減らした北信地区、また志願者数半減かつ入学者数も大幅減となった南信地区に対する募集活動が重

要となる。上記グラフに明らかなように、入学率を80%と仮定するならば、定員200を確保するためには志願者数を250超とすべきこととなる。

また、同時に、北信・東信地区については、県短の四大化、長野大の公立化による浮遊層を本学に取り組むことが必要である。ここでのポイントは、本学における教育内容と学費である。これまで県短を志望していた層を本学に取り込むために、教育面では四学期制を活用した海外留学プログラムの充実、「海外留学支援制度」のための入試である「総合型選抜入試(留学支援)」の広報をさらに拡充する。また、学費の面では、本学の持つ特待生制度を強くアピールして、公立短大よりも安い学費で学べることを高校生に積極的にPRしていく。また、ICTを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション能力育成教育、そしてそれらに基づくコアコンピテンス育成の教育(AP事業)によって他の短大あるいはビジネス系の専門学校に対する本学の教育内容の優位性を鮮明に打ち出し、本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実績、特に「金融スペシャリスト・プログラム」に支えられた金融機関への就職実績をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。

「長野県内の事務系・金融系の就職なら松商短大」という点を強力にアピールしながら来年度も「入学志願者数260・入学定員200」の確保を目指す。

＜執筆担当／入試・広報委員会 松商短期大学部 山添 昌彦＞

(6) 入試問題検討部会

本委員会は、全学入試委員長、入試科目担当者、本学が委嘱した学外作問者および入試広報室の職員により構成されている。

1) 年度当初の計画 <P>

大学または各学部学科のアドミッションポリシーに則った

- ①入試問題の出題方針の決定
- ②方針通りに入試問題が作成されたことの確認
- ③一般入試の試験問題の年内の完成

を行うことを目的とした。

2) 目標の実施状況 <D>

10月に部会を開催し、初稿原稿をもとに学内担当者及び、作題担当者による試験内容の確認及び修正が話し合われた。

3) 点検・評価の結果 <C>

原案をもとに、事務局および科目担当教員と作題担当者間で、内容が適切であるかどうか、誤りがないか等詳細にチェックを行った。年内の一部の一般入試問題を除いて完成させることができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様に、部会を開催し、詳細にわたる打ち合わせのあと、入試問題の完成までの過程で、教員と作題者の間で綿密にコミュニケーションをとりながら、目的にあった誤りのない問題の作成を行う。作問委員と教員間のコミュニケーションをより親密にすることにより、全ての入試問題について年内に完成できるようにする。

＜執筆担当／入試問題検討部会長 山田 一哉＞

2. A0入試運営委員会

本委員会は総合経営学部、人間健康学部、教育学部、松商短期大学の代表7名と入試委員長および入試広報室職員によって構成されている。2018年度より入試委員会A0入試運営部会から委員会となり、入試広報室長が委員長を務めた。

1) 2018年度当初の計画 <P>

大学および各学部のアドミッションポリシーを確認し、ポリシーに沿ったA0入試の実施に向けた内容の検討およびA0入試の実施を行う。

2) 目標の実施状況 <D>

7月に委員会を開催し、各学部のアドミッションポリシーを確認した。また入試内容の点検を行い、総合経営学部はA0入試を1回のみとし、エントリーシートに記入する内容をより具体的書かせるものとする。健康栄養学科は昨年度から変更点なし。スポーツ健康学科は運動選抜型A0入試を新しく行う。学校教育学科はエントリーシートの内容の変更および一次選考の集団面接を廃止し、書類審査と学修計画書の提出を追加した。

短期大学部はA0入試Ⅲ、Ⅳ期（Ⅲ、Ⅳ期は一次選考なし）を追加した。

スポーツ健康学科は運動型選抜の実施に合わせ、4つ目のアドミッションポリシーとして、「入学後、勉学に励むと共に、強化部やその他の競技スポーツを継続して活動しようとする人」が追加された。

3) 点検・評価の結果 <C>

各学科とも変更案にあわせたA0入試の実施を行った。特にスポーツ健康学科に導入した運動選抜型A0入試は予想以上の志願者を獲得した。スポーツ系統への進学希望者のニーズにあった入試であったことが要因である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度より各学科とも新しいアドミッションポリシーが運用される。今年度同様、委員会での検討を行い、よりアドミッションポリシーに沿った入試の実施が求められる。また2021年度入試からの入試改革の研究を引き続き行っていく。なお、2020年度入試よりA0入試の名称を総合型選抜に変更する。

<執筆担当/A0入試運営委員会 委員長 坂内 浩三>

3. センター入試委員会

1) 年度当初の計画 <P>

センター入試委員会の平成30年度当初の計画は以下のとおりである。

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

昨年度より試験室が増え10教室ではあったが、受験者数は634人と昨年度並みであった。しかし、試験監督者は例年並みの人数であり、割り当て作業は容易ではなかった。待機人員に関しても、前年度よりはよかったが少ない状況は改善できていない。一方で、信州大学からは受け入れ受験者数増員の打診があり、例年の課題である。

② 体調不良受験者への適切な対応

追試験を望まない体調不良受験者の対応を適切に行うための判断基準の明確化と別室試験室での安全な監督業務方法を検討する。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

限られた人員を適切に配置し効率的に業務が遂行できる工夫を検討する。特に、警備担当者より受験生以外の来校者（特に本学在校生）への対応に苦慮したとの報告があり、ハードの整備などを含めた対策を考えていきたい。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

信州大学より、本学と松本歯科大学に対して今年度の受入受験者数増の要請があった。信州大学の要請の裏には、南信地区の試験場（飯田高校）担当に伴う大幅な負担増がある。協議の結果、信州大学松本試験場と松本大学試験場の間で「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」および「障害等のある志願者」の割振りは、当初は信州大学松本試験場に全て割り振り、信州大学で各試験場の状況を勘案し、各試験場が均等に負担するように割振ることとなった。その結果、本学試験会場では634席（前年度比23席減）に決まった。試験室数は障害者対応の教室を2部屋必要となったことより、予備室を1部屋設置し、合計11試験室での運営体制を整えることとなった。

② 体調不良受験者への適切な対応

試験日がインフルエンザ流行期と重なることを予測し、健康安全センターに対策と事前準備、監督者会議での周知を依頼した。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

受入受験者数と試験室数が増えたことから、27の監督者グループを作成して各時間帯の受験者数に応じて各教室へ担当グループを配置する方法で割り当てを行った。昨年度から教育学部教員も業務にあたることになったが、センター試験業務未経験者が多いことから、主任、副主任監督者から外すなどを考慮しながらの調整となった。また、「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」の受け入れにより、4教室が二日目に受験者がいなくなるとともに、理科②の時間帯における空き教室もできたことより、本学では初めて1日のみで業務が終了する教員配置を行い、試験監督業務の負担減を試みた。連絡員についても各担当者が無理な態勢での業務とならないように配置および作業内容を見直し、簡略化と効率化を図った。

監督者会議とリスニング予行演習については、業務未経験者を中心に監督業務の解説映像DVDを配付した。監督者会議とリスニング予行演習の説明業務は、学部ごとに担当を決めて、依頼した。問題冊子の受入と仕訳作業は学長執務室を借りて実施した。

試験当日の監督業務に関して、体調を崩した受験生が散見されたが適切に対処ができた。また、本年は、監督待機者は原則会議室での待機を依頼した。昨年は、監督待機者はPHSでの連絡がとれる状態であれば会議室での待機でなくてもよいこととして、監督者の負担感の軽減を図っているもので、今後検討したい。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

信州大学松本試験場と松本大学試験場の間で「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」および「障害等のある志願者」の割振りは、当初は信州大学松本試験場に全て

割り振り、信州大学で各試験場の状況を勘案し、各試験場が均等に負担するように割振るようにした結果、本学における受け入れ受験者数は、さほど変わらないが、2日目の空き教室が増え、実質的な監督業務の負担減につながった。今後も地区の各校との連絡を密にして相互理解を深めて適切な運営ができるようにしたい。今回受け入れた634席は、今後も続くとみた上で、来年度以降の試験運営をより円滑に進めるための改善点等を検討していくべきと思われる。

② 体調不良受験者への適切な対応

試験当日の業務は、予想していた追試験申請は発生せず、体調不良等を訴える受験生等が見られたが、別室試験室の追加を要することもなく無事に進めることができた。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

今年度は、監督待機者の会議室待機を原則としたが、会議室待機の方が混乱を招かないのではないかと意見も昨年に寄せられていたようである。今年は、本件に関する意見は特段、寄せられてはいない。また、受験パターンのグループ化により、延べ使用教室数が減少したことより、1日のみで試験監督業務を終了する配置を試みた。今後の割当によって、同様な体制が取れるかはわからないが、今後も少しでも監督者の負担を減らす方向で業務改善を検討してゆきたい。

細かな点では、大教室（524教室）でのリスニング試験時にB票を連絡員に手渡す場所を教室の後ろ出口ではなく前方出口が適しているとの指摘があった。全試験室一律にすべき点も多いが、各教室の状況に合わせた柔軟な対応が可能な部分は効率のよい方法を取り入れたい。

また、監督者会議にてJアラートへの対応方法について問い合わせがあったことを受け、Jアラートや地震等の災害時の対応マニュアルを作成したことで、監督者は安心して業務にあたることができたようである。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 適切な人員配置と効率的な運営

次年度も試験室11教室以上での実施となることが予想される。事前研修の質向上、バランスを考えた監督者割当や連絡員等の配置、効率的な試験業務のための改善点の検討・実施に努める。

② プレテストの実施に向けた準備と運営

本年度より新試験に向けたプレテストが始まった。プレテストにおいては、センター入試委員で実施した。特段問題なく、無事に終了することができた。今後新試験に合わせて試験の内容や規模を確認した上で、試験室の選定や監督者および連絡員等の配置、事前説明会等の準備を早期に進める必要がある。

③ 不測の事態への的確な対応

インフルエンザ罹患者、配慮者、別室受験者等への対応や災害対策について、マニュアルの充実など万全を期すように努めたい。

<執筆担当/センター入試委員会 委員長 中島 弘毅>

V. 管理部門

A：大学管理運営

1. 全学協議会

学長、副学長、各学部長・学科長並びに事務局長及び総務課長、学生センター長を構成員とする全学協議会は、最高決定権者である学長の下に設置され、学部横断的課題・事項に関する審議・決定を司る機関である。以下に述べるように、今年度もまた、短期大学部も含めた学部横断的課題・事項について審議・結論を得るとともに、各種報告事項について適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めた。

1) 年度当初の計画 <P>

従来と同様、今年度もまた、当該月に開催された数次の全学運営会議で事前に確認、整理された議題について慎重に審議し決定すること並びに、多岐にわたる報告事項についても適切かつ適確に周知を図るべく努める。とりわけ、本学を取り巻く県内外の諸状況を迅速かつ適確に把握し、本学としての対応に係る指針・方向性を明確にするとともに、関係する部署・担当者などとも連絡・連携を密にして、対応策の立案と推進に主導的役割を果たすべく取り組む。また、年度当初には予想できなかった事態や案件の生起、発生についても、迅速な情報収集・分析と適切な対応、解決に努める。

2) 計画の実施と現状の説明 <D>

本協議会は、年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8月をのぞく毎月一回、定期で計11回開催された。審議事項は、事前に全学運営会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て上程されたものも含め、審議し結論を得て実施に移してきた。また、報告事項についても、事前に全学運営会議において扱われたものに加え、全学委員会等からのものも適宜取り上げ、情報の全学的周知・共有化を図るべく努めた。

今年度、本協議会で取り上げられ審議、承認された主たる事項について、以下、①全学的組織の改廃および学部横断的的人事に関する審議と決定、②学則および各種規程の改正・改定・変更の審議・承認と理事会への上程、③入試に関連する諸事項の検討・決定、④各種申請の調整・支援と遂行、⑤各種連携協定の審議・承認と締結、⑥その他、の6点にまとめ概述する。

① 全学的組織の改廃および学部横断的的人事に関する審議と決定

- ・FD・SD推進部会の設置
- ・全学委員会委員の選出・確定とその後の変更への対応
- ・地域連携推進委員会および地域連携課の設置
- ・インターンシップ推進委員会の設置
- ・公務員試験対策講座運営委員会の設置
- ・上野教授並びに眞次准教授の総合経営学部から人間健康学部への移籍
- ・総経・人間教職センター専門員の補充人事
- ・教育学部教職センター専門員の補充人事
- ・女子ソフトボール部指導者の採用人事

② 学則および各種規程の改正・改定・変更の審議・承認と理事会への上程

- ・「松本大学学則」の変更
- ・「松本大学松商短期大学部学則」の変更
- ・「松本大学履修規程」の改正

- ・「松本大学松商短期大学部履修規程」の改正
- ・「松本大学教職課程履修規程」の制定
- ・「松本大学文献複写規程」の改正
- ・「ノート型パソコン等学生貸し出し内規」の制定
- ・「松本大学特待生規程」の改正
- ・「松本大学松商短期大学部特待生規程」の改正
- ・「松本大学個人情報保護規程」の改正
- ・「松本大学私費外国人留学生授業料減免規程」の改正

③ 入試に関連する諸事項の検討・決定

- ・離島出身合格者に対する入学金免除制度の制定
- ・「入学金免除規程」の一部改正
- ・2019年度入試日程の確定

④ 各種申請の調整・支援と遂行

- ・私立大学等改革総合支援事業のタイプ1対応（アセスメント・ポリシーの作成／SDの実施／教育サポート・スタッフの研修）
- ・松本大学・松本大学松商短期大学部アセスメント・ポリシーの制定
- ・2022年度認証評価受審に向けた対応策（内部質保証室の設置／議事録の書式統一／成績「S」評価の基準設定／企業向けアンケート等の実施／学友会役員との定期懇談会の実施）

⑤ 各種連携協定の審議・承認と締結

- ・各種協定の締結・調印（松本商工会議所／上越教育大学／エア・ウォーター株式会社／株式会社村瀬組／美津濃株式会社／男子バレーボールVC.長野トライデンツ／安曇野市）
- ・松本市との包括協定締結
- ・台湾義守大学との教員交流に関する「覚書」締結
- ・オーストラリアン・カソリック大学（ACUメルボルン校）とのMOU締結

⑥ その他

- ・大学院設置準備
- ・「教育実践改善賞」の制定
- ・本学における学会等の開催（施設貸出）（第18回日本スポーツとジェンダー学会／日本生物教育会／信州公衆衛生学会「2020年度学術総会」／第65回日本宇宙航空環境医学会大会／日本特別ニーズ学会）
- ・第2次中期目標・計画の冊子化
- ・一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）への加盟
- ・消費税率引き上げへの対応

3) 点検・評価の結果 <C>

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まない。とはいえ、既述のように、学則および各種規程の改正・改定・変更の審議・承認と理事会への上程など、学部横断的な事項については適宜、適切に対応してきたと判断している。くわえて、地域連携推進委員会および地域連携課の設置、インターンシップ推進委員会の設置、公務員試験対策講座運営委員会の設置など全学的組織の改廃および学部横断的人事に関

する審議と決定についても、なし得る最善の解決策を提示し切迫した日程の中で集中的に取り組み審議、承認へと導くことができた。

以上のように、全学的かつ重要な課題に対して、全体状況を把握、検討した上で、適切な解決策や方向性を提示し実施に移すことができたと判断する。

4) 次年度に向けた課題 <A>

次年度は、昨年度策定した「第2次中期目標・計画」の2年目であり、「平成30(2018)年度事業計画」にすでに盛り込まれている具体的な諸課題の遂行に全力を傾注すべき1年となる。とりわけ、2022年度に受審を予定している認証評価に向けた対応策の策定と実施は必須事項であり、これを関係部署と連携して遅滞なく遂行することが最優先課題となろう。また、この間検討してきた3つの大学院設置についても、具体化に向けて取り組みを加速せねばならない。さらに、今年度の入試状況について分析を深め、各種入学試験の定員管理の厳格化及び適切化を図ること並びに、来年度からの新入試の実施に向けても主導的に取り組まねばならない。そのほか、次年度取り組むべき課題として、①IR関連データに関する情報の周知を図りその活用の促進に努めるなどIR推進体制の実質化、②ブランディング事業に対する助成打ち切りを念頭に収益事業の具体化の検討などもまた、継続的に議論し結論を得るべく取り組む課題である。そのためにも、各方面に情報を求め把握に努め、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関として主導性を発揮していく。

また、報告事項については、不要不急のものは資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく努める。

<執筆担当/副学長・人間健康学部長 等々力 賢治>

2. 自己点検・評価委員会

要をなす「自己点検・評価委員会」の下には、「認証評価準備部会」と「コンプライアンス推進部会」が置かれている。教員側では学長、副学長、各学部長、研究科長の全学運営会議メンバーで構成され、後に述べるIR委員会やFD・SD委員会も同じメンバーであった(但しFD・SD委員会にはFD・SD実施部会長も委員に入っている)。職員側では、事務局長、総務、管理、教務、会計の各課長と上條、赤羽(紀)、柄山の3氏が入っている。但し職員側ではIRやFD・SDは構成メンバーは異なっている。

大学、短大とも外部評価を実施しており、第三者の目で見えた松本大学や短大部を認識することで、新たな改善の方向を探ることも可能になるであろう。

1) 年度当初の事業計画 <P>

本委員会では、今年度も2018年度(2018.4~2019.3)の活動を記録し、点検評価するための「アニュアル・レポート」「学生版アニュアル・レポート」「自己点検・評価報告書」の3つの文書を、2019年度の運営に活かすために、できれば2019年の夏休み前の早い時期に完成させることが目標であった。特に「アニュアル・レポート」は全教員及び各委員会の活動が記録されるため、職員を含めて執筆担当者が多い。しかしこれは各種アンケートに応えるための拠り所にもなるため、迅速な発行が常に期待されている。この意味では本学の組織力が試されていることにもなる。また2つの部会が機能するように監督することも当委員会の任務になっている。

外部評価委員会（大学）や助言委員会（短大部）における、委員会メンバーからの意見を受け止めながら、自己点検・評価に資する施策を探りたい。

2) 2018 年度事業計画の実施状況 <D>

3つの文書の内、「2018 年度アニュアル・レポート」は 2019.10 に、昨年より 1 ヶ月早く発行できた。「自己点検・評価報告書」はこの文書であり、昨年より逆に 1 ヶ月半遅れたが発刊することができた。まだ「学生版アニュアルレポート」が編集途中にあるが、昨年が 1 月末であったので、それには遅れない程度には発行できる予定である。

3) 2018 年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

2019 年度は、大学院設置の準備、大学改革支援事業への対応など、多くの課題を抱えながらの大学運営であったことも遅れの原因の一つであるが、あまり良い言い訳ではない。常に動いているのが大学であり、絶えず改革や改善が求められるのは、文部科学省の方針への対応と言うこともあるにはあるが、時代の変化への機敏な対応が高校生やその保護者、経済界などの各種ステークホルダーからも要求されていることが背景にある。こうした認識も必要である。

外部評価委員からは率直な指摘をいただいているので、誉めていただいている点はさらに伸ばす必要があるが、足りない部分については必要な対応を考える事が肝要である。

4) 次年度に向けて<A>

この3つの報告書を見れば、本学の現在の姿、これからの方向性など、全容を掴むことができる。この意味では全ての教職員にとってこの自己点検・評価報告書は必読の文書であるはずだ。そうした文書が時機を失して発行されているのは大変にもったいないことである。次年度も相変わらず、3文書の早期発行を基本指針として掲げるべきであろう。このことが3回目の認証評価の確かな準備につながるであろう。

次回の認証評価に向けて、内部室保証室のような組織を構成し、一元的な管理の下ガバナンス体制の強化を計る必要がある。

<執筆担当/自己点検・評価委員会 委員長 住吉 廣行>

(1) 認証評価準備部会

1) 年度当初の事業計画 <P>

今年度もこの部会は「自己点検・評価委員会」の下に置かれ、教員側委員も自己点検・評価委員が兼務することになった。しかし、他大学の認証評価を担当する委員が、大学からの推薦で基準協会において実務に携わっているため、準備するのに必要な情報をSD研修会を開くなど、積極的に求める。さらに、大学等改革支援事業の質問内容を分析し、認証評価に向けて準備すべき重要な内容を推し量る。

2) 2018 年度事業計画の実施状況 <D>

基準協会の評価委員を招き状況を聞き取り、全学が共通の理解を持つことを目的として、SD研修会を開催し、評価委員には研修会の講師も依頼した。

3) 点検・評価の結果 <C>

基準協会の評価委員としての活動が優れているためか、聞き取りやSD研修会などで貴重な成果

を得ることができた。準備に万全という状況まではまだ達していないが、着々と準備を進めることができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2020年度の大学運営及び諸活動に対する自己点検・評価に基づいて、2021年の秋に3度目の認証評価を、大学、短期大学部が同じ機関で受審することになる。これに向けて、各年度細かな点にも注意を払って、必要ならば改善・改革に取り組む必要がある。

<執筆担当/認証評価準備部会長 住吉 廣行>

(2) コンプライアンス推進部会

1) 組織の概要 <P>

学校法人松商学園コンプライアンス推進規程に基づき、大学内にコンプライアンス推進部会を設置している。部会長は学長であり、委員として研究科長、学部長、事務局長、総務課長、管理課長が配置されている。年度初めの合同教授会、定例教授会、職員会議等を通じて全学的にコンプライアンス精神の醸成と啓発に努めていく。

また、研究倫理委員会の主導により、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の遵守の徹底について継続的に取り組む。

2) 取組みの実施 <D>

4月2日開催の合同教授会において、議題として「コンプライアンスについて」を挙げ、全員に「学校法人コンプライアンス推進規程」と「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を再配付し学長から説明がなされ、全学的にコンプライアンスについての依頼をした。

また、管理棟(4号館)の教職員の通路、事務局長室入口に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を掲示している。

研究倫理に関しては、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」も配付し、全教員から署名入りの確認書を提出してもらった。

また、過去1年間に研究倫理に関する研修を受講していない教員については、日本学術振興会監修によるe-learningによる研究公正に関する研修を義務付け実施した。なお、1年前の平成29年8月4日に実施した、久留米大学児島将康教授による科研費の採択に向けた研究倫理の重要性についての研修には、教職員64名(学外7名)が参加している。

3) 点検・評価の結果 <C>

これまでの継続的な取組により、コンプライアンスに対する意識は全学的に高まっており、コンプライアンスに関するトラブルは発生していない。また、事務局の出納業務や研究費の使途等については、内部監査室による日常的な伝票の精査と定期的な科研費に関する監査を経ており、適正な処理がなされている。

4) 今後の課題 <A>

今後もコンプライアンス意識の啓発に対する取組を継続的に進め、常に個々の意識レベルの向上とその維持に努めることが大切である。これまでの取組を継続しつつ、観点を変えた講習会、研修会の開催についても積極的に検討していく。

<執筆担当/コンプライアンス推進部会 柴田 幸一>

3. IR委員会

1) 年度当初の事業計画 <P>

本学のIRに取り組む姿勢は一貫している。「誰かがそれぞれの持ち場で問題意識を感じ、それを理解することが問題解決への糸口になるのではないか」という思いが根底にはある。つまり Research を行うための課題意識を Institute 内で持つことができるかどうかのポイントとなる。本学の過去の例を見ても、闇雲にデータを眺めているのではなく、問題意識を持って、データを分析しており、それが成果に結びついてきている。

この方針で今年度も取り組みたいが、現在学生募集や募集のカテゴリーと入学後の学業成績との関係など、興味を持つ入試広報担当者が多い。教務委員会の職員と組まなければ分析は進まないと思われるが、当委員会はこのようなマッチングを行うことをテーマに活動を行いたい。

2) 2018年度事業計画の実施状況 <D>

個々の学部や学科で、それぞれに入試結果と高校での学業成績との関係が分析された。そうした解析結果は、入試判定や入学予測などには利用されている。

個々の職員が手持ちのデータを駆使して、学生の動向と今後の注意事項等を纏め、SD研修会などで報告する場合もあった。

3) 2018年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

管理職や委員会担当者の限定された枠内での認識に止まっていたり、定性的な把握の場合も多く、全教員・職員が納得できる形にまで昇華するための手立てが必要であろう。

また、大学に入ってからからの学業成績との相関については、資格試験などがある学科を除いては進まなかった。これは教務とのマッチングが上手く機能していないことの表れでもある。

個々の教員や職員が独自にデータを解析している場合もあるが、これらもIRに相応しく、学術的な文書(必ずしも論文ではなくレポートの形式でも可能だが)として残し、間違っただ指摘の部分が無いかも含めて、全学が共通して認識できるようにしておく必要があるだろう。

4) 次年度に向けて <A>

リサーチすべきテーマを広く募集し、当委員会の認可を受けて、組織的にIR活動が実施できる体制を整えるべきであろう。

過去にあったように、できれば論文というスタイルを採りながら、研究成果を全大学構成員の共通認識とするだけでなく、具体的な改善・改革へとつなげていきたい。

<執筆担当/IR委員会 委員長 住吉 廣行>

4. FD・SD委員会

1) 年度当初の計画 <P>

大学全体で認識を共有すべき事項を把握し、必要に応じてSD研修会あるいはFD研修会を企画する。3回目の認証評価に向けて、「学修成果の可視化」への対応として何が必要になるのかを探り、何か成果が得られた場合は全学協議会や教授会だけではなく、職員にも徹底するためSD研修会でも披露する。SDやFDを合わせて、年間で6回以上の研修会を催したい。

ルーチンとなっている「学生による授業評価アンケート」「学生行動調査アンケート」さらには「卒業生アンケート」などは、もっぱらFD・SD実施部会に任せた。こうしたアンケートに対して修正

すべき点などがある場合には、委員に入っている実施部会長が指摘し、改善策などを協議する。

2) 実施した活動の概要 <D>

実施したSD研修会やFD研修会は下表の通りである。テーマに沿った最適な人材を得て、目標とした回数以上の研修会を開くことができた。こうした実績が積み上がっただけでなく、その内容が全て大学の今後の発展に向け、新たに必要とあるであろう考えられる取組など、重要なポイントや指摘を含んでいただけに、大学としての認識の深まりという点でも進展があった。開催日からは、授業のない期間が多く入っており、寸暇を惜しんで実施されていることがわかる。SDは教職員を対象としているが、FDは主に教員を対象としている。

表. 2018年度に実施したSDやFD研修会一覧 *担当者が外部講師

実施日	種類	テーマ	講師名	参加者
2018. 6.28	SD	経常費補助金について		34
2018. 7.26	SD	情報セキュリティ・アセスメントポリシー・大学機関別認証評価について		42
2018. 9. 4	SD	わが国における高等教育のグローバル化	佐藤・大六野	69
2018. 9.11	SD	私立大学等改革総合支援事業について	柴田	78
2018. 9.12	FD	3ポリシーとアセスメントポリシーの理解		43
2018. 9.19	FD	同上	〃	59
2018.10. 6	FD	欧州の教育改革と日本	*深沢・関沢・ 本多	23
2018.10.31	SD	認証評価に向け、受信のポイント、重要な変更点などの確認	上野	87
2018.12. 4	SD	学生募集に関する高校の進路指導状況について	小松・藤原・ 丸山	86
2018.12. 5	FD	2019年度シラバス作成について		98
2019. 3. 7	SD	高大接続改革の現状と課題	*大杉・竹内・ 大達・坂本	60

また実施委員会からは、「現在一部の授業科目についてのみ、授業評価アンケートを実施しているが、これを全ての科目に拡張すべきか」という問い掛けについて、議論が行われたが、継続審議になっている。

3) 点検・評価の結果 <C>

授業がない休暇中を中心に、11回のSDまたはFD研修会を実施することができた。内3回はテーマにフィットした学外の講師を招いての研修会となった。他の8回は、そのテーマを担当できる本学の教員または職員が講師となって実施できた。このことによって、教職員共に、現代的话题の現状とそこに潜む課題を認識することができ、意思統一の場を提供できたと思われる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

3度目の認証評価に向け、「大学運営に関するガバナンス」「教育面での学修成果の可視化」など、目に見える形での成果をあげるように、今年度以上のFD・SDの活動を強化する。短期大学部では

A Pの成果を挙げることが、これに対応しているので外部評価委員の見解も重視し、大学運営の参考にしたい。

(1) F D・S D実施部会

1) 年度当初の事業計画 <P>

ルーチンとなっている「授業評価アンケート」「学生行動調査アンケート」「卒業生アンケート」などを適切に実施し、集計する。こうしたアンケートに対して修正すべき点などがある場合には、部会長を通じ「自己点検・評価委員会」へ協議事項として提起する。

2) 2018年度事業計画の実施状況 <D>

2018年度の前後期と各学期の中間時期に計4回、短期大学部にあつては4学期と各学期の中間時期に計8回のアンケート調査を実施できた。そして期末のアンケート調査結果は「わかりやすい授業をめざして」として纏められ、学生も図書館で閲覧できるようになっている。

3) 点検・評価の結果 <C>

中間アンケートはその結果を直ちに科目担当教員に返却することによって、学期の後半においてある程度の授業改善へと導くことができると考えているために実施している。しかし、それが実現できているかどうかは、期末のアンケートでの質問項目への回答から判断できる。

本学の場合、学生層が広がっている割には、多くの授業で高い評価が得られているのは軌跡とも言える。各教員が工夫を重ねていることからきているのであれば、大いに評価できるが、もう少し慎重な分析も必要であろう。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

全授業科目で実施できるかどうか、コンピュータシステムの開発費用と現状の処理の仕方での嵩む費用を天秤に掛けて判断する必要もある。

学生自身が、授業外学修時間が少ないと感じているという結果は、本学においては恒常的に見られている。能動性に欠けがちな現代の学生が、例えば担当教員に言われなくても実施できているどのような内容を、授業外学修時間と見なしているかも調べる必要があるようだ。なぜならば、本学の学生は社会人基礎力や専門的な学びでも、自学自修が出来ていなければ達成できないような域にまで達していると感じられる。このことから、学生自身が認識していない自修活動もかなりあるのではないかと思うからである。

(2) 教育企画推進部会

1) 年度当初の事業計画 <P>

各学部または学科のディプロマ或いはカリキュラムポリシーを実現するために、こうした内容を実施する必要があると判断した場合には、学部や学科の総意として委員会に提案し、認められれば財政的支援も付けて、推進しようとするために設けられた部会である。3ポリシーの実現に関係するため、F D・S D委員会の下に置かれている。

2) 2018年度事業計画の実施状況<D>

今年度は次表に示されたような企画が認められている。

表. 2018年度に提案された教育企画一覧

学部・学科名	申請内容	責任者
総合経営学部	防災士の育成	増尾
総合経営学科	Eラーニングシステム	室谷
	まつもと広域ものづくりフェアなどでのキッズプログラミング教室の開催	室谷
観光 ホスピタリティ学科	生活と観光が結びつく新たなツーリズムの検討	白戸
	「福祉」と「観光」の融合：アクセシブル・ツーリズムの促進事業	尻無浜
	国内旅行取扱・社会福祉士の資格取得強化の取り組み	尻無浜
	教育農場及びひまわり畑、学習田での農作を中心とした地域活動と学習	中澤
健康栄養学科	管理栄養士国家試験受験支援	山田
	一日限りのレストラン	成瀬・水野
	健康栄養学科3年生授業関連企画「おいでよ♪松大健康教室」の開催	廣田
スポーツ健康学科	大学入門ゼミナールでの学習手法の習得と学習時間の獲得	田邊
	体づくり運動実技指導講習	岩間
	スポーツ・レクリエーション（スポ・レク）指導者養成講座の開設と、アウトキャンパス等でのスポ・レク事業の展開	犬飼
学校教育学科	留学への動機を高めるための国内英語留学体験 —British Hills 訪問—	和田
	バラスポーツ普及・推進事業	小林敏
短期大学部	オリジナルテキスト作成	山添

16件の提案内容には、過去からの継続している場合もあれば、新規に申請されている場合もあった。

3) 点検・評価の結果<C>

申請された内容の中には、何年も引き続いている場合も見受けられる。重要度にも依るが、どこかではじめを付けることも必要な場合もある。新規の申請では、どのような成果があったかをきちんと評価しておく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

リサーチすべきテーマを広く募集し、当委員会の認可を受けて、組織的にIR活動が実施できる体制を整えるべきであろう。

過去にあったように、できれば論文というスタイルを採りながら、研究成果を全大学構成員の共通認識とするだけでなく、具体的な改善・改革へとつなげていきたい。

<執筆担当/FD・SD委員会 委員長 住吉 廣行>

5. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ① 心肺蘇生法の普及
 - ② 健康教育の充実
- を掲げ、取り組んできた。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、学科会議での説明、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。また必要に応じ、継続的に医療機関を受診している学生に関しては、主治医との面談も実施した。
- ・週2回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・学生定期健康診断を実施した。受診率は高い水準を維持している。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また地域健康支援ステーションの協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・オープンキャンパス、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。
- ・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

② 学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、地域づくり考房『ゆめ』、からの依頼に基づき、「禁煙について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」「熱中症の対応について」「こどもに多いケガへの対応」に関する健康教育および資料の提供を実施した。

③ 心肺蘇生法の普及

- ・総合経営学部両学科、学校教育学科、地域づくり考房『ゆめ』からの依頼に基づき、AEDの使用方法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

④ 感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）・重点部（陸上部）の学生と、に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、感染症発生時の出席停止期間を決定し、学生への周知を図った。
- ・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚

接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。

- ・麻疹感染疑いの報告があったため、教職員に対し、万一感染が確認された場合の注意事項について周知を行った。

⑤ 安全な学習環境の整備

食物アレルギー・食物依存性運動誘発アレルギー・蜂アレルギーのため、エピペン®を携帯している学生の入学に伴い、教職員を対象としてアナフィラキシーショック発生時の対応について講習会を実施した。

⑥ 外部相談機関との連携

㈱ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

⑦ 長野県大学保健管理担当者会議の発足

昨年度より長野県内の大学保健管理を担当する職員に個別に連絡し、情報共有、知識・技術の向上、県内での連携を目的とした担当者会議を実施している。

今年度からは、県内短期大学および高等専門学校の担当者の参加も呼びかけて実施している。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師(外部委託保健師を含む)の事後指導を実施している。精密検査等についてはその際に指導がされているが、そのまま放置する学生もおり、引き続き綿密なフォローを実施していきたい。

また学生のメンタルヘルスについては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。学生の来談経緯について、32%は自発的に希望し、68%はゼミ担当教員・親・健康安全センター保健師の勧奨により来室している。今年度は教職員の勧めで来室したケースが例年と比較すると多い傾向にある。複数回来談する学生は42%、1回のみ来談は48%であった。相談内容は、友人関係や親子関係、生活上の問題(発達のアンバランスによる影響)、喪失体験による心的反応、疾患による精神的不安、学習課題や進路などさまざまであった。

26%の学生はすでに専門機関への通院をしており、21%の学生は通院していたものの自己判断にて治療を中断していたため再度の受診を勧奨した。

教職員の相談件数も少しずつ増加している。

② 学生への健康教育

禁煙・創傷ケア・感染症などについて健康教育を実施している。知識としては得られても、実際の行動にうつすことが難しい傾向にある。

③ 心肺蘇生法の普及

総合経営学部(総合経営学科・観光ホスピタリティ学科)、学校教育学科1年生全員、考房『ゆめ』メンバーを対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

④ 感染症発生への対応

インフルエンザについては、学生から106名の感染報告があった。体調不良があるにも関わらず登校し、学科内での感染を拡大させている事例もあった。

⑤ 安全な学習環境の整備

今年度も新たにアレルギーを持つ学生が入学し、アドレナリン自己注射薬を携帯している学生も

増加している。アナフィラキシーショックに対しては、一刻も早い処置が必要であるため、学生が所属している学科だけでなく、全教職員がエピペン®の使用方法を理解しているよう講習を継続実施していく。

⑥ 外部相談機関との連携

㈱ティーパックと連携している電話相談サービスの利用者は、月平均5～6名にとどまっている。サービスの周知方法について、現在リーフレットの配布としているが、その他の方法についても検討していく。

⑦ 長野県大学保健担当者会議の組織化

学生支援については、本学だけではなく、他大学とも事例検討等を通して理解を深めていく必要がある。また県内には一人で勤務している大学も多く、大学保健全体の知識・技術向上の観点からも、県内担当者会議の組織化を図っていく。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様、学生それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

① 心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。2年生以上の学年での実施も検討していく。また教職員向けの講習も実施していく。

② 健康教育の充実

学生が利用しやすいよう、健康手帖のウェブ化を図る。

③ 長野県大学保健担当者会議の組織化

全国大学保健管理研究集会での検討事項やシンポジウムの内容などを、研究集会に参加できない大学担当者とも共有し、県内の大学保健のレベルアップを目指す。

また健康診断や健康教育・学生対応などについて情報共有を図り、本学学生への対応がよりの確に実施できるようにする。

会議の際だけではなく、日常から情報交換が活発にできるようメーリングリストの活用を含め、全県で検討をしていく。

<執筆担当/健康安全センター運営委員会 委員長 江原 孝史>

6. 衛生委員会

心身の健康の維持増進および安全な就労環境の整備を目的として平成28年度に衛生委員会を発足、今年度は2年目の活動を行った。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ① 教職員の健康管理体制の充実
 - ② 教職員ストレスチェック体制の整備
 - ③ その他
- を掲げ、取り組む。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を実施した。人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、さらに結果に応じて保健師が保健指導を実施した。
- ・教職員の健康状況に応じて、医療機関と連携し、職務内容について検討を行った。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

② 感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。また接種料金の補助を実施し、できるだけ多くの教職員が接種できるようにした。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出勤停止期間を決定し、教職員への周知を図った。
- ・インフルエンザの感染拡大が予想される状況に対し、抗インフルエンザ薬の予防内服を実施するようコーディネートを実施した。

③ 外部相談機関との連携

㈱ティーペック社と提携し、教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

④ ストレスチェックの実施

教職員のメンタルヘルス向上を目的として、産業医・保健師を実施者とし、ストレスチェックを実施した。結果を元に、教職員それぞれのストレスリスク分析および部署ごと・学科ごとなどの集団分析を実施した。

高ストレス者に対しては、産業医面談の勧奨を行い、医師面談は不要とした教職員に対しては、保健師よりメンタルヘルス向上のためのシステムを紹介し、面談を実施した。

⑤ その他

職場環境（温度や湿度調節、倒壊の可能性を減らす震災時の対応等）の改善。衛生管理者の配置、資格取得を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診率は100%には至っていない。複数年を受診できていない教職員もいるため、労働者の義務として必須であることについて改めて理解を求めていくことが必要である。また、健康診断を受けていても、必要と診断された精密検査や治療を放置するケースもあり、継続的な支援についても検討が必要である。

さらに、健康診断の機会を利用して、健康の維持だけでなく増進にもつなげていけるような働きかけが必要である。

② ストレスチェックの実施

実施3年目であり、大きな混乱なく実施できた。受診率もさらに高くなり、昨年度とのスコアの変化でメンタルヘルスのセルフチェックができるようになった。一方、集団分析ができる部署が人数の関係で限られており、個人の結果のみでの評価となっている。組織全体として取り組んでいくためには、集団分析の結果を元に問題点を明確にし、改善方法を検討していくことが必要である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 教職員の健康管理体制の充実

教職員健康診断の受診率向上について、引き続き個別の受診勧奨に加え、所属長とも連携し組織的な対応ができるよう検討する。また精密検査等の事後指導についてもきめ細かくフォローしていく。

労働安全衛生法で規定された職場での受動喫煙の防止について、喫煙者への禁煙指導について検討する。

人間ドック利用補助金の減額等もあり、学内で実施する健康診断の項目を充実させること、また現在X線検査で実施している胃がん検診についても、内視鏡検査で対応できるよう検討する。

② ストレスチェックの実施

今年度に引き続き、ストレスチェックを実施する。ストレスチェック実施後のフォロー体制について、集団分析のフィードバック方法について検討していく。

<執筆担当/衛生委員会 委員長 柴田 幸一>

7. 人権委員会

(1) ハラスメント防止部会

本学におけるハラスメント防止に対する取り組みは、WEBサイトに掲載されているとおりである。

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/introduction/contact/harassment/>

1) 年度当初の計画 <P>

以下のような事柄で不快な思いをした際には、相談者（学生）は、相談窓口の相談員に相談することが可能である。

① セクシュアル・ハラスメント

相手を不快にさせる性的な言動をいいます。相手の意に反して相手の望まない性的な言動を行い、相手に修学又は就労上の不利益を与えること、また、そのような言動により修学又は就労上の環境を悪化させることをいいます。

② アカデミック・ハラスメント

研究・教育の場において、優越的な立場にある人が、その立場を利用して逆らえない立場にいる人に対して客観的に見て正当性のない嫌がらせを行うことをいいます。

③ パワー・ハラスメント

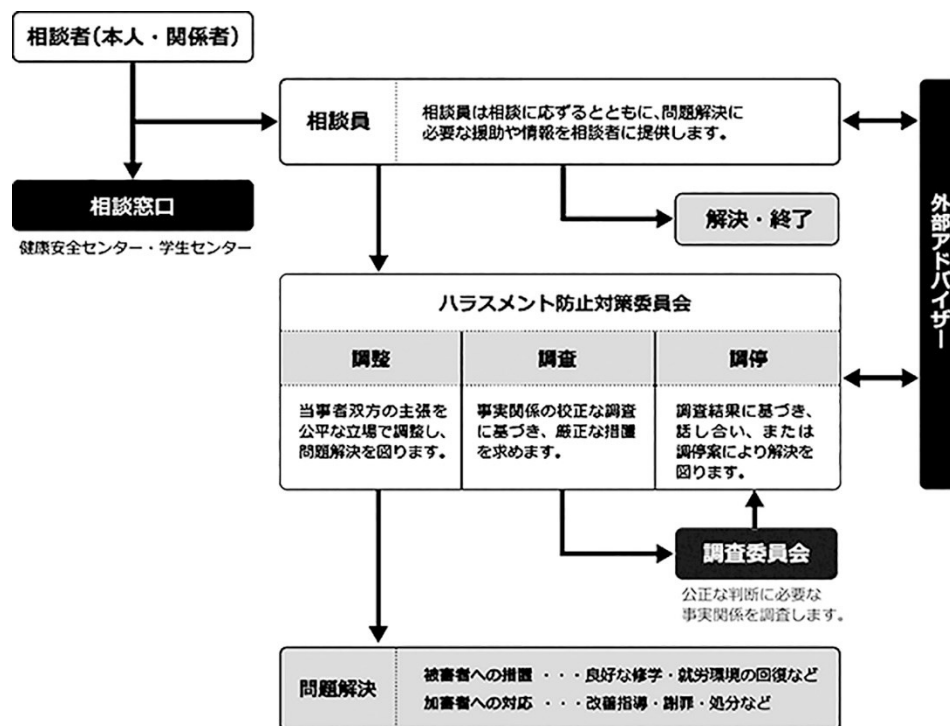
職務上優越的な地位にある人が、その地位を利用して逆らえない立場にいる人に対して、客観的に見て正当性のない嫌がらせを行うことをいいます。

具体的なシステムとして、相談者本人から相談窓口に通話もしくは、メールにて、相談者の秘密が守られる状態で相談することが可能である。相談に対応するスタッフは、健康安全センター、学生センターである（図参照）。

そして、相談者が不利にならないよう、以下のようなポリシーで委員会は運営されている。

・ハラスメント防止対策委員会では、ハラスメントの被害があった場合の申し立てに、責任を持って対処する。

- ・どの解決策手続きを選択するかは相談者の希望が尊重される。
- ・相談者の秘密は守られる。



(以上、松本大学 WEB からの引用)

2) 現状の説明 <D>

ハラスメント防止対策委員会では、相談員から連絡があった際に、対策委員会を開催することになっている。

2018 年度、相談員からハラスメント防止対策委員会へのハラスメントの連絡は、ゼロ件であった。また、防止対策委員会開催の要請もなかった。

従って、2018 年度のハラスメント防止対策委員会は、開催されなかった。

3) 点検評価の結果 <C>

学生からのハラスメント相談が 1 件もなく、ハラスメント防止対策委員会が一度も開催されなかったため、上記のシステムが実際に機能するのか、という点については、検証できていない。

4) 次年度への改善改革に向けた方策 <A>

ハラスメント相談が 1 件もなかったという点では、教員による学生へのハラスメントが本学では起こっていないと解釈できる。

しかしながら、

- ・窓口相談するか迷う程度のハラスメント（潜在的ハラスメント）の懸念
 - ・ハラスメント窓口の存在を知らない（思い出せない）で泣き寝入りしている可能性
- は、大学生を預かっている側としては、常に念頭に置かねばならない。

従って、ハラスメントとは、なにか？ということ定期的に学生に周知させる機会をつくり、些細な事柄でも相談できるよう、開けた窓口を心がけていくことを運営の方針とすることを、後任者に期待したい。

(2) 個人情報保護推進部会

1) 年度当初の計画 <P>

本学個人情報保護方針（プライバシーポリシー）は、web サイト上で公開されており、いつでも誰もが閲覧できるようになっている。

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/privacy/>

また、個人情報管理に関する意見や相談も、問い合わせ窓口を開いており、電話、メールにてアクセスすることができる。

他大学の例と比較しても、個人情報の安全管理、情報保護のポリシーは遜色ないレベルとなっている。

<個人情報保護方針>

松本大学及び松本大学松商短期大学部は、皆様の個人情報の保護を教育機関の責務として最も重要な課題と認識し、個人情報を以下に記載するように取り扱います。松本大学及び松本大学松商短期大学部のウェブサイトは、学校法人松商学園(以下法人といいます)が運営しています。本ウェブサイトを利用する際は、以下のプライバシーポリシーをご覧ください、利用した方は、このプライバシーポリシーに同意したものとみなします。また、本ウェブサイトアクセスした利用者の個人情報について、以下に記載するように合理的な範囲で必要な措置をとります。

1. 法令等の遵守

法人は、皆様の個人情報を取り扱うにあたり、個人情報保護に関する関係法令及び学内規程を遵守します。

2. 個人情報の提供と利用について

法人は、より良いサービスの提供のために、本ウェブサイトアクセスした方から、必要な範囲で個人情報を収集することがあります。

法人は、本ウェブサイトアクセスした皆様に、法人の情報を提供したり、本ウェブサイトを通じてメッセージを送信するといったサービス、資料の郵送等を目的として、利用者の名前・住所・電話番号またはEメールアドレスの提供を求めることがあります。

法人では、サービス向上と教育機関としての責務から個人情報を統計的に集計・分析し、法人の統計情報として、個人を識別できない状態に加工・保管することがあります。

利用者の皆様が個人情報を提供した場合、法人から郵送等で法人の情報をお届けする場合がありますが、そのような情報配信を希望しない場合、法人に連絡をいただければ、情報配信を停止します。

3. 個人情報の適正な取得について

法人は、皆様の個人情報を、偽りその他不正の手段で取得することは一切ありません。

4. 個人情報の第三者への開示について

皆様からご提供いただいた個人情報は、個人情報の収集目的遂行のために委託先に開示する場合を除き、第三者には提供いたしません。また、委託先についても、契約による義務付け等の合理的な方法により、漏えいの防止策などを図り適切な監督を行います。

5. 個人情報の開示・訂正・削除請求について

法人は、皆様ご自身の個人情報について、本人から開示の申し出があった場合、合理的な範囲内

で速やかに開示します。但し、他の第三者の権利を侵害する場合、または法人の業務遂行に著しく支障をきたすと法人が判断した場合は、この限りではありません。

また、本人から訂正・削除についてのお申し出があった場合も同様といたします。

6. 個人情報の管理について

皆様から提供された個人情報については、法人は統括責任者及び個人情報保護管理者を置き、適切な管理を行います。

法人は、個人情報を教職員に取り扱わせるに当たり、個人情報の安全管理が図られるように継続的な教育を行います。本学の「個人情報の保護」についての基本的な考えは、上記における取り組みを適宜見直し、予告なしに変更することもありますので、最新の内容をご確認いただきますようお願い申し上げます。

(以上、松本大学 WEB からの引用)

2) 現状の説明 <D>

人権委員会個人情報保護部会では、個人情報に関する、学生や保護者、一般市民からの問い合わせに随時対応するシステムとなっている。

また、社会情勢や法制度が変更された場合には、それらに適合できるよう、部会を招集して適宜見直していくシステムになっている。

2018 年度には、特別大きな動きはなく部会の開催は、ゼロ件であった。

3) 点検評価の結果 <C>

個人情報保護部会への問い合わせの報告はなく、本学、および本学関係者による、個人情報保護に対する違反はなかったものと考えられる。

4) 次年度への改善改革に向けた方策 <A>

近年、SNS を使ったバイトテロやいじめなどが社会問題化している。軽いいたずらのつもりでインターネットに流した動画や文章によって、特定の個人を傷つけたり、あるいは多くの人達に不快な思いをさせたり、時には経済的な被害を発生させたりしている。

昨年度は、特に大きな問題はなかったと考えられるが、いついかなる状況で、上記のような事案が発生するか、予測は困難である。SNS の使い方に対する教育については、他の委員会との連絡を取り合い補完できる取り組みが重要であろう。

また、大学では多数の学生が集まっているため、学生を対象に研究目的の調査を実施することも多いと考えられるが、その際には、連結不可能匿名化、連結可能匿名化の有無を問わず、倫理審査委員会へ問い合わせることにより、個人情報を扱う際の倫理意識を、研究者には強く持っていただくことも重要である。個人情報保護部会は、研究倫理審査委員会と連絡を取りつつ、個人情報の管理・保護を誤らないような取り組みも重要である。

<執筆担当/人権委員会 委員長 弘田 量二>

B：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1) 取組の概要 <P>

2018年度において、次の施設整備に取り組む。

- ① 9号館建設工事
- ② 9号館備品・消耗品費の整備と運営
- ③ 機械棟ボイラー1・2号機の更新
- ④ 野球場スコアボード入替工事
- ⑤ 電気料金の削減
- ⑥ 社会進出センターの運営体制の整備

2) 計画の実施 <D>

① 9号館建設工事

中期目標・計画に基づき、学生厚生棟のフォレストホールを増築する形で9号館を建設することを計画し、2018年3月に着工した。9号館の1階は学生のコモンルーム、2階は学生レストラン、3階は研究室と事務室で構成することとした。総工費は6億5千万円である。

② 9号館備品・消耗品費

9号館の使用目的に合わせた什器を整備するほか、学生レストランには券売機を導入することとした。また、学生レストランの運営については、シダックスコントラクトフードサービス株式会社に業務委託する形をとることとした。

③ 機械棟ボイラー1・2号機の更新

2002年に松本大学開設時に設置したボイラー5機の老朽化に対応し、2機を入れ替えることとした。

④ 野球場スコアボード入替工事

公式戦のスコア表示に合ったスコアボードに変更することとした。補修を行った。

⑤ 電気料金の削減

電気料金の削減を検討し、電力供給会社を従来の中部電力から関西電力に変更することとした。

⑥ 社会進出センターの運営体制の整備

教育学部の特別支援教育の一環として社会進出センターを開設し、担当者としてパートタイム職員を配置した。農園を活用した特別支援教育と障がい者の雇用支援の体制づくりに着手した。

3) 点検・評価 <C>

① 9号館建設工事

9号館建設工事は予定通り順調に進行し、2019年2月4日に竣工式を行い、3月末までに什器等の配備と既存のフォレストホール内にイングリッシュ・カフェを設置する工事を終え、2019年4月からの稼働に備えた。

② 9号館備品・消耗品費

9号館では、1階のコモンルーム100席、2階の学生レストランはフォレストホールと合わせて300席を確保することができた。これにより学生が余裕をもって昼食をとることができる環境が整った。学生レストランの食器類の整備に際しては、松本大学後援会の支援を受けた。

③ 機械棟ボイラー1・2号機の更新

開学当初からボイラーは5機を備えており、その内の1機を予備機と扱っていたため、全体を4機体制で対応することが合理的であると判断し、老朽化が進んでいた2機を更新することで故障を防ぎながら運転できる環境とした。

④ 野球場スコアボード入替工事

公式戦を行うことができる環境を整備することができた。

⑤ 電気料金の削減

契約電気を900kwhから830kwhに落とすことができたことと、照明の第2期LED化工事により、電気料金は最終的に36,000千円となり、当初予算よりも8,400千円減額させることができた。

⑥ 社会進出センターの運営体制の整備

2018年度においては、「ひまわり畑」の一角に小規模な農園をスタートさせ、養護学校高等部の生徒のインターンシップの受け入れに取り組んだことは、本学の障がい者雇用に対する意識の醸成に繋がった。

4) 今後の課題 <A>

① 9号館建設工事

2019年4月から稼働させている9号館は、学生の厚生施設棟として、学習行動や課外活動等多面的にも有効に活用できるよう努めていく。また、シダックスコントラクトフードサービス株式会社に業務委託した学生レストランの運営については、本学も協力体制をとりながら円滑に運用されるように取り組んでいく。

② 9号館備品・消耗品費

当初の予定通り、学生の厚生面を支援する環境を整備することができた。学生レストランの券売機はSuica対応のものを導入している。今後、学生の要望を聴きながらSuicaのチャージ機も配備し、学生レストランの利用促進と利便性を高めていく必要がある。

③ 機械棟ボイラー1・2号機の更新

ボイラーの効率的な運転を工夫して取り組んでいく。また、短期大学部校舎の暖房設備の改修を計画的に進める。

④ 電気料金の削減

今度は照明LED化の第3期工事（小規模）を計画し、全学的なLED化工事を完了させる。また、電気料金の変動をチェックしながら工夫と節約に努める。

⑤ 野球場スコアボード入替工事

今後は野球場の老朽化したネットの張替えやバックスクリーンの塗装等を随時進めながら良好な環境を維持していく必要がある。

⑥ 社会進出センターの運営体制の整備

2018年末、2019年度の社会進出センターの運営を想定し、8号館1階に総務課付の社会進出センター準備室を設置することとした。また、障がい者1名と支援スタッフ1名を加え、全3名の体制で2019年度の取組を進めることとした。今後、業務を点検し、どのように拡大していくかが次の課題である。

<執筆担当/施設管理センター運営委員会 委員長 柴田 幸一>

2. 危機管理委員会

(1) 環境保全部会

1) 年度当初の計画 <P>

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、もしくは、その活動を支援することを通じて、①学内の環境活動を進め、②高等教育機関として環境配慮の人材育成に努めることを部会の目的とした。

2) 今年度の活動実績 <D>

① について

- ・古紙・段ボール等の資源回収は障がい者就労支援事業所の第2コムハウスと契約して発生量に合わせて回収している。また、エコ・キャップは常時学内で回収する専用の箱を設置している。
- ・学内の行事の際、資源回収、環境保護の観点に留意するように働きかけている。
- ・電気の契約電気を900kwhから830kwhに落とすことができたことと、照明の第2期LED化工事により、電気料金を当初予算よりも減額させることができた。

② について

- ・障がい者就労支援事業所回収前作業として、主に学内のコピー用紙、新聞紙等を中心に、学生による整理作業の協力を呼びかけ実施している。
- ・部会を構成する教員が中心となって省エネ及び環境配慮にかかる情報を全学生へ向けて提供した。

3) 点検・評価の結果 <C>

- ・部会の活動が全学的には十分に共有できないままであった。
- ・学生活動の支援や体制づくりは、教職員一体となって相互に連携をとりながら進めている。さらなる学友会との連携強化を図る。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

今年度は、これまでに取組まれてきた活動を基調とし継続的に進めることとした。改めて、環境学に詳しい教員が部会に携わり指導を仰ぎながら本部会における取組みが展開される方が効果的である。

(2) 防犯・防災対策部会

1) 活動方針 <P>

本部会は、自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施、また学校内の防犯体制整備を目的としている。自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会との関係性の中での取り組み、構築を主眼におきながら計画するものである。

2) 活動内容 <D>

① 防災訓練の実施（7月と11月）※7月においては新村地区との合同訓練

実際発生に近い設定による防災訓練を試みる観点から、新村地区における第一次避難場所（町会公民館）と指定避難場所（松本大学グラウンド）との避難経路の確認と本学学生の役割の検証を3年継続して行った。11月は講座を中心とした地区合同の防災勉強会を行った。

② 防災士養成講座（日本防災士機構）開講

<第1回>8月25日(土)26日(日) <第2回>2月9日(土)10日(日)

防災士資格取得者に対するフォローアップ研修講座 6月30日

③ 防災対策先進地視察 北海道庁危機管理室

6月7日(木)～6月9日(土) 札幌科学大学等訪問

主に防災士のフォローアップ組織運営、研修内容の情報収集

④ 「松本大学及び松本大学松商短期大学部 防火・防災に係る消防計画」精査

3) 点検・評価の結果 <C>

① 防災訓練の実施(7月と11月) 7月においては新村地区との合同訓練

訓練によって地区の期待と学生の対応との違いが明確になった。その改善に繋がる姿勢が学生側には見られるようになった。

② 防災士養成講座(日本防災士機構)開講

認定試験において不合格者がでた。受講者は増加傾向にある。ある自治体は自治体独自の取組みとして養成講座に人材を派遣するなど、団体、会社などへの普及が図れつつある。

また、防災士資格取得者に対するフォローアップ研修を実施できたことにより、今後の取り組みにつなげたい。

③ 防災対策先進地視察 北海道庁危機管理室

北海道の取り組みを参考にしながらその組織化、研修内容等を取り入れることを検討していく。

④ 「松本大学及び松本大学松商短期大学部 防火・防災に係る消防計画」精査

精査によって防火防災の運用を検証している。管理課主導で進められている。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

防災士の養成は、平成30年度から正課内授業で取組みを開始、防災に関わる本学の取組みが地域社会の牽引役になっていくことを目指す。さらなる学生を巻き込んだ災害時の資源となり得る取組みを構築するものである。

<執筆担当/危機管理委員会 委員長 尻無浜 博幸>

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門

1) 事務部門の課題 <P>

(1) 学生数の増加に伴う学生厚生棟9号館の建設

教育学部の設置に伴う学生数が増加に対応するために、2017年度から検討を進めてきた9号館の建設工事に着工し、2019年4月から稼働できるように竣工する。9号館は3階建とし、1階はコモンルーム（100席）、2階は学生レストラン（180席）、3階は研究室（大学院生用を含む）と事務室で構成することとした。

(2) 教育学部AC（アフター・ケア）教員審査

教育学部学校教育学科の設置認可申請に沿った教育を推進するため、所定のAC教員審査に対応し、教員組織の再整備を進める。

(3) COC事業の展開

平成25年の選定された文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC補助金事業）は2017年度をもって終了した。本学の教育の大きな柱である「地域連携教育」と「地域連携活動」を補助金事業終了後も独自の路線で継続していく。

(4) 事務局体制の強化

大学職員の業務は管理部門、教学部門、学生生活支援部門まで非常に多岐に亘っている。現在の職員の年齢構成を考慮し、将来に向けて事務組織を段階的に強化していくため、中堅にあたる専任職員の育成と採用、および新卒者の採用に取り組んでいく。

(5) 財政基盤の強化

財務の健全化維持のために、全学的に入学定員に見合った入学者を確保することで財政基盤を強固なものにして、メリハリのある予算執行に努めていく。特に喫緊の課題は、教育学部学校教育学科の入学定員80人の充足である。また、文部科学省や私学事業団の競争的補助金の獲得に全学を挙げて取り組んでいく。

2) 具体的な取組 <D>

(1) 学生数の増加に伴う学生厚生棟9号館の建設

2018年4月24日の起工式を執り行い着工し、工事は予定通り順調に進行し、2019年2月に本体工事を終え、フォレストホールの改修工事（グローバル・コミュニケーションラウンジの設置）に入り、3月29日に竣工し引き渡しとなった。

(2) 教育学部AC（アフター・ケア）教員審査

2017年度に設置した教育学部学校教育学科の第2次のAC教員審査を平成30年6月に申請し、同8月に適格の判定を得た。

(3) COC事業の展開

地域連携戦略会議の中でこれまでの補助事業の今後のあり方を検討し、定期的な会議の中で次年度に向けた組織体制を検討してきた。また、取組のひとつである「地域防災」については、長野県および県内の関係団体との連携のあり方について検討を進めた。

(4) 事務局体制の強化

学校法人松商学園の事務職員の公募を積極的に進めた。また、障がい者雇用についても検討し、

採用に向けて取り組んだ。転職サイト、ハローワークを活用した採用活動進めた。

また、専任職員と派遣職員、パートタイム職員、専門員のバランスの見直しも同時に進めた。

(5) 財政基盤の強化

すべての学部学科で入学定員に見合った学生数を確保することである。また、このことにより補助金収入も確実なものになると言える。第3期生を迎える教育学部学校教育学科においては、過去2年の学生募集の経験に基づき、AO入試、推薦入試、一般入試、センター試験利用入試の合格ラインの見直しを進めた。他学部においては、受験者の増加傾向の中、定員超過率を試算しながら合格最低点の設定について慎重に対応した。また、私学事業団の特別補助「改革総合支援事業」の申請に向けて積極的に取り組んだ。

3) 取組に対する評価 <C>

(1) 学生数の増加に伴う学生厚生棟9号館の建設

全体の工事計画に基づき、本学、設計担当の教育施設研究所と施工者の戸田・ハシバテクノス・松本土建特定建設工事共同企業体の三者による定期的な現場打合せにより、随時綿密な打ち合わせを重ねることで質の高い建築物となった。

(2) 教育学部AC（アフター・ケア）教員審査

2019年度から新たに着任する教員の授業科目の配置、及び教育学部開設時からの担当科目の変更等を調整しながら当初の設置計画を的確に履行していく。

(3) COC事業の展開

今後のCOC事業を円滑に進めるために、2019年度から事務組織の中に地域連携課を設置することを決定し、事務文書規程の変更手続きを行った。また、2019年度の予算項目に新たに「地域連携事業活動経費」を設定し学内助成金の一環として盛り込むこととした。

(4) 事務局体制の強化

2018年度期中において、専任職員4名（総務課、教務課、キャリアセンター、情報センターに各1名）を採用した。また、契約満了者との交代も含め、6名のパートタイム職員を新たに採用した。さらに、教職センターに嘱託専任職員1名を配置し体制の強化を図った。これまで懸案事項であった障がい者雇用については、2019年4月から障がい者1名を雇用することとし、併せて指導員1名の採用も決定した。

(5) 財政基盤の強化

2019年度学生募集の結果は次の通りであった。教育学部教育学科は80名の入学定員に対し95名の学生を確保することができた。

学部名	学科	学生数（定員）	学部計
総合経営学部	総合経営学科	108名（90名）	203名（170名）1.19倍
	観光ホスピタリティ学科	95名（80名）	
人間健康学部	健康栄養学科	64名（70名）	189名（170名）1.11倍
	スポーツ健康学科	125名（100名）	
教育学部	学校教育学科	95名（80名）	95名（80名）1.18倍
大学学部全体の計		487名（420名）	487名（420名）1.16倍

大学院	健康科学研究科	7名(6名)	7名(6名) 1.17倍
松商短期大学部	商学科	101名(100名)	205名(200名) 1.03倍
	経営情報学科	104名(100名)	

健康栄養学科が入学定員に6名満たない結果となった。受験産業の分析によると、栄養系は全国的に受験者を減らしている実情にあるが、次年度の学生募集に向けて検討を進め、2019年度の早期に対応策を打ち出す方針である。

4) 次年度の展開に向けて <A>

(1) 学生数の増加に伴う学生厚生棟9号館の建設

9号館は2019年4月から予定通り稼働させている。今後は学生の厚生施設棟として、課外活動等にも幅広く有効に活用できるよう努めていく。また、シダックスコントラクトフードサービス株式会社に業務委託した学生レストランの運営については、本学も協力体制をとりながら円滑に運用されるように取り組んでいく。

(2) 教育学部AC(アフター・ケア)教員審査

開設時の教員の人員構成をベースとし、完成年度後の教員組織のあり方について時系列的に捉えながら検討を進め、教員組織の基本方針を固めていく。

(3) COC事業の展開

今後、地域連携課に専属の専任職員を配置していく必要がある。地域連携課の業務について総務課、管理課と兼務体制としている現状を踏まえ、専任職員の増員を検討する。また、COC補助金の配分として取り扱ってきた「地域志向教育研究経費」の再編を過去2年に涉り検討してきた実績を踏まえ、予算付けや予算区分の見直しを更に発展的に進め、より実情にあった形を構築していく。

(4) 事務局体制の強化

2017年度と2018年度において事務局体制の強化に積極的に努めてきた。予定していた2019年4月の新卒者の採用は不調であった。今後の人事異動、職員の育成を思料すると、中堅職員、若手職員に様々な職務を経験してもらうために部署異動をしやすい環境をつくるのが大切である。そのために、全体の人件費と人員構成のバランスを考慮しつつ、専任職員の割合を高めていく必要がある。

(5) 財政基盤の強化

入学定員、収容定員に見合った学生募集こそが財政基盤の強化の根幹であることは言うまでもない。2020年度学生募集においても、各学部・学科とも入学定員に見合った入学者の確保に努める。休学・退学による学費収入の減少が財務状況に与える影響は大きい。これまで以上に休退学の予防に教職協働により取り組んでいく。学費収入に続き、帰属収入の大きなウェイトを占める補助金の内、特に特別補助金の獲得に向けて、迅速に全学的な対応を検討しながら成果に繋げていく。また、現在、教育学部開設3年目を迎え、完成年度まで1年を残すことであるが、文部科学省が提示している「経営指導強化指標」(2018年7月30日付高等教育長通知)に照らし、2019年度決算において、事業活動収支計算書の経常収支差額が収入超過となることを目標とする。

<執筆担当/大学事務局長 柴田 幸一>

II. 総務課・管理課

総務課・管理課の業務は多岐に亘るため、業務遂行には幅広い大学運営に関する知識が必要である。直接的に学生との接点を持たない業務が多いが、機械的に事務処理をするのではなくその背景に学生がいることを常に念頭に置き、幅広い視点をもって業務にあたっている。

総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・各会議の動き、教員の教育研究活動等について正確に理解したうえで個々の立場で考え工夫し、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけたい。

また、加速度的に進む高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境の変化に関心と危機感を持ち、新たな発想により本学の揺るぎない永続性の確立に向けて前進していかなければならない。

1. 総務課（総務・会計）

1) 基本計画 <P>

(1) 日常業務の効率化

- ① 慣例的に行っている業務処理方法を再点検し、処理フロー、様式等簡略化できるものは簡略化する。
- ② サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ③ 書庫・書棚の整理・整頓及び、倉庫の各部署使用配分について再検討を進める。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 各学部教授会、委員会開催に向けた配付資料のペーパーレス化をさらに促進する。
- ② ペーパーレス会議の浸透に伴う電子データの保存と閲覧権限等取扱のルールを整備する。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理

- ① コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ② 修繕工事では、原則として3社以上から見積りを取って交渉材料とし、適正価格を見極めて経費節減にいつそう取り組む。
- ③ 消耗品の節約に今後も継続して努める。

(4) 規程の整備

- ① 未整備の規程について、継続的に整備を進めるとともに各規程間の整合性の再点検を進める。
- ② 規程、内規、規則・基準等の取扱い及び管理方法について明確化する。
- ③ 「松商学園規程管理システム」が適切に運用されているか検証を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。特に、「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて体制の見直しを積極的に行う。
- ② 学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。
- ③ 補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。
- ④ 補助金の申請に当たっては、申請要件並びに根拠資料の整備状況を複数の担当者で確認し、正確な補助金申請をこれまで以上に心がける。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 建造物の経年劣化の度合いを調査し、中長期修繕計画を策定し予算化する。また、老朽化が進む短期大学部棟の設備改修工事に着手する。

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(8) 後援会

- ① 後援会の予算規模に照らし、学生活動の有効な支援方策について検討を進めてもらう。
- ② 使途の適正化を図る。

(9) 認証評価への対応

- ① 機関別認証評価の第三サイクルを視野に入れ、情報収集に努める。

2) 実際の取組み <D>

(1) 日常業務の効率化

- ① 慣例的に行っている業務を抽出した。
- ② 事務サーバーのクラウド化に伴い大型のサーバーが導入された。これに併せ、フォルダの整理・統合を実施し不要文書の削除を引き続き進めた。
- ③ 書庫の保管スペースの確保を目的として、保存書類のデータ化をさらに進めた。また、物理的に満杯となった倉庫の整理を行った。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 各学部教授会及び委員会等の資料の定型化を進めるため、資料の様式を統一した。
- ② 全学部の教授会及び総務委員会でペーパーレス会議を導入し運用を始めた。引き続き各委員会での利用をさらに促進している。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進し、取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。
- ② 使用数の多いものについてはまとめて発注を行うなど、単価を下げる工夫に取り組んだ。
- ③ 予算の執行に際しては、金額の多少に拘わらず、可能な限り3社以上から見積もりを取り、経費節減につながるよう、業者との交渉を行った。

(4) 規程の整備

- ① 認証評価第三サイクルの受審に向けて、現行規程の改正、新規程の制定を進めた。
- ② 規程等の検討は全学運営会議で行い、全学協議会で審議・承認を得る手続きを明確化した。
- ③ 「松商学園規程管理システム」を全教職員に周知し、活用してもらえるよう推進した。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。「私立大学等改革総合支援事業」については、全学運営会議において調査票の評価ポイントを全員で点検し、得点アップにつながるよう取り組んだ。
- ② 競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に次の補助金を獲得することができた。

・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」（4年目）	8,243千円
・「大学教育再生加速プログラム（AP）」（3年目）	16,664千円
・「私立大学研究ブランディング事業」（2年目）	40,000千円
	合計：64,907千円

（6）教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の構造物の修繕、改修工事については、中・長期的な修繕計画の策定が必要であるため、過去に行った大規模改修工事棟のデータ管理及び、将来必要となる修繕をデータ化し管理できる専用のソフトウェアの導入調査を実施した。
- ② 照明器具のLED化について、年次計画で進めた。1号館・2号館・3号館の共用部を残しており2019年度改修する予定としているため、次年度予算に計上するべく予算取りを行った

（7）各種調査・アンケートへの対応

- ① 文科省、私学事業団の公的調査に不整合を生じることなく適確に回答できるよう、基本データの一元管理に努めた。
- ② 公的調査および意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

（8）後援会

- ① 役員会及び総会の円滑な運営に努めた。また、9号館建設に合わせ、食堂に券売機1台（100万円）、卒業記念品としてグローバルラウンジ（語学学習スペース）の整備費（100万円）を拠出していただき、学生の厚生に供与した。
- ② 検定・資格取得に対する奨励金は減額しつつ、他の学生生活活動の支援を積極的になされた。特に、教育助成費（1,085万円）、学生補助費（1,267万円）を例年より多く予算計上していただいた。

（9）認証評価への対応

- ① 第三サイクル受審に向けた意見交換会等に参加し、情報収集を行った。

3）取組に対する点検 <C>

（1）日常業務の効率化

- ① 慣例的に行っている業務の抽出はできたものの、優先順位をつけ無駄を省くまでの結果には至らなかった。引き続き効率化を目指す。
- ② 総務課・管理課のフォルダを分割することで、役割が明確になるとともに、アクセスしたいフォルダを探しやすくなった。
- ③ 印刷物のデータ化に着手し、書庫の整理（不要と判断した物品の破棄）をさらに進めることができた。

（2）定例会議・各種委員会への対応

- ① 様式の統一化により効率的な流れを作ることができた。
- ② 全学的にペーパーレス会議の導入が進み、各委員会での利用も多くなっている（現在、38委員会に参加）。また、使用するコピー用紙とトナーの消費は大幅に減少している。

（3）適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備が減少し、監査指摘が大幅に減少した。
- ② 施設の経年劣化による設備関連消耗品の交換が増加傾向にあり、計画的な発注などによる経費節減がいっそう必要である。

- ③ 相見積もりを取れない場合でも、業者からの提案を鵜呑みにすることなく、価格交渉を必ず行うよう心がけている。
- ④ 照明器具のLED化について、年次計画で進めてきたが1号館・2号館・3号館の共用部を残しており、予算の計上を行ったものの次年度へ見送りとした。

(4) 規程の整備

- ① 規程集のシステム化により、書式の統一化には一定の目途をつけることができた。
- ② 新たに整備する規程等については、規程、内規、規則・基準などの扱いにするかを全学運営会議で検討して進めることとした。既存の規程等については、①のとおり、再点検が必要である。
- ③ 「松商学園規程管理システム」の運用は一定の軌道に乗ったと考えられる。一方、運用が進む中で規程の未整備や不整合が明らかになったところもあり、①のとおり、再点検が必要である。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成30年度においては、大学はタイプ1が採択されたが、短期大学部はタイプ1及びタイプ4を申請したものの基準点に及ばず採択には至らなかった。
- ② 各種競争的補助金は、新規の募集が減りつつあり、さらに申請要件が年々厳しくなる傾向にある。なるべく早く情報をキャッチするよう心がけ要件が満たせるよう素早く対応していくことが必要である。
- ③ 申請要件並びに根拠資料が確実に整えられているかを複数の担当で確認することを徹底し、後追いとなることがないように正確な補助金申請を行なう。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の構造物の改修工事につて、専用のソフトウェアの導入調査を実施したが、本学に見合うソフトウェアが見つからなかった。
- ② LED化工事を実施したことで、電気使用料の減額が見込まれる。

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 多岐に亘る公的調査および民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるよう、さらに情報共有が必要である。
- ② 自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の5月1日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める。

(8) 後援会

- ① 国際大会・全国大会への支援は例年より少なかったが、その分フォレストホールや学生のグローバルコミュニケーションラウンジの設備整備など環境整備を行っていただいた。
- ② 活発化する学生の課外活動の支援及び長期化・多様化する就職活動支援をさらに拡大していただく。

(9) 認証評価への対応

- ① 第三サイクルの評価内容について、まだ具体的な項目等が公表される段階ではないが、適切

に情報収集を行った。

4) 今後の取り組みに向けて <A>

(1) 電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ① サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ② 印刷物のデータ化をさらに進め、書庫の整理・整頓にいつそう務める。また、データ化した資料の活用方法について検討を行う。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① これまで教授会資料作成は一人の担当者が行っている。集中している業務を他の職員も対応できるように汎用化する。
- ② ペーパーレス会議の導入により効率化された手間とコストを検証し、費用対効果を見える化する。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 引き続きコスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ② 文具等の消耗品について、再利用できるものはなるべく再利用するなどの呼びかけを行い、無駄を減らす工夫を行っていく。
- ③ 修繕工事は今後も増加が見込まれ、長期的な計画を立てることで経費節減にいつそう取り組む。
- ④ 全館LED化とあわせ、太陽光発電の増設効果の検証と、電気等の使用状況を分析する。

(4) 規程の整備

- ① 未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
- ② 学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな競争的補助金を模索する。
- ③ 補助金申請の根拠資料が確実に整備されているか、再点検する。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の構造物の老朽化対策について、担当者の記憶に頼ることなく、適切な投資計画を策定できるよう、修繕記録、将来に見込まれる修繕計画を行えるソフトウェアを引き続き調査し導入する。
- ② 学内全ての照明器具のLED化を進める。LEDの器具に変更するための費用は、電気料金10年分で回収できる見込である。

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(8) 後援会

- ① 教育学部生の増加に伴う収入の増加と活動の増加を見込みつつ、学生活動により有効な支援方策について検討していただく。
- ② 引き続き公務員講座への支援をお願いし、その効果の点検・評価を行う。

(9) 認証評価への対応

- ① 引き続き、第三サイクルに向けた情報収集に努める。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。

＜執筆担当／総務課長 松尾 淳彦＞

2. 管理課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速にかつ効果的に紹介して、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また、専任・嘱託・派遣という雇用形態の特性を踏まえつつ、事務局員の力量を向上させるためのSD活動の強化、労務管理や作業、職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携を図ることも重要になっている。

1) 基本計画 <P>

(1) 外部資金の獲得に向けて

- ① 私学事業団、文部科学省をはじめとして他省庁や各種財団の公募情報を Ridoc で系統的に案内を継続する。
- ② 教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。
- ③ 大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

- ① 研究室の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究を推進する。
- ② 委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝を進める。

(3) 教職協働につながるFD・SDの発展

- ① 学生の学修成果・研究成果に直に接し理解することで、学生の成長ぶりを教学面から教員と共有するため、卒論発表会、修論発表会に参加するよう職員に働きかける。
- ② 社会が求めるニーズや学生の就業環境の変化を職員が敏感に捉えるため、教員と協力してキャリア教育を進める体制の確立を図る。

(4) 働きやすい職場づくり

- ① 有給休暇の計画的取得と付与、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など、職場や現場に即したシフトの検討や、業務の把握に基づいた外注化の検討などを行う。

2) 平成30年度の実践とまとめ <D・C>

(1) 外部資金の獲得

- ① 平成26年度より Ridoc 共有ファイルにて各種機関などからの公募情報を適宜掲載しており、平成30年度も継続的に実施した。

- ② 科研費等の外部資金の獲得増加に向け、獲得の顕著な実績を持つ外部講師を招いての SD 研修を実施していく必要がある。
- ③ 第 7 回目となる「教育研究発表会」は 2 月 27 日、28 日に実施され 46 件の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。
- ④ 研究資金の採択にかかわる間接経費は、日本学術振興会の科研費への外付けのみが認められており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行に伴う、領収書などの証憑書類や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点で精度を上げる必要があり、今後も管理課での確かつ系統的な処理と管理が求められる。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を今後とも提起する必要がある。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

- ① 松本大学を主会場に『2018 まつもと広域ものづくりフェア』を開催した(2010年以降9回目)。
 - ・フェア期間中は天候にも恵まれ、延べ 13,950 名の来場者は、企業、団体等による展示・デモンストレーション・多様なものづくり体験教室コーナーを楽しんだ。
 - ・目玉となるものづくり体験教室コーナーには、45 種類のメニューが用意され、その数と内容が充実していることに参加者の満足度は高い。
 - ・参加者へのアンケート調査によると、来場者の大多数が松本大学での継続開催を望んでおり、地域貢献につながるイベントとして定着している。
- ② 知的財産権取得の取組
大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果に基づく知的財産権については、発明管理部会において管理を行っている。

(3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

- ① FD・SD活動
専任教員・専任職員・嘱託職員・派遣職員・専門員については、FD・SD 運営部会主催学内研修、外部機関主催の FD・SD 研修会への参加を呼びかけ、多数の教職員が受講した。
またこの他、専任職員には、朝礼時の 3 分間スピーチ、月例の職員会議冒頭部分では旬のテーマによる研修を行っている。
- ② 資格取得など自己研鑽の取組
学生個々の適性に応じ、職業選択や能力開発を効果的に行うため、国家資格であるキャリアコンサルタント資格を 1 名が取得した。
大学行政管理学会の会員数は 4 名であるが、各人が学会発表に向けて、各自のテーマに取り組んでいき、さらに多くの職員の研修の場として位置づけていく。

(4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替休日取得を年度初めに呼びかけた。年次休暇取得においては、一定数を計画的に取得するため部署長との相談の場を設けた。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。平成 30 年度においては、労災や通勤途中の事故に関して届出と発生はなかったものの、一層の事故防止のための注意喚起が求められる。

(5) その他の取組

- ① 例年 1 回実施していた「防災士養成研修講座」を、本年度は 2 回実施した。(通算 5 回目・6 回

目) 2回の講座で、117名(本学学生5名、社会人112名)が受講し、資格取得検定試験には116名が合格した。松本市、駒ヶ根市、下諏訪町等自治体による運営協力(講師派遣、受講者取り纏め)が得られた。本講座で身に付けた知識と実践力を活かし、地域社会における防災機能向上の担い手として、活躍の場が広がることを期待する。

今後、保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を図っていく。

3) 平成31年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) 外部資金の獲得に向けた取組

- ① 大学の組織あげての公的補助である文部科学省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。
- ② 科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、各種財団、文部科学省以外の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

(2) 委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

- ① 委託業務の内容掌握については、特に経費の取扱いについては、学内ルールに基づき適正な事務処理に努める必要がある。ややもすると、研究者が自ら獲得し、自らに帰属する研究資金であるといった意識のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行などによる大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思一致をはかる必要がある。
- ② 産学連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域総合研究センター、地域健康支援ステーション、地域づくり考房『ゆめ』の相互の役割と強みを発揮するための事務局同士の緊密な連携を図る必要がある。

<執筆担当/管理課長 赤羽 雄次>

Ⅲ. 学生センター

2011年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験し、総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材の育成を目的とした若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行っている。2018年度においては、将来的な異動を想定してキャリアセンター、情報センター、教務課にそれぞれ1名の専任職員が補充された。学生センターの専任職員は同じ部署での勤務が長期化している職員も多く、一度に多くの異動があるとノウハウの継続が困難となるため、中・長期的な視野にたつて計画的にジョブ・ローテーションを行なっていく必要がある。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身につけるため、各種研修会への参加を積極的に促している。

1) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <P・D>

① 学生支援連絡会

2013年度に名称変更した学生支援連絡会においては、若手職員の自由闊達な意見交換や情報共有の場として、また退学者の抑制、休学している学生の複学促進を主な目的としている。学生の抱える様々な問題や悩みに対し、事前に問題を把握し、深刻な事態になる前に学内における学生情報を共有し、関係部局およびゼミナール教員と連携しながら解決方法を見出すことで、一定の効果を上げてきている。また、休学が継続し退学へとつながるケースも多いことから、長期にわたる学生のケアにいかに関わっていくか、特に下記の3点について注意深く対応をとっている。

- a) 授業の出席状況と欠席理由の把握
- b) 悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置
- c) 生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

また昨年、日程や内容について見直しを行なった新入生向けの「入学前セミナー」や「保護者説明会」は、昨年の反省を踏まえ、より効率的に計画を立てることができた。

② 学生相談員、ファイナンシャル・プランナー

2012年6月より、上記学生情報への対応策として学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。学業や友人関係、クラブ・サークルのことなど悩みや相談がある場合、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。

また、経済的に修学が困難な学生に対して経済的な相談を行うため、ファイナンシャル・プランナーの有資格者の相談員を配置している。

③ 授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少ない学内の制度として平2009年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、もしくは死亡等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。2018年度に採用された学生は、前期後期合せ5名であった。

2) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <C・A>

① 学生連絡会

学生連絡会は、原則月に1度の開催で、毎回10名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。また、それぞれの部署を超えて若手・中堅職員が問題意識を持つことの習慣化にもつ

ながっており、連絡会の意義（原点）を忘れずに今後も継続して行きたい。

② 学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、相談を目的に訪れる学生はほとんどいないのが現状である。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員に限らず職員が窓口対応しながら、会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。今後、SD研修の一環として継続的に取り組んでいるキャリアカウンセリング等資格の取得や産業カウンセラーの資格取得の推進によって効果が上がることを期待している。

③ 奨学金等対応

2020年度から、「高等教育段階における教育費負担軽減新制度」が実施されることとなった。2019年度には、学費免除となる対象大学となるかを確認する機関要件の確認申請のほか、学生自身が対象になるかを確認する必要がある、業務量が増大すると想像される。対象学生は給付型奨学金の受給と学費免除が適用されるため、学生課が中心となりつつ、学生に不利益が生じないよう適切に業務を遂行する。

＜執筆担当／学生センター長 赤羽 研太＞

1. 教務課

2017年度末18名だった教務課は、2018年度初めの異動に伴い専任職員2名が転出、派遣職員1名が退職し、業務分担の見直しに伴う体制変更により、会計担当の専任職員及び嘱託職員それぞれ1名が教務課に配置された。これにより総合経営学部、人間健康学部、教育学部及び大学院、松商短期大学部、教職及び基礎教育と会計の各担当を専任職員、嘱託職員及び派遣職員の計17名の体制で教学業務に従事することとなった。転出した専任職員2名は比較的教務課に長く在籍したベテランであり、経験年数の浅い職員が高い割合でスタートすることとなった。

5月からは将来的に「資格取得支援センター」を実質化していくことを見据え、1名の専任職員が増員された。一方で、6月には教職センターの嘱託職員の退職に伴う補充、9月には総合経営学部担当の嘱託職員の退職に伴う補充、AP事業担当の派遣職員の退職に伴う補充が続き、最終的には昨年度末と同じ18名の体制となったものの、人の入替わりの激しい年度となった。

1) 2018年度の基本計画 <P>

2017年度の自己点検・評価を踏まえ、2018年度の取組みを以下に掲げた。

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。今後も継続的に点検を行い、実情との不整合等が生じている場合には、その都度各種規程等の見直し及び整備を進める。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。今後も継続的に検証を行い、必要に応じて修正するとともに、学生の利便性向上に向けた改善に取り組む。

(3) 教育学部学年進行に伴う対応

教育学部の学年進行に伴い、3年次の教育実習に向けた準備など、業務量がさらに増えていくことが予想される。教職センターとの連携を密にしながら、綿密に準備を進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム（AP）採択に伴う取組

AP フォーラムや外部評価委員会を計画に基づいて着実に実施していく。「メソフィア」の整備が進んでいることから、4 学期制の実施に伴う評価を前期から開始していく。「ディプロマ・サプリメント」発行機能が整備されたことから、運用に向けた諸設定及び検証を進める。

(5) 全学共通教養科目の検討

今後も継続的にクラスサイズの適正化や休講・補講の対応等、講義運営について検証を進めていく。課題や問題が浮かび上がった場合には、共通教養センター運営部会と連携しながら検討を重ね、翌年度の開講科目に反映していく。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価は 2022 年度に受審予定であり、2021 年度の実績に基づいて審査が行われることになる。そこに対応していくためには遅くとも 2020 年には新たな体制をスタートさせなければならない。FD・SD 委員会と連携して情報収集を進め、教職員と情報共有を図りながら、具体的な対応策の検討や準備を推進していく。

「グローバル化への対応」については今後も継続的に推進していくとともに、それぞれの取り組みについての成果を検証し、活用方法の工夫や利用を促していく取り組みを続けていく。

2) 課題に対する取組 <D>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、下記の規程等の整備を行った。

(新設)

①「松本大学教職課程履修規程」

(改正)

①「松本大学履修規程」

②「松本大学松商短期大学部履修規程」

③「松本大学聴講生規程」

④「赤羽奨学基金運用規程」

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

全学教務委員会及び関係部署と連携し、下記の項目について計画に従って実施した。

① 入学式前々日に開催する「入学前セミナー」(キャリアセンターと協働)

② 入学式後に開催する新入生「保護者説明会」

③ 履修登録期間の変更(開講前登録)

④ 補講申請方法の変更

⑤ 授業中の事故報告書様式作成

⑥ 備品破損紛失届の様式作成

⑦ 各種申請書類の西暦化

⑧「特別学修週間」の設定(短期大学部)

(3) 教育学部の学年進行に伴う対応

2018 年度は 72 名の新入生を迎え、設置計画に基づいて講義運営を行った。また、新たに課程認定を受けて中学校教諭一種免許状(英語)及び高等学校教諭一種免許状(英語)課程を開設した。

(4) 大学教育再生加速プログラム(A P)採択に伴う取組

「ディプロマ・サプリメント」の発行に向けた諸設定及び検証を進めた。また、計画調書に基づき、AP フォーラムを2回実施したほか、AP 外部評価委員会及び外部評価・助言委員会を招集し、開催した。

教職員のグローバル化という取組みの一つを実現するため、2月には情報センター職員1名をヨーロッパに派遣した。

(5) 全学共通教養科目の開講

全学共通教養科目として開講2年目を迎え、的確な運営を行った。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価に向けて、成績評価基準の見直しを行った。これに合わせ、FD・SD委員会と協力し、シラバス作成に関するFDや成績評価についてのFDを初めて実施した。

学事歴の見直しとして、90分15週の講義日程から、105分13週に変更した場合の日程案を提示し、具体的な検討を開始した。

試行的に実施して学生から好評だったため、English Caféを通年開催とした。講義期間中の週3日、昼休みを活用して実施した。

3) 課題に対する点検 <C>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

教職課程の履修について定めがなく、文部科学省の指導もあったことから、新たに規程を整備した。大学及び短期大学の履修規程の改正は、厳格な成績評価と成績評価基準の明示が求められていることから、これまで不明瞭だった「S(秀)」の基準を明確にするとともに、評価と素点との関連を明らかにした。また、「インターンシップ」の単位化を見据え、新たな評価記号「P(合格)」、「F(不合格)」を定義した。その他の規程については、内容を検証し、実態との整合を図るため改正したものである。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

「入学前セミナー」や「保護者説明会」も、新しい日程での実施は3回目となり、スムーズに運営ができるようになっている。アンケート等でも特に問題となる回答は見られず、当面は現在の方法で問題はないと考えている。

履修登録期間の変更についても特に問題は生じておらず、適切に運用がなされている。

(3) 教育学部の開学

「学校ボランティア活動」、「学校インターンシップ」等、計画に基づいて新たな取組みを着実に実施した。実施に際しては、昨年度の反省から受入れ側の学校と事前に綿密な打合せを行ったことで、学生・学校側双方とも満足度の高いものとなった。

新たに設置した英語免許課程は1期生も二種免許が取得できるよう工夫したことで、1期生12名、2期生については入学者の4割を超える33名が希望した。

また、退学者は初年度に比べて激減し、今年度は1名のみであった。これは本学教育学部が認知されるようになり、不本意入学やミスマッチが減少したためと考えられる。

(4) 短期大学部大学教育再生加速プログラム(A P)採択に伴う取組

コンピテンス評価等を「メソフィア」に実装し、計画通り「ディプロマ・サプリメント」を卒業時に発行した。今後は具体的な活用方法等についてさらに検討を進める必要がある。AP 外部評価委

員会における取組み状況に関する評価は高かった。

(5) 松本大学全学共通教養科目の開講

共通教養科目については、開設2年目を迎えたが、現段階では特段の問題は生じていない。昨年度から履修登録期間を変更したこともあり、クラス分け等もスムーズに行なわれた。

(6) 教学改革の推進

変更した成績評価基準の運用は2019年度からとなるため、GPAの分布等、変更した影響を今後注意してみる必要がある。

当初の目標として新シラバスに記載する項目等について一定の方向性を見出したいと考えていたが、議論は深まらなかった。一方、高等教育段階の教育費負担軽減新制度の機関要件として「実務経験のある教員による授業」を明示する必要が生じたことから、2019年度シラバスは対症療法的に対応しつつ、2020年度からはこれまでの議論と合わせて変更していく。

学事暦については、変更した場合の影響が見通せないことを主な理由として2020年度は現状維持とし、想定される影響を精査しながら継続的に検討することとした。

English Caféは、年間で80回開催し、延べ参加者数は315名であった。参加者がいなかった回はなく、今後も正課科目と協力しつつ、グローバル化を推進していく。

4) 課題に対する改善 <A>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。今後も継続的に点検を行い、実情との不整合等が生じている場合には、その都度各種規程等の見直し及び整備を進める。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。今後も継続的に検証を行い、必要に応じて修正するとともに、学生の利便性向上に向けた改善に取り組む。

(3) 教育学部の学年進行に伴う対応

教育学部の学年進行に伴い、3年次の教育実習の実施、開講科目の増加や非常勤講師の増加等、それに伴い業務量がさらに増えていくことが予想される。これまで以上に教職センターとの連携を密にし、また教員と協働しつつ綿密に進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム（AP）採択に伴う取組

2019年度はAPの最終事業年度となることから、APフォーラムや外部評価委員会を計画に基づいて着実に実施しつつ総括を行っていく。

(5) 全学共通教養科目の検討

今後も継続的にクラスサイズの適正化や休講・補講の対応等、講義運営について検証を進めていく。課題や問題が浮かび上がった場合には、2021年度の共通教養課程の完成年度を見据え、検証を進める。

(6) 資格取得支援の推進

職務分掌の見直しにより、2019年度から資格取得支援を教務委員会で全面的に管轄することとなった。これまで情報センターが担当していた検定等についても諸業務を教務課で担当することが決定したことから、適切な運営体制を整える。

(7) 教学改革の推進

次期認証評価は 2022 年度に受審予定であり、2021 年度の実績に基づいて審査が行われることになる。そのため遅くとも 2020 年には新たな体制をスタートさせなければならない。2019 年度は最終的な方針を定め、必要なシステム改修等に着手する。また、継続して FD・SD 委員会と連携しつつ情報収集を進め、教職員と情報共有を図りながら、具体的な対応策の検討や準備を推進していく。

- ・シラバス様式の見直しと並行して全学的な成績評価基準に沿ったルーブリック活用等の検討
- ・ICT を活用した授業の充実 (e-learning、クリッカー等の新 LMS 導入の検討)
- ・内部質保証を実質化する IR を活用した DP・CP のチェック体制及び教学改革サイクルの構築等

＜執筆担当／教務課長 赤羽 研太＞

2. 学生課

＜現状＞

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことを掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わらせることで、地域住民との繋がりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。それぞれ、学部別の担当を配置しながら、窓口対応、奨学金や各種契約等の事務手続き、大学祭など共通の企画、全学行事の事務を遂行した。また、教育学部も 2 年目を迎え、より多くの学生を巻き込んで取り組むことを重視した。

1) 年間計画 <P>

(1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応 (事故・事件への対応)
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応 (健康安全センターとの連絡)
- ・日常生活マナー指導 (喫煙、交通・駐車違反、不正乗車、歩きスマホ等)
- ・松本警察署生活安全課及び交通課との連携
- ・長野県中信消費生活センターとの連携

(2) 学生証、通学証明書、JR 学割証の発行に関する事項

- ・JR 線および上高地線における通学定期等、各種証明書等の発行

(3) 学生の課外活動等に関する事項

- ・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
- ・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率
- ・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
- ・学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
- ・各種会議及びリーダー研修会への助言、支援
- ・新村文化祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力
- ・新村地区あたらしの郷協議会への協力

- ・各種発刊物への企画アドバイス
- ・湘北短期大学との交流会（短大部リーダー研修会・短大部学友会役員引継ぎ会）
- ・アルバイト情報の提供、掲示物等

（４）大学学友会の一本化に伴う更なる活性化

教育学部が２年目を迎え、昨年以上に教育学部生が学友会活動に関わる機会が増え、他学部との交流も積極的に行った。また、教育学部生の中にも学友会執行部の一員として活動する学生もおり、今後も学部関係なく学友会を更に盛り上げていく仕掛けづくりをしていきたい。

（５）大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる。

今年度 52 回目を迎えた大学祭は、9 号館の建設を受け模擬店を始めとする企画・運営面でいくつかの制約が生じた中で開催となった。そのような環境下でも知恵を出し合い、質を落とさないよう工夫がなされた。また、資金的にも後援会や同窓会から補助金を提供していただくことができた。今後もいかに学部間や教職員、同窓生や地域をより多く巻き込めるか、創意工夫を凝らした企画・運営が求められる。

（６）修学支援に関する事項

- ① 「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
- ② 「日本学生支援機構の奨学金」
- ③ 「松本大学同窓会奨学金」
- ④ 「地方公共団体・民間育英団体」
- ⑤ その他

（７）障がいをもつ学生への支援

学生数が増え、今後も障がいを持った学生の進学が見込まれることから、バリアフリー、さらにはUD化等の課題も合わせ、障がい者への配慮等を検討していくこととした。

2) 活動内容 <D・C>

（１）学生生活の広がりに対応した支援業務

① 修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の４割強にあたる 826 名（院生を含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務が煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応するべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（下記別表参照）

2016 年～2018 年の奨学金受給学生数・比率

	学生数 (3/31 現在)			奨学金受給学生数・比率		
	2016 年	2017 年	2018 年	2016 年	2017 年	2018 年
総合経営	724 人	751 人	726 人	283 人 39.1%	304 人 40.5%	296 人 40.8%
人間健康	734 人	725 人	694 人	338 人 46.0%	348 人 48.0%	344 人 49.6%
教 育	—	—	59 人	—	—	34 人 57.6%
大 学 院	10 人	15 人	12 人	4 人 40.0%	4 人 26.6%	3 人 25%

短期大学	405 人	438 人	433 人	146 人 36.0%	149 人 34.0%	154 人 35.6%
合 計	1,896 人	1,929 人	2,042 人	769 人 41.6%	802 人 42.3%	863 人 42.3%

「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、学費半額免除の制度を継続して行っている（前期・後期）。以前よりも経済状況が好転しているためか申請者は減少傾向にあり、採用者は前期3名、後期5名となっている。折角の制度なので、学生への更なる周知に努めていきたい。

また、学部のみ、スポーツ特待生制度の継続審査を前期および後期に実施している。今年度、学力基準（GPA 目標値：2.0 GPA 基準値：1.0 以上）を下回った学生はいない。

② 生活支援（マナー、社会人基礎力）

新入生には交通安全、薬物・防犯について松本警察署の協力を得て講話を実施し、知識の習得と一定の抑止効果を見せている。また、在学生オリエンテーションでは、全学部2年生を対象とした消費者トラブル防止講習会を開催し、ネットトラブル等の危険を呼び掛けている。

③ コミュニティ形成としての居場所づくり

社会の実践から学ぶことができる課外活動への期待が高まっている。コミュニケーション能力や社会性を身に付けるため、学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは学校法人松商学園の共有グラウンドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけを図っている。7号館1階のコモンルームは多目的空間として勉学、語らい、発表、食事サークル活動など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④ 危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や生じてしまった事故に対し健康安全センターとの連携で対応した。

(2) 強化部・重点部の支援

公式戦等遠征におけるバスの手配、宿泊費、旅費出張費等の会計事務を担った。

また、寮費の徴収、支払いや食事の管理等についてもサポートを行った。

(3) 学友会のサポート

体育大会、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって運営に携わることができるかを常に意識しながらアドバイスを行った。その結果、学生たちが達成感を得て、自信を得ることにつながった。

松本大学学友会が発足し、常任委員会や臨時学生大会、及び会計処理、選挙活動のサポート全般を行った。また、会則の作成に当たっての支援を行った。。

(4) クラブ協議会・サークル連合会議

クラブ協議会・サークル連合の会議（総会）は6月、8月、2月の3回に亘って開催し、各クラブの予算編成や決算報告を行った。また、昨年度は工事中のため使用できなかった第二体育館が新設され、第一体育館と合わせ利便性が図られた。各クラブが平等に使用できるよう調整会議を頻繁に行い、活動できるよう努めた。学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

(5) 大学祭「梓乃森祭」

梓乃森祭は52回目を迎え「Fall into Memories」をテーマとし、学祭局を中心とした学友会役員と学生委員による実行委員会を組織し運営にあたった。今年は、9号館建設工事に伴い、模擬店数が例年より10店舗ほど少なく、ウッドデッキが使用できないなどの制約が生じた。そのため屋外メインステージを、4号館と5号館の間に設置した。

前夜祭を含む3日間、模擬店やゼミ発表&展示を始め、ステージ発表、第一体育館でのミュージックライブやダンスセレモニー等大いに盛り上がった。今回初めて行った「平成仮面ライダーショー」には多くの子供たちが来場し、迫力あるショーを楽しんだ。

また、例年後夜祭時に打ち上げている花火をイベントとの兼ね合いから初めて前夜祭時のフィナーレとして打ち上げ、秋の夜空を彩った。

3日間とも、大きな事故やトラブルがなく終了した。今後も皆で知恵を出し合いより多くの方を楽しんでもらえるような企画・運営に努めていきたい。

(6) 義守大学公式訪問団

学生を海外へ派遣する同窓会の資金提供を受け、学友会役員5名が3月5日(月)～8日(木)までの3泊4日の日程で、本学の海外交流協定校である台湾義守大学へ公式訪問した。同校の学友会に携わる学生と、日本語を学ぶ学生たちとの意見交換や交流を行い、親睦を深めた。見聞を広め、国の文化や習慣の違いなどを理解することで、今後の学友会活動に役立てるための有意義な時間となった。次年度以降も、協定校との本格的な学生交流によって、学生生活に国際的な視点を取り入れた意識が高まることを期待したい。

(7) 障がいをもつ学生への取組

車椅子で生活する学生に対して、駐車場を校舎の近くに設けるなどの配慮を行った。

3) 次年度への課題 <A>

更なる現場事業の強化へ

- (1) 松本大学学友会が誕生したことで、学部間に考え方等の温度差が生じることも予想されたが、一人ひとりが自分の立場や役割を理解し行事等協力して行うことができた。今後も、短大部学友会との共同事業、学部全体で取り組む事業、学部独自の事業と、全てがバランス良く活動できるように配慮した支援が必要となる。
- (2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。
- (3) 休日や学外で実施する体育大会において、一昨年度から外部看護師の派遣を要請しているが、長野県看護協会に依頼する手間や経費が掛かるため、新たな策を講じる必要がある。
- (4) 高等教育コンソーシアム信州の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流が活発化するよう支援する。
- (5) 学生生活の基盤を支える
 - ① 学生の約4割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談業務を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金にも幅広く学生に紹介できるよう情報収集に努める。
 - ② 悩みを抱えている学生は、自ら学生課窓口に来ないため相談にのれる場面が少ない。そうした学生たちの悩みを聞く機会を捉えるべく情報収集等に努め、各部署との連携を密にする。

- ③ 障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮をどのように進めていくか、さらに調査研究に努める。
- ④ 強化部、重点部、個人強化選手の支援を通じて、選手が活躍できる環境づくりに努める。
- ⑤ 寮費・食費をはじめとした課外活動費の適正化を部の指導者とともに推進する。

(6) 第3駐車場新設について

平成30年度4月より、新村郵便局前に第3駐車場が新設(85台分)され運用が開始されたが、今年度については9号館の工事業者や大学生協職員を中心に利用し、学生に対しては「予備的」な位置付けで運用した。学生には今まで以上に安全に配慮するように努めていきたい。

(7) 学生課職員のレベルアップ

- ① 学生課の仕事の範囲は広く学生と直接携わる場面が多いため、例えば知識が浅くても、あるいは見聞が狭くても、学生の問いにすぐに答えなければならない場面が生じる。課内での情報交換を活発化し、お互いが日々の業務の中で研鑽し合い、常に「学生ファースト」の気持ちを忘れずに課員全員で質の向上に努めたい。
- ② 学生にとって最も身近な「社会人」であることを肝に銘じ、優しさの中にも時には社会の厳しさを指導・助言することも私たち職員の責務と考え、信頼関係を構築できる学生対応に心掛けたい。また、どの学生に対しても公平なサービスを提供できるように努めたい。
- ③ 引き続き、職員の業務の標準化を推進し、異動があっても業務に支障が無いようにマニュアル等を作成し、円滑に事務を引き継げるようにする。

<執筆担当/学生課長 白澤 聖樹>

3. キャリアセンター

キャリアセンターは就職や進学をめざす学生に対して様々な機会や情報を提供し、卒業後の進路選択を支援している。具体的には新卒採用スケジュールがめまぐるしい変遷を辿る中、学生が滞りなく就職活動を始めることができるよう、必要な知識や方法を身に付けるための支援を行っている。また、実際の就職活動中には履歴書添削や面接練習をはじめとする個別指導、及び学内企業説明会などを通じて学生の内定獲得に直結した支援を行っている。

本学学生の約8割が県内出身で卒業後も約8割が県内に就職していることから、県内就業者数の確保にも貢献していると言える。保護者の期待を念頭にいれつつ、地元企業の人材確保と地域社会の発展に貢献することを視野に入れて、学生の就職支援に努めたいと考えている。

2018年度は課長1名を含む専任職員4名、嘱託専任職員1名、嘱託職員3名の計8名により業務に従事した。

1) 2018年度の計画 <P>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

- ① 面接練習、添削指導、各種相談を通じた就職活動支援
- ② 学内企業説明会の企画・運営(合同企業説明会、単独企業説明会)
- ③ 求人情報の収集と提供
- ④ 学生への情報提供(求人情報、企業説明会予定、公務員試験予定、編入学・大学院入学試験予定、過去の採用試験報告書の公開ほか)
- ⑤ 就職支援ガイダンスの運営(総合経営学部4年、松商短期大学部2年)

⑥ 進路未決定者の就職支援（個別面談、新卒応援ハローワーク松本との協力など）

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア教育および就職活動準備支援

- ① キャリア支援科目のサポート、就職支援ガイダンスの運営
- ② 各種希望制講座の企画・運営（夏季就職合宿、企業・業界研究勉強会、就職対策講座など）
- ③ インターンシップ参加のサポート

(3) 企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）・ガイダンス等の協力依頼

求人依頼、求人受付、企業訪問、学内行事への参加依頼、インターンシップの協力依頼

(4) 保護者への情報提供

保護者就職説明会の企画・運営、郵送による就職関連情報の提供

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

全学就職委員会のほか、総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部、教育学部の各委員会準備・運営

(6) キャリア面談の企画・運営

入学予定者及び在学生のキャリア面談計画・運営

(7) 入学前教育プログラムの運営

2) 実施状況と点検・評価の結果 <D・C>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

① 月別の各種相談対応（2018/3/1～2019/3/31）

対応/月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
面接練習	20	159	132	68	46	22	15	23	21	16	4	8	75	609
添削指導	211	257	85	57	29	22	11	20	7	6	4	61	253	1,023
相談対応	39	51	71	56	57	36	58	46	32	14	33	32	42	567
計	270	467	288	181	132	80	84	89	60	36	41	101	370	2,199
(前年)計	206	496	308	211	229	96	73	78	82	79	28	25	231	2,142

② 学内企業説明会の企画・運営

説明会種別 開催年月日	開催場所	参加 事業所数	参加学生数						参加率 (%)
			総経	観光	栄養	スポ	短大	計	
合同 第1回 2018/6/16(土)	第1体育館	44	23	22	7	3	76	131	22.1
中央会 2018/8/9(木)	コモンルーム	22	7	5	0	1	6	19	—
合同 2019/3/6(水)	第1体育館 513教室	70	88	73	61	68	197	487	83.1
合同 2019/3/20(水)	第1体育館 513教室	69	72	67	44	36	173	392	66.9
単独	各教室	46	60	78	83	82	148	451	—
計(延べ数)		251	250	245	195	190	600	1,480	—

- ③ 求人情報の収集と提供（株ジェイネット 求人受付 NAVI の利用）全求人社数 12,423（長野県:525）、学生アクセス数 約 1,800
- ④ 学生への情報提供：求人情報コーナーへの求人票設置・配布、合同企業説明会の案内、学内単独企業説明会の案内、公務員試験日程の案内、過去 5 年間の就職状況、SPI テストセンター開催日程の案内、編入学・大学院進学試験案内、採用試験状況報告書の公開、新聞 4 紙・雑誌・書籍等の設置
- ⑤ 教職員間の連携・情報共有・情報提供等：求人情報・企業説明会情報の報告、就職活動進捗状況の共有、就職委員会の運営、各種行事開催（夏季就職合宿、就職対策講座、集団面接対策講座等）
- ⑥ 就職支援ガイダンス

キャリア形成Ⅲ (総経4年・通年)	全体会(1回/月)での求人情報や説明会開催情報等の提供 ヒアリング(就職活動状況の調査)
キャリア・クリエイトⅢ (短大2年・前期)	集団面接、マナー講座、エントリーシート対策講座、OB・OG 講演 筆記試験対策の各講座、求人等企業情報の提供など
キャリア・クリエイトⅣ (短大2年・後期)	社会保険講座、就職活動リスタート講座、 組織のマナー講座(社内コミュニケーション等)、講演会、ヒアリングなど

- ⑦ 進路未決定者対象ガイダンス（新卒応援ハローワーク松本との共催）
開催日 9/27(木)、11/8(木)、2/7(木)、3/4(月) のべ参加者数：11名

- ⑧ 就職状況（2019年3月卒業生）

学部名	学科名	卒業者	就職希望	就職者	就職率	前年度
総合経営	総合経営	92	86	84	97.7%	98.8%
	観光ホスピタリティ	88	84	83	98.8%	97.2%
	計	180	170	167	98.2%	98.0%
人間健康	健康栄養	83	79	77	97.5%	100%
	スポーツ健康	99	96	96	100%	98.9%
	計	182	175	173	98.9%	99.3%
学部 計		362	345	340	98.6%	98.7%
松商短大	商	98	90	87	96.7%	98.0%
	経営情報	101	97	96	99.0%	99.1%
	計	199	187	183	97.9%	98.6%
学部・短大 合計		561	532	523	98.3%	98.6%

- ⑨ 就職内定件数の月別推移

学部/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
総合経営	27	67	43	34	19	13	5	9	11	3	5	3	239
人間健康	18	60	64	33	18	24	9	8	9	1	5	4	253
松商短大	19	63	48	40	21	18	10	9	11	2	1	2	244
計	64	190	155	107	58	55	24	26	31	6	11	9	736

⑩ 産業分類別就職者数

産業分類/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計	順位
農業	0	0	0	0	0	0	0	—
建設業	5	7	1	7	4	4	28	5
製造業	15	9	9	10	15	21	79	2
電気・ガス・水道業	1	2	1	2	2	3	11	12
情報通信業	2	2	0	3	4	3	14	11
運輸業・郵便業	1	8	1	1	2	1	14	11
卸売業・小売業	32	25	21	24	24	27	153	1
金融業・保険業	2	2	0	4	10	8	26	7
不動産・物品賃貸業	5	5	0	2	3	1	16	10
学術、専門技術サービス業	4	0	0	1	3	2	10	13
宿泊・飲食サービス業	1	0	3	4	0	2	10	13
生活関連サービス業	4	3	19	7	2	4	39	4
教育、学習支援業	1	1	2	7	3	0	14	11
医療、福祉	2	11	15	10	5	2	45	3
複合サービス事業	3	4	2	5	5	8	27	6
サービス業（その他）	5	1	0	1	4	6	17	9
公務	0	3	3	8	1	3	18	8
上記以外	1	0	0	0	0	1	2	14
就職者計	84	83	77	96	87	96	523	—

⑪ 出身者数と県内就職比率

学部名	出身別	県内就職	県外就職	計	県内就職比率
総合経営	県内出身	148	9	157	—
	県外出身	6	4	10	—
	計	154	13	167	92.2%
人間健康	県内出身	129	14	143	—
	県外出身	12	18	30	—
	計	141	32	173	81.5%
学部 計		295	45	340	86.8%
松商短大	県内出身	172	9	181	—
	県外出身	0	2	2	—
	計	172	11	183	94.0%
学部・短大 合計		467	56	523	89.3%

⑫ 進学者・編入学者数

進学・編入先/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計
自大学院進学、大学編入	0	0	2	1	3	0	6
他大学院進学、大学編入	0	0	0	1	0	3	4
他専門学校・短大入学	1	0	1	0	1	0	3
進学者計	1	0	3	2	4	3	13

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

① ガイダンスの運営

キャリア形成Ⅱ (総経3年・前期)	就職活動の概要、SPI 受験対策、適性検査の受検、就職活動サイトの活用 講演会、自己分析、企業研究、履歴書の作成など
キャリアデザインⅡ (人間3年・前期)	同上
就職支援ガイダンス (総経3年・後期)	就職活動の具体的な流れ、自己分析、SPI 模試受験先輩学生の体験談報告会、 就職活動サイト活用法、ビジネスマナー、企業研究会、 エントリーシート作成法、面接対策講座、など
就職支援ガイダンス (人間3年・後期)	同上
キャリア・クリエイト Ⅰ,Ⅱ,集中 (短大1年・後期)	先輩学生の体験談報告会、SPI 対策試験、自己分析講座、卒業生の体験報告会 メイクアップ講座、一般教養対策試験受験、業種・職種研究、 企業研究・会社訪問の心構え、実践マナー講座、集団面接対策講座など

② 各種講座等の企画・運営

夏季就職合宿 (大学)	白樺湖池の平ホテル(立科町)… 9/6(木)～7(金) 参加 60 名 白樺湖池の平ホテル(立科町)…9/13(木)～14(金) 参加 52 名 内容:マナー講座、自己紹介・自己PR演習、面接対策講座、グループディスカッション体験など
企業・業界 研究勉強会 (大学・短大)	10/30(火)～12/12(水) (全15回)、のべ参加人数:1,726名 参加事業所:(株)モリキ、トヨタカローラ南信(株)、キッセイコムテック(株)、松本ハイランド 農業協同組合、(株)ツルヤ、セキスイハイム信越(株)、(株)アクティオ、日清医療食品(株)、 (株)エラン、岡野薬品(株)、東洋計器(株)、長野県警察、岡谷酸素(株)、ホクト(株)、(株)デイリーはやしや、(株)長野銀行、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)ライト光機製作所、 医療法人研成会諏訪湖畔病院、社会福祉法人平成会、(株)マルニシ、長野県庁、(株)アステップ信州、(株)池の平ホテル&リゾート
就職活動用証明写真 撮影会	1/9(水)・10(木)・11(金)・16(水) 15時～19時、 費用2,000円(写真6枚+データCD納品)、協力:フォトエポーム
就活集中セミナー (学部)	12/26(水)、参加人数:61名(総経11、観光7、栄養22、スポ21) 主な内容:ビジネスマナー、グループディスカッション、自己PR・自己紹介演習、 面接対策特訓講座、履歴書添削個別指導、先輩との座談会
就職対策講座 (学部)	1/31(木)・2/1(金)、 参加状況:1/31(木)参加者数34名(総経5、観光4、栄養1、スポ24)、午後のプランのみ参加者数55名(総経9、観光25、栄養14、スポ7) 2/1(金)参加者数31名(総経15、観光5、栄養6、スポ5)、午後のプランのみ参加者数51名(総経9、観光15、栄養26、スポ1) 主な内容:ビジネスマナー、面接対策特訓講座、先輩との座談会ほか
メイクアップ講座 (大学)	12/3(月)、12/13(木)、12/18(火)、1/21(月) のべ参加人数:105名(総経17、観光20、栄養51、スポ17)
自己PR作成講座 (学部・短大)	2/14(木)、2/15(金) 解説編:13:30～14:30、作成編:14:45～16:45、811教室、 参加状況2/14(木):参加者数72名(総経23、観光19、栄養6、スポ12、商6、経情6) 2/15(金):参加者数61名(総経12、観光10、栄養16、スポ10、商9、経情4)

金融業界の就職活動について (学部)	3/6(水)10:00～11:30、講師：キャリアセンター顧問 大久保隆志氏 参加者数 25 名 (総経 6、観光 8、栄養 5、スポ 6)
キャリア・クリエイト I・II・集中 (短大)	メイクアップ講座 12/21(金) 実践マナー講座 2/8(金) 集団面接対策講座 2/13(水)・14(木)
学外合同企業説明会 バスツアー (学部・短大)	長野ツアー 3/7(木)マイナビ信州就職 EXPO/ホワイトリング、参加人数約 200 名 東京ツアー 3/9(土)マイナビ MEGA 就職 EXPO/東京ビックサイト、参加人数 76 名 (総経 8、観光 14、栄養 11、スポ 6、商 16、経情 19)

③ インターンシップ

事前マナー講座①	7/2(月)、7/4(水)、7/5(木)の各 5 限
	計 142 名参加(総経 51、観光 34、栄養 24、スポ 18、商 5、経情 10)
事前マナー講座②	7/18(水)5～6 限、8/6(月)3～4 限
	計 109 名参加(総経 40、観光 23、栄養 17、スポ 15、商 5、経情 9)
短大生対象	事前説明会:10/2(火)5 限
	選考面接:10/16(火)、事前マナー研修:11/6(火)
	マッチング:11/上～中、インターンシップ参加:11～1 月
インターンシップ告知・説明会	告知 8/9(水:オリエンテーション時間内)、事前説明会:10/3(火)5限

(3) 企業との情報交換・情報収集(求人依頼、企業訪問等)・ガイダンス等の協力依頼

求人受理件数：12,423 件(長野県:525)、次年度に向けた求人依頼数：約 9,500 事業所、企業訪問数:288 事業所(求人依頼、前年度内定の御礼、卒業生の状況調査、学内行事参加依頼など)、学内合同企業説明会・単独企業説明会への参加依頼、ガイダンス等への協力依頼(講演等依頼、夏季就職合宿、企業業界研究勉強会等)

(4) 保護者への情報提供

① 保護者就職説明会の企画・開催

学部 3 年生の保護者対象 10/28(日)13:00～	主な内容：就職活動の流れ、学部学科毎の実績、管理栄養士国家試験の準備、健康運動指導士・教員採用試験、先輩学生の就職活動体験報告、個別相談 参加組数：118 組(総経 35、観光 27、栄養 29、スポ 27) 153 名、 個別相談：20 組(総経 8、観光 3、栄養 4、スポ 5)
短大 1 年生の保護者対象 11/24(土)10:00～	主な内容：就職実績と就職支援の内容、就職活動の流れ、先輩学生の就職活動体験報告、昼食懇談会、個別相談 参加組数：111 組(140 名)、個別相談：41 組

② 郵送による就職関連情報の提供と、進路決定に向けての協力依頼

保護者説明会の案内	学部 3 年生・短大 1 年生保護者へ郵送 主な業務：開催案内と出欠確認、個別相談希望伺い、欠席者へ当日資料の送付
就職支援のお願い	学部 4 年生・短大 2 年生の主に進路未決定学生の保護者へ郵送 ・6 月・12 月に保護者へ就職活動支援の協力依頼(短大) ・10 月・1 月・2 月に就職支援講座開催案内(学部・短大)

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

全学就職委員会	5/10(木)、6/14(木)、7/12(木)、10/3(水)、11/7(水)、1/9(水)、2/5(火)
総合経営学部	8/30(木)、12/19(水)
人間健康学部	5/7(月)、6/11(月)、7/9(月)、8/30(木)、10/9(火)、11/13(火)、12/11(火)、1/22(火)、2/7(木)
教育学部	10/16(火)、11/8(木)、1/10(木)
松商短期大学部	4/4(水)、5/9(水)、6/6(水)、8/1(水)、10/2(火)、11/13(火)、12/11(火)、1/8(火)

(6) キャリア面談の企画・運営

① キャリア面談の実績

対象学年、所要日数	日程、面談人数
学部2年生 (6日間)	5/12(土)、13(日)、19(土)、20(日)、26(土)、27(日) 384名(総経101、観光108、栄養78、スポ103、教育66)
学部4年生・短大2年生 進路未決定の学生 (6日間)	8/6(月)、7(火)、8(水)、9(木)、9/19(水)、20(木) ・学部4年生：138名(総経9、観光8、栄養15、スポ106) ・短大2年生：61名(商25、経36)
学部3年生・短大1年生 (8日間)	2/4(月)、5(火)、6(水)、7(木)、8(金)、9(土)、12(火)、15(金) ・学部3年生：361名(総経106、観光90、栄養73、スポ92) ・短大1年生：203名(商103、経100)
2019年度入学予定者 (11日間)	2/25(月)、26(火)、27(水)、28(木)、3/7(木)、8(金)、11(月)、12(火)、27(水)、28(木)、29(金) 656名(総経94、観光90、栄養57、スポ112、教育84、商91、経98、不明30)
のべ日数：31日間	のべ面談人数：1,803名

② キャリア面談員の体制

キャリア面談員総数：26名(県内21名、県外5名)、法人契約：3事業所20名

(7) 入学前教育プログラムの運営

学部	入学前自己ワーク	1月送付、4/1(月)提出
	入学前キャリア面談	2/25(月)～3/29(金)
	入学前セミナー	4/1(月)～3(水)
短大	入学前集合セミナー	2/16(土)、3/23(土)
	入学前キャリア面談	2/25(月)～3/29(金)
	ウェルカムフェア、プレオリエンテーション	3/23(土)
	入学前セミナー	4/2(火)～

3) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) インターンシップについて

本学におけるインターンシップはこれまで、正課外科目として位置付けられていたことから、主にキャリアセンター職員が担う業務であり教員の関わる部分は限られていた。しかし第2次中期目

標・計画の中では文科省の動向を踏まえてインターンシップの今後のあり方が示され、短大では2019年度から、学部では2021年度から正課科目として単位化することが決まった。それを受け、実習期間を5日間以上設け本学のインターンシップに理解いただける企業の開拓を実施することになり、結果的に約30事業所の協力を得て2019年度のインターンシップ事業を進めることになった。また、単位化にあたりインターンシップを教務マター化することになり、キャリアセンターとは一定の距離を置いた2019年度からインターンシップ推進委員会が立ち上がることが決まり、教職員による組織的な取り組みが始まることになった。開始初年度であることから、まずは新しい形となるインターンシップ事業が滞りなくスタートすることに重点を置くことになると考えられるが、2020年度以降は内容を深めると共に、より効率的なプロセスを検討し実行することが求められる。他大学の多くがインターンシップを単位化して10年前後が経過しており、その中で様々な問題を乗り越え改善を重ねている。本学においてもより良いインターンシップをめざすためには、5年後10年後を見据えて年々改善を図り、教職員が協力して取り組まなければならない。

(2) 学生の個別支援

主に履歴書・エントリーシートの添削のほか、面接練習の対応件数過多の状況が続いている。さらに企業等の選考プロセスが早期化の傾向にあり、添削指導のピークが3~4月、面接練習のピークが4~5月となった。その結果、前年から約1ヶ月前倒しした採用スケジュールとなり、短期集中の個別支援を行うこととなった。年度始めは様々な業務が重なる中で、ほぼ終日個別指導に時間を割くことになり、事務作業は終業時刻以降に取り掛かる状況が続いた。働き方が注目される社会的な背景を踏まえ、学生の個別支援方法について今後何らかの対策を講じる必要があると考えている。具体的には、3~5月の個別指導が集中する時期に限定した臨時スタッフの起用、または個別指導の受入枠を定員制にするなどの対策を検討したい。また、添削指導を行う中で、文章の内容以前に国語力が不足していることを強く感じる。基礎教育センターをはじめとする関係各署と連携して国語力の向上を図ることにより、より良い添削指導に繋げることができればと考えている。

(3) 学内合同企業説明会

学内合同企業説明会を2018年6月に1回、2019年3月に2回の計3回開催した。6月は採用活動解禁から3ヶ経過後の開催で、採用プロセスの早期化の影響から、前年27%から22%に低下した。次年度は更に早期化が予想されるため、1ヶ月前倒しした5月開催を予定している。また、2020年はじめの合同企業説明会は2日間連続開催とし、参加企業を大幅に増やす予定としている。企業の採用意欲が旺盛な状況を背景に、会場の収容限度があるため合同企業説明会参加をお断りする事態が複数生じたため企画するに至った。初めての試みではあるが、本学学生と企業双方にとってもより良い機会となるよう工夫し、定例化できるよう努めたい。

(4) 夏期就職合宿、就職対策講座、就活直前講座

学部生対象に10年以上に渡る恒例行事として、夏季就職合宿を企画・運営している。学生の満足度が毎年高水準である一方で、宿泊を伴う合宿形式である必要があるのかという声がある。行事運営のためには教員の協力が欠かせないが、学会や研究などそれぞれ予定がある中で、スケジュール調整が難しいのが実情である。また、学生にとっても1泊2日の形態の是非が分かれるところであるように感じる。ある大学では全学生を対象に1~2日でプログラムが完結するといった事例があり、できればその様子を次年度視察し、参考にしたいと考えている。現在は1泊2日が2回、就職対策講座が合計3回の計7日間をかけているが、日程面において効率的な企画のあり方を検討したい。

(5) 企業との情報交換・情報収集

① 企業情報管理の枠組み

帝国データバンクから約1万件の企業情報を購入し、求人依頼を行うことが過去約10年に渡って続いていた。その名残もあり、現実的に管理できる企業数を踏まえた企業情報管理が不十分な状況と言える。一部の大学と情報交換したところ、求人依頼をはじめする企業情報管理数は数百社～2千社前後である一方で、インターンシップ生の受け入れなど密度の濃い関係を構築している例も少なくない。本学においても採用面だけでなく各種行事に協力いただいている企業があり、そうした企業をはじめとする管理可能な企業数を一定の枠組みとして設定し、きめ細かい企業情報管理に取り組むことに着手したいと考えている。

② 企業訪問について

現在キャリアセンターとして実施している企業訪問は、嘱託専任職員が行う年間約300事業所への訪問が主となっている。企業訪問を通じて前年度内定のお礼や求人依頼、そして各種就職支援行事への参加協力要請などを行っている。ここ数年の企業訪問は限られた時間の中で最大限の効果が得られている一方で、学内の教職員に企業訪問の状況が伝わっていないことから情報共有の必要性が挙げられている。今後、まずは企業訪問の状況を委員会において共有し、教職員間の意見交換のきっかけとしたい。

(6) キャリア面談

① キャリア教育と就職指導の区別

第2次中期目標・計画の中で、社会の中で個人がいかに能力を発揮して生きるかといったキャリア教育と就職活動を行うにあたっての就職指導の区別について触れられている。キャリア面談はいずれに該当するか微妙な点もあるが、少なくとも「入学前キャリア面談」「学部2年生キャリア面談」は就職指導に該当しない。今後、キャリアセンターが学生の就職指導ならびに企業との情報交換などの業務に重点を置くためには、「入学前キャリア面談」「学部2年生キャリア面談」の位置付けを明確にした上で、担当部署や担当者を検討する必要があると考える。

② 年度末における業務の改善について

2018年度末の2～3月におけるキャリア面談の所要日数は19日間であった。また、当日の対応だけでなく、運営計画の作成、日程変更の個別対応などを含めると極めて多くの時間と労力を要する。そのため、当年度の進路未決定学生に対する就職支援、及び次年度学生に対する就職活動準備支援のための時間が減少し、キャリアセンターの主業務である就職支援を疎かにしてしまう可能性が否めない。さらに来年度からはインターンシップの取り組みを強化する予定であり、年度末の2～3月は企業訪問等の準備に追われることが予想される。こうした状況から年度末における業務の見直しを図る必要があると考えており、具体的には課内において分業体制を強化すること、あるいはキャリア面談業務を単位化し非常勤教員に移管することなどを含め、今後の検討課題としたい。

＜執筆担当／キャリアセンター 課長 中村 高士＞

4. 情報センター

1) 年度当初の予定 <P>

情報センターの主な業務は、下記のとおりとなっている。

(1) 教育・研究の支援

パソコン教室7室の整備、ロケーションプリンタの整備、コンピュータ関連科目の講義補助、学

生向けオリエンテーションの実施。

(2) 情報機器の維持管理

ネットワークおよびサーバー類の維持管理、パソコン教室の整備、教職員パソコンの管理、貸出しノートパソコンの管理。

(3) 資格取得支援管理

各種検定試験の実施に関する学生支援および運営。

(4) その他

シニア大学 PC 講座の実施。

2018 年度当初に計画された情報センターの新規事業は下記のとおりである

(1) 学術・研究の支援

- ① Wi-Fi 環境の再構築 (図書館、3 号館 3F、4 号館大会議室および第二会議室、7 号館 3F のアクセスポイントの機器入替)

(2) 情報機器の維持管理

- ① 学務システムソフト(Mathfia)のカスタマイズ
- ② パソコン教室の整備 (321PC 教室の PC 入替えおよびシンククライアント化)
- ③ 仮想デスクトップシステムの研究については、予算との兼ね合いで未実施
- ④ ハンディターミナルによる情報機器全般の管理については、技術面が追い付かず未実施
- ⑤ セキュリティ対策として職員会議で研修を実施

(3) 資格取得支援管理

- ① 各種検定試験・資格取得試験の支援・奨励金制度の運営および実施

(4) 情報センターの再検証

- ① フリーソフトの活用について、一部のソフトを除き、移行を進めた。
- ② Wi-Fi の管理については、求める技術を擁する企業を見つけられずにいる状況。
- ③ 予算に関して、教職員のノート PC 化、学生貸出しパソコンのレンタル化に着手。また、教員用プリンタのインクをメーカー推奨でない製品を導入し予算削減を図った。

2) 計画の実施・現状説明 <D>

継続する事業および新規事業は、ほぼ計画のとおり実施された。当初の計画、予算執行において計画の変更のあったものについて以下に記述しておく。

- ① 311、312、322 教室のシンククライアント化、また、211、212 教室の機材入れ替えを、1 年前倒しして実施し、7 教室すべてを Windows10 とすることができた。
- ② Web メール環境構築をさらに推進し、教職員すべてにおいて Office365 を導入した。
- ③ Wi-Fi 環境の再構築で、6 号館 1F 会議室が繋がり難いとの声が上がったことから、急きょアクセスポイントを入れ替えた。
- ④ 311PC 教室で机下のコンセントで漏電によるショートがあったため、全ての PC 教室においてフラット型のコンセントに入れ替えた。
- ⑤ 情報センターの再検証のために、共愛学園と玉川学園に依頼し、視察を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 学術・研究の支援

学術・研究の支援対策として、情報機器の拡充を目的に、PC 機器をフロアに設置し学生の利便性を図ってきたが、設置する台数および場所に限界があり、今後は、個人で持つノート PC の普及に向けた方策が必要と考えている。この問題には課題があり、講義で頻繁に使用すること、レポート等の課題が定期的に出され、個人でノート PC を持つ必要性を学生自身が感じるものが要件となっている。

(2) 情報機器の維持管理

2018 年度はネットワーク環境の「セキュリティ脆弱性対応の強化」「委託・維持経費の軽減」を目標とし、「情報センターおよびデータセンター配置の物理サーバー（一部）を仮想サーバーに移行」「通信のフィルタリング導入」を実施した。2019 年度以降は「仮想サーバーへの移行」「BYOD 端末（持ち込み機器）へのセキュリティ対策」などの課題がある。

メール環境を Office365 に移行したことにより、学外メール環境が整った。しかし、情報機器を学外で運用する規定等の整備が整っておらず、早々に対応が必要である。

ネットワーク機器（サーバー、スイッチング HUB、UPS、AP、LAN 等）の機器整備と機器交換をおこなった。故障発生前に整備・交換する業務体系に移行できるよう、改善が必要である。

PC 教室の仕組みを、シンクライアント環境に完全移行した。これにより、以前より短時間で整備することができ、PC 教室内での統一性を高めることができた。今後は授業のサポート機能（ファイル配布・回収等）整備が課題である。

2018 年度は、前橋国際大学・玉川大学の視察に伺い、情報インフラ整備を中心に意見交換をおこなった。意見交換の結果、本学の教職員および学生へのインフラ整備が他大学に比べ、過剰であると判明した。視察の結果と「限られた資金・人員で持続可能な維持・管理」を念頭に次年度以降のインフラ整備を検討・実施することが今後の課題である。

(3) 資格取得支援

年々資格取得試験の受験者は増加している。特に学部生の受験者数が増加しており、教員が資格内容と授業カリキュラムと密接に組み合わせ、受験への声掛けを行ってくれていることに起因する。学生が社会に出るうえで基本的な職業能力、パソコン操作、会計事務など知識を保持している指標として資格取得の重要性をさらに理解できる方策を計画したい。

新規に団体申込を始める検定試験等については、学生の資質向上につながることや運営が可能なことをよく見極めた上で、委員会で審議したいと考えている。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2019 年度は、学内のパソコン環境を Windows10 へ移行する年度に当たり、その対応が迫られる。コストダウンについては継続して常に意識していきたいと考えている。また、Office365 導入により、教員と学生、教員と職員間のコミュニケーションがクラウドを通じてスピーディーに行える可能性を秘めている。また将来、職員の業務時間短縮にも繋げるという視点で検証したい。さらに情報センターそのものの業務の見直し、改善を図りたいと考えている。

(1) 学術研究・教育の支援

- ① 学内のパソコン環境を Windows10 および Office 最新版への移行
- ② Office365 (Teams) を活用した教員と学生のコミュニティの創造
- ③ 学務システムのカスタマイズ (Mathfia)

(2) 情報機器の維持・管理

- ① 学外における情報資産保護内規制定とガイドラインの作成
- ② Wi-Fi のセキュリティ対策
- ③ メンテナンス計画の策定
- ④ 新 IC カードへの対応
- ⑤ 仮想デスクトップシステムの研究

(3) 資格取得支援

- ① 各種検定試験・資格取得試験の運営業務を教務課へ移行

(4) 情報センターの再検証

- ① 学生用 PC (貸出し用・学内設置) のレンタル化推進
- ② 教職員のノート PC 化の推進
- ③ Office365 (Teams) を活用した会議の実施
- ④ 教卓 PC の廃止を検討

<執筆担当/情報センター 課長 田中 雅俊>

IV. 入試・広報室

[組織と委員会]

入試広報室は入試広報委員会・A0入試運営委員会の事務部門を担当した。前者は学生募集活動・入試業務・広報業務、後者はA0入試の内容の検討および運営を行っている。

人員構成は入試広報室長他、専任職員3名、派遣職員2名、の6名体制で活動した。

[職務分担]

学生募集および入試業務、広報活動において専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、進学説明会・入試相談会、オープンキャンパスの企画・運営及び授業公開、高校生の大学見学受け入れ、学生組織マツナビの管理・指導、入試業務全般を主体となって担当した。派遣職員は各種募集活動に係わる営業補助業務（オープンキャンパス、高校訪問、説明会等における各種ツール等の準備や来場者管理、アンケート集計管理）、出前授業等の教員手配、高校生個人情報データ整理、入試事務処理等の学内業務を主に行った。また広報関連業務としてパンフレット（大学総合案内、松商短期大学部ナビゲーション等）や大学定期広報誌「蒼穹」の制作ディレクション及び取材、編集業務、各種メディアへのプレスリリースを主に担当した。

[点検・評価]

1. 学生募集活動、2. 2019年度入試、3. 大学広報、の3項目に分けてPDCAサイクルに沿った点検・評価を行う。

1. 学生募集活動

1) 2018年度入試・学生募集活動を受けての2019年度入試への課題 <P>

2018年度入試では、首都圏の大学の入学定員管理の厳格化や県内私大の公立化、また県立大学の開学によって、入試全体が難化したことにより、志願者全体が安全志向となり、前年度引き続き本学への志願者は増加した。本学を併願校とする志願者の増加も要因のひとつである。特に、総合経営学部は過去最大の志願者数となり、特に指定校推薦入試、公募推薦入試、AO入試での志願者が増加したため、一般入試、センター利用入試で、かなりの受験生が不合格となる状況になった。そのため2019年度入試に向けては各高等学校の指定校推薦の枠数の見直しを行う。定員増を行ったスポーツ健康学科においては志願者が減少した。これはスポーツ系統の人気の高まりにより、スポーツ系学部を新設する大学が増えていることで受験生の選択肢が増えていることも要因のひとつと考えられることから、より本学を志願しやすい入試区分の新設を行う。健康栄養学科は県立大学開学の影響が心配されたが、結果的には2017年度入試よりも志願者、入学者ともに増加した。県立大の開学により、栄養学の認知が高まったこともあるが、2019年度入試に向けてはさらに募集活動の強化、他大学との差別化が必要である。教育学部は2年連続で定員確保ができない結果となった。しかしながら志願者が減少した中で入学者は増えており、2019年度入試に向けては、志願者の更なる増加に向け、認知度のアップ、募集対象としている高校およびエリアを拡大して募集活動を行う。

松商短期大学部においては、前年度並の入学者の確保ができたが、景気の影響を受けやすいことから、2019年度入試に向けては、高卒、専門学校卒との就職先の違いについての広報活動を積極的に行い、就職希望者や専門学校進学予定者からの進路変更を狙う。

2) 2019年度入試の学生募集活動で重点を置いた活動とその結果 <D・C>

(1) オープンキャンパス及び高校生対象の公開授業

オープンキャンパスは学生募集活動において中心を担う最も重要な活動であり、志願者確保に向けた有効な手段である。2018年度のオープンキャンパスは4月の短大のオープンキャンパスに始まり、5月から9月まで計6回と3月末の春のオープンキャンパス、の全8回の実施、10月には高校生のための授業公開を実施した。

オープンキャンパス、授業公開日を含めた高校生の参加者は下記の通りである。

- ・総累計（延べ人数）は1,877名（昨年度2,186名）、前年比4%減
- ・総合経営学科 累計252名（昨年度274名）、前年比8%減
- ・観光ホスピタリティ学科 累計191名（昨年度161名）、前年比19%増
- ・健康栄養学科 累計264名（前年262名）、前年比1%増
- ・スポーツ健康学科 累計329名（前年291名）、前年比13%増
- ・学校教育学科 累計145名（前年124名）、前年比17%増
- ・松商短期大学部 累計391名（前年576名）、前年比22%減

上記のとおり、全体では17年度より減少しているが、これは複数回参加者が減少していることが影響している。総合経営学科の難易度が年々上昇していることもあり、観光ホスピタリティ学科志望が増える傾向は継続。スポーツ健康学科の増加はAO入試の試験区分が増えたため、エントリー条件であるオープンキャンパスのAO入試説明会に参加する志願者が増えたことが大きい。教育学部については認知度の上昇もあり、前年比では全学の中で一番の増加がみられた。しかしまだまだ参加人数は不足しており（最少の観光ホスピタリティ学科並みになるにはまだ50名ほど不足）、その対策として志願者が増えている県外高校生の関心度も上げる必要がある。

(2) 進学説明会・相談会

一般会場（総合施設やホテル等）での業者主催の説明会は長野県内を中心に山梨県、新潟県、静岡県、群馬県の全29回（前年35回）参加し662名（前年600名）の高校生と面談した。費用対効果や日程を考えて参加する会場を絞りこんだが、結果的に面談した人数は上昇し、効率的な説明会参加となった。

(3) 高校での説明会・模擬面接、系統別説明会等

進学情報業者主催、高等学校主催併せて79回の説明会（系統別、個別相談、模擬面接、進路講話等）に参加し、述べ919名の高校生と面談した。高校別または学年別の進路講演会等は直接的な接触が可能で効率的かつ効果的である。特に模擬面接については本学希望生徒のみに実施することで、大学説明と合わせたより詳しい説明を行った。

(4) 高校での出前授業、模擬講義（高等学校主催、業者主催）

長野県内を中心に高等学校で実施した出前授業、模擬授業は年間56回、高大連携による模擬講義は年間38回実施した。その他にオープンキャンパスでの模擬講義を計89回実施した。

出前授業については高等学校から直接依頼を受けられるよう、本学ホームページ上で案内をしている。

(5) 高校生の大学見学受け入れ（高校主催、業者主催）、一般の大学見学

高校生を中心に中学生や一般の見学を積極的に受け入れた。高校生対象は年間32回、延べ1,135人の高校生と引率教員を受け入れ、大学・短期大学の概要、本学の教育の特長、進路講話（大学進学の意味・目的、将来の仕事等）等の講演を毎回実施した。また学内施設見学もMatsu.navi（マツナビ）が中心となり毎回実施した。

(6) 進路講演会（進路講演・キャリア講演）

高等学校を始め、中学校からの依頼もあり、進路選択やキャリア教育の講演も積極的に受け入れた。出前講義、進路講演会についても Web（ホームページ）上に内容を掲載し、高校からの要請を積極的に受けるようにしている。

(7) 高等学校教員対象学生募集説明会

6月に長野会場（長野県生涯学習センター）、松本会場（本学）で実施した。長野会場は12校12名、松本会場は21校、23名と昨年並みの参加となった。2018年度入試の総括および2019年度入学者選抜試験の内容の変更等についての説明と、合わせて入試相談会も行った。相談は指定校推薦枠の有無や一般入試の難易度についての質問が多かった。

(8) 入試相談会

10月13日（土）、11月23日（金）、平成31年1月24日（木）、25日（金）の4日間入試相談会を実施し、一般入試、大学入試センター試験利用についての相談の受付や、短大 A0Ⅲ期・Ⅳ期入試の説明を行った。

(9) 高校訪問

長野県内高等学校を中心に定期的な高校訪問を実施した。4月中旬から5月に上旬にかけて2018年度入学者選抜試験の結果についてや、卒業生の就職状況等について報告を行った。特に総合経営学部志願者と不合格者が多かった高等学校には、得点率などのデータを基に詳細な状況説明を行った。またあらためて募集定員管理の厳格化による入試への影響について説明し、総合経営学部については今後指定校推薦数を減らざるを得ない状況に理解を求めた。教育学部については進学校に偏ることなく訪問し、教員養成系統への進学数や実際の進学先の確認を行った。

6月から7月にかけて指定校推薦の依頼に長野県内、新潟県、山梨県を中心に高校訪問を行った。教育学部に進学実績のある高校については教員と同行訪問を行った。9月には指定校を含む推薦入試出願状況把握のための高校訪問を実施。11月、12月は長野県内進学校へ教員養成系志望者への一般入試の案内と、短大への進学実績の高い高校や今年志願が減った高校を中心に訪問し、一般入試、センター利用入試での受験、今年度はA0入試がまだあることを伝え受験を促した。高校訪問については、特に時期を限定せず、年間で更に訪問回数を増やす必要がある。

(10) 学生募集用ツールの制作

① パンフレット・チラシ等

- ・2019年度版大学案内パンフレット・2019年度版短期大学ナビゲーション
- ・オープンキャンパス告知チラシ・ポスター
- ・オープンキャンパス告知・入試相談会告知 DM はがき
- ・公開クリニック 2018年版チラシ
- ・松商短大 16 フィールド体験ツアーチラシ
- ・春のオープンキャンパス 2019 告知チラシ

② 過去問題集

- ・2019年度受験者用 松本大学・松本大学松商短期大学部過去問題集

(11) 媒体等による募集広報活動

業者企画の進学情報誌（全国版）や進学 Web 媒体の利用は最低限に抑え、長野県内や近県の高

校生にアプローチできるものを選定した。

① 進学情報誌・その他雑誌

情報誌 19 件、Web 媒体 3 件を実施した。

② 電波媒体 (TVCM)

- ・松本大学・松商短期大学部イメージCM (信越放送/木)
- ・オープンキャンパス告知スポットCM (5月～9月県内民放2局、新潟県、山梨県各1局)
- ・入試日程告知CM (12月～2月長野県内2局、新潟県、山梨県各1局)
- ・あづみ野FMラジオCM (年間)
- ・FMまつもと ラジオCM (年間)

長野県内および、山梨県、新潟県からの受験生に対応

③ 新聞・雑誌を利用した広告

地元新聞・雑誌を中心に山梨県、新潟県、群馬県でも一般入試に合わせて入試案内告知を行った。

- ・オープンキャンパス告知 (長野県、新潟県、山梨県、群馬県)
- ・一般入試・センター利用入試の告知 (長野県、新潟県、山梨県、群馬県)

長野県内及び新潟県、山梨県、群馬県の地域新聞媒体を使い、オープンキャンパス告知及び入試日程告知を実施した。2019年1月6日には信濃毎日新聞朝刊で松本大学、松商短期大学部の新年イメージ広告を30段 (見開き2ページ) 掲載した。(3年連続で信濃毎日新聞社の話題広告賞にもなった)

④ Web 媒体

ホームページでの情報公開については、各教員や各部署からの情報がスムーズに入試広報室に入るよう全学入試広報委員会にて情報共有を徹底し、タイムリーな情報公表に力を入れた。また、見やすい画面デザインや仕組みにするため、随時メンテナンスおよび補修作業を行った。Web 出願のため募集要項も全てホームページで公開となっているが、高校生の多くがスマートフォンでの情報検索が主体であることから本学ホームページもスマートフォンに完全対応した。

また高校生への情報発信として、入試広報室独自の「LINE」(ライン)を活用した情報発信を行い、オープンキャンパスの案内や、入試日程の案内を行った。現在登録者は3,000人を超えている。

(12) M@tsu.navi (マツナビ) の育成

学生募集活動を支援する学生組織「マツナビ」は、今年度も多くの新生が参加してオープンキャンパス、大学見学案内、学生募集説明会や新生の入学前教育などの際に活躍した。マナーや、学部・学科の学修内容理解、施設の説明など、各担当セッション毎にセミナーや研修会を行い、日々能力の向上に努めている。学生は大学・短大、学部・学科・学年問わずに参加しており、お互いに他学部の勉強会をするなど、組織として縦よりも横のつながりが強い。また、オープンキャンパスに参加した高校生の憧れの的にもなっており、アンケートに高い評価が寄せられていたり、また面接試験時の大学・短大の志望理由になることも増えている。

3) 2020年度入試に向けての学生募集活動の課題 <A>

今年度オープンキャンパスへの参加者数が3年ぶりに前年度より減少した。複数回参加者が減ったこともあるが、松商短大の減少数が大きく、最終的に志願者減にもつながった。松商短大のPR強化、認知度のアップは急務であり、高校生の就職希望者および専門学校進学を取り込んでいくため、募集活動を学部には比ば早めていくことが必要である。教育学部はオープンキャンパスへの参加数は

増えたものの、まだまだ他学科に比較して不十分な数字であり、特に進学校の高校生からのオープンキャンパス参加が少ないことを考えると、進学校向けにはオープンキャンパスとは別のアプローチの方法を考える必要がある。また、志願者の出身エリアを見ると、県外がエリアも人数も年々増えていることから県外の高等学校にも営業活動が必要である。健康栄養学科については栄養系統の志望者が全国的に志願者減っていることもあり、また資格取得を目的としている学科のため他大学との差別化が難しいため、コース制や就職実績で他大学との違いをアピールすることで安定的に志願者を確保していくことが重要である。逆に現在人気のあるスポーツ・健康系統のスポーツ健康学科は、19年度入試で大きく志願者を伸ばしたが、この状況が継続される保証はなく、状況を注視していく必要がある。

入試の結果から志願者が増えているのは好景気や他大学の公立化による県内進学希望の受験生の本学への集中、首都圏大学の定員管理の厳格化本学等の影響で現れた状況であり、このままこの状況が続くことは考えづらい。状況の良い今のうちに、更なるPR材料作り、PR方法の検討、また入試改革を行っていく必要がある。

2. 2019年度入学試験

1) 実施計画 <P>

昨年の入学者選抜試験の結果をもとに、2019年度入試は試験区分および各区分の定員変更、試験内容の変更を行う。

■総合経営学部

総合経営学部は両学科の指定校推薦入試に筆記試験（文章理解）を導入する。

A0入試は2回の実施から1回に回数を変更。あわせて総合経営学科のA0入試区分の募集定員を2名減の8名とし、一般A入試区分の募集定員を2名増の20名とする。

観光ホスピタリティ学科のA0入試区分の募集定員を2名減の8名とし、一般A入試区分の募集定員を2名増の17名とする。

<2018年度入試区分別募集人数>

	入試区分	募集人員	
		総合経営	観光ホスピタリティ
推薦	推薦前期（指定校・公募）	40	35
	推薦後期（公募）	5	5
	自己推薦	若干名	若干名
A0	A0	8	8
一般	一般A	20	17
	一般B	3	3
	一般C	2	2
センター利用	センター利用Ⅰ期	8	6
	センター利用Ⅱ期	2	2
	センター利用Ⅲ期	2	2
その他	外国人留学生前期	若干名	若干名
	外国人留学生後期	若干名	若干名
	帰国生徒	若干名	若干名
	社会人	若干名	若干名
編転入	編入学／転入学Ⅰ期	3/若干名	3/若干名
	編入学／転入学Ⅱ期	2/若干名	2/若干名

■人間健康学部

健康栄養学科については2018年度入試から変更点なし。

スポーツ健康学科はAO入試を昨年と同じ一般選抜方式に加え運動能力テストとプレゼン型面談で判定する運動型選抜方式を導入。また、強化部に所属する志願者および高いスポーツにおいて優秀な成績を残している志願者に対して、新たな推薦入試の区分として指定競技特別推薦入試を導入するため、推薦前期入試の募集定員を15名減の30名とし、指定競技特別推薦の募集定員を15名＋若干名とする。

	入試区分	募集人員	
		健康栄養学科	スポーツ健康
推薦	推薦前期（指定校・公募）	28	30
	推薦後期（公募）	3	5
	指定競技特別推薦Ⅰ期	－	15
	指定競技特別推薦Ⅱ期	－	若干名
AO	健康栄養学科AO	5	－
	スポーツ健康学科AOⅠ期（一般選抜）	－	10
	スポーツ健康学科AOⅠ期（運動選抜）	－	4
	スポーツ健康学科AOⅡ期（運動選抜）	－	4
一般	一般A	18	17
	一般B	3	3
	一般C	若干名	2
センター利用	センター利用Ⅰ期	10	10
	センター利用Ⅱ期	3	2
	センター利用Ⅲ期	若干名	2
その他	健康栄養学科社会人AO	若干名	－
	スポーツ健康学科社会人AOⅠ期	－	若干名
	スポーツ健康学科社会人AOⅡ期	－	若干名
	外国人留学生後期	若干名	若干名
	帰国生徒	若干名	若干名
編転入	編入学Ⅰ期	3	3
	編入学Ⅱ期	2	2

■教育学部

教育学部は推薦入試の筆記試験を5教科総合問題から文章理解に変更。また、AO入試の提出書類として、新たに学部独自のエントリーシート、活動報告書、学修計画書を課す。

また、一般入試A・B・C、センター利用入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の必須科目の変更を行い、一般入試A・B日程は国語を必須、C日程は必須科目なし。センターⅠ期・Ⅱ期は国語を必須。Ⅲ期は必須科目なしとする。各入試区分における募集定員の変更はなし。

	入試区分	募集人員
		学校教育
推薦	推薦前期（指定校・公募）	24
	推薦後期（公募）	3
AO	AO	5
一般	スカラシップ	7
	一般A	20

	一般 B	2
	一般 C	2
センター利用	センター利用スカラシップ	3
	センター利用Ⅰ期	10
	センター利用Ⅱ期	2
	センター利用Ⅲ期	2
その他	社会人 A0	若干名
	外国人留学生	若干名
	帰国生徒	若干名

■松商短期大学部

松商短期大学部は A0 入試をⅢ期・Ⅳ期まで設け、一般入試に面接試験を導入する。

推薦前期入試の募集定員を 5 名減の 60 名とし、推薦後期入試の募集定員を 5 名増の 10 名とし、一般入試、センター利用入試の募集定員を見直しを行い、一般 A 入試 6 名、B 入試 2 名、C 入試 2 名、センター利用Ⅰ期 6 名、Ⅱ期 2 名、Ⅲ期 2 名の募集定員を割り振る。

	入試区分	募集人員	
		商	経営情報
推薦	特待生推薦（公募）	若干名	若干名
	推薦前期（指定校・公募）	60	60
	推薦後期（公募）	5	5
	自己推薦	5	5
A0	A0Ⅰ期	5	5
	留学支援型 A0Ⅰ期		
	A0Ⅱ期	5	5
	留学支援型 A0Ⅱ期		
	A0Ⅲ期	若干名	若干名
	留学支援型 A0Ⅲ期		
	A0Ⅳ期	若干名	若干名
	留学支援型 A0Ⅳ期		
一般	一般 A	6	6
	一般 B	2	2
	一般 C	2	2
センター利用	センター利用Ⅰ期	6	6
	センター利用Ⅱ期	2	2
	センター利用Ⅲ期	2	2
その他	社会人 A0Ⅰ期	若干名	若干名
	社会人 A0Ⅱ期	若干名	若干名
	社会人 A0Ⅲ期	若干名	若干名
	社会人 A0Ⅳ期	若干名	若干名
	外国人留学生前期	若干名	若干名
	外国人留学生後期	若干名	若干名
	帰国生徒	若干名	若干名

2) 2019 年度入学試験の結果 <D>

■松本大学大学院

研究科	専攻	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
健康科学	健康科学	6	7	7	7	1	7	7	116.7%
合計		6	7	7	7	1	7	7	116.7%

※留学生を除く

■松本大学

1年次入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	90	486	483	142	340.1%	107	107	118.9%
	観光ホスピタリティ	80	358	357	113	315.9%	95	95	118.8%
	小計	170	844	840	255	329.4%	202	202	118.8%
人間健康	健康栄養	70	170	166	131	126.7%	64	64	91.4%
	スポーツ健康	100	324	318	140	227.1%	124	124	124.0%
	小計	170	494	484	271	178.6%	188	188	110.6%
教育学部	学校教育学科	80	273	269	192	140.1%	95	95	118.8%
	小計	80	273	269	192	140.1%	95	95	118.8%
合計		420	1611	1593	718	221.9%	485	485	115.5%

※留学生を除く

編・転入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	5	5	5	4	125.0%	4	4	80.0%
	観光ホスピタリティ	5	1	1	1	100.0%	1	1	20.0%
	小計	10	6	6	5	120.0%	5	5	50.0%
人間健康	健康栄養	5	6	6	6	100.0%	6	6	120.0%
	スポーツ健康	5	1	1	1	100.0%	1	1	20.0%
	小計	10	7	7	7	100.0%	7	7	70.0%
合計		20	13	13	12	108.3%	12	12	60.0%

※留学生を除く

■松本大学松商短期大学部

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
短期大学部	商	100	130	129	118	109.3%	101	101	101.0%
	経営情報	100	150	148	113	131.0%	104	104	104.0%
合計		200	280	277	231	119.9%	205	205	102.5%

3) 2019 年度入学試験の評価 <C>

総合経営学学科は合格者に対する志願者の競争率は 3.05 倍、観光ホスピタリティ学科は 2.87 倍となり、昨年同様高倍率となった。健康栄養学科の志願者数は前年とほぼ同数だったものの、合格者 131 名に対し入学者 64 名という状況で、昨年度の歩留まり率 62%から大幅減の 48%となった。これが定員に満たなかった最大の要因と考えられる。歩留まりが下がった理由としては、長野県立大学の開設の影響もあるが、入学辞退者の進路変更先が管理栄養士養成大学でない場合が多く、志願者が管理栄養士資格の取得を目的としていない、いわゆる理系志望者層に変わってきていることも考えられる。スポーツ健康学科は新入試区分 A0 入試運動選抜と指定競技特別推薦の導入が効果を発揮し、志願者が大幅に増加して志願倍率が昨年度の 1.37 倍から 2.27 倍へと上昇した。高校在学中に運動に力を入れてきた生徒に新入試区分が受け入れられてものと考えられる。教育学部については、集

中的な学生募集活動の実施により志願者が192名に大幅に増え、入学者95名の確保につながった。2019年度入学者は教育学部開設発表時に高校1年生だったことを考えると、志望校決定時に本学教育学部が既に存在している年代になるため、選択肢として一定の認知度があったことも要因の一つと考えられる。しかしながら推薦入試、AO入試の利用は低迷しているため、第1志望校となるような魅力のPRが必要である。

松商短期大学部については、年度当初に行った高校訪問での志願状況のヒアリングよりも大幅に志願者が少なく（推薦入試、AO入試が大幅に減少）、最後の入試まで気が抜けない状況であった。高校訪問での聞き取りからは、景気状況による就職希望者の増加、専門学校への進路変更が多かったことが確認されている。県内他短大の状況を見ないと判断できないが、やはり短大離れ、短大の認知度の低下は進んでいると考えられる。

3) 2020年度入学者選抜試験のへ課題と対応 <A>

2019年度入試は昨年度に引き続き合格者数の調整の難しい判断が要求される入試となった。

さらに、2020年度は大学入試センター試験が行われる最後の年（2021年度からは大学共通入学テスト）となるため、受験生が浪人を嫌い、推薦入試やAO入試の受験者増加することが予想される。また今まで受験のなかった進学校でも推薦入試やAO入試を受験してくる可能性も高い。特に総合経営学部、スポーツ健康学科については一般入試、センター利用入試の倍率がさらに上昇となることが予想されるため、その対策として各高等学校に依頼をしている指定校推薦の枠数や推薦基準となる平均評定値について、過去のデータを参考に大幅な見直しを行い、推薦入試受験者の抑制を行う。逆に学生募集活動の強化が必要な健康栄養学科、学校教育学科については新たな学生募集活動の強化エリアとして群馬県を設定し、会場ガイダンスへの積極的な参加、群馬県内高校に指定校推薦枠の設定を行い、志願しやすい環境整備として、一般A入試の試験会場を新たに高崎市（高崎駅前）に開設する。松商短期大学部においては、推薦入試・AO入試とも志願者が大幅に減ったことから、早期の段階から、短期大学への進学メリット、高卒、専門学校卒との就職先の違いについての広報活動を積極的に行う。

また高大接続改革の一環で2021年度入学者選抜から新入試制度が導入される。これに対応するための、英語4技能評価（外部試験導入等）、記述式問題導入、学力3要素を多面的・総合的に評価する入学者選抜試験を実施するための具体的な内容を決定しなければならないが、学生募集に大きな影響を与えないよう慎重に検討することが必要となる。なお、新入試制度への移行により、入試区分の名称がすべて変更となるため、本学では新入試制度の導入前年度となる2020年度入試より入試区分の名称変更（一般入試から一般選抜、AO入試から総合型選抜、推薦入試から学校推薦型選抜）を行う。

3. 大学広報

全学入試広報委員会の下、主に大学広報誌「蒼穹」の編集及び発行、大学公式ホームページの企画・運用・管理や報道各社への大学の様々な情報発信（プレスリリース）を行った。また、報道各社との懇談会の開催、新聞等の媒体に掲載された記事の収集と管理を行った。

1) 大学広報の活動 <P・D>

(1) 大学広報誌『蒼穹』の発行

今年度も年4回（6月、9月、12月、3月、Vol131号から134号）発行した。特集ではタイムリ

一な特色ある取り組み等について紹介した。アウトキャンパス・スタディ、地域づくり考房『ゆめ』、地域健康ステーションなど地域と連携した活動の現状や研究活動、学生活動を各回にわたり紹介した。大学関係者、学生の保護者、各自治体への配布はもちろん、高校訪問時には持参し進路指導室に配布した。

(2) 大学公式サイト（ホームページ）と運用

松本大学公式サイトについて完全リニューアルを実施した。最重要課題は高校生必須のスマートフォンに対応するためのモバイル環境への対応で、年間サイト閲覧者の約6割以上がスマートフォンやタブレットとなっている状況を踏まえ、単なるモバイル対応ではなく、見やすさ、使いやすさまでを考慮したリニューアルを行った。不具合や修正については随時対応を行い、より使いやすいホームページとなるよう、日々改良を行っている。また各部署・事業におけるポータルサイトやWEBシステムの改修支援や運用相談などにも取り組み、学内での情報共有や環境の改善について、全学的な対応ができるよう管理を行った。

2) 結果と評価・今後の課題 <C・A>

ITおよびインターネット技術・通信技術が進む中、情報発信の方法については紙ベースに頼らず、よりターゲットへのアプローチ力の高い新たなメディアを検討しなければいけない時期となっている。またより多くの情報発信をするためには、学内の情報共有方法、情報伝達方法についても新たな方法の検討が必要である。

- (1) 大学広報「蒼穹」については、タイムリーな大学からの情報発信ができるよう、次年度より毎月定期開催となる入試広報委員会での情報共有を行う。また同時に、新たな配布先について研究、検討を進める。
- (2) 公式ホームページについては、常に最新の情報の発信や最新の画像・映像を使用し、常に進化するホームページを目指す。またアクセス状況の分析を随時行い、注目されているコンテンツやアクセスの多いページなどの研究を進めていく。

<執筆担当/入試広報室長 坂内 浩三>

第4部 資料

I. 2018(平成30)年度委員会構成

カテゴリー	委員会名	付随する部会名	責任者	学長 副学長/学長				短期大学部	担当	主担当職員
				理事長	副理事長	学長	副学長			
理事會関連	評議員會			学長	副学長	学長	副学長		柴田	
	大学委員会			大学委員長	全学運営會議メンバー				柴田	
カテゴリー	委員会名	付随する部会名	責任者	大学院	総合経営学部	人間健康学部	教育学部	短期大学部	担当	主担当職員
	1	全学協議會		等々力	山田	増尾・室谷・尻無浜	木藤	川島(一)・岸田	永井・山添・浜崎	柴田 書記: 松尾・赤羽
	2	全学運営會議		学長	山田	増尾	等々力	川島(一)	永井	柴田 書記: 松尾
	3	自己点検・評価委員会		学長	山田	上野・兼村	等々力	大石	木下	柴田・松尾・赤羽(研)・中村(礼)・榎山
	4	IR委員会		学長	山田	増尾	等々力	川島(一)	永井	柴田・松尾・赤羽(研)・上條・片庭・松島・滝澤・榎山
	5	FD・SD委員会		川島(功)	齊藤	古川	*菅藤	國府田	川島(功)	柴田・赤羽(種)・赤羽(研)・中村(高)・関・中田
	6	健康安全センター運営委員会		江原	山田	増尾	等々力	川島(一)	永井	柴田・赤羽(種)・赤羽(研)・石川(大)
	7	衛生委員会		柴田	江原	益山	江原	羽田	中山	藤本・白澤・関・鈴木(佳)・(小田切)
	8	人権委員会		弘田	弘田	*八木	*新井	小島	伊東	柴田・藤本・松尾・赤羽(種)・白井・田嶋・宮坂
	9	施設管理センター運営委員会		柴田	河野	成	成瀬	澤柳	永井	柴田・白澤・赤羽(種)・中村(高)
10	危機管理委員会		尻無浜	山田	兼村	*中澤	内藤	松原	松尾・赤羽(種)・小池・中村(礼)・百瀬・石川(大)・清野	
11	入試・広報委員会		山田	山田	兼村	*高木	*岸田・和田	金子	赤羽(種)・白澤・中村(礼)・小池・百瀬・石川・清野	
12	AO入試運営委員会		坂内	山田	*兼村	山根	*大石・佐藤	浜崎	坂内・松島・滝澤・宮坂・(安藤)・(荒木)	
13	センター入試委員会		中島(弘)	山田	*田中(正)	田開	*長谷川	中島(弘)	石川(大)・赤羽(研)・伊藤・滝澤・宮坂	
14	研究推進委員会		木藤	山田	増尾・室谷・尻無浜	等々力・木藤・根本	守・川島(一)・岸田	永井・山添・浜崎	赤羽(種)・中田・清野・(船坂)・(上野田)・榎山	
15	研究倫理委員会		山田	山田	増尾・室谷・尻無浜	(研究倫理委員会のみ)	福島	飯塚	松尾・石川(大)・(簡井)	
16	競争的資金事業推進委員会		木村	廣田	*木村	白戸	*廣田	田邊	松尾・石川(大)・(簡井)	
地域連携推進部門	動物実験		等々力	木藤	矢崎	*益山	*根本	永井	柴田・赤羽(種)・白井・中村・百瀬・清野・榎山・(簡井)	
	遺伝子組換え実験安全		永井	山田	成	*尻無浜	古川	*廣田	山木	必要に応じて各委員会担当職員と連携
地域連携推進部門	COC+		永井	山田	成	*尻無浜	古川	*廣田	山木	松尾・赤羽(研)・中村・松島・榎山・飯塚・上井
	ボランティア事業		永井	山田	成	*尻無浜	古川	*廣田	山木	赤羽(研)・野田・石川(恵)・川久保・(清水)
地域連携推進部門	A.P.事業		永井	山田	成	*尻無浜	古川	*廣田	山木	赤羽(種)・白澤・赤羽(研)・白井・中村(礼)・百瀬
	地域防災対策委員会		尻無浜	河野	成	*尻無浜	古川	*廣田	山木	小池・石川(大)・清野
地域連携推進部門	地域健康支援センター運営委員会		廣田	廣田	古川	*山根	*向井	古川	*中田(浩)	松尾・赤羽(種)・飯塚・(土井)・(簡井)
	地域連携推進委員会		廣田	廣田	古川	*向井	*白戸	今村	*木藤	白井・山岸・上川・濱
地域連携推進部門	高大連携推進委員会		山添	山添	古川	*成瀬	和田	守	永井	柴田・赤羽(種)・白井・中村・中田・百瀬・清野・榎山・(簡井)
	地域総合研究センター運営委員会		木藤	山田	*田中(浩)	今村	*木藤	根本	永井	必要に応じて各委員会担当職員と連携
全学教務委員会	教務委員会(共通教育/資格取得支援/キャリア教育)		等々力	高木	*小林(俊)	向井	*矢内	田邊	*秋田・國府田	赤羽(種)・上條・田嶋・小川久保・野田・有賀・田中・伊藤・早坂
	基礎教育センター		山崎	廣田	清水	*御井	増尾・小林(俊)	川島(一)・秋田	岸田・大藏	(新井)・(生益)・(榎山)・(中野)・(柳澤)・(小松)
教育活動支援センター	全学教職センター運営委員会		山崎	廣田	増尾・小林(俊)	岩間・小松・中島(節)	岩間・小松・中島(節)	川島(一)・秋田	岸田・大藏	赤羽(研)・(鈴木(恵))
	情報センター運営委員会		浜崎	齊藤	*小林(俊)	廣次	平田	*齊藤	澤柳	赤羽(研)・田嶋・上條・(中野)・(小松)
国際交流センター	図書館運営委員会		伊東	江原	田中(浩)	*八木	沖崎	*江原	國府田	田中(種)・伊藤・(早坂)
	国際交流センター会議(教育学部)		矢崎	道藤	*矢崎	田開	和田	和田	中村(純)	関澤
学生支援	学生委員会		濱田	弘田	田中(正)	*白戸	*澤田・安藤	*新井	長谷川	白澤・田嶋・関・(鈴木(佳))
	就職委員会		上野	廣田	*上野	今村	*石原	山本	*安藤・増田	中村(片庭)・片庭・松澤・丸山・今井・(田中)・(飯沼)・(三澤)

*印は主任を表す

II. アンケート調査結果(2018年度)

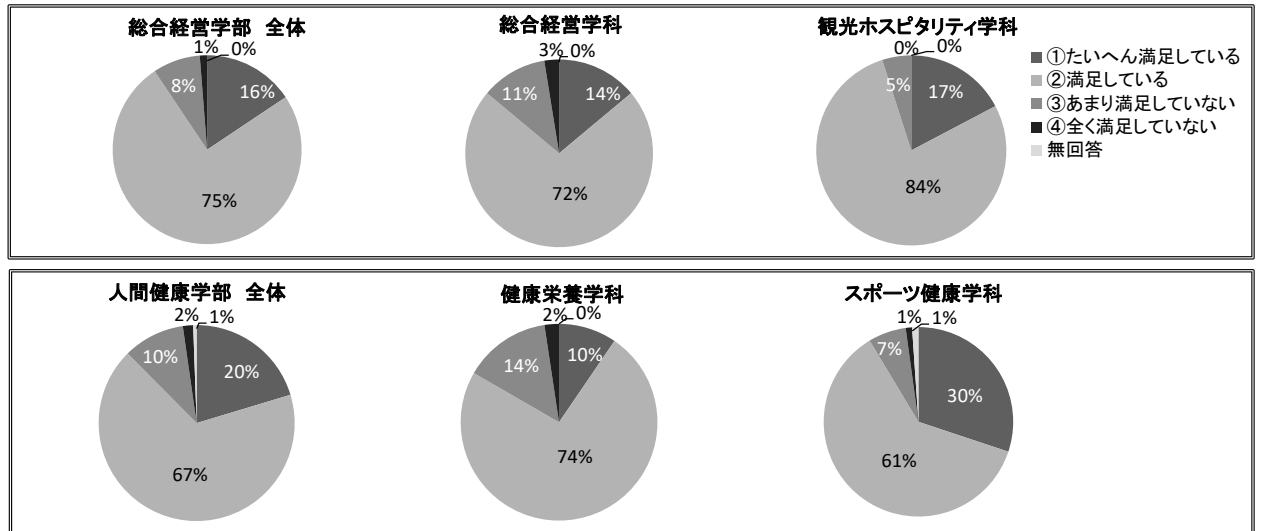
1. 松本大学卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	72	20	92	64	24	88	180	17	66	83	66	33	99	182
回収数	60	19	79	58	23	81	160	17	67	84	59	34	93	177
回収率	83%	95%	86%	91%	96%	92%	89%	100%	102%	101%	89%	103%	94%	97%

質問2. あなたは所属学部の教育に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	6	5	11	9	5	14	25	1	7	8	19	9	28	36
②満足している	44	13	57	46	17	63	120	11	51	62	37	20	57	119
③あまり満足していない	8	1	9	3	1	4	13	5	7	12	3	3	6	18
④全く満足していない	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	0	1	1	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 経営や経済について詳しく学ぶことができたから(他2名)
 法律や経営だけでなく、歴史や地域事情について学習できたから(他1名)
 経営に関して幅広く学べた
 卒論が強制ではないから
 学びたいことを学べた
 経営に関する分野だけではなく、様々な分野について学ぶことが出来ました
 総合経営では社会に出てから自分の身を守る術を学ぶことが出来るので、法律・会社の仕組み・頼る人等、とても満足しています
- ②の理由 広く様々な分野のことを学べた(他1名)
 特に不満はないから(他1名)
 良くも悪くもないから
 将来のためになる授業が多くあり、自分の人生を変えるきっかけになった
 興味を持てる学科があった
 教員に疑問を聞くことができた
 たくさんの知識を身に付けることができたから
 授業が面白いところがあった
 的を得た講義が多くあった
 自分にあった学科だったのでこれからの人生に役に立った
 自分の知らなかったことを学べたり、社会に出るために必要な知識を学べた
 楽しい大学生活送れたから
 経済のことが少し分かりそうな気がします
 成長できたので
 しっかりと知識を得ることができたため
 大学4年間までのカリキュラムで社会人へのプランなどを自分なりに立てていけることが出来た
 取りたい資格が取れたため
 理念に沿った教育がされていたと思う
 幅広い教育を受けることが出来た。地域のことをよく知ることが出来た
 心理分野も学べて自分の知識の幅が広がった
 ある程度いろんなカリキュラムも受けることが出来て満足している
 色々なことがあった4年間で自分が充実した4年であったと思います
 学びたいことを学べた(他1名)
- ③の理由 もっと専門的な学習をしたかった(他1名)
 様々な分野を学べるのはいいが、専門性が低くなってしまうので、もう少し専攻を絞ってほしい

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 様々なことを学べたから
自分が学びたい分野の勉強ができた
入学時にはなかった知識・仲間を多く得れた
社会人に必要な知識を多く学べたから
楽しい講義が多かった
ためになったから
- ②の理由 楽しく充実した学生生活を送ることが出来たため(他1名)
普通
実生活で役に立つ知識を教えてください
自分が今まで知らなかったことが知れたから
直感で思いました
先生が良い
知らない知識を身に付けることができました
自分が受けたい授業を受けることが出来たから
地域のことなどを学べたため
講義が分かりやすかった
話しやすい先生がいて良かった
学びたい経営のことが学べた
楽しかった
福祉の授業を取ることで、外の学生との違いなどもあり、勉強時間・就職活動など周りとの差が出てしまう
様々なことにチャレンジできる場だった
退学することなく4年生になれたから
様々なことを学ばせていただきました。講義もわかりやすかったです
授業がためになった
普通に通学できたので
先生方の様々な工夫を重ねられた授業で良い学びを得られた
地域と関われるような授業が多かったから
様々な資格が取れるので良かったと思った
この学部のおかげで資格がとれた
教授方はとても優しく良かった。もう少し座学だけでなく、アウトキャンパスも充実してほしい
労働について必要な知識を学べて良かった
- ③の理由 自分が興味を持った内容が少なかった
それほど専門的な科目がなかった

健康栄養学科

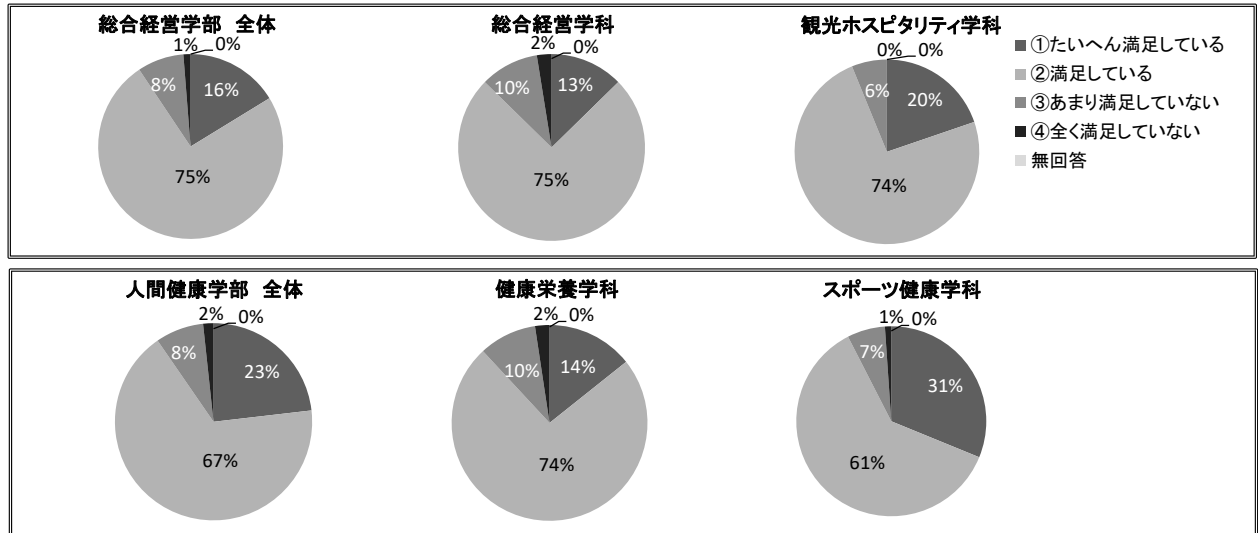
- ①の理由 先生との距離が近く深い関係を築くことができる
サポートがしっかりしている(就活・国試等)
設備が整っている
- ②の理由 勉強は出来たが他のことに打ち込む時間が少なかった
大学の先生が身近で勉強面等に色々対応してくれる。スポーツ栄養については自分の入学時時点での幅が狭かったため、その点は不満
スポーツ健康学科の学生と話ができて、いろんな人の意見を聞くことができたから
レポートを作成する力になる教育がたくさんあった
学部での関りも少しあったので良かったと思う
実践的な授業が多く、先生方も企業などで経験してきた方がいらしゃったため、現場でのお話も聞け、どのような仕事をするのかイメージすることができた
先生方から熱心に教えていただいた
専門的な勉強をすることができたため
学外へ出ていくことが多かったため
- ③の理由 スポーツ学科の生徒と同じ授業になると、少しうるさくなるため集中できないことがあった(他1名)
教科によるレベルが激しい。講義が独りよがり意味を見いだせない
パソコンが不足していると思った。6号館のパソコンが遅い
栄養くんが入っているパソコンが少なすぎる。6号館のパソコンが古い
内容に対し、講義日数のバランスがとれていない(つめこみすぎ)だと思ふ
授業が詰め込まれすぎて自分に余裕がない時期があった
テスト内容・難易度が健康栄養とスポーツで違いすぎる気がします。(教科書持ち込みOKなど)
テスト期間中に鬼ごっこ、授業中後ろでお菓子食べている、ゲームしているとスポーツと合同だと多い気が
学年が上がるごとに、教養科目が減ったりしたから
- ④の理由 学生の差別がひどい

スポーツ健康学科

- ①の理由 やりたい勉強ができた(他1名)
専門性がものすごく高く、日常生活でも活用できる知識を学べた
色々な勉強ができました
幅広い教育を受けることができ、将来に役立つものばかりであったから
充実した学生生活を送ることができた
学びが楽しいと思えた
先生との距離が近くて協力的だった
学びたかったスポーツ・運動に関して細かなところまで学べたため
楽しく学べた
学びたい内容であった(他1名)
先生方がとても親身になっていろいろ教えてくれた
専門的な分野を学べ、良い先生に出会えた
教職の授業内容が充実していた
- ②の理由 仲間がたくさんできた(他1名)
友人に恵まれた
先生等の教え方や接し方、専門知識の豊富さ
学部内での交流があればもっと多くのことを仲間から教えてもらえると考えた
スポーツ科しかできないトレーニングルームの機器を使うことが出来たから
目指していた資格を取得できたため
自分がやりたい分野のことを知れた
スポーツや身体・健康のことについて詳しく学ぶことが出来たから
自分が学びたいことが学べて良かった
資格取得に向けた専門知識を身に付けられる
専門的な知識を身に付けることができた(他2名)
先生が楽しい人が多かった
専門性があるため分からないようなことが多かったですが、充実したかなと思います
知りたいことが知れて良かった
勉強内容がやりがいがあった
自分にあつた分野を学ぶことができた
授業の豊富さ
スポーツを学べた
面白い内容が学べたから
先生と生徒との距離が近い(他1名)
自分の目指していた免許や資格が取得できそうだから
興味深い授業がたくさんあった
実習が充実している
- ③の理由 実技が少ない
テストの答え合わせを行わない先生が多く、どこがあつてどこが間違つていたか分からないまま授業が終わるので間違つて理解していた部分そのままになってしまう

質問3. あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	5	10	10	6	16	26	3	9	12	18	11	29	41
②満足している	46	13	59	45	15	60	119	12	50	62	38	19	57	119
③あまり満足していない	7	1	8	3	2	5	13	2	6	8	3	3	6	14
④全く満足していない	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	0	1	1	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由
- 地域の経済について学ぶことができたから
 - 会社の仕組みや契約の仕組みを知ることができたから
 - 専門知識を学べたから
 - 地域経済・歴史等を知ることができた
- ②の理由
- 経済経営を中心に知ることができた
 - 良くも悪くもないから
 - 将来のためになる知識を多く学べた
 - 学びたいことがしっかりと学べた(他3名)
 - 経営に関して幅広く学べた(他1名)
 - 教員に疑問をすぐ聞くことができた
 - 経営の基本から深い分野まで幅広く学べるので社会に出てからも役にたつと思いました
 - 講義は自分のためになった
 - 専門的なことを学べた
 - 学生に親身になってくれた
 - 当初、想像していた以上に学ぶ分野に幅があり、自分の視野が広がったから
 - 自分の知らなかったことが学べたり、社会に出るために必要な知識を学べた
 - 社会に役に立つ勉強ができたから
 - 経営の大切さを知りました
 - 知らないことが学べた
 - 経営について深く学べたため(他1名)
 - 経営することについてもう少し深く学びたいを感じた
 - 様々な教員と関わったので良かった
 - 取りたい資格の勉強ができた
 - 経営学・経済学だけでなく、幅広く学ぶことができとても充実した学業生活になったから
 - 先生も良い人でした
 - 経営とはどういうことか、金銭面やマーケットの流れ等細かいことまで教わるのが出来た
- ③の理由
- もっと専門的な学習をしたかった
 - 数字を読むのが苦手な人用に得意になるための講義を増やしたほうが良いと思ったから

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 おもてなしを学び、それを生かせる職場に行けるから
観光学を主に自分の視野を広げることができた
既存に得た知識をより豊富にできた
価値のある授業だったから
将来役に立つようなことをたくさん学べたから
ためになったから
楽しい講義がたくさんあったから
- ②の理由 興味のある講義を受けられた
個人個人が選んでやりたい学びを決められるため
福祉科が欲しかったです
良い学びができた
観光について学べた
地域のことをたくさん教えてもらい、就活でかなり助かりました
就職活動などの時にも役に立った
自分が受けたい授業を受けることが出来たから
様々なことを学ばせていただきました。講義もわかりやすかったです
観光のことやマナー、おもてなしなど多くのことを学べた
先生が良い
直感で思いました
観光に関わることについて学習できてとても自分のためになったから
学びたいことを学べた
先生によって教え方が悪い人がいたため、②になりました
自分のやりたいことが見つかったから
他では経験出来ないようなことを経験することが出来た
資格取得
この学部のおかげで資格が取れた
地元で貢献できる教育が多く、良かった
学びたい授業がたくさんあったから。また語学をたくさん学べた
目指した資格に関して良い学びを重ねられたように思う
面白い授業が多かったため
実際に体験することで食への意識が高まった
- ③の理由 興味を持った内容があまりなかった
履修可能科目種、特に専門性少なく選択に困った
専門的な科目が少なかった
専門的なことを学んだがもっと深く学べば良かったなど感じる。でもアウトキャンパススタディは楽しかった

健康栄養学科

- ①の理由 栄養に関する知識が深まった
教員と学生の距離が近く、学びたいことや興味のあることを聞けたり、話を聞いてもらえたりするため充実していた
先生との距離が近く深い関係を築くことができる
サポートがしっかりしている(就活・国試等)
設備が整っている
地域に密着した授業が良かった
先生方が親身になってくださる学科だと思いました
実習等の内容が充実していたと感じた
- ②の理由 大学の先生が身近で勉強面等に色々対応してくれる。スポーツ栄養については自分の入学時時点での幅が狭かったため、その点は不満
臨床系の授業が大変だった記憶があり、管理を目指すなら現場で働きなさい的な圧力を感じることがあり、管理として働いていく場合自分なら無理だなと感じてしまい、就職は管理を必要としない食品系の会社へ就職した
食品学の分野で食品成分についてもっと学ぶことが出来たら大変満足できたと思います
様々な専門知識を学べた(他1名)
学外へ出ていくことが多かったため
実習が多い(レポートが多いため大変ではあるが力になった)
色々な人と仲良くなれる。入学時期のなんとなく仲の良い人以外とも関わられるので人としての幅が広がった
栄養士としての授業だけではなく将来に向けての教育もしてくださるので良かった。優しい先生と厳しい先生の差がある
勉強面だけではない色々な面から指導していただいた
座学だけではなく、アウトキャンパスや実験・実習で体験しながら学ぶことができ良かった
アウトキャンパスや実習・講習会等で地域のことを知ったり、様々な経験を積むことができたので
臨地実習Ⅰ・Ⅱは自分にとってはとても良い経験になったが、Ⅲは事前学習が深められずボヤっとした実習だった。学生任せの事前学習でなく資料の配布・説明をきちんとしてほしかった
- ③の理由 履修科目の教育方針が嫌だった
学生の差別がひどい
学年が上がるごとに教養科目が減ったりしたから
内容に対し、講義日数のバランスがとれていない(つめこみすぎ)だと思
予定されていた学外実習がなくなったのはショックでした。入学した目的の一つでもあったので
一部教員がまともに授業をしない
臨地実習Ⅲの指導がお粗末及び他学生を悪く当人以外の前で言う

スポーツ健康学科

①の理由 学びたいものを学べた(他2名)

楽しくためになった
興味のある分野を学ぶことができた
幅広く学ぶことが出来ました
スポーツだけでなく人間の身体に関する知識を学べ役に立つことを学ぶことが出来たから
スポーツに特化した事項をより専門的に学べた
実習などの機会が豊富にあり、より実践的な学習できるため
先生が熱心に指導してくれた
先生との距離が近い
自分のため、周りのためになる専門的なことをしっかりと学べた
教職の勉強ができたから

②の理由 楽しかった(他1名)

実践的なことが学べる
教員との距離の近さ
気になる分野を追求することができた
自分の好きなことが学べた
しっかりと教育されていたと思う
勉強に関しては目標をもって目指しながら行えたと思います
内容が日常生活でも役に立つことが多い
専門的な知識を身につけることができた(他3名)
教職に関する授業は充実している(他1名)
スポ科らしい内容の授業が少ない
幅広い内容を学べた
色々な人と関わることができたので良かった
指導者としての要領や知識も学べたから
実習などで経験を詰めた
教職を目指せたことが良かった
目指していた資格を取得できたため(他1名)
先生等の教え方や接し方、専門知識の豊富さ
ゼミに恵まれた
興味のある内容を深く学ぶことができた！
身体の仕組みについて学べて良かった
学生全体の仲が良く、たくさんの友人ができて充実した学生生活を送れた
自分の目指していた免許や資格が取得できそうだから
ゼミがあつて良い
先生方がやさしくて話しやすい
先生方がよく話しかけてくれて、この先生たちでよかった。楽しかった
先生たちが親身になってくれたから
スポ科の先生は全員素晴らしいなと感じたから
学びたいこと取りたい資格がとれた。先生方が最高だった
自分の興味のある内容が学べたから

③の理由 実技が少ない

テストの答え合わせを行わない先生が多く、どこがあつていてどこが間違つていたか分からないまま授業が終わるので間違つて理解していた部分そのままになってしまう

質問4. あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①『オーダーメイド教育』という理念に共感した	2	1	3	2	2	4	7	1	2	3	3	3	6	9
②『地域に貢献する人づくり』という教育目標に魅力を感じた	10	4	14	16	14	30	44	1	20	21	19	6	25	46
③アウトキャンパスステイ・サポーターシステム等の新しい教育方法に惹かれた	0	0	0	7	2	9	9	1	8	9	2	3	5	14
④地域に関する科目が充実している	10	2	12	19	6	25	37	0	6	6	6	0	6	12
⑤コンピュータなど施設・設備が充実している	7	0	7	2	2	4	11	0	2	2	1	0	1	3
⑥良い先生がいる	2	2	4	3	2	5	9	0	1	1	10	3	13	14
⑦友達が入学する	5	1	6	4	1	5	11	2	1	3	2	0	2	5
⑧学生と教職員の距離が近い	6	4	10	3	5	8	18	3	6	9	7	4	11	20
⑨自宅から通学できる	39	11	50	22	15	37	87	9	30	39	24	6	30	69
⑩親、先生などから勧められた	9	4	13	11	7	18	31	3	20	23	11	9	20	43
⑪まだ社会に出たくない	10	1	11	9	3	12	23	3	5	8	5	1	6	14
⑫その他	6	5	11	7	1	8	19	4	13	17	14	10	24	41
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1

【その他】

総合経営学科

- 地域就職を考えて
- 部活動が盛んだった
- 県内の就職を考えていたから
- 産業カウンセラー
- 家庭の事情
- カリキュラムに興味をもった
- 第一志望の大学に合格できなかったから
- 取りたい資格に関連する授業があったから
- 部活動と勉強の両立をモットーにしていた

観光ホスピタリティ学科

- 就職率が良かった(他1名)
- 部活動(他2名)
- 学びたい学科があった
- 近いから
- 福祉が学べる
- 図書館・学芸員と取りたい資格の講義があった

健康栄養学科

- 県内で栄養について学びたかった(他1名)
- 管理栄養士の資格を取得するため(他3名)
- 資格取得のため(他1名)
- 食に関する武器が欲しかった
- 広い
- 学びたい学科があった(他1名)
- 他の大学に受からなかった
- 長野県内で唯一の養成校だったため
- 県内だから

スポーツ健康学科

- 学びたい専門的な学科があった
- 目指す職とマッチしていた
- 部活動に魅力を感じたため
- 受験に失敗したから
- 健康運動指導士になる(他1名)
- 教員免許
- やりたい部活があった(他5名)
- やりたいことを探すため
- 部活と資格
- 取りたい資格があったから(他2名)
- 姉に勧められた
- 行きたい学科がある
- 東京と松本の2択で都会が嫌いだったから松本にきた
- 他の大学に受からなかったから
- 家から通って取りたい免許が取れるから
- 教職の勉強をしたかった

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①専門の学識を身につけたい	16	7	23	10	10	20	43	10	49	59	32	14	46	105
②教養を身につけたい	16	7	23	13	7	20	43	3	9	12	12	1	13	25
③地域について学びたい	8	1	9	16	6	22	31	1	3	4	4	2	6	10
④海外研修を経験したい	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
⑤資格を取りたい	13	8	21	13	7	20	41	12	47	59	20	16	36	95
⑥良い就職がしたい	28	6	34	19	8	27	61	1	10	11	16	6	22	33
⑦友人をつくりたい	6	1	7	6	3	9	16	1	7	8	10	2	12	20
⑧部活動を行いたい	8	1	9	15	2	17	26	0	3	3	11	7	18	21
⑨親元から離れて生活したい	4	2	6	2	1	3	9	3	10	13	7	6	13	26
⑩アルバイトを試みたい	3	1	4	2	2	4	8	1	1	2	2	2	4	6
⑪自立できる社会人になりたい	8	3	11	8	4	12	23	1	7	8	3	5	8	16
⑫自分を見つけない(自分探し)	14	3	17	5	6	11	28	3	3	6	7	7	14	20
⑬その他	4	0	4	3	0	3	7	1	2	3	1	0	1	4
無回答	1	0	1	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0	1

【その他】

総合経営学科

松本が好き
 大学では講義に含まれていないが、時間をとって合格したい資格があったのでその情報収集
 就職しなくなかったから

観光ホスピタリティ学科

地元だから
 なんとなく

健康栄養学科

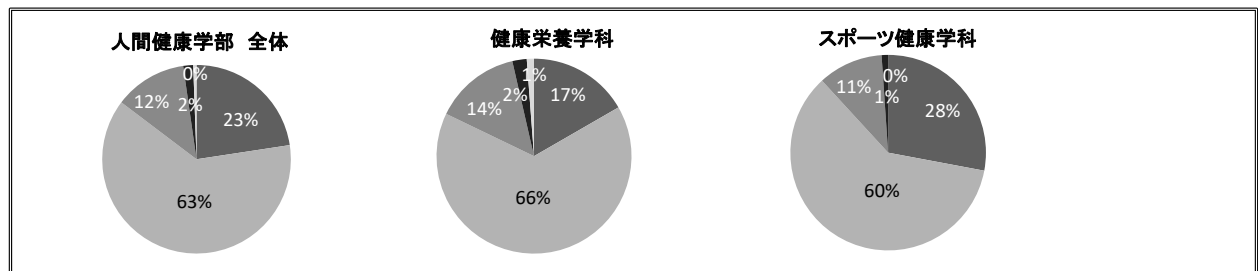
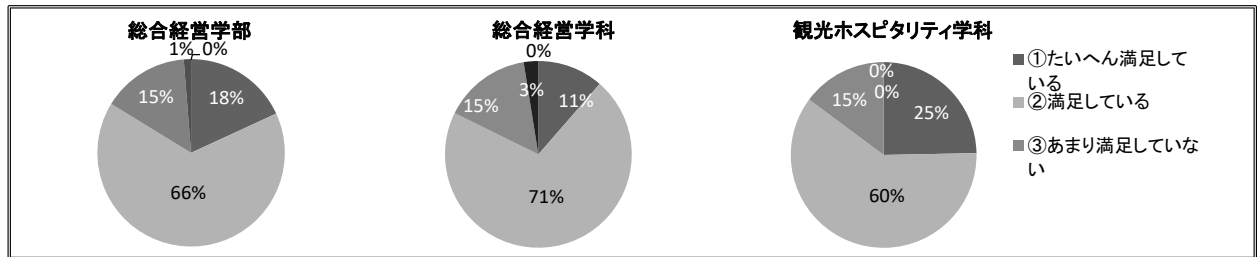
実家が近いから
 ひまつぶし
 特になし

スポーツ健康学科

まだ社会に出たくなかったため

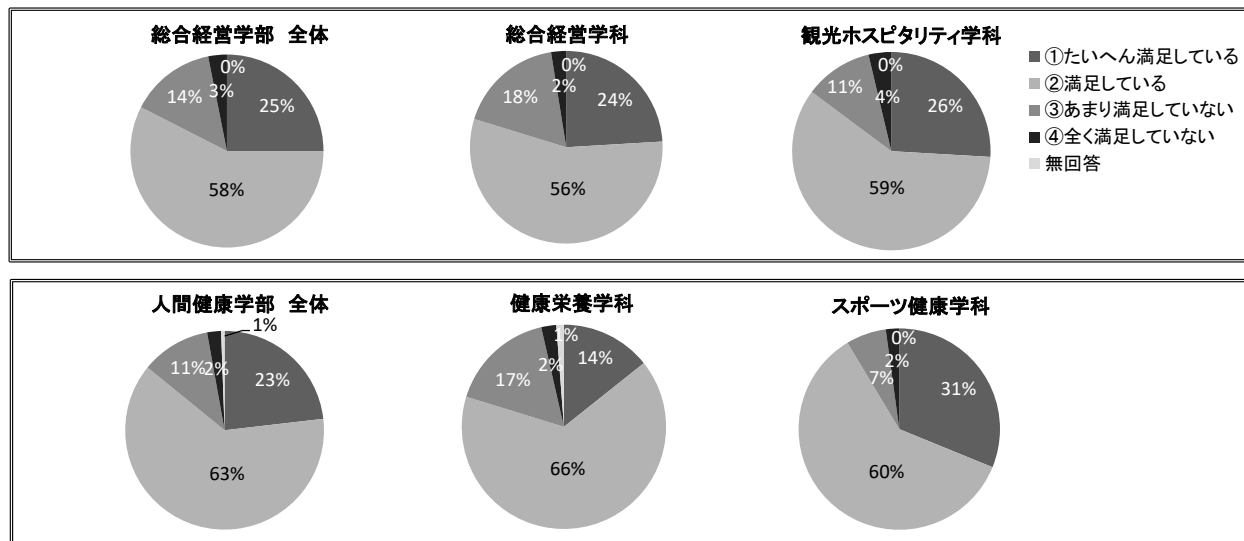
質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	4	5	9	15	5	20	29	7	7	14	16	10	26	40
②満足している	44	12	56	33	16	49	105	6	49	55	37	19	56	111
③あまり満足していない	10	2	12	10	2	12	24	3	9	12	6	4	10	22
④全く満足していない	2	0	2	0	0	0	2	1	1	2	0	1	1	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1



質問7. この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	12	7	19	17	4	21	40	4	8	12	18	11	29	41
②満足している	34	10	44	31	17	48	92	8	47	55	37	19	56	111
③あまり満足していない	12	2	14	7	2	9	23	4	10	14	3	3	6	20
④全く満足していない	2	0	2	3	0	3	5	1	1	2	1	1	2	4
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1



質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったことなど、感じたことを何でも自由に書いてください。

総合経営学科

授業ごとの質の差が激しいと感じた
 授業中に話し声や貧乏ゆすりをする人があり、集中できなかった
 一般的に良かった
 普段生活していて学べないことを学べた
 授業中うるさい人がいてその人たちがどうすれば静かにできるのか考えたほうがいいと思う(他1名)
 専門研究では外部の先生から詳しい知識を学ぶことができ良かった
 もっと静かな環境で講義を受けられると良かった
 校舎もきれいだし設備も整っているので、素晴らしい環境で生活させて頂きました。ありがとうございました
 授業はとてむためになり充実していた
 英語科目の物足りなさ
 たくさん分野を学べることはとても良いと思った。大学に入って学べたこともたくさんあったが、専門分野はとてむ力が入っているがその他は弱いなと思いました
 生徒にしっかり一人ひとり教えてくれたので良かったと思う
 ただ映画を観るだけの講義があった。15回分の講義を無駄にした
 就職活動時に役立つ授業もありとてむ良かった
 明らかなキャバオーバーの教室
 もっとまじめに勉強したかった
 学部再編してほしい
 先生の対応がムカつく人はいた。お金をもらっているのもうちょっと学生に対する言動を考えてもらいたい
 少し雑音がすることもありますが、それ以外は特に悪い部分はないです
 もっと頑張りたい人が頑張れる環境づくりしてほしい
 後ろの方がうるさいことが悪かったと思います
 教員の方々が教えようとしている事が良く伝わった。単位のためだけでなく、身に付けてほしいという熱意を感じた
 スマホをいじっている人が多かった
 教員の熱意が感じられない
 都会の大学と違って先生との距離が近く勉強しやすい(他1名)
 うるさい学生がいた(他1名)
 学校からの教えはとてむ良かったと感じている。学びを生かせるかどうかの問題点は生徒自身にあると思えたので満足している
 教職員がとてむ親身になってくれたことは良かった
 授業を通じて色々な角度からの物の見方を身に付けることができ、自分の考えの幅を広めることができた
 自ら学ぶ姿勢を身に付けられた
 そのまま高校を卒業して何もわからず知らないまま働いていたら、きっと色々だまされていたと思う。そのトラブルを授業全般を通して回避する術を学んだ
 真剣に講義に取り組めたので良かった。自分のためになった

観光ホスピタリティ学科

楽しかった
多くの分野にふれる機会が多くあり、多角的に成長できたなど感じる
比較的どの先生もメモやノートを取りやすいペースで進めていただいたのでありがたかった
先生によって生徒をばかにしたようなことを言っている人がいました
グループワーク等もあるところ
取りたいものは取れた
教養科目が多く今まで怠っていた勉強をすることができて良かった
アウトキャンパスが多かったのは良かった
たまに眠くなる講義もあった
二人ほど生理的に無理な教員がいた
効率の良い先生と悪い先生の差が激しい。正直学生に興味のない先生がいたのも事実です
1、2年生の時にもっと一生懸命勉強をしておけば良かった
先生にもよりますが理不尽な先生がいたことが非常に残念でした
今まで今後なかなか体験できないような講義やアウトキャンパスを行えてよかった
1年生から欠席もあまりせず、単位もそれほど落とすことなくここまで来れた。資格取得を諦めてしまったことが後悔です
これといって感じたことがない
部活動充実した
騒がしい授業が多かった
あまり厳しいという感じがなかった
普通に生活していたら知り得なかったことが知れた。近年流行している生活の質、生きることについて深く学べた点は今後の人生で役立っていきそうだと感じた
学年が上がるごとに新しい科目が減っていったのはつらかった
大学で学んだことを大学外のアウトキャンパスなどで行い実践することが出来る点が良い
大切なことだから繰り返すことは分かっているけど、何度も同じ話をする先生がいる
授業全般を通して様々なことを学ぶことができた。1、2年生の時にもっとこだわり工夫して勉学に取り組みれば良かった
友達が出来た
もっとけじめをしっかりとつけたかった
勉強をもっとやっておけば良かったと後悔することが多かった
もっと授業に関心を持ち、多くのことを学べばよかった
良い先生がたくさんいて良かった
ほぼ毎回授業に参加できたから良かった
学習・人間関係の輪を広げられたこと
本当の自分を見つけられた
字などが見やすかった
就活前に122単位取り、取得した資格は内定先と関係ないがそれが就活への自信になった
とても良かった
マナー授業など社会に出てためになる授業はすすんで学ぼうと思った
声が小さくて何を言っているか分からないときがあった
大体は静かに授業を受けられたがうるさくて集中できない時もあった
資格に関する授業に関わらず、色々な分野に触れることで様々な事柄に触れることができた
私は海外留学をしなかったことに後悔しています。何事もやりたいと思ったことはチャレンジすればよかったと思いました
取りたい講義と必修講義が重なったり、受講者が抽選になったりなど、取りたくても取れない講義があった
大変分かりやすく説明してくれた。(他1名)たまに進むのが早くて追いつかないことがあった
なんだかんだ厳しい先生が1番学びがいがあった
たまに同じ話ばかりする方がいた。その時はつまらなかった
しっかり自分から率先して学ぶ姿勢をもっととれば良かった
教室の雰囲気は授業によって様々だったけど、自分が選んだ科目はしっかりとできました
私語が多い

健康栄養学科

先生の話(自分の昔話的なのが)長い時はつらい
教室の温度管理(特に夏・冬)が難しいと感じた
食品成分のことをもっと学ぶことが出来たら良かったと思う
受けて良かった講義と受けなきゃよかった講義がある
教員は良い人が良かった
先生との距離が近く良いと思いました(他2名)
先生によっては考えが読み取れないものがあった
先生の声がボソボソとしていて(マイクの関係かもしれませんが)聞き取りにくい授業がありました
アウトキャンパスで地域の方との交流や外に出て学べたことが良かった
アウトキャンパス良かった
課題が多い。(他2名)さらに同学期にその科目が集中しすぎている
実習など日常生活では触れることがなかった事を知る機会がたくさんあり、良い学びをすることができた
もっと意欲的に勉学に励めばよかった
先生によってそれぞれだが、ゼミ活動が一番充実していた
学生のことを常に考えてくださる先生方が多かった。キャリアの授業では大変お世話になり、良い就職ができた。充実していたと思います
他学部の授業を受けることができて、知識を広めることができたところが良かった
通学だったので9時40分スタートがありがたかった
まともに授業をしない先生がいた。平気で遅れてくる。おかげさまで国試の対策ができなかった
レポートの書き方の指導もなく学生の悪口を言う先生がいた。。ゼミ指導もないのに忙しいと言いつける。ボディタッチが多い。距離が近い
アルバイトをしている学生にとっては遊べる時間が少なかったと思う。良い勉強になったが忙しい日々だった
4年間しっかり学べたのは良かったのですが、試験等で点数が低かった人への救済が多かったことが気になりました。やる気が削がれるような・・・
授業によって国試対策に差がありすぎるところが嫌でした
半期で取れる授業数をもう少し増やしてほしい
私語の注意が少なく、集中して授業を受けたい人にとっては騒がしく集中できなかった
少人数のため先生と距離が近いので、一人一人に気を配ってくださり細かい指導が受けられました
管理栄養士に関係することを勉強できて良かったです
先生方が熱心に教えてくださり良かった
先生方と仲良くなれたのは良かった
先生によってやり方が違うのは多少当たり前ですが、教科書の内容をほとんどやらなかったり、授業に来ないなど多々あり迷惑しました。国試もあるの必修科目は最低でも教科書の内容くらいはやってほしかったです。新しく来られた先生なので少しは仕方ないのかなと思っていましたが、今までとあまりにも対応が違ったので困りました。やり方を変えるにしても今までの積み重ねを全て否定するのは違うのかなと思います
自らが体験・経験することで学習する授業などもあり良かった。
理不尽な対応や納得できない言葉、態度の先生がおり、学生全体の気力を招いていることがあったと感じた
実習の多い学科なのでとても多くの教員・助手の先生方に助けられました。教員と助手の先生の意見が違っていたり、助手の先生同士で意見が異なり叱られたことが多々あったため、どうしてもその印象が大きい。学内実習の悪いイメージが残っていないのが残念だなと思います
成績が悪くても思い出に残ることは多くあった。もっと真剣に取り組めたらと反省している
実習が多く、実践的な学びが多かった。他の授業とのベースを合わせてあって勉強しやすかった
専門知識を学ぶのはとにかく大変でした
1年生の授業から国試を考えて、勉強に励めばよかった。1、2年生は管理栄養になぜこの授業が必要か分からずに授業を受けてしまった
授業の時間が空く(1限→5限など)とくに補講日に4限とか5限とかだと困る・・・
教養科目(スポーツ等)が減るだけでなく、時間割の関係で履修することもできなかったことが残念
理不尽

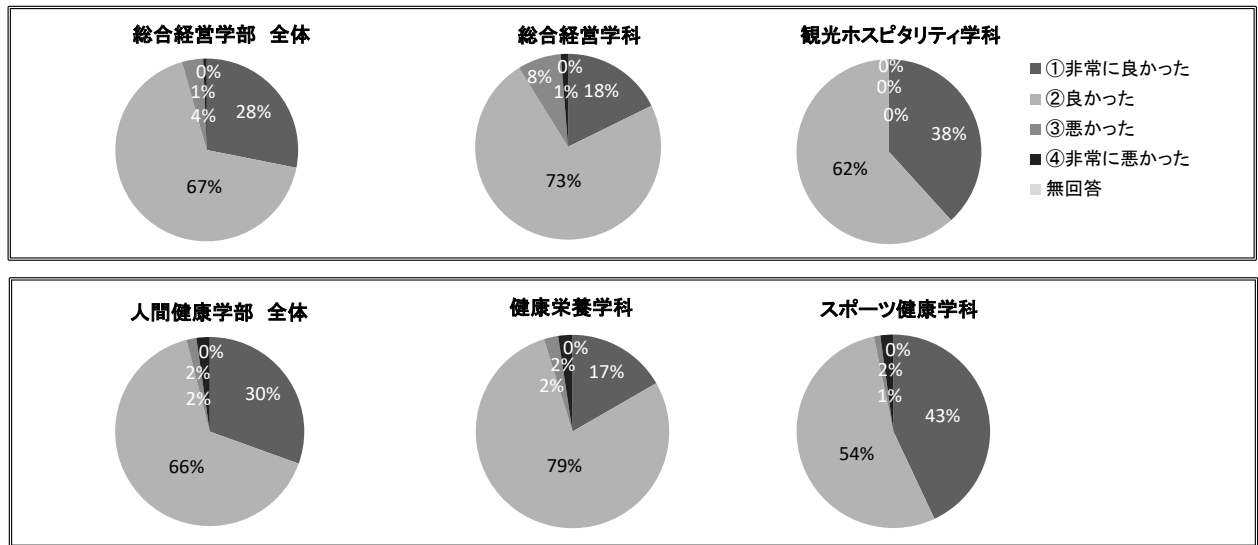
スポーツ健康学科

先生が熱心に教えてくれた(他1名)
専門的な知識が増えた
資格に必要なさそうな授業がある
最初は分からないことばかりで失敗が多かった
観光とかと厳しさが全然違う
授業内容が酷い先生がいた。
教員との距離が近くて良かった
雰囲気がいい感じに緩く良かったです
学内の先生が大変優しくして頂きとても充実でした
授業でたくさんの文字が書いてあるスライドは見づらかった
考えるヒントを多く受け取れて良かった
先生と話しやすい環境はとても良いのではないと思う
4年間諦めずに資格取得見込みをもらうことが出来た
座学だけではなく地域の人を対象とした実践的な授業を行えた
どの先生方もすごく分かりやすい授業をしていただいた
テストの答え合わせを行わない先生が多く、どこがあっいてどこが間違っていたか分からないまま授業が終わるので間違っていた部分そのままになってしまう
少人数で行うにしても抽選でまた来年はよくない
身体や健康をより詳しく学べたことが良かったと思う
後半から漠然と時間を過ごすのではなく、考えながら行動・生活した
眠くなる授業があった
部活動と勉強が充実していました
友達ができました
様々な知識を身につけることができた
ただ教科書を読んでいく授業などが先生によってあったので、もう少し工夫してほしい。受けていて退屈だった
先生によって授業の質がとでも違った
実際に外に出て学べるアウトキャンパススタディはとても魅力があった
同じ目的・目標に向かっている友達がたくさんいるので勉強がしやすい
先生の個性がたくさん見れて面白かった
色々な講義でディベートがあったらよかった
先生によって授業へのやる気が変わった(良くも悪くも)
教養の科目が少ない
先生との距離が近く貴重なお話を聞いた
集中して取り組みができる環境と先生に何でも相談できたことがよかった
教職の授業が分かりやすくてとても助かりました
授業をサボったり、卑怯な出席の仕方をしている人がいてよくないと思っていた
受講者と教室の大きさが合わず、受けにくい授業があった(他1名)
実技が自由に取れない
スポーツの科目が取りづらい
友達良かった
取得したい(と思えるような)資格があれば良かった
先生との距離が近くてわからないことをすぐに解決できた
興味ももてた
追試があるのは4年生だけという危機感をもつことで、講義に取り組めた
実践的な授業を受けれて良かったです
専門分野(特にゼミ)に特化しており、先生が熱心に指導・教育してくださった
先生によって授業を受ける態度に差があり、ちょっと気になった

質問9. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか、該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

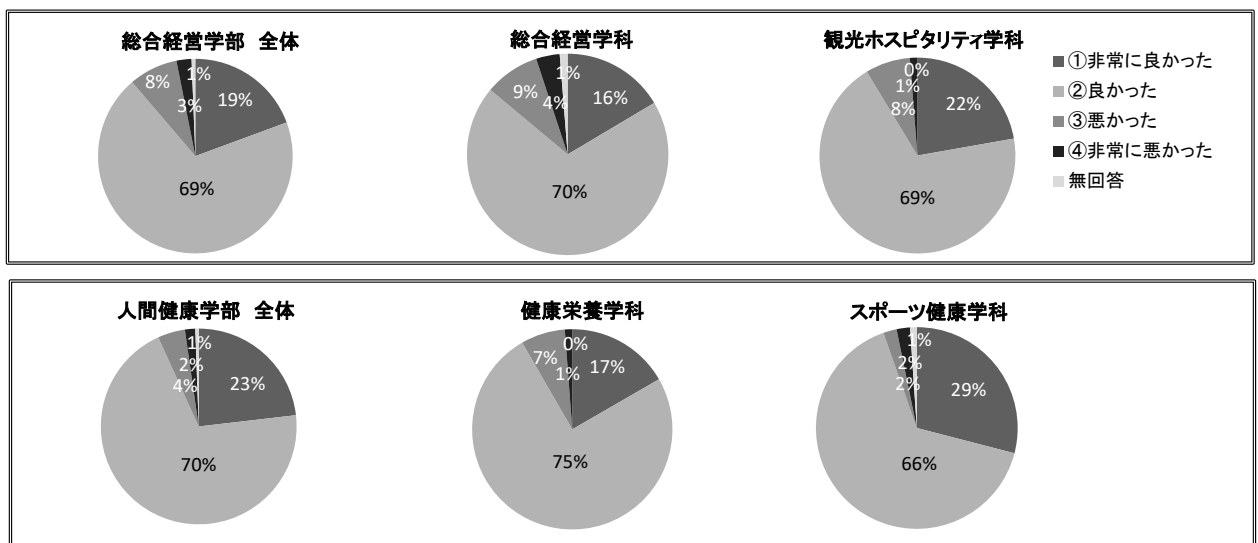
■教員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	8	6	14	20	11	31	45	3	11	14	24	16	40	54
②良かった	45	13	58	38	12	50	108	13	53	66	34	16	50	116
③悪かった	6	0	6	0	0	0	6	1	1	2	1	0	1	3
④非常に悪かった	1	0	1	0	0	0	1	0	2	2	0	2	2	4
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



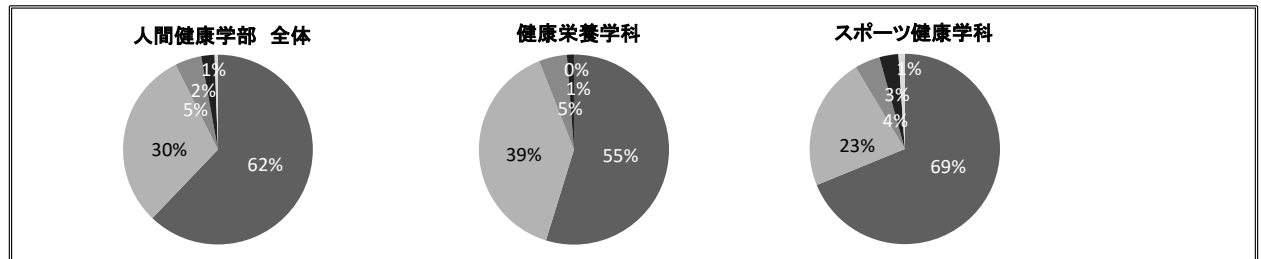
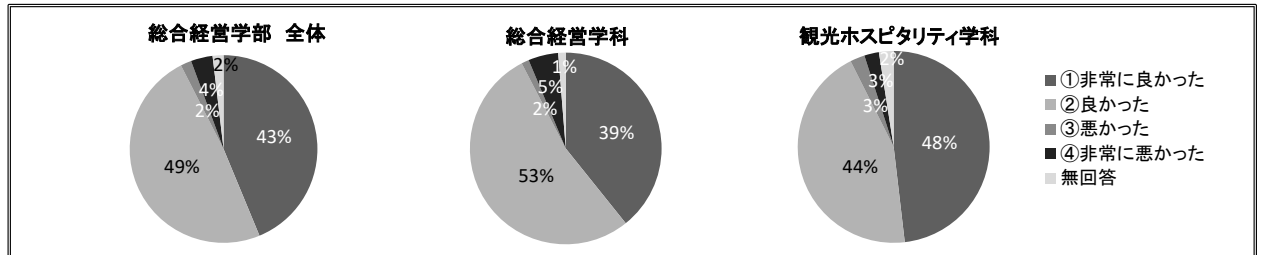
■職員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	7	6	13	14	4	18	31	6	8	14	18	9	27	41
②良かった	42	13	55	41	15	56	111	9	54	63	38	23	61	124
③悪かった	7	0	7	2	4	6	13	2	4	6	2	0	2	8
④非常に悪かった	3	0	3	1	0	1	4	0	1	1	0	2	2	3
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1



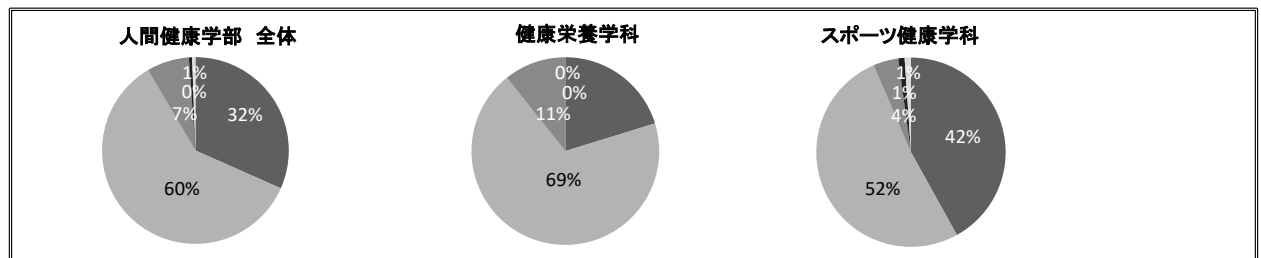
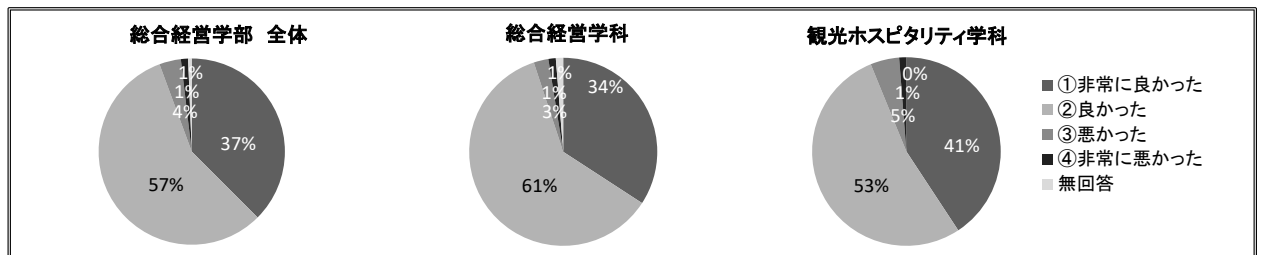
■ゼミ担当者

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①非常に良かった	20	11	31	25	14	39	70	14	32	46	39	25	64	110
②良かった	35	7	42	30	6	36	78	2	31	33	15	6	21	54
③悪かった	1	0	1	1	1	2	3	1	3	4	2	2	4	8
④非常に悪かった	3	1	4	1	1	2	6	0	1	1	2	1	3	4
無回答	1	0	1	1	1	2	3	0	0	0	1	0	1	1



■キャリア面談員

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①非常に良かった	19	8	27	21	12	33	60	2	15	17	25	14	39	56
②良かった	37	11	48	33	10	43	91	13	45	58	31	17	48	106
③悪かった	2	0	2	3	1	4	6	2	7	9	2	2	4	13
④非常に悪かった	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	1
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】**総合経営学科**

その時に適切なアドバイスをくれた
 型にはまっている
 頼れる人が少なかった
 私のために戦ってくれなかった
 仕事をこなしている感を感じる
 キャリアのことで困っているときに親身に相談に乗ってくれた
 就職に関して自分が全く意識していなかった業界・分野を推薦して頂き視野が広がった
 生徒との距離が近くよかった
 職員の横柄な態度・仕事への姿勢は見習いたくないと感じた
 キャリアの先生の中に放任主義者がいて嫌だ
 分からないところよく理解できないところを迅速に対応してもらいました
 親身に相談に乗っていただけた(他3名)
 ゼミ担当者が就職活動時に良いアドバイザーになってくれました(他1名)
 feelingで良いと感じました
 キャリア担当してもらった教員には1年生の頃から良くしてもらえたのでとても良い関係を築くことができた
 講義が雑ではない教員に関してはとても良い印象をもっています
 教えようとする熱意が伝わってきました
 特に不満はなかった
 様々な面で相談やアドバイスを求めやすかった
 就職や進路を決める際に色々アドバイスを頂けたから(他1名)
 一部の教務課職員の対応が非常に悪かった
 授業内容だけでなくプライベートの質問や悩みを親身となってきてもらったのでとてもありがたかった(他1名)
 基本的には満足しているが、キャリア面談員は当たり外れが酷かった印象がある
 どんなささいな質問でもきっちりと答えてくれたことがとても良いと思った
 世間話も楽しくできたことで、質問がしやすい関係が築けたことがとても大きいと思った
 親身になって話をきいてくれ、アドバイスをくれる方が多く相談しやすかった(他1名)
 授業等の質問や進路に関することも非常に丁寧な指導してもらったと思っている
 キャリアクラスの先生は、就活の際親身になってサポートして下さり、悩みや不安を解消することができました

観光ホスピタリティ学科

よく相談にのってもらった(他1名)
 可もなく不可もなくだったが、悪いという感じではなかった
 生徒をバカにしたような言い回しや態度を改めてほしい先生がいます
 学生課の対応が悪い時があった
 基本はいい人ばかりだったがたまに面倒くさいというかよく分からない教員もいた。あの人の講義はもう受けたくない
 ムカつく
 自分が困っているとき一緒に考えていただいたり、助けてもらったことが多かったので非常に感謝しかありません
 教員やゼミ担当者さんはわからないことを積極的にアドバイスをしていただきここまで来れた。就活の時も非常に良いサポートのおかげで内定をもらった。
 キャリア面談員は日常生活のことも親身になって聞いてくれた
 親身になって相談にのってくれた(他3名)
 自分から行かなかつたのでよく分からない
 自分に足りないものを気づかせてくれたり、就活の時など大変お世話になりました
 自分の意思を尊重しつつ物事を進めていただくことができた
 親身になって話を聞き、アドバイスをくれた
 全体的に良い人ばかりでした
 親切だった
 親身になってくれる方が多かった
 自分がやりたいことを前向きにサポートしてくれる
 困ったときに手を差し伸べてくれた
 丁寧な対応をしていただき非常にためになる学生生活だった
 その時の気分によってなのが行くたびに態度の違う職員さんがいた(笑顔で丁寧⇔言葉も辛辣で行動も荒い等)
 ゼミ担当は毎回指示が違う。イベントや講義に関する連絡が遅い(前日夜11時、当日集合数時間前など)計画書の変更点の説明がされず書いてある通りに行動したら違うと怒られた。セクハラ発言(太った? 嫁に行けないぞ・単位落とさせるぞなど)
 満足しているため
 就活の際はお世話になった
 キャリア面談員はとても親身になって就職に関してアドバイスや相談にのってもらえて良かった
 ゼミ担当は毎回言っていることが変わる。連絡が遅いなどがあって不満だった
 授業以外のことで気軽に話せたり、困っているときに相談に乗ってくれる先生方や職員の方々がたくさんでした

健康栄養学科

自分の道をしっかりと選べたから
ゼミ先生が親切
キャリア面談とキャリアセンターはほぼ押し付け。選択肢の許容幅をもっと広くしてほしい
自分の悩みや進路について深く考えてくれた
自分の考えを受け止め、自分の意思に沿うような回答をしてくださったから。特に栄養科助手の石澤さんには学生生活以外にも生きる上で大切なことをたくさん学びました
本音と話すことのできる雰囲気ので安心することができた
ゼミ担当やキャリアの方など親身になって話を聞いていただけ
同じ学部の方なども親身になってくださる方が多く、特にゼミの先生は細かなところまでみてくれたり気にかけてもらったからよく話しかけてくれた
キャリアセンターの添削の日本語力がなさすぎる
キャリア面談ではとても良い相談の機会だったし、先生方も良い方ばかりだった
健康状態や家庭環境をあげながら、だからあなたではダメなのだと個人的にご指導をされる先生がおられました。いくら先生方でも言っていること言っていないことがあるように思いますので、改善してください
キャリア面談員は誰でも言えそうなことしか言ってくれなくてあまり参考にならなかった
話しやすかった
丁寧に対応してくれたから
ゼミ担当者として話す機会があるのは良かったです
キャリア面談の必要性をまったく感じない
全体としては良かったが、一部の教員(助手も含め)の方々が差別的な場面があると感じた
授業のことだけでなく、ゼミや就職のことなど様々な面で相談に乗ってもらえた
ゼミ担当の先生には卒論だけでなく、多くのことをサポートしてもらいました。そのゼミに入れてとても良かったです
職員の方々とは面識なかった
とても親身な先生ばかりで助けられた
ゼミ担当者が途中で変わったこと
学生と教職員の関係性が近く、とても良かった
ゼミの先生はお忙しく、なかなか時間は作ってもらえませんが、お話しするときはいつも丁寧に対応して下さりありがたかった
先生はいつでも親身に話を聞いてくださった

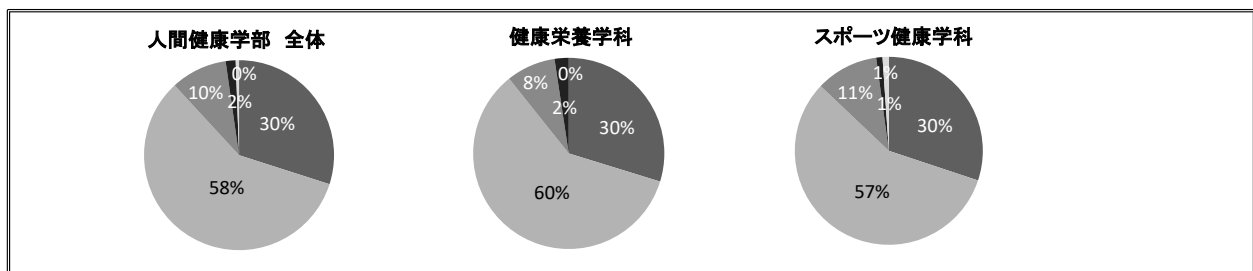
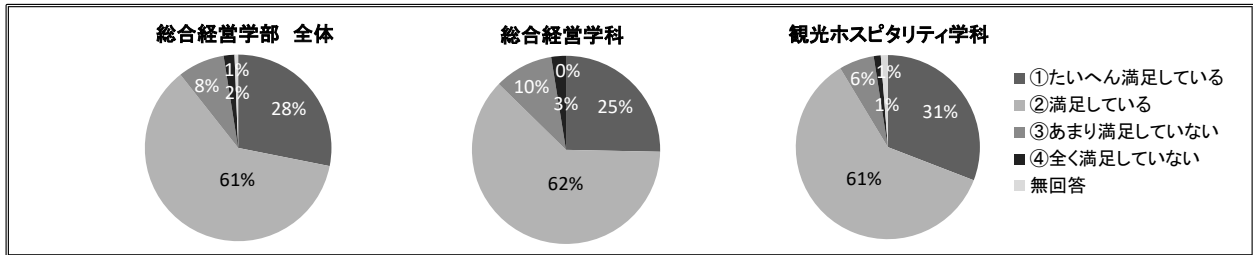
スポーツ健康学科

親切・親身
ゼミの先生が一番良く見てくれた
ゼミ担当者は就活の悩み等にも答えていただき大変助かった
親身になって対応していただいた(他4名)
自分のささいな相談にものってくださり、常に温かく接してくださったため
専門的なものを学べた
ゼミの先生は卒論を親身にみてくれた
特に就職の時のキャリアの人たちは良かった
キャリア面談員は良かった人も悪かった人もいた
勉強や就職について分からないことだらけの中、親身になってアドバイスを頂いたため
とても親切だった
自分の意見を尊重し、それを踏まえ正しい方向に導いてくれたから
いろいろ話を聞くことが出来た
生徒との距離が近く話しやすかった。なんでも相談しやすい環境が良かった(他1名)
自分の欠点や利点を的確にアドバイスをくれたから
授業や資格・就職の面でサポートしていただいた
先生たちには授業やレポート等で意見やアドバイスをもらったため、お世話になりました
様々な場面でご支援いただき助けられました
一緒に寄り添ってくれた
周りの人々が協力して頂いたので、ものすごく学生生活が楽しかった
親しみがあつた
細かいところまで気にしていただきとても助かった
教員の方々は接しやすかったし、職員の方々も名前を覚えてくれていたりして嬉しかった
良い先生が多い！
とても寄り添ってくださった
どんな時でも相談を聞いてくださった
困ったときに相談しようと思える先生方がいて助かった
就活・卒論など節目となる大きな行事の際、親身になって話を聞いてくれ、助けてくれた
資格取得説明をもう少し詳しくしてほしい
キャリアの方々はとても面倒を見てくれました
ゼミ担当やキャリアの先生方も話しやすく何でも聞いてくれた
先生方はいつ行ってもたくさん話を聞いてくれて、たくさんアドバイスをくれた
特に就職について悩んだり困ったときに相談に乗ったり、適切なアドバイスをしたりしてもらえた
真剣に相談にのってもらったので、学生生活で困ったこともすぐに解決することができたので良かった
特にゼミ担当の先生に非常に感謝している
ゼミ担当の先生には本当に沢山のご指導をいただきました。良い先生に出会えたと思っています
プライベートや学校のこと授業のことたくさん色んな相談に乗ってもらえた
ゼミ担当は特に色々な話をすることが出来た

質問10.

大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうか？

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	15	5	20	19	6	25	45	6	19	25	19	9	28	53
②満足している	36	13	49	34	15	49	98	9	41	50	34	19	53	103
③あまり満足していない	7	1	8	3	2	5	13	1	6	7	6	4	10	17
④全く満足していない	2	0	2	1	0	1	3	1	1	2	0	1	1	3
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由
- 就職の際、親身になってくれた
 - 分かりやすく接してもらえたから
 - 小さな困りごとでもサポートしてくれてとても助かった
 - 親切な対応をして頂けるのですごく嬉しかったです
 - 就活の際、とてもキャリアにお世話になった
 - 落とし物をしたとき良い対応してくれた
 - 丁寧な対応でした(他1名)
 - 就活の時にお世話になった
 - 私は学生課の方々との関りが一番多く、とても優しく教えて頂いたり、相談等がとても良くしていただきました
 - 挨拶をすると笑顔で返してくれる
- ②の理由
- 色々な場面で活用させていただいたが、それぞれの場所の皆さんが優しく接して下さった
 - 特に不満はなかった
 - 特にお世話になったことはないが、皆の話を聞いていると良い場所だなと思いました
 - 学友会で学生課にお世話になりました。ありがとうございました
 - 就活を早い段階で進められた
 - 学生課、キャリアセンターは利用が多かったが、良く対応していただいた
 - 親切な対応だった
 - ちょっとした間ですが教務課にはお世話になりました
 - 一人一人をしっかりと見てくれているため
 - 機嫌が悪そうな方も居たが、親切に対応して下さった
 - 丁寧な説明をいただいた(他1名)
 - 教務課やキャリアセンターの先生方々にたくさんお世話になりました。入学前オリエンテーションの経験、とても良いものになりました
 - 分からないことがあればどの職員さんも親切に丁寧に教えて下さったので
 - 質問に対して答えてくださりありがたかったが、上から言ってくる方もいて言い方をなおした方がいいと感じた
 - 基本的には丁寧に対応していただけたが、一部事務員は酷い対応だったことがある
- ③の理由
- 教室変更、臨時休講等の連絡が遅かった
 - 雰囲気怖い
 - 大学で力を入れているはずの地域に貢献できるキャリアを選ぼうとした時、そこを否定され一般企業への就職を強く言われガッカリした
 - 駐車券などの購入の際、すごく愛想が悪く気分が悪かった
 - キャリアセンターのみ①である
 - もっと親切な対応を
- ④の理由
- 話が通じない

観光ホスピタリティ学科

①の理由 困っているときに助けてもらったし、協力してもらったことしかなかったので本当にありがたかったです
分からないことを聞いてくれた
対応などが非常に良いと感じました(他1名)
就活でキャリアを活用したから内定がもらえた
親切だった
困ったときや分からないところに対して良い対応してもらえたため(他1名)
何から何までお世話になった
基本的に皆対応が優しい
親身になってくれたから
声がかけにくい状況であっても、目を合わせただけで率先して対応していただけたところに安心感を得られた

②の理由 色々親身になって対応してくれた(他2名)
キャリアセンターの皆さんには大変お世話になりました(他1名)
優しい(他1名)
困ったことを親身に聞いてもらえ、大変助かった
大学4年間で様々なことでお世話になった
対応がとても良かったです(他1名)
笑顔で対応してもらって良かった
行ってすぐ対応してくれた
あまり関わることはないが日常を送るにあたって欠かせないところでたくさんサポートしてもらった
キャリアセンターは多くの企業を紹介してくれたこと、就活についてのアドバイスなどとても助かりました

④の理由 使わなかった

健康栄養学科

①の理由 対応が適切だった
就職活動時のサポートがしっかりしていた
大学生活における不安や相談などを受け止め、解消して下さったことが良かった
相談すると丁寧に対応してくださった
資格や授業の面、また部活でも大変お世話になり無事大会に参加することができた
特にキャリアセンターの方々には就職活動において丁寧に指導していただきました。ここまでキャリアを支援して下さいる大学は他にはないと思います
就活のことなどていねいにアドバイスして下さいだったのでとても役に立ちました
すぐ話しやすく、相談しやすかった
困ったことに対して親切に、笑顔で対応して下さいましたから

②の理由 資格等の説明など細かくしてもらえた
6号館の事務の人が優しくかった
丁寧な対応で良かった(他2名)
可もなく不可もなく
とても丁寧に対応していただき満足しています
パソコンの返却が1日遅れるごとに500円は少し高いと思った
書類のこととか分からないところを丁寧に教えていただき助かったから
就職活動でサポートしていただいた

③の理由 成績悪くて卒業危なかったのは自分が最も把握しているので追い打ちかけないでほしい
学生課の人の態度があまり良くなかった
冷たくされたことがあった
対応が雑な人がいた

④の理由 紹介された企業5件のうち、4件がすでに募集が終わっていた

スポーツ健康学科

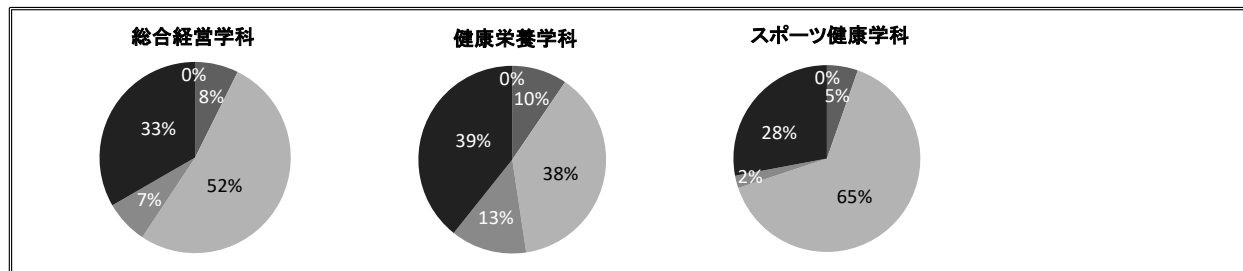
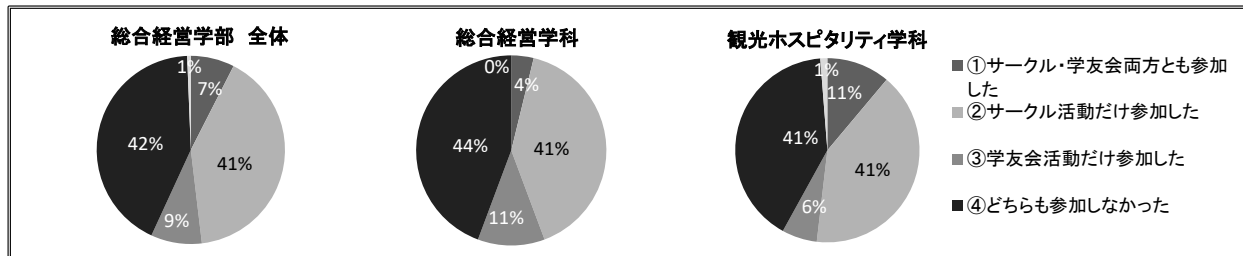
①の理由 ESの添削は助かりました
定期的に連絡をくれた
悩みを聞きサポートしてくれた
テキパキしていた
良いサポートをして頂いた(他1名)
いつも笑顔で話して下さいましたため
細かく説明していただいた
キャリアセンターにはたくさんお世話になったから
ささいな相談にも親身になって聞いてくれた
いつも明るく対応してくれてうれしかった
親切だった
助けていただいた

②の理由 就活でお世話になったから(他2名)
毎回優しく対応して下さった。一回呼び出されて行ったら追い返されたことがあった
丁寧
全ての課の皆さまに協力頂いた。親身になって助けてくださいました
丁寧に对应してくれた(他1名)
中には「この人は嫌だ」という人もいる
親切に対応して下さった
分からないことや電話での対応がとても丁寧でした
この大学はよく分からないことばかりだったため、学生課と教務課に助けてもらったから
学生課の対応があまり良いイメージではない。もう少し窓口を大きくして対応しやすくしてほしいと思う
勉強や就職について分からないことだらけの中、親身になってアドバイスを頂いたため
とても就職の時のキャリアの人たちは良かった
しっかり対応してくれた
親身・丁寧
ありがとうございました
分からないことや忘れていることを声がけしてくれたり、あいさつしてくれたり世間話をしてくれたり、楽しかったしありがたかった
メールで一気に情報が来るので不安なことが少なくて良かったです
日程の連絡が遅いのは困った
生活を支障なくできたから

③の理由 学生に対する態度があまり良くない方もいらっしゃる。近い学生は良いがそうでない学生の対応が雑であったり、事務的であったりする
学生課の職員、少し言葉遣いが悪い時がある
もう少し連絡を早めに・・・と思うことが時々ありました
あまり関わっていない

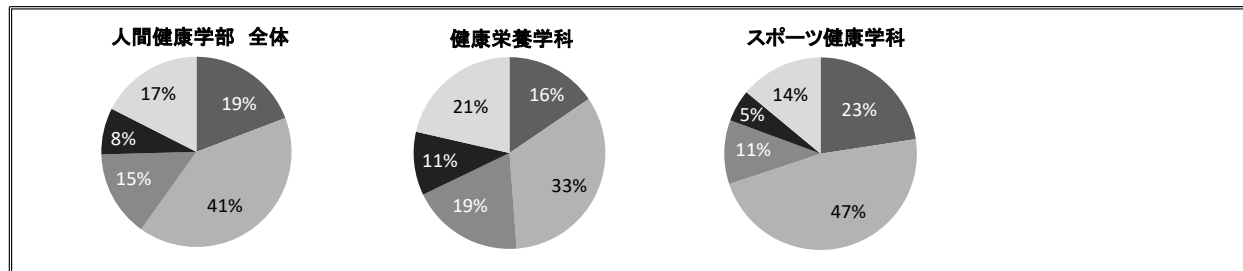
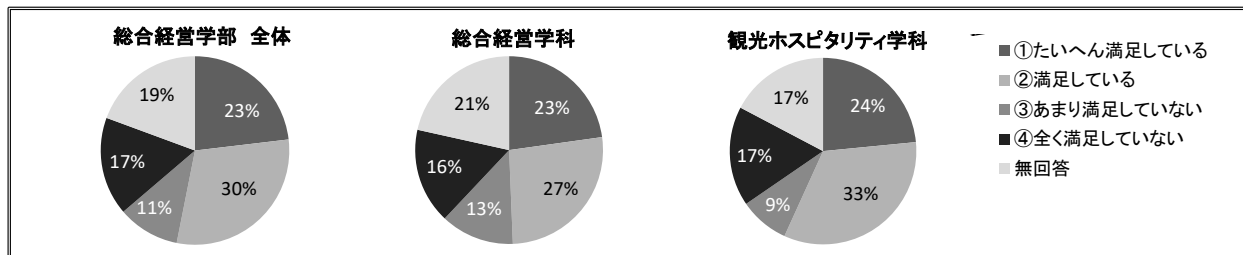
質問11. あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしたか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①サークル・学友会両方とも参加した	3	0	3	8	1	9	12	1	7	8	2	3	5	13
②サークル活動だけ参加した	23	9	32	23	10	33	65	5	27	32	39	21	60	92
③学友会活動だけ参加した	3	6	9	1	4	5	14	3	8	11	1	1	2	13
④どちらも参加しなかった	31	4	35	25	8	33	68	8	25	33	17	9	26	59
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0



質問12. あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	12	6	18	12	7	19	37	5	8	13	15	6	21	34
②満足している	12	9	21	20	7	27	48	3	25	28	25	19	44	72
③あまり満足していない	9	1	10	4	3	7	17	3	13	16	9	1	10	26
④全く満足していない	13	0	13	12	2	14	27	3	6	9	3	2	5	14
無回答	14	3	17	10	4	14	31	3	15	18	7	6	13	31



【理由等】**総合経営学科**

- ①の理由 良い友達に出会えた
スポーツ選手としてよりも人間として大きく成長させてもらえました
自分の交友の輪を広げられたから
良い先輩・後輩に恵まれ、とても有意義に活動することができた
一生の付き合いの友人ができた
非常に楽しかった
良い経験でした
充実した毎日を過ごすことができた
大学生ならではの皆との協力の仕方、作業などが体験できました
素敵な仲間と出会い、時間をかけて作り上げたものは一生もので良い経験ばかりでした
学友会活動を通じて様々な仲間に出会うことができ、イベントなどの運営では組織力やコミュニケーション能力などを向上させることができました
- ②の理由 体育館の使用が部によって不平等だった
素晴らしい仲間に出会えました
2年生の時に学友会に参加しましたが、皆で一つになって一つのことに向かっていく姿がとても熱く学生を楽しむことができたから
先輩・後輩とも関わり合いを持ってことや活動をより一層楽しむことが出来ました
自分のペースで活動できたから
- ③の理由 あまり参加できなかったから
- ④の理由 なあなのなれ合いが多すぎる
資金の援助をもっとしてほしい

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 楽しく活動できた
全国で勝ったから
色々な人と出会うには良い機会になった
学友会に入り、他学部の人との関りもたくさんできた。文化祭も成功できた
機材が自由に使い良かった
最高に楽しかった
今まで周りに同志がいなくて出来なかったが、同好会を通じて20人以上の同志とやりたかったことが出来た
年齢、学部、性別、学年を超えた友人が多くできた
良い仲間に出会えて充実した活動が出来た
サークルの仲間たちと楽しく活動が出来ました
- ②の理由 楽しかった(他1名)
怪我のため最後までできなかったものがあるためそれが心残り
スタジオを利用させていただいたため
自分で考えて行動できた
充実した学生生活を送れた
趣味の幅を広げられた
- ③の理由 怪我のこともありみっちり部活に集中できなかった
途中でイマイチになった
活動範囲が狭い
サークルの数が少ない
他大学との交流がない
途中でやめてしまったのが心残り
- ④の理由 やる意義がないと思う
事あるごとに自分のことや言っていることを正当化させようとする先生がいた。今までの伝統を無視し全てを変えようとしている。すごく大変でした
参加していなかったから(他2名)
部活動に専念していたためあまり参加できなかった(他1名)

健康栄養学科

- ①の理由 学友会では大変達成感のある良い活動をする事ができました
活動を通して自分が成長できたと思うからです
マイナビでは大変多くのことを学び、成長につながった
大学生の今だからできることをたくさんできました
学友会に入る学生があまり多くなく、人を集めるのが毎回大変でした。何か改善できるのなら多くの活動をしているので変えてほしいです
- ②の理由 楽しかった
サークルは楽しかった。ただサークルを作るのもイベントをやるのも、審査だの会議だのでやりたいときにできなかった
他大学の学生とも交流ができ、楽しかったです
人数が多く初心者だったため、不安もいっぱいあったが助けていただいた先輩・後輩・同期と絆ができた
充実した学生生活を送ることができた
軟式野球部にもグラウンドを使わせてほしい
他学部との交流が出来た
学友会は学祭を頑張っていた
- ③の理由 スポ科に部活が多いとスポ科だけでやっているような気になった
そもそも顔を出していない
参加していない(他1名)
学友会は自己満足感のある活動で残念だった。よくわからないボヤボヤとした組織だった。仲良くよしている感じ
学生主体であったため、活動についていけないことがあった
部活(サークル)に入る時間がなかった。サークルが少ない
よく知らない
サークル活動があまり活発に活動できなかった
通学や授業で忙しく最後まで両立できなくて悔しかった
- ④の理由 活動を知らない
参加していない(他1名)
人間関係が上手く行かなかった。先生が頼りなかった

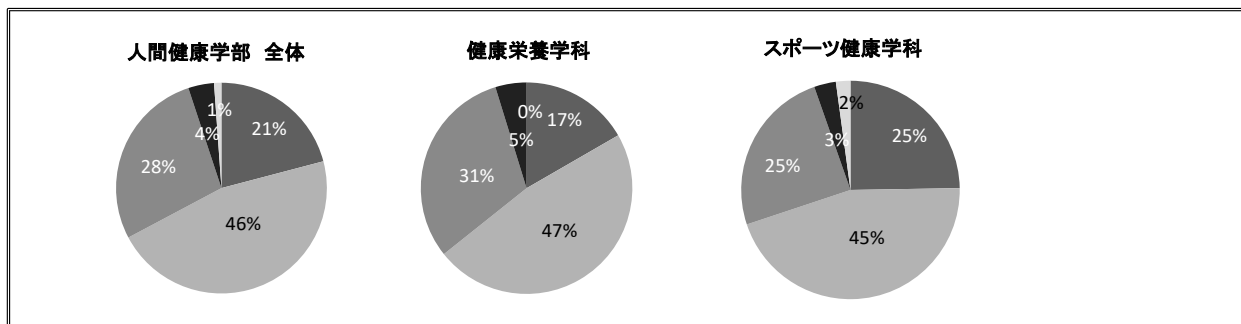
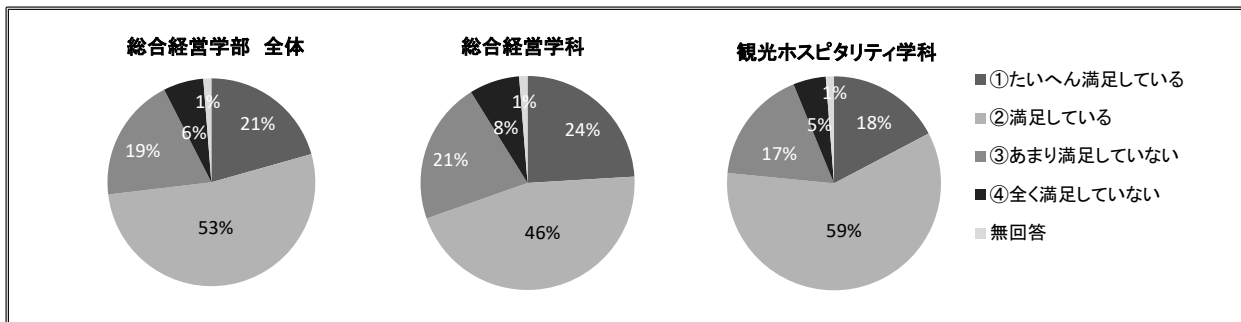
スポーツ健康学科

- ①の理由
- 良い成績を残すことができた
 - 友人が多くできたため
 - 親しい友人が増えた(他1名)
 - 他学部の友人が出来た
 - 会計の予算や請求方法をしっかりと説明してほしい
 - テニスコートの修繕助かりました
 - 楽しかった(他2名)
 - 公式戦が多く、楽しかった
 - いい仲間といい成績が残せた
 - 何より学校生活が充実した
 - たくさん支援していただきありがとうございました
 - 一緒にがんばる仲間に出会えた
 - 友人関係が広がった。色々なことに興味を持つきっかけになった
- ②の理由
- 学校の体育館が使えない時期があった
 - 社会的なことを学べた
 - 活動日数が少なかった
 - うまく両立することができた
 - 仲間が増えた
 - 部の待遇が違う気がする
 - 他学部との交流の場になった
 - 学部・学科を超えてつながりができた
 - 友人や後輩が増えた
 - 楽しかった
 - 部活が多くてあまり体育館を使えなかった
 - 人数が多く活気があり、やりがいがあった
 - たくさん行事を行っていた
 - 2年だけだったが楽しかった
 - ちょうど良い頻度だった
 - 楽しく部活ができた
 - やりがいがあった
 - 自分たちで自由に行うことができたため
 - 学友会は連携を取るのが難しかったけど、色々な人に出会えた。サークルはやりたいことができたけど、人数の減少で今後の不安だし、もっとやりたかった試合にも参加することが出来て楽しかった
- ③の理由
- あまり活動できなかった
 - まだやりきれしていない部分があった
 - 途中から行かなくなってしまいました

質問13.

あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、トレーナー室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部							人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	12	7	19	10	4	14	33	4	10	14	18	5	23	37
②満足している	26	10	36	36	12	48	84	5	35	40	29	13	42	82
③あまり満足していない	15	2	17	9	5	14	31	6	20	26	11	12	23	49
④全く満足していない	6	0	6	2	2	4	10	2	2	4	0	3	3	7
無回答	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 快適な環境の中、勉強ができた
 コンピュータの台数がたくさんあって良かった
 自分が使いたいと思う設備は充実していたと思う
 パソコンが使いやすかった(他1名)
 しっかりした設備だった
 満車でも無理やり停めている車があるので、進行の妨げになっていることがある
 お金がかかっているだけはある
 レポートを作る際はお世話になったから
 図書館のパソコンがもう少し台数が欲しかった
 きれいな環境でした。朝から清掃員の方がきれいにしてくださり、ありがたかったです
 何一つ不満なく、快適でした
 コピー機が変わってからとても便利になりました。駐車場をタダにしてほしいです
 自由に使うことができ、良かった。充実した設備だと思う
 良かった
- ②の理由 駐車場をもう少し広げた方がよい。土日など使う人が多いため、学生が停められなくなるケースが多かった
 トレーニング室は広くて利用しやすかった
 設備が整っていたと思う(他1名)
 フォレストホールを広げるより、図書館を大きくしてほしい
 駐車場を無料化してほしい(他1名)
 体育館の空調が整えば…
 田舎の大学としては十分だと思う
 少し動作が遅いですがそれ以外は満足でした
 つかいやすかったです
 満足はしているが、コンピュータ室のパソコンの種類・形が様々なのはどうなのか？
 パソコンのソフトも充実していた
 教室が暑すぎたり、寒すぎたりすることがあった
 駐車場が高い
 満足しているが、たまに設備の不調の時など使いづらい時もあった
- ③の理由 駐車場がこれまでのような整備が良かった
 新第2体育館が水道もなく、ラインも測らずに引かれていた
 駐車場が高い(他2名)
 調子の悪いパソコンがあり、作業に時間がかかった
 駐車場までお金を取るのかと、高い学費を払っているのに優遇が何もない学校だと思った。その割に設備も普通でした
 教室・駐車場以外あまり利用する機会がない
 ウェイト器具が少ない
- ④の理由 お金がかかりすぎる
 駐車券をプリペイド式にした意味がわからない。今まで通り半期、年間にしたままで良かった
 駐車場を安くしてほしい

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 駐車場だけは半年・年間カードの方が使い勝手が良かったです
グラウンドの設備はよくしてもらえて使いやすかった
レポートをやったりするのにコンピュータ室が使えるのは良かった
学生が使いやすい、良い設備がそろっていた
不満に思わなかった
きれい
- ②の理由 色々使えた
Wi-Fiが重い
あまり使わなかったが基本良かった
駐車券のチャージとかは大変だった
トレ室は最高だった
良い設備でした。季節ごとに体調を崩さず授業を受けられました
使いやすい(他1名)
パソコン室がすべて講義で埋まっていたので使えないことが何度かあった。卒論シーズンになるとみんな大変だった
施設設備はとて良かったが、駐車場のチャージなどは負担だった
コンピュータ室をよく利用させていただきました
ウェイト室がもっと器具を増やせばよい
駐車場が高い
きれいで使いやすかった
- ③の理由 不備等が多かったため
半期券がなくなったのはいただけない
Wi-Fiの環境が良くない
トレーニングルームは設備が悪く、講習なども受けなければならない
駐車場は高すぎる
駐車場は違法に駐車する生徒がおり、近隣の方に迷惑をかけるくらいならタダにした方がよい
駐車場が遠い
それほど利用しなかった
夏の時期エアコンが効きすぎて寒い時があった
トレーナー室・体育館をほぼ使うことがなかった
駐車場代を取ることでよく分からない
- ④の理由 駐車料金が高い(他2名)
駐車場は設備費の中から補えたらいいと思う。ICカードは不便だと感じた

健康栄養学科

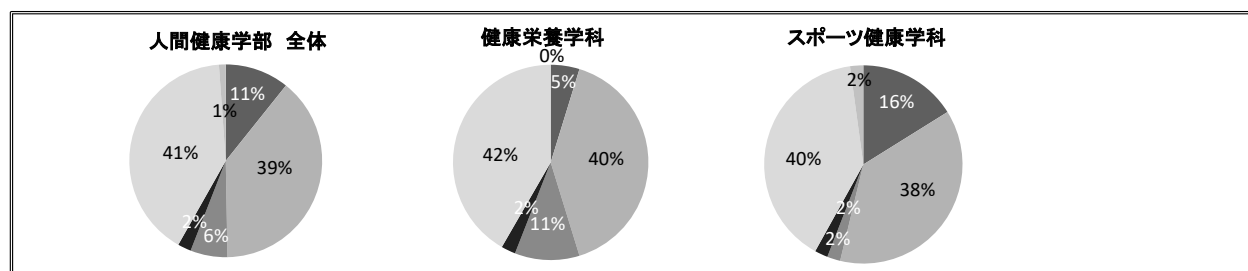
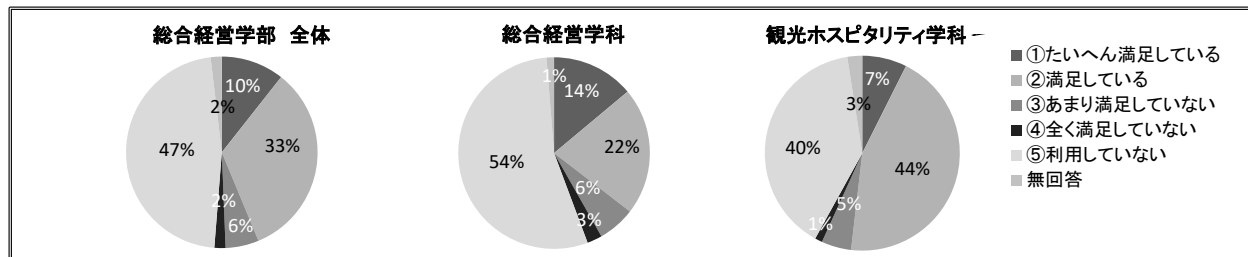
- ①の理由 設備はとて良かった
総合グラウンドがあり、練習する環境が整っていた
パソコン室が多く便利だった
- ②の理由 ジムありがたい
もっとトレ室説明会多くして(他1名)
駐車場が少ない
教室内のおいが気になった
貸出のPC(栄養くんが入っているもの)を増やしてほしいなと思いました。(他1名)
パソコン室の施錠が早い
駐車場を無料にしてほしい(他2名)
十分な設備があり、困ることは少なかった。あまり活用できなかったのは少し残念
冷暖房が徹底していて、快適に授業に臨めた
もう少しパソコンの台数が多いと良いです
印刷が学生証をタッチして出来たりと、学内のパソコンは利用しやすかった
パソコンのつながりが遅い(他1名)
パソコンが6号館に少なかった
体育館が使用しづかった
駐車場利用の料金
教室がいつでも使えて良かった。暖房もいつでも使えて良かった。
- ③の理由 駐車場を無料にしてほしい(他3名)
駐車場のシステムをもっと改善してほしい(他2名)
駐車場で同じ日に一駐と二駐に停めなおすとそれぞれお金が取られるのはどうかと思う(他1名)
駐車料金が高い(他3名)
駐車場は年間券の方が利用しやすかった
6号館のPCと実験室前のテーブルと椅子が少ない
栄養くんを6号館PCにすべて入れてほしいのとPC数少ない(他2名)
コンピュータの数が学生に対して少ないように感じたため(他2名)
Wi-Fiが繋がらないところがあった。(他1名)
パソコンや勉強スペースがもっとほしかった
昼食を教室で食べてはいけない
図書館の閉まる時間が早い
気温が高いのに冷房がつかない時期がある(初夏など)
PC室以外のPCやコピー機をもう少し増やしていただけると、スムーズに課題に取り組めると思った
有料であること
ロッカーが狭く、着替えにくかった
- ④の理由 駐車場料金高い

スポーツ健康学科

- ①の理由 充実していた(他1名)
設備が整っている
使いやすかった(他1名)
空き時間の潰しに最適だった
駐車場が利用できたのはありがたい
トレーニングルームや体育館が空いていればいつでも使えて色々な運動が出来るから
グラウンドを地域の団体が使いやすくしてほしい
トレーニングルームをしっかりと活用したから
- ②の理由 充実していた(他1名)
トレーニング室は設備が整っていて良かった
駐車場代が高い(他2名)
気づいた点でPCの速度が号館によって違うのが気になる(他1名)
コンピュータ室の速さを速くしてほしい(他1名)
コンピュータの動作が速いのと遅いのがあった
設備はしっかりしている
不足しているものがない
欲を言えばすべてのパソコンをWindows10にしてほしい
6号館のパソコンが減って不便だった
トレーニングルームの奥の部屋も常に利用できるとされに良いと思う
Wi-Fiの精度がたまに悪かった
随時アップデートされていて助かった
良かった
設備が整っていた
グラウンドは人工芝で部活がやりやすかった。駐車場は車通学で非常に便利だった
駐車場にICカードが第一・第二共通だと思いました
図書館が行きやすかった
- ③の理由 駐車場のシステムが・・・
人工芝のはりかえをしてほしい
パソコンの数が少ない(他1名)
体育館(1体)のギャラリーの上の空間がいらぬ。(ボールのつたら取れないため)
グラウンドがなくて練習に困った
駐車料金があるため違法駐車があった
パソコンの台数・質があまり良くない。プリンターも同様
駐車場が一日の間で一か所しか使用できない
駐車場の料金(テスト期間は無料開放など)
体育館の設備をよくしてほしい。エアコンをつけるとか
部活の大会で停めておきたい時、回数がすぐ減るところ。土日の早朝閉まっていて出るとき開いていると学生課に行かなくやいけないところ
パソコンが少ない。駐車場がめんどくさい
駐車料金が面倒
トレーニング室が使いたいときに授業が入っていたりするのが残念
駐車料金を無料にすれば違法駐車もなくなると思う
なぜ駐車料金を取るのか
PCは壊れやすい
駐車場は高いので学生証で代用すべき
- ④の理由 駐車料金を取るのめんどくさい

質問14. あなたは各サポートセンター（基礎教育センター、国際交流センター、健康安全センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館等）に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①たいへん満足している	7	4	11	3	3	6	17	0	4	4	11	4	15	19
②満足している	8	9	17	28	8	36	53	5	29	34	19	16	35	69
③あまり満足していない	4	1	5	3	1	4	9	2	7	9	2	0	2	11
④全く満足していない	2	0	2	1	0	1	3	0	2	2	1	1	2	4
⑤利用していない	38	5	43	21	11	32	75	10	25	35	25	12	37	72
無回答	1	0	1	2	0	2	3	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 授業の空き時間に利用しやすかった
丁寧に対応してもらえた
地域づくり考房ゆめでは、貴重な経験をできました
健康診断ができて良かったです
- ②の理由 基礎教育センターでは勉強以外のことでも相談に乗ってもらった
基礎教育センターでは親身に付き合ってくれて教えてくれるので良かったです
職員の対応が良かった(他1名)
空いた時間に利用できて良いと感じた
使いやすかった
特に基礎教育センターでは、どんなに簡単な問題が分からなくてもバカにせず教えてくれて嬉しかった
留学もできた
基礎教育センター等にお世話になってとても熱心にみてくれた
ボランティアでは楽しかったが学校と離れた部分があり、トラブル対応にかなり不満がある
- ④の理由 自身の勉学のため利用できませんでした
長野市から通っているのでもそまでお金を使って活用するものでないと思った
- ⑤の理由 機会がなかった

観光ホスピタリティ学科

- ②の理由 色々使えた
基礎教育センターはSPI対策でお世話になりました
良かった
図書館は静かで落ち着いた
図書館はベストスポット
対応が良かった
本が好きなので資料が多い図書館は嬉しかった
図書館に多く通わせてもらった
1回しか通わなかったが親身になってくれた
- ③の理由 苦手な職員の方が多かった
図書館しか利用していないが、図書館は良かった。国際交流センターの告知がいつ行われているかまいち分からなかった
- ⑤の理由 利用しなかった(他2名)
ほんの少し基礎教育センターを利用しただけ。とてもやさしく丁寧に教えてくれました

健康栄養学科

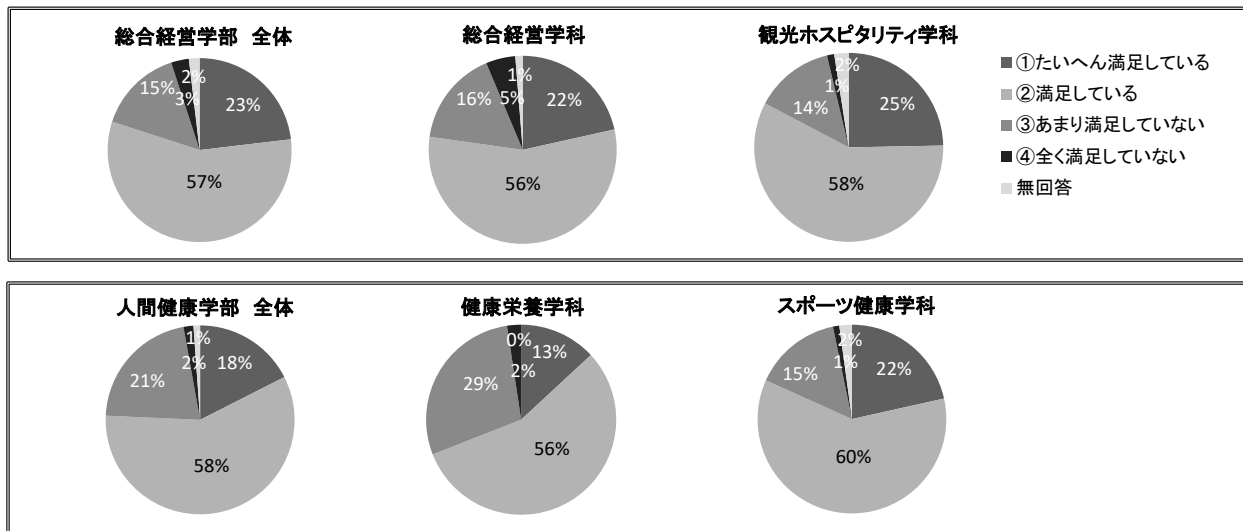
- ①の理由 基礎教育センターではとてもいい勉強ができた。楽しかった
サポートが充実していた
- ②の理由 勉強の教材を自分に合わせて用意してもらえる
図書館はものすごく勉強しやすかった
自分の個性を伸ばすことができた
- ③の理由 行きにくかった
利用していない
健康安全センターには入りづらさがあった(他1名)
- ④の理由 授業に出るために空きコマだけ休ませてほしいと頼むと出ていくように言われた。授業に出席したいからお願いするのに冷たすぎます。同じ女性だから分かってほしかった
- ⑤の理由 なんですかそれ？

スポーツ健康学科

- ①の理由 教養をたくさん学べた
卒論で資料が必要な時、とても丁寧に対応してくださった
勉強(テスト勉強)では図書館に大変お世話になりました
基礎教育センターには大変お世話になったため
図書館にはゼミが決まるまではよく利用させてもらった
基礎教育センターか健康安全センターを何回か利用したけど、優しく対応してくれてありがたかった
- ②の理由 良かった
図書館は勉強しやすかった(他1名)
健康安全センターでは大変お世話になりました
あまり利用していない
利用しない施設もあった
親切丁寧に指導して頂いた
面倒を見てもらった
サポートが良かった
アルバイトに参加できた
図書館の本は色々そろっていて役立った
健康安全センターでは、相談や対処の仕方・処置をしてもらいとても助かった
- ⑤の理由 積極的ではなかった
特に必要性を感じなかった
知らなかった
利用していないので分かりません

質問15. あなたは生協のフォレストホール、カフェテリア、購買に満足しましたか、満足できませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	11	6	17	15	5	20	3	8	11	16	4	20	31
②満足している	33	11	44	34	13	47	8	39	47	36	20	56	103
③あまり満足していない	11	2	13	7	4	11	5	19	24	6	8	14	38
④全く満足していない	4	0	4	0	1	1	1	1	2	0	1	1	3
無回答	1	0	1	2	0	2	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 購買のおばちゃんが優しい
品数が多くて利用しやすかった(他1名)
良く利用していた
ご飯がおいしかった(他1名)
必要なものはそろっていると思うから
価格が安く、気軽に使えて良かった
お弁当がとてもおいしかった
購買が良かった。ただ人が多いので、もう少し広くしてほしい
鳥から南蛮丼がおいしかったです
いつも笑顔で対応してくれ元気をもたらした
安くて助かった
毎回手軽に利用できてとても満足しているので、このまま続けてもらいたいと思う
- ②の理由 品揃えや価格も考えられていて、とても良かったです
特に不満はなく利用できた
安く買えるので助かりました
もう少しおいしいとうれしい
自分に必要なものがちゃんとあった(他1名)
お弁当をもっと多い量求む
品揃えが増えればなお良い
必要な時にすぐ買えた
便利だった(他1名)
生協の値段、品揃えがイマイチ
フォレストホールにもWi-Fiを!
ホットドリンクをもっと増やしてほしい
カフェテリア◎
食堂の営業時間をもっと長くしてほしい
- ③の理由 席数が少ない
学食はおいしかったが、バリエーションが大学にしては少なかった気がする
お湯が90度設定…ぬるい
参考書が売り切れになってしまっていたり、1回目の講義までに間に合わず講義の中で周りに遅れを取ったので、もっと早めに参考書を準備してほしい
込み具合からあまり利用していない
狭い

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 1年生から4年生までほぼ毎日のように使わせていただいとて居心地が良い最高の場所でした
お昼に利用して足りない物を買物したりできた
4年間とてもお世話になった。フォレストや購買のおばちゃんたちがとても良い人だった
店員の対応が良かった
行きやすかった
おいしい料理ばかりでした
営業時間が長いから
利用しやすく品揃えも良かった
大好き
カレーがおいしくて優しくしてくださったから
学食がとてもおいしく、職員さんとも仲良くなった
友達との集合場所や語った思い出の場所だから
- ②の理由 安かった(他1名)
混んでしまった時の対策をしっかりとお願ひします
美味しかった
おすすめ商品等がとてもおもしろかったです
良いと思う
mother'sカレーがすごくおいしかった
- ③の理由 レジが混む
食品が少ない
すぐ混む
せますぎる
人がいすぎた
もう少し広くしてほしい
購買の品数が少ない
- ④の理由 人が多い

健康栄養学科

- ①の理由 買いたいものが買えたから
特に生協は様々なものが置いてあるため、ありがたかった。昼食を食べる場所がもっとあればよかった
- ②の理由 従業員の方々が優しく接してもらえた(他1名)
ブラックモンブランがあった
学食は少し値段が高かった
お昼時間にもっとスムーズに使えと嬉しい
学食メニューを増やしてほしい
弁当を含めバランスの取れたメニューがほしい
コンセプトメニューなど雰囲気作りが良かった
お弁当や学食に野菜が入っているものをもう少し増やしてほしい(他1名)
親切であった
フォレストホールは小さくてもう少しテーブル等ほしいと思った
フォレストホールは席の数が少ないと思っていたが、新しくできるので良いと思う
席が少なかった
- ③の理由 購買の営業時間をあと1時間伸ばしてほしい
せまい(他1名)
高い…(他1名)
高い・遅い・たいしてうまくない
ものは少ないが、働いているおばちゃんはいい人
おにぎり・パンの種類が少ない。変化なくて飽きる
置いてあるものが少ない(他2名)
野菜を多く使用した献立が食べたかった
営業時間が短い
メニューが少ない
学食を夕方まで開いてほしい
ヘルシーメニューなどもあると良い
席が少なく、テスト期間になると場所がなくなる
購買で昼を買うより、コンビニなどで買って食べる方が安くおいしく感じた。17時以降も開いてほしい
生協のお弁当の野菜が少ない
時間帯が良くない
朝から営業してほしい
お弁当が高い
職員の方は気さくで良い方ばかりですが、フォレストのメニューが少ないし野菜などが少ない
野菜が少ない
- ④の理由 カフェテリアは利用する時間が取れない

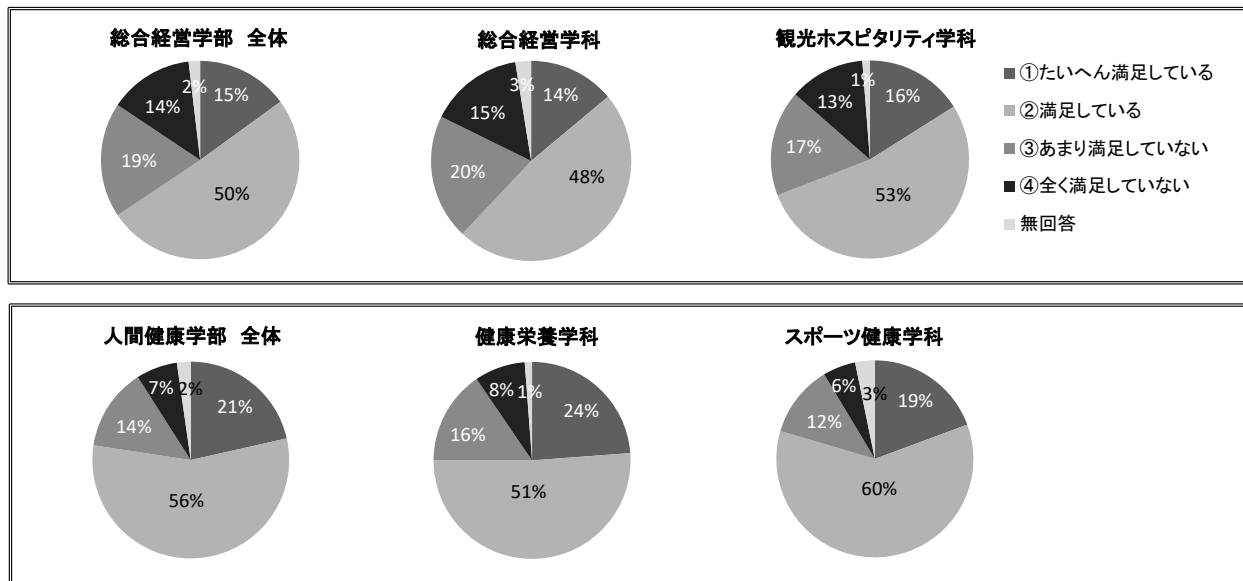
スポーツ健康学科

- ①の理由 明るく接して下さり、品物も良かった
気軽に必要なものが買える
混んでいるときに嫌だった
いつも優しく商品を買ってくれた
生協の方々はみなさん良い人ばかりで楽しかったです。お世話になりました
人がいい
安くておいしかった
毎食お世話になりました
品もよく買いやすかった
美味しかった
- ②の理由 必要なものがあった
時間をもっと長くしてほしい
バリエーションを豊富にしてほしい
席が足りない(他1名)
よく利用させてもらった
物はそろっていると思うが、もう少し安くしてほしい
昼のピーク時に席が足りなかった時が何度もあった
そろそろ学生数に対して手狭となった。2019年度は9号館が出来て良くなると思う
品揃えが豊富(他1名)
値段も安く利用しやすかった
食堂は時間指定でない方がうれしい
もう少し種類が多くて良かった
メニューを少ない、高い
カフェテリアの営業時間が短いと思いました
金額も安く美味しかった
場所が狭い、メニューが少ない
フォレストの席が少ない
学食が狭く、人が多いのでなかなか利用できなかった
品揃えがもう少し多いといい
バランスがあまり良くない。少し高い
- ③の理由 安くないし、メニューが健康的ではない
フォレストがせまい
品数が少ない。飽きる。席数が少ない。値段がもう少しだけ安いと利用しやすい
商品が基本同一で4年もいたら飽きる
お得なメニューでも度重なる値上げやスタッフによる盛る量が違うなど、お得感はまったく感じない
小さい
小松バンドこへ行ったの？
種類を増やしてほしい
高い
生協のメニューが少なく高い

質問16.

あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会)についてどのように感じましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	7	4	11	7	6	13	24	3	17	20	13	5	18	38
②満足している	27	11	38	32	11	43	81	7	36	43	32	24	56	99
③あまり満足していない	14	2	16	9	5	14	30	2	11	13	9	2	11	24
④全く満足していない	10	2	12	9	1	10	22	5	2	7	3	2	5	12
無回答	2	0	2	1	0	1	3	0	1	1	2	1	3	4



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由
- 学祭に向けて部活を頑張ることができた
 - 学祭の費用にける金額が素晴らしい
 - 体育大会楽しかったです
 - 思い出に残るものだったと思う
 - 企画が盛りだくさんで楽しかった
 - 素敵な思い出になりました
 - たくさん思い出作りできました
- ②の理由
- 楽しかった
 - 少しずつ周りと打ち解けるようになった
 - 基本的には満足しているが、大学祭・歓迎会等の部活の時間が少ないと感じる
 - あまり参加しなかったが、一年生の時の大学祭の出し物が楽しかった
 - 地方大学としては頑張っていると思ったので良かったです。
 - 計画がすごいと思いました
 - 有名なお笑いのグループやバンドグループの演奏を聞くことができて良かったです
 - 学科との関り、サークル活動を通して多くの方と関わりを持って楽しかった
 - ライブ楽しかった
 - 参加していないが、積極的にイベントを行うことはいいことだと思う
- ③の理由
- 強制参加はやめてほしい
 - ほぼ参加していない(他2名)
 - まず記憶がない
 - 各行事に魅力を感じなかった
 - あまり出ていないので分からない
- ④の理由
- あまり参加しなかったため
 - 参加してません
 - 学生会・学生会の対応があまりにひどく大変不愉快な思いをしたため(返信がない、連絡が非常に遅い、資料不足等)

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 どれも楽しかった
大学祭がゲストが来たり、とても楽しかった
企画が楽しかった。どれも楽しむことができた
役員の方が積極的にやってくれてとても楽しめた
- ②の理由 楽しかった(他2名)
良かった
大学祭にしか出れなかったが、楽しい行事でした
みんなが一同となってる姿に青春を感じた
花火大会は思い出があるから
- ③の理由 イケイケな人しか楽しめない
特に参加していないため(他1名)
大学祭で同好会のブースが案内看板に記載がなかった。教室の鍵をしてもらう申請をしていたのにしめられていなかった。大学祭会議の連絡が当日に来た。しかも運営の資料作成が間に合わなかったため延期します、とのメールが会議2時間前に届く
大学祭以外参加した記憶がない
- ④の理由 参加していない(他6名)
金の無駄としか言いようがない

健康栄養学科

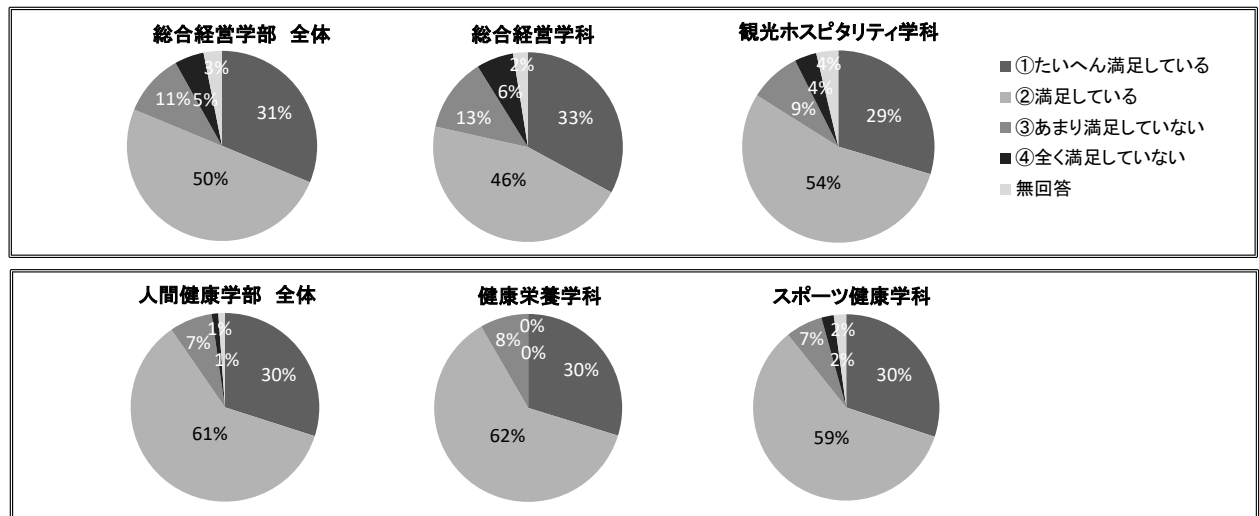
- ①の理由 楽しかった
ゲストが豪華だった
- ②の理由 楽しかった(他1名)
体育大会は学科別にしてほしい
景品が豪華だった
大学祭の次の日も片づけのため休日にすべきだと思います
- ③の理由 学生会員のみで楽しんでいる感を強く感じる
あまり参加していないため(他2名)
有名でない芸人さんを呼ぶならアーティストに力を入れてほしかった
4大の体育祭したかった
参加しなかった
平凡すぎて楽しめなかった
- ④の理由 参加していない

スポーツ健康学科

- ①の理由 どれも楽しく思い出となった(他1名)
大いに盛り上がった
学祭は楽しめました
楽しかった
たくさんの芸人に会えたり、ゼミの中も深まった
芸人が良かった
- ②の理由 いい思い出が作れた(他1名)
企画して下さる方々がたくさん盛り上げてくださって楽しかった
交流ができていいと思う
友達作りができた
大学祭に呼ぶアーティストが有名で良かった
楽しかった(他5名)
みんなで楽しめた
行事ごとは思い出にかなり残っている
打ち合わせから密に連携がとれていた
ありがとう
学生が作り上げていく雰囲気が良かった
大学祭は自分も関わることができ楽しかった
- ③の理由 あまり参加しなかった
あまり興味がない
行事に参加していない
運営の力不足、準備不足が目立ちがち
- ④の理由 参加をしていない

質問17. あなたは卒業後の進路に満足していますか、満足していませんか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①たいへん満足している	20	6	26	17	7	24	50	3	22	25	19	9	28	53
②満足している	24	12	36	35	9	44	80	12	40	52	35	20	55	107
③あまり満足していない	9	1	10	3	4	7	17	2	5	7	4	2	6	13
④全く満足していない	5	0	5	1	2	3	8	0	0	0	0	2	2	2
無回答	2	0	2	2	1	3	5	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由
- 今からものすごく楽しみがある
 - 無事に就職できたから
 - 私の進路が例外的なのは承知しているが、キャリアセンターの対応はとても不満だった
 - 納得のいく結果になりました(他1名)
 - 自分の好きなものと関われることは頑張れる
 - 自分の理想の就活ができた
 - 就職することができ、大変感謝している
 - 不釣り合いな程良い進路だと思う
 - クラス担当の先生に大変お世話になりました。自分の希望する進路に就け、今後の人生について考えられるキャリアカウンセリングを受けられました
 - 自分の進みたいと思っていた道に進めて良かったです
 - 納得がいくまで就活ができました
- ②の理由
- まだ社会に出ていないので分からない
 - 希望する企業に就職できたから(他2名)
 - 第一志望の企業ではなかったが、内定した企業にご縁があったのでそれはよかったです
 - 就職先が見つかったので満足
 - どこに就職しても一緒だと思っていたので、長く働くことのできる、長野では大きな方の企業に入社できて良かった
 - 当初やろうとしていたことと異なるが、やりがいは感じられると思う。正直やってみなければ分からない
 - 希望の進路に進めたため
 - 自分で選択した進路なのでしっかり考え抜きたいと思う
 - 志望度の高い企業に内定していただけたため
 - 自分で選んだ道なので
 - 希望する業界に就職が決まったので
- ③の理由
- 通過点に過ぎない
 - 自分がやりたいことが見いだせなかった
- ④の理由
- まだ迷っている
 - 行きたかった企業全てに落とされたため
- 無回答の理由
- 満足かどうかは働いてからでなければ分からない

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 希望通りになった
就職できたから
キャリアで紹介してもらえて自分の興味のあることができる
自分が行きたい分野の仕事に就くことができた
自分で行く決めた進路なので長続きできるようながんばります
志望したところに行けたため
キャリアセンターやクラスの先生方のおかげで希望の内定先に進めた
ちゃんと内定を取れたから
- ②の理由 テーマが明確な職場だから
悩んだ
大学で学んだことを生かせると思う
行きたいところへ行けた
不安でいっぱいです
希望通りだったため(他1名)
キャリア・クラスの先生と決めた進路です。がんばります
良いところ
それなりに
志望していた関東に企業に行けたため
やりたいことだから
まだ未知なので分からないが精一杯頑張りたい
- ③の理由 努力が足りなかった
色々あるがよいと思っっている
もっと自己分析してやりたいこと、軸を決めればよかった
- ④の理由 先輩などからあまりよくない会社のうわさを聞かされる
不安がある
勤務地について不満があり、1年で辞めようと思う

健康栄養学科

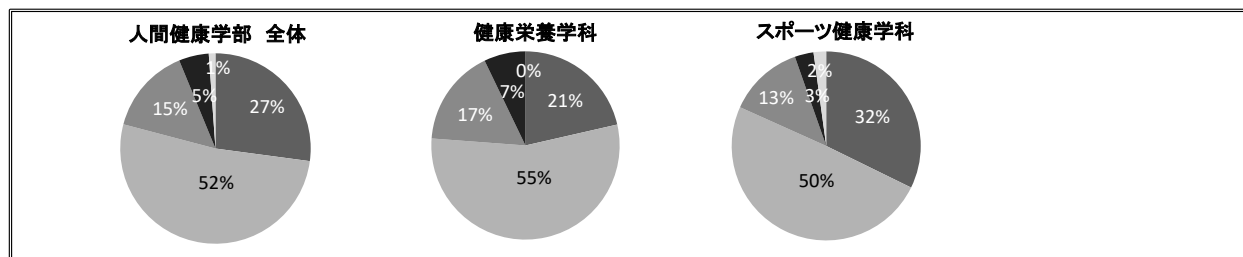
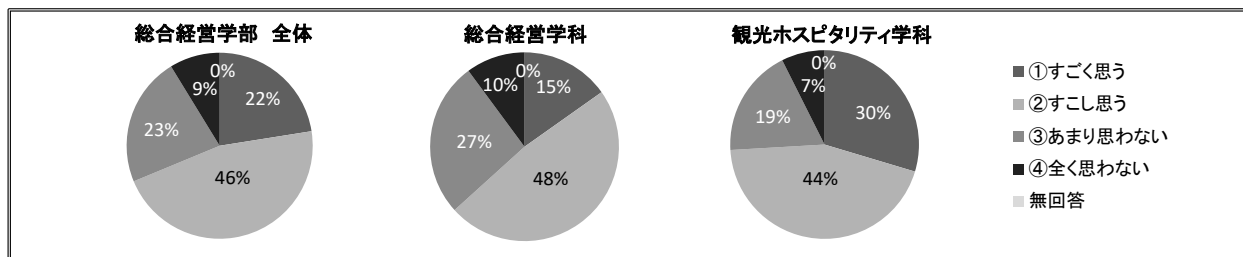
- ①の理由 納得のいく就活が出来たから
やりたい職業に就けた。次は出来ることで挑戦したい
キャリアセンターに頼らずに決められたから
やりたいことが全てできる
自分のやりたいことが見つかることが出来た
自分が納得がいくまでキャリアセンターの方にサポートをいただけた
自分の希望する職種に就くことができたから
第一志望の企業から採用をいただいたので
- ②の理由 自分のやりたいことをやりながら道を広げられる。ただしビジネスを始めたい人はこれから多くなると思うが、その対応が全くないためあまり良くは感じなかった
自分でチャレンジできたことは良かったと思う
やりたい職につけた(他1名)
自分の選んだ道だから(他1名)
無事内定をもらったので満足
満足しているが4年間で何をやりたいのか見出すことが出来なかった
納得のいく就活ができた
- ③の理由 やりたいことがなく適当に選んだ

スポーツ健康学科

- ①の理由 自分のやってきたことをそのまま活かせてので満足している
一番行きたいところに就職できたから(他1名)
第一志望に受かったため(他1名)
夢を見つけたから
自分のやりたい仕事に就けた
自分のやりたいことが見えてきた4年間でした
良い会社が見つかった
素晴らしい仕事につけるため
実家から通えるから
夢に近づけたから
- ②の理由 良いところに行けたから
安定している
キャリアからの紹介だったが評判の良い会社に入れた
地元で貢献できるから
希望通りであるため(他1名)
自分を活かそうだから
これからどうなるか分からないが希望はもてる
自分で決めた道(他1名)
自分の第一志望に入れたから(他2名)
一応希望通りになったため
これから頑張りたい(他1名)
キャリア・ゼミ担当が非常に良くサポートしてくれた
資格取得を活かした
納得のいく進路を決めることができた。キャリアセンターのおかげです
- ③の理由 県外だったので大変だった
- ④の理由 まだ決まらないから。自分が一番望んでいた職に就けなさそうだから

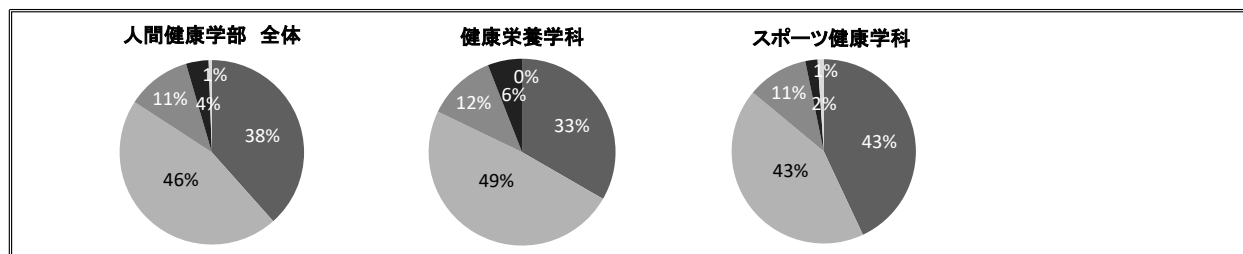
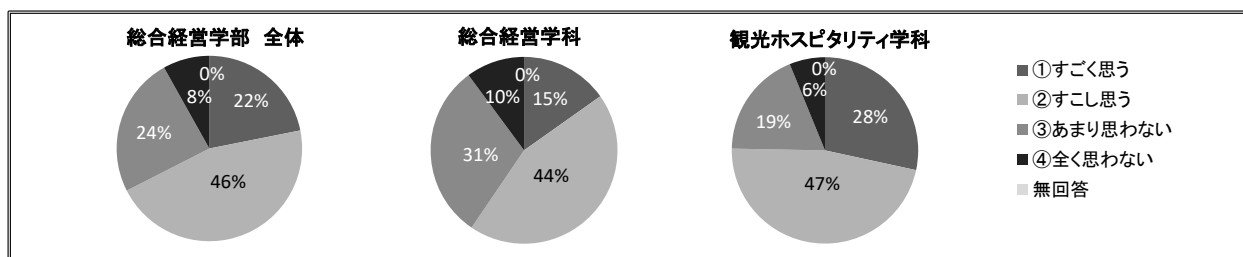
質問18. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	7	5	12	17	7	24	36	2	16	18	19	11	30	48
②すこし思う	27	11	38	24	12	36	74	7	39	46	30	16	46	92
③あまり思わない	19	2	21	12	3	15	36	6	8	14	9	3	12	26
④全く思わない	7	1	8	5	1	6	14	2	4	6	0	3	3	9
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2



質問19. あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	11	1	12	16	7	23	35	7	21	28	25	15	40	68
②すこし思う	21	14	35	25	13	38	73	4	37	41	26	14	40	81
③あまり思わない	21	3	24	13	2	15	39	5	5	10	8	2	10	20
④全く思わない	7	1	8	4	1	5	13	1	4	5	0	2	2	7
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1



質問20. 松本大学をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

長野大・理科大みたいに公立になって学費が安くなればいいと思う
難しいと思うが他学部資格の講義も単位認定されればいいと思う
今のままで良いと思います(他1名)
立地
もっと若者の心に火をつけられるように改善を。スマホの規制をしてもらいたい
駐車料金いらない。私立だし色々お金もあるので、9号館作るお金があるなら、もう少し学生に対して・学生の親に対しての負担を減らすようなことをしてほしい。都会の大学は駐車料金0円のところが多い
駐車料金を安くしてほしい(他1名)
ATMを増やしてほしい
簿記の講義レベルが日商簿記レベルと低い。日商2級レベルの内容を出せるクラスにはやらせるべきだと思います
映画を見せるだけの授業は意味が分からなかった。喫煙場所を建物化してほしい
カードリーダーの出席を完璧にすべきだと思います。故障や不具合が多かった覚えがあります
高い学費を払っている以上の設備、優遇があれば良くなっていくと思います(他1名)
駐車場の利用手続きが面倒くさい。もっと簡易的にしてもらいたい
駐車場を無料にしてほしい(他2名)
小テストの実施を増やして知識を定着させる
成績確認期間が長くしてほしいと思った
より有価証券の売買に特化した授業
地元のスポーツチームの招待券などを配布してほしいです
暦通り授業をやってほしい
とにかく交通面が不便すぎる。スクールバスを定期にするなどして、少しでも交通面を工夫してほしい
休講や休校連絡が遅すぎる(全般的に諸連絡全てが遅いと思います)講義が始まる10分前に休校の連絡が入ったときは本当に酷いと感じた
もう少し電車の本数や、JRとの乗り継ぎの時間が丁度良ければ通いやすいと思う
総合経営学科でも、もっと地域について学ぶ授業があったらいいと思う。あまり「地域に密着している」という感じがしなかったため
産業カウンセラー資格の奨励金を頂きたい
学祭時、レンタルなどの詰めが甘すぎる。みんなに情報がいついていない
もっと留学できればいいのと思う
他学の履修も単位が欲しい

観光ホスピタリティ学科

教育カリキュラムを向上させる
祝日をもっと休みにしてほしい
先生の態度を変えてほしい。講義が必修の講義でなければ取りたくないものになってしまったため
授業料を安くする
学べる言語をもっと増やしてほしい
イベントを増やすと参加しやすい
先生の評価の基準(レポート等)をしっかり明確にほしい先生がいる
駐車料金を少し下げてほしい
長野県外の学生の方もたくさん来ていただけるよう全国的に知名度を上げる
お金を払っている以上、喫煙スペースや時間帯など好きにさせてみてはどうですか？不平等すぎて本当に学校なのかと疑問に思ってしまう
もっと地域の人が学内に気軽に来れるようにする(特に学食など)
基礎教育センターのようにTOEICに特化したセンターの開設、有名講師などの特別講義をもっと開講してほしい
敷地内禁煙
駐車場無料化(他2名)
パソコンを増やした方がよい
教科書代を少し安くしてほしいです
席は指定の方がよいと思いました。友達と座るとうさく他の学生に迷惑がかかってしまうと思った
野球部の態度はどうかと思う
福祉科を作してほしい
地域密着を現状維持、今以上に
少人数授業
このままが良いと思う(他1名)
偏差値を上げる
学生のマナーの改善
ゼミ活動をもっと活発にほしい
他大学と交流したい
留学制度をもっと充実して(留学の情報がいまいち入ってない)
サークルの数を増やす
教科書の値段が高いので、卒業生から寄付して下の子にあげたい

健康栄養学科

外部の専門家の先生の話聞きたい
駐車場の無料開放(他1名)
学費を安くしてください(他1名)
管理栄養士を目指す人と目指さない人で学費を変える。または返金などの対応が欲しい
他学科履修の単位はいいけど、履修可能数は増やしてほしい
栄養科でも、もっと資格を取れるようにしてほしい(経理とか)
キャリアセンターのとりあえず数値とりのために就職しろという感じがすごくする。もっと柔軟な対応や道を示してほしい
電車の時間と授業の時間がちょうど良いと嬉しい(他2名)
タブレットの貸し出し
タブレットの貸し出し制度を栄養科もやってほしい
地域貢献活動を必修科目にする
教科書代や実習費は学費の中に含めてほしい(使わなかったら後で返金とか)
ご飯を食べるスペースがもっと増えると良いと思います
今のままでいいと思います
お酒についての授業(お酒と料理のマリアージュとか)があってもいいと思う
5限目の終了時刻の変更(授業開始を少し早めるなど)
Fランはどんなに頑張ってもFランだと思います
参加型の講義がもっとあっても良いと思う
Wi-Fi環境を整えてほしい
もっと他学部と交流できる場が授業などあればいいと思う(他1名)
お昼を食べれる場所、勉強できる場所をもう少し増やしてください
テスト時間はしっかりほしい(60分は短い)
空き時間や昼食時等、7号館コモンルームに学生が集まるためいっぱい人があふれてしまう時があるので、休憩スペースを増やしていただきたいです
再試の2000円高いと思う
体育の授業が減ってしまったのもう少しあっても良いと思います
学食のメニューを増やしてほしい
出席を取るとき学生証の反応が遅い
学生の意識向上

スポーツ健康学科

この学校に通えて良かったです
社会で活躍している人々の講演をしてほしい
バスケットを広くしてほしい
駐車場の料金が安い
キャンパスを大きくする
教職の取る単位が多かった。専門に含んでほしい
他学部との共同ゼミなどがあると、学びの幅が広がると思った
店を入れてほしい
満足している
再試制度が欲しい
運動部活動の強化をして全国大会で活躍できるチームや選手がもっと増えればイメージアップになると思う
駐車料金を無料(他1名)
授業で実習活動を取り入れるとさらに興味がわくと思う
禁煙にすればいい
より実習形式にして座学よりも身体で学んだ方が身につくと思う
今のままでいい
インターンシップ授業
日程の決定や連絡がもっと早かったら良い
ディベート式の講義がもう少し多いといいと思います
生協が小さい。コンビニなどを入れる
PCの数をもう少し増やしてもらえると嬉しい
20:00以降になると暖房が切れて冷たい風になってしまうのをやめてほしい
留学制度の充実
食事のできる場(飲食OKなところ)をもう少し増やしてほしい
駐車場料金が安いことや強化部指定の部活動の設備をもう少し整えてもらいたい
駐車場は無料がいいと思います。今の入金するタイプだと学校に来ない分だけお金が浮くと考える人が多くて、学校に来る気が失せると思います。お金を取るなら前のように前期・後期・年間と先に払った方が、払ったからもたないし来ようという気になると思います。もっと学生目線で考えてほしいです
〇〇学科は××があるけど、△△学科は××がないみたいに平等じゃないのを変えてほしい
もう少しフリースペースにパソコンが多くあるといいと思いました
きちんとやっている人、そうでない人は学生から見るとすぐわかるから、そういう学生の不満とかをもっと聞いてもらいたいと思った

質問21. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

他学部科目をもっと単位認定(卒業要件)にしてほしい
今のままでいいと思います
もっと実地での勉強を
もう少し雑音を少なくし、テンポを早めてほしい
学生に対して態度のデカイ人をなんとかしてほしい
大学でしか学べない専門性の高い授業を増やす
行事をもう少し増やすといいと思う
他学部・他学科の授業を取った時のメンフィアの表示をもう少し分かりやすくしてほしい
地域貢献が取り柄なのに地域の人とあまり密着した覚えがないし、経済の分野が弱いと思った。その他の専門分野はこれから生きていくための学となったと思います
話すのが苦手な学生向けの話し方の授業があると良いと思う
経営にまつわる授業がもっとあったらいいと思いました
外部の方の講演会をもっと取り入れた方が良くと思います
今のままでいいと思う
心理学・語学系をもっと充実させてほしいと感じた
語学系の講義がもっと欲しいと思った
一方的に先生が話すだけという授業が多かったので、もっと学生が自ら考えるような授業のやり方にしたなら、楽しく授業を受けられるのではないかなと思う
実習があるゼミが少なく、地域とのつながりをさらに濃くするための取り組みがあっていいと思う

観光ホスピタリティ学科

商業・観光系の講義をより向上する
もっと学生が授業に積極的に参加する工夫をする
5回以上の欠席を許す
県外に行くアウトキャンパスを増やしてほしい
観光学科なので修学旅行的な授業があるといい
1～4年生の交流を増やす
旅行業務の講座、もっと長く半期と集中両方とかしっかりやって良いと思います
学部・学科の中の資格取得に向けた手厚い進め方
このままが良いと思う
タバコ規制
アウトキャンパスをもっとしてもいいと思う(他1名)
座学ばかりでなくディスカッションとかをもっとやっていくべき
アウトキャンパスをもっとし充実してほしい
専門的な科目を増やす

健康栄養学科

もっと外に出る授業をしてほしい。あとレストランは奴隷です。人として扱ってください
管理栄養士として働くことがどのようなことなのか、良い面・悪い面をもっと学生たちに伝えてほしい
学費を安くしてください
まったく使わなかったエプロンなど unnecessaryなものを買わせないでほしい(他1名)
先生方の講義の内容を見返して、本当にこれで良いのか確認をお願いします
公衆栄養学の先生の授業方針(臨地実習)についていけなかった
国試対策の授業を増やしてほしい(他1名)
アウトキャンパススタディが楽しく学べましたが、いろいろな科目でのアウトキャンパススタディがあればよいと思います
生理学的・栄養学的な面で自分の体を使っての栄養生理実験のようなものがあると良いと思います
栄養科で卒論まであるのはきつい
やるということはやったほうが良いと思う(病院祭見学)
「単位をあげない」と脅すのは良くないと思った
教員(助手含め)同士での意見の食い違いなどを学生の前でしないでほしい。またその時によって指示が変わることが多く困惑したことがあった
国試対策をもっと充実させてほしい。他大学では夏合宿があるから勉強する気持ちになれると思うけど、なかったのであればよかったのになと思う
教養科目の授業の種類がもう少しあると選択しやすい
お気に入りの学生とそうでない学生の対応の差が激しい先生がいるので、本当にそういうひきはやめてほしいです(卒業するのでもう関係ないですが・・・)
再試の料金を安くしてほしい
学費を安くしてほしい
4年になっても交流のある時間があるといい
今のままでいいと思います
授業などでどうしてもぎゅうぎゅうになってしまうので、広い教室で授業を受けられたらいいと思った

スポーツ健康学科

実技・実習を増やす(他1名)
テーピングや包帯の巻き方の授業を増やすといいと思う
テーピングの授業があればよかった
インターンシップ授業
今のままでいい
スポーツ健康と栄養でもっと協力した企画を、地域の方々や学生にも発信していけば健康につながると思う
授業で実習活動を取り入れるとさらに興味もてると思う
細かいことに厳しすぎると思う
再試験はやっぱほしい(他1名)
仕事しながら大学に来れるような8年生コースがあると、もっと社会人学生が受けやすいと思う
1年の時から実習(ゼミ)などで、外に出る機会がほしい
他学部とのグループワーク等の講義の連携
資格別のコースに分ければいい
社会で活躍している人々の講演をしてほしい
ありがとうございました
スポ科の今の雰囲気大好きです。このままで良いと思います
人気のあるスポーツ科目はコマ数を増やすべき
人気の実技科目は2コマやるなど増やしてほしい
実習がゼミとかではなく通常の授業でもっと増えればいいなあと思います

2. 松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. あなたの所属についてご記入ください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	16	81	97	16	84	100	197
回収数	16	73	89	15	74	89	178
回収率	100.0%	90.1%	91.8%	93.8%	88.1%	89.0%	90.4%

質問2. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことを何でも自由に書いてください。

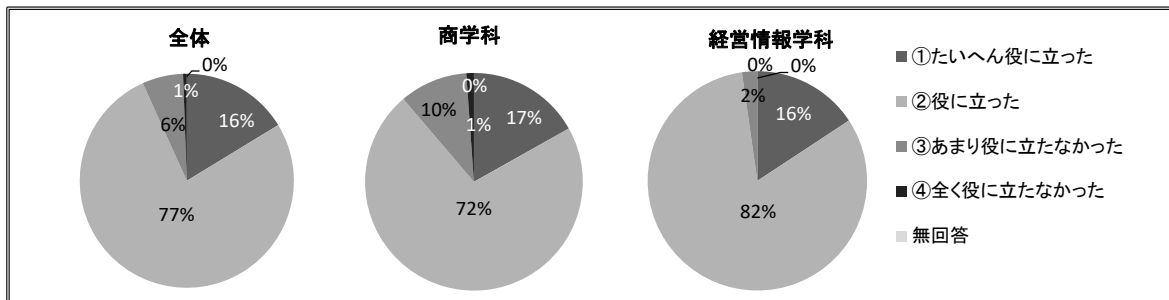
商学科

静かだったこと
先生がわからないところなど見てまわって教えてくれた(他1名)
一年の頃や二年前期はあまりとりたいたいと思える授業がなかった
簿記などレベル別でわかりやすかったと思う。しかし、人数が多すぎるクラスは分けた方が良かったと思った
1年前期の授業は騒がしくて嫌でした。資格取得や教養を学べたことが自分にとってプラスになった
高校では習わなかった専門知識を身につけることができよかった。一年生の時は休みすぎた
専門的な分野で難しい内容も分かりやすく教えてくれたのが良かった
欠席が少なく良かったと思う
先生方、みんな分かりやすく教えて下さり楽しく授業ができた
有意義な時間でした
自分が受けた講義はどれも受けやすい環境だったと思う
授業を受ける環境が良かった
沢山のことを学べた
とても良い環境でたくさん学ぶことができた
先生が生徒のために一生懸命で良かった
資格がたくさん取れたので良かった(他6名)
授業を通して様々な知識を知ることができた(他6名)
FPの授業が楽しかったし、ためになった
先生とわいわい楽しかった!! テストの場所も教えてくれて好き
基礎的なことだけでなく専門的なことも学べたので良かったです(他1名)
資格がとれるような講義が多く、自分のためになるような授業だったので良かったです
優しい人が多くて、毎日学校に来るのが楽しかったです。また、資格もたくさん取れたので、自信になりました
好きな授業を取って楽しくわかりやすく受けられてよかった
2回授業を増やしてほしい。どの先生も授業に真摯に向き合っていて学びやすかった
先生が1人1人に分かりやすく教えてくれた。簿記など、クラス分けされていてやりやすかった
わかりやすい授業ばかりで勉強もはかどりました。大きい教室の前の席が寒かったです
レポートなどを通して考える力が身についたので良かった
授業中の5分休憩がありがたかった
PC関連の授業はとても充実していて良かった(他1名)
全体的に良かった。寒かった
一つではなくたくさんさんのジャンルの授業を受けられたのは良かった
分かりやすい授業ばかりだった(他1名)
レポート(特にマーケティング)作りはともやっけて復習になるし、自分で見やすいまとめ方になるから勉強にもなった
クラス分けで自分のレベルで勉強できる。検定対策がばっちり。大人数すぎるのは、うしろがざわついていてうるさい
講義を受講することで検定も受けることができるのはとても良かったと思います
司書課程の授業が充実していてとても良かったです
どの授業も良かったと思う。たまーになかなか先生で残念に思ったこともありましたが、比較的良かったように感じます。授業の登録で、1週間のお試し期間中でも履修した科目を表示していただくとありがたいです
科目担当の先生を一人一人て話して質問などでできてとても良かったです。講義も環境もとてもよくて過ごしやすかった
身につきました
授業を毎回しっかり出席することができて良かった
全体的にこれといって不満はなかったが、授業の進みが早いと思った時があった
先生一人一人の対応が丁寧だった
今までの教育で学べなかったものを勉強できて良かったです
先生が親身になって教えてくれたので良かったです。検定取得にも力を入れてくれて良かったです
先生の話をしっかり聞いた
難しいかな?と思った授業も分かりやすいものが多かった
家での復習をできるときにはできた。メモをとって授業を受けるなど工夫すれば良かった
多くの資格にもチャレンジすることができました
コピーする時に紙を自分で買わなくても決められた枚数がもらえてよかった。先生方は聞けば、親身に対応してくれる
一年生の初めの頃の授業で、メモをとる大切さを教えていただいたことが一番良かったことだと思う
先生がみんな優しい、わかりやすい
資格取得のためにしっかり向き合ってくれて良かった
先生ごとに授業のやり方が違って少しとまどいもしたけど、最終的には自分なりのまとめ方の力がついたと思う。授業内で1回休憩の時間があるのは良かった。
自慢話が多すぎて、SPIの勉強が分りにくかった
授業内容など良かったので勉強になったし、生徒の事も考えて講義を進めてくれたので良かったです
一年生のときに資格系の授業をとっておき、二年生になってからアロマや華道などの教養系の授業をとろうと考えていたのになぜか開講しなかった。学費無駄にした。
周りがうるさい時など多かった
ざわつく人がいるのに注意しないのはやだなと思います
授業に遅れてきている人のことを注意してほしい
大教室で一つも空気がなく座るのは苦痛だった
232教室の前の席が冬は寒かった
夏はエアコンが効きすぎて寒かった

マーケティングなど詳しく学べる分野についてはレポートの量など多くあり非常に良かった
レポートの提出が定期的に行われていていいと思った
本当に色々なことを学べて自分の能力を伸ばすことができた。授業中騒がしくなってしまうことがあったのもう少し対策を練るべきだと思う
静かに勉強をできる授業もあったが、騒がしい授業や私語が目立つ授業もあったのが残念でした
役に立つ知識が身についた
自分が知らない知識かつ役に立つことを覚えられた(他1名)
普段生活しては身につかない様々な分野を勉強でき、ためになった
就職に向けて様々な勉強をすることができた
どの講義においても先生が丁寧に教えてくれて、理解を深めることができた
どの授業も生徒が勉強しやすい環境づくりを心掛けてくれて、授業の内容もわかりやすく教えてくれたのでその点が良かった(他1名)
分からない問題など授業以外の所でも真剣に教えてくださった
社会人としてのことを少し学べた
スクリーンが大きく見やすかったのがいいと思った
スライドだけでなく、実際に映像を見たりすることでとてもわかりやすくなった
字だけでなくDVDやスライドを使用したものが多かったので分かりやすかったです
テストが易しい
すべてが検定、就職のためにあった感じの授業だったと思いました。就職先が決まった2年生後半からも、今後の役立つような知識が身につけられる授業が充実していればいいと思う
検定や資格対策の授業が多くて、授業内で勉強できるので良かった
検定前には検定対策の講義を開いてくれてとても助かりました
全体的には良かった。板書が何書いてあるか分かんなかったり、口の中で喋っていて何言ってるか分からない先生がたまにいた
週2で授業があったこと、週2回ある授業は特に頭に入りやすかったです(他2名)
週に2回ある授業は忘れないでいられたから、週2回の授業を増やしてほしい
過ごしやすい2年間でした。ただ、PCが使用できない(壊れている)所が多いのは不便でした
多くの授業があって幅広く学べたこと(他2名)
2年間しっかり勉強することができました
専門の授業を受けることで幅広い知識を身につけることができました
様々な分野の授業を受けることができたので、視野が広がったような気がします
新たな知識を身につけたり様々なことに関心を持つきっかけが増えたり今までの自分よりも広い視野で物事が見えるようになって良かったです。
座席指定の授業でも私語が聞こえてきたことが少し残念でした
興味を持ったら受講してみる！ということができるとも良かった。色々な分野に触れて、就活の際にも視野を広げて考えることができた
自分のこれからの人生に必要な大切な「学び」を多く得ることができました
検定をたくさん受けることができ、授業分野も広く、いろいろな知識を身につけることができとても充実した
90分授業が最初はすごく長く感じたけど、いろいろ学べて良かった
資格が沢山とれて良かった(他5名)
資格をたくさん取得できて就活中に目立って役立った
自分の資格スキルが上がったこと
とても分かりやすかったです(他2名)
しっかりと学べていない部分も一から教えてもらえて分かりやすかった
先生方がとても話しやすかったので授業を楽しく受けることができて良かったです
先生との距離が近くてやりやすかった、分からないところを聞きやすかったです(他2名)
授業の雰囲気などを先生が気にして行ってくれて良かった。楽しい授業が多く、行くのが楽しみだった
選択できるのが良かった(他1名)
必修や選択必修の他に、自分が興味あることだったり、色々な科目を学べたこと
とてもわかりやすい先生と、理解させようとはせず、自分の知識をひけらかしているような先生もいて差がはげしく、授業のあたりはずれが大きいように感じた
授業がものすごくわかりやすかった
先生たちの話が面白い
どの講義の先生方も分かりやすく、アンケートなどで意見を書かせていただくとそれを反映してくださっていて、本当にありがたかったし、勉強しやすい環境で2年間学べたと感じました
教室も広く授業が行いやすい空間でとても良かった
授業に集中して取り組めたので良かった
集中して受けられるものが多くて良かったが、中にはあまり内容が入ってこないものもあった。先生が一方的に話しているのを聞くだけで、メモもスライドもなく黒板に断片的に書いていく、というのは頭に入りづらいと思った
自分のレベルに合った授業だったし、将来役に立つことをしっかり勉強することができたと思うので良かったです
注意されても直さない人がいてびっくりした。先生が受講票に書いた意見を言ってくれて良かった
とにかく一つのことに集中して取り組めてよかった。パソコンが苦手だったので克服できたのと技術を身につけることができた
思ってたより楽しかった(良い意味で)
2年生になって授業(取りたい科目)が少なすぎて、全然充実しない。それで授業料とられているのであれば、もっと充実した科目選択にしてほしい
2年の授業と1年の授業、差が激しい(コマ数等)
外国語の授業が少なすぎる。外との交流(国際交流)やつながり、留学など経験してほしいという割には授業はないし、そういう機会も少ないと思う
電車の遅れが多々あり、その際は欠席扱いとなる授業とならないのがあり統一して欲しかったです
席によって温度が違って寒かったり暑かったりした
エアコンが壊れている教室があるので直してほしい。点検してほしい
夏のエアコンが寒すぎた

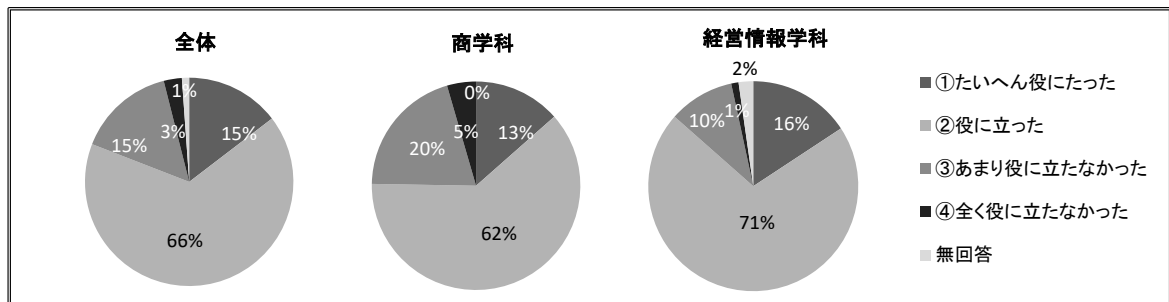
質問3. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	13	15	2	12	14	29
②役に立った	11	53	64	13	60	73	137
③あまり役に立たなかった	3	6	9	0	2	2	11
④全く役に立たなかった	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0



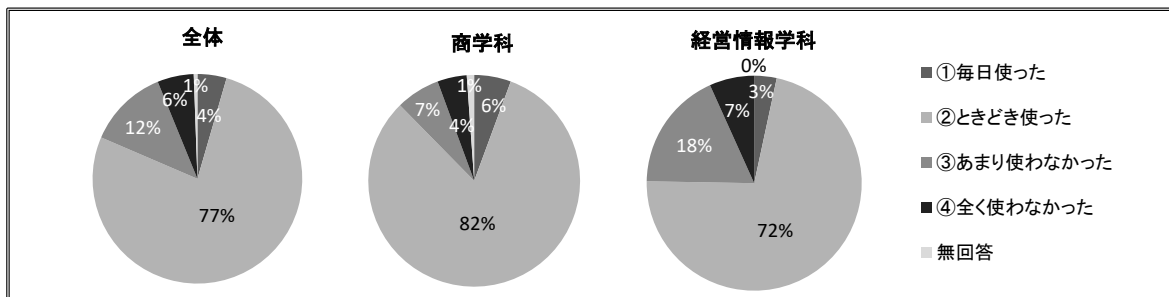
質問4. 1年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートの取り方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役にたった	3	9	12	1	13	14	26
②役に立った	12	43	55	13	50	63	118
③あまり役に立たなかった	1	17	18	1	8	9	27
④全く役に立たなかった	0	4	4	0	1	1	5
無回答	0	0	0	0	2	2	2



質問5. 配布されたipadは学習に利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	0	5	5	0	3	3	8
②ときどき使った	15	58	73	11	53	64	137
③あまり使わなかった	0	6	6	3	13	16	22
④全く使わなかった	1	3	4	1	5	6	10
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

①の理由

家でレポートを作ったりエクセルのバイトをしていたので二年次にも復習をして解いたりして調べものからレポート作成、ワードやエクセルの練習など幅広く使いました。ただ、購入になるならもっと早く言うか、何かしらの援助が欲しかったと思います
卒論づくり。課題レポート作成に使いました
講義が多かったから
使いやすかったけど、CDとかDVDとか入れるところがなく、この点が残念だった

②の理由

レポート作成(他38名)
課題の時だけ(他1名)
卒論(他11名)
パソコンがあまり良くなかった
そんなにレポートを家で作らなかったから
一年生の時に使用した
一年生のときはよく使っていたが二年になってからはあまり使わなかった(他2名)学校のパソコンのほうがよく使用した
就活
経営分析の授業で主に使った
講義で使うことがなかったので学校ですべてのものがなくても良いと思った
ノートパソコンよりPC室の方が多く使った
EXCEL、WORDの自習に使った(他1名)
便利だった
課題や調べものに使った
WORDをやるときに使った
主に学校のパソコンを利用していただけ(他1名)
パソコンを使う授業で使った
授業で使った
持ち運びも良く短大推薦のノートパソコンを買って良かったです
必要なときに使ったから
講義の宿題で役立ちました

③の理由

高い買い物だった。学校でおすすめされたPCは使いにくい。画面も小さいし、動きも遅い。
学校あつせんのものなのに良いPCではない
レポートがあるとき以外使わなかった
授業で使うことは全然なく、家や空き時間にレポート作成に使ったくらいだった
課題を出された時やワードの打つ練習の時しかあまり使わなかった。授業で使うのが少なかった

④の理由

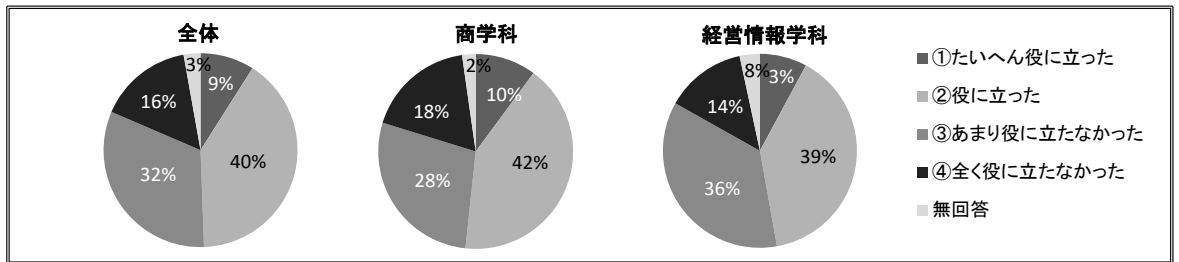
レポート作業は学校で行ったから
買わなくても学校でレポートができた
学校のおすすめのPC、すぐ落ちるし、小さくて見にくい。Mac Book買った方が全然いい。10万ムダ。Mac Bookなら就職後も使える

経営情報学科

①の理由	家でネット使い動画を見ることも多かった
②の理由	課題の作成(他5名) レポート作成時(他41名) ゼミなど 授業など 卒論制作(他7名) 調べ物をするとき(他3名)スマホでできることも多いので毎日ではないです マーケティング 学友会作業 ボランティア時のシフト作成 Excelの練習など パソコンの授業の時、家での勉強に使った 学校のPCを使って学習することがあったため(他2名) 使いにくかったので学校のパソコンを利用することもあった 出席レポートや卒業制作時に使用しました。学校で購入したタブレットPC(?)は少し小さく使い難いという印象でした(他1名) 学校で購入したものはあまり役に立たなかった タブレットとして使うことは皆無だったので、あのパソコンを推奨する理由が分からなかった 授業では全く繋がらないなどあったのでもう少し環境を整えて欲しいです レポート作成時使ったが、遊びには使用しなかった 手書きで提出する課題があったため 学校のプリンターにつなげる設定をするまではUSBでの移し替えが大変だったから
③の理由	パソコン室や家のハードを使っていたから パソコン教室のパソコンを使った 学校の方を使った(他3名) 買った意味ねえだろ どちらかというとノートをとる方が多かった レポート作成とWordやExcelの課題にしか使わなかったのに、2年になるとなくなった レポート以外で使う機会がなかった 使う時がなかった(他1名) パソコンを持っていないのでたまに借りていました
④の理由	学校のパソコンで十分だった 学校のPCで課題をすべて終わらせていたため 持っていない

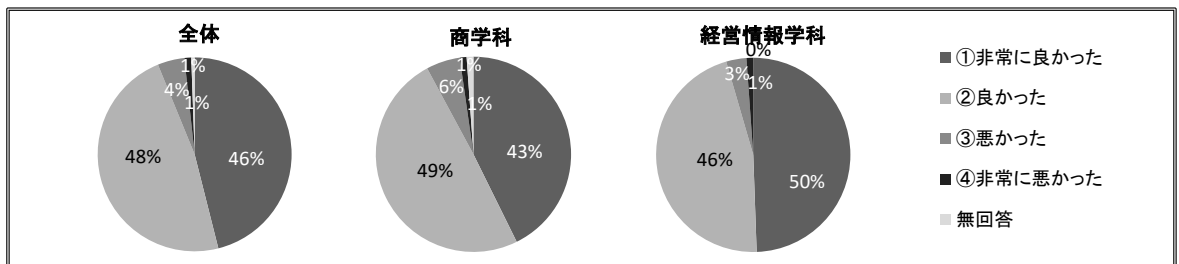
質問6. 就職手帳「M」は役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	8	9	2	5	7	16
②役に立った	8	29	37	5	30	35	72
③あまり役に立たなかった	6	19	25	5	27	32	57
④全く役に立たなかった	1	15	16	3	9	12	28
無回答	0	2	2	0	3	3	5



質問7. ゼミナル担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	8	30	38	6	38	44	82
②良かった	8	36	44	9	32	41	85
③悪かった	0	5	5	0	3	3	8
④非常に悪かった	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

①の理由

常に気にかけてくれていたから
 いろいろと学校の事に関わらず聞いてくれた
 必要な情報を提供していただいた
 担当の先生の専門と同じ分野を学んでいたから
 面接練習や就活の相談にのってくれた
 進学にしっかりとつきあってくれた
 話をしっかりと聞いてくれた(他2名)
 とても良いアドバイスをもらった(他1名)
 たくさん相談にのってくれた(他5名)
 就活の時にいろいろアドバイスをしてもらったりできたので良かった(他7名)
 先生の存在がかなり大きかったと思うから
 わからないところなどしっかり教えてくれた
 相談にのってくれたり励まして頂けて嬉しかったです
 楽しく生活できた(他1名)
 日常生活で助けてもらった
 ゼミも楽しかった
 ありがとう
 二年間ありがとうございました
 色々な話をしてくれました
 私から話に行かなくても心配して毎回声をかけてくれて嬉しかった(就活のこととか)

②の理由

進路のサポートをしてくれた
 相談にのってくれた(他6名)
 就職のアドバイスをもらった(他4名)
 困ってる時助けてくれたりして良かった。とてもやさしかった
 質問に良く対応してくれた上に他にも情報を提供してくれた
 話しやすかったから(他2名)
 雑談練習が良かった
 履歴書やレポート作成の相談やその他の話も色々聞いてくれて本当にありがたかった
 単位がどれくらいとれているかを確認してくれたりした
 分からない事を聞きに行くと答えてくれた
 話を聞いてくれた(他2名)
 何かと気にかけていただきました
 あまりゼミ室に行くことはなかったが、話したり、就活の相談をしたときはしっかり話せた
 進路についてのメールをくれた。こまめにメールをくれて心配してくれていた
 途中までは良かったです

③の理由

悪口が多かった
 んー

④の理由

人の名前を間違えられた
 何もアドバイスされなかった

経営情報学科

①の理由

わからないことや相談など親身になって聞いてくれた(他13名)
 プライベートの事(学校生活以外のこと)まで親身に相談にのってくれた
 大きい悩みや小さなぐちまで何でも聞いてくれた
 色々聞いてくれた(他2名)
 とてもやさしく相談を聞いてくれた
 尊敬できてたくさん相談できる良い人でした
 相談にも乗ってくれたり、何よりすべてにおいて優しく接してくれて頼りになりました
 就活時とてもお世話になった(他6名)
 就活の時に困ったら夜遅くまで相談にのってくれたり面接練習してくれた。本当に助かりました
 いろいろとお世話になったから
 優しく教えていただいて不安が全くなかった
 授業内容、就職、学祭すべてアドバイスして下さいました
 ゼミの雰囲気も良く居心地よかった
 優しさの塊だった
 優しく大好き
 とても優しく楽しい先生でした
 明るく楽しい先生で元気をもらった
 丁寧だった
 最後まで見捨てずに支えていただきました
 エントリーシート系

②の理由

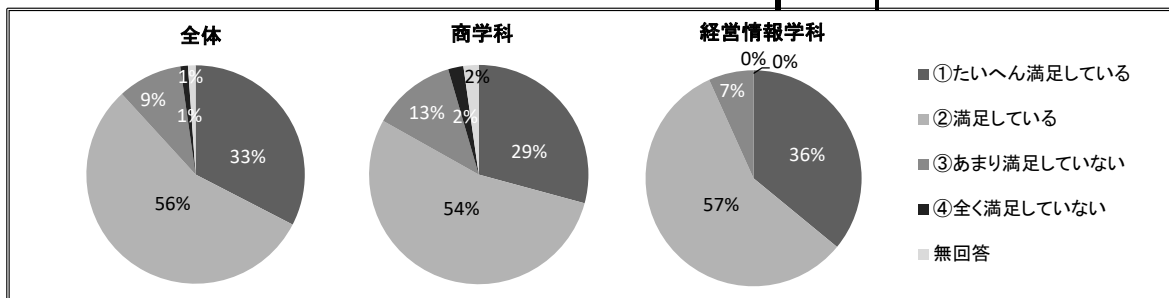
とても分かりやすかった
 とくに就職について相談できた(他5名)
 面接についての相談など積極的にのってくれた(他1名)
 進路の相談にのってくれた
 アドバイスをもらった(他1名)
 社会人としてアドバイスしてくれた
 相談にものってくださり、ありがたかったです(他4名)
 親身になってこれから先のことについてたくさん相談にのってもらった
 学校以外の悩みも相談できた
 話をしっかり聞いてくれた
 元気が出るよう励ましてくれた
 学生生活を送るうえでバックアップをしてくれたから
 あまり相談には行かなかったけど、気にかけてくれていました
 少し壁があり、相談しづらかった
 研究室に入れれば、しっかり話を聞いてくれて助言をしてくれた
 普通に良かった
 一般的に話している感じでしたので

③の理由

特に助けられたことはないです

質問8. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただきます。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	23	26	8	24	32	58
②満足している	8	40	48	7	44	51	99
③あまり満足していない	3	8	11	0	6	6	17
④全く満足していない	2	0	2	0	0	0	2
無回答	0	2	2	0	0	0	2



【理由等】

商学科

①の理由

優しい対応をしてくれた(他1名)
 鍵や相談など行ったときに明るく接してくれた
 とても親切だった
 仲良くなった
 親身になって対応してくれたので、就活においても色々な場面で助けてもらった(他1名)
 面接練習とかができて良かった
 学生が損をしないようにメールなどで知らせてくれるのでありがたかった
 一つ一つ丁寧に接してくださいました。疑問やわからない所などもしっかりと教えてくれました(他2名)
 必要など困っていたときに助けてもらった
 キャリアセンターや教務課の方などとてもお世話になりました
 キャリアセンターの先生がいなかったら本当に内定もらえてなかったと思う
 パソコンのことで情報センターに行ったとき優しく教えてくださいました
 質問がしやすい対応だった

②の理由

キャリアクリエイトの内容のメールがもっと早く届くとよい。卒論発表会の一年生のアンケートの自分の名前が間違っている
 丁寧に説明、対応してくれた(他11名)
 資料がたくさんあってとても参考になった
 キャリアセンターで就活の時に面接練習をしてもらえて良かった(他1名)
 キャリアセンターを就活でよく利用した、お世話になった(他2名)
 たまにあいさつが返ってこないこないときがあり悲しくなりましたが、だいたいみなさんにこっとしてすてきでした
 履歴書の添削を丁寧にしてくれた
 みなさん、フレンドリーに接してくれた
 学友会などでもお世話になりとても丁寧に良かった
 キャリアセンターや情報センターは良かった
 過去の先輩の就職情報が役に立った
 しっかり話を聞いてくれて私の問題を解決してくれた
 色々情報を提供してくれた
 対応が良かった(他1名)
 親切だった
 就活の相談にもつてくれなかった
 先生によって差があった

③の理由

講義の時来てくれるのはありがたいが、わちゃわちゃして時間の無駄遣いが多い
 キャリアセンターの方は大変よく聞いてくれて助かった(他1名)。教務課の方はめんどくさそうな対応をとられたり
 事務をしっかりこなしていない
 あまり良くない対応されたことがあった
 態度が悪かった
 学生課でわからないことを聞きに行ったときの対応が悪く、結局不安なままです
 親身になってくれない方もいた

④の理由

学校の事はなんでも相談できる存在であるはずなのに上から目線すぎて対応が悪い

無回答の理由

教務課の方少しこわいです

経営情報学科

①の理由

すごく良かった
 キャリアセンターのサポートによって就職が決まった。学生課のサポートもあり奨学金を借りることができた
 特に就活時に丁寧に対応していただいたこと(他2名)
 キャリアセンターの先生にはお世話になりました
 就活でキャリアセンターが一番お世話になりました(他1名)
 できれば一人ずつやる面談は知らない相談員のおじさんたちじゃなくて、キャリアセンターの職員の方にしてほしいと思った
 各事務員の方には入学してから今まで大変お世話になりました
 相談をきいてもらえた
 たくさんアドバイスをくれた
 親切に対応してくれた
 丁寧だった(他3名)
 親身になって相談にのってくれた
 分からないことがあると優しく教えてくれた(他1名)
 意外に役立った
 投げやりな質問等でも一緒に教えてくれたため
 とても良い環境でした
 困ったときなど助けてくれて大変お世話になった
 色々とお世話になった
 世の中というものを教えてくれました

②の理由

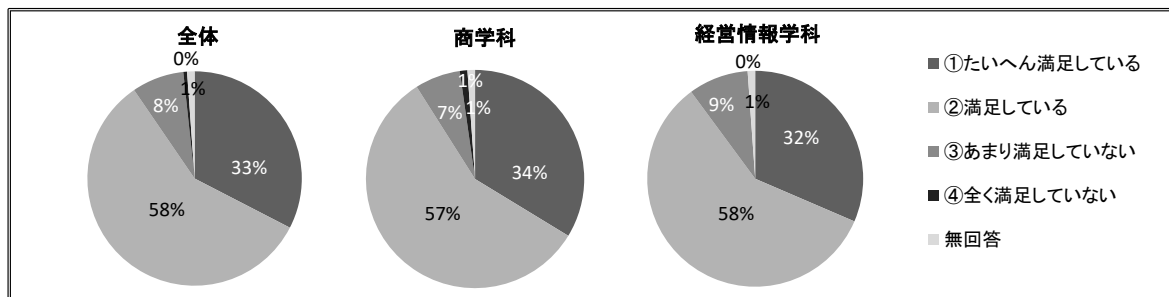
不満なし
 丁寧な対応や分からないことを教えてくれたから
 いつも丁寧な対応をしてくださり良かった(他4名)
 困ったことがあり聞きに行くときすぐ対応してくれた(他1名)
 皆さん、親切でした。キャリアセンターでは進路について深く相談できたので良かった
 就活で必要な書類の発行が通常2日かかるところを即日発行して頂き、会社に確認して頂いてとても助かりました
 就職活動の時に色々アドバイスくれた
 沢山アドバイスもらいました
 たまに利用させていただいたから
 普通に相談にのってもらえたので
 相談しやすかった
 優しい、声をかけやすい
 優しい職員の方々が多かったです
 学友会でとてもお世話になりました
 丁寧に対応してくれる人が多かったが、あいさつもしてくれない人もいてたいへん満足ではない
 最初は声をかけづらかったけど、話してみたら話しやすかった
 しっかり聞いてアドバイスをくれなかった
 キャリアセンターに入りづらい
 キャリアセンターの人が少し怖かったりした
 キャリアセンターでは、もっと県外就職者へのサポートをして欲しかった
 明らかに他の生徒と対応が違う先生が中にはいた(基本的には良かったが)
 人によって対応が違う印象が強い。配られるプリントやメールの誤字脱字が多いと思う
 たまにこわいけどお世話になりました
 最初分からないことがあってもどこに行っているのか分からなかった
 最初の方はあまり利用していませんでしたが、就職について色々なアドバイスをくれました

③の理由

キャリアセンター以外の事務の方は結構冷たいと思います
 少し立ち寄りにくかったから(そういう雰囲気を感じた)
 教務課の人があまり親切でなかった(他1名)
 学生課の対応があまりよくないと思います

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場、7号館1階コモンルーム等)に満足しましたか。その理由や要望などお気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	25	30	7	21	28	58
②満足している	10	41	51	8	44	52	103
③あまり満足していない	1	5	6	0	8	8	14
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	1	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

①の理由

レポートを作成する際に、コンピュータ教室を利用したから
 図書館は空き時間によく利用させてもらった(他1名)
 レポートをつくる時やサークルをする時とても楽しい。恩をくれた場所がたくさんあった。体育館の中に暖房が欲しかったかも
 色々なものがそろってた
 使いやすかったです(他3名)
 綺麗(他1名)
 駐車場は本当にありがたかった
 自由に使えました
 パソコンが多くて助かった
 パソコンの立ち上がりがおそすぎることがあった
 7号館1階コモンルームは部活動でよく使わせてもらいました
 コモンルームは席がたくさんあり、少し勉強する時に便利だった
 空き時間にゆっくり学習できた(他4名)
 パソコン教室など空いた時間に利用しました
 前が寒い

②の理由

もう少し利用教室をキレイにしてほしい
 トイレの数が少ない(男)
 校舎がきれい(他1名)
 少し故障している所があった
 空いている教室とか使えて良かった
 コモンで勉強したりできて良かったです
 コンピュータ室が良かった(他1名)
 生徒がのびのび利用できる良い空間だと思う
 サークルの時に主に使った
 パソコンがいろんなところにあたりして便利。コピー機がすぐ近くにあっていい。教室が座っている場所によって寒さがある
 あんまり使う機会はなかったものの、充実しているなあ、な感じはあった
 駐車場が広く車も停めやすく満足しています。コンピュータも利用できたのでありがたかったです
 空き時間に利用できた
 体育科やグラウンドは使う機会がなかった
 図書館のコピー機にはお世話になりました。すべてのコンピュータに同じソフト(flashやphotoshopなど)入れていただけるともっと便利かなと思います
 コンピュータ室やものづくり教室はレポートを作ったり休憩したりするのにとても良かった
 自由に使えるゆったりしたスペースはとても役に立った
 クーラーがよくきいていた
 コンピュータ室で利用できると確認して入ったら授業していたということがあったので、その対応をしてほしい
 第3駐車場が空いていなくて授業に間に合わないことがあった
 パソコン室が多くて良いと思います
 最初は立ち上がりが遅いパソコンがあって少し不満でしたが、パソコンが新しくなってそのような不満もなくなった
 満車じゃないのに満車で出る

③の理由

駐車場が位置的に中途半端なうえ、料金が安い
 休憩スペースが少なく感じた。人が多いと使えない
 パソコンが少ない。駐車場が3つとも満車になっている時がある
 寒い
 駐車場が高い(他2名)

経営情報学科

①の理由

けっこう使った
 すべてとても良かった
 様々なことができて良かった
 どれも基本的に綺麗で使いやすかったです(他1名)
 設備が良かった(他1名)清潔
 使いやすい
 空き時間に利用しやすかった
 コンピュータ室は何度も利用した
 PC室が多く、利用しやすかったです(他1名)
 環境も整っていて使い勝手の良いPCのソフトを取り入れていた
 授業のないときはものづくり教室かパソコン室にいましたが、起動も早く良かったです
 施設には満足している。多くの金を投資されているんだと感じた
 とても整った設備の中で落ち着いて課題ができたり、駐車場も第3駐車場が増えてとても便利になったと感じました
 レポートが作れた
 コピーできる(印刷)
 温度調節がしっかりできる。コモンルームは夜6限後の時間も活用できたため。Wi-Fiがいつからか繋がりにくくなったのが少し気になった

②の理由

充実しているため
 いつ利用してもきれいで気持ちよかった
 食堂が狭い
 よく使用していたから
 コンピュータ室は多く、使いやすかったです
 サークルで毎週使用していたから
 使いやすかった(他1名)
 空きコマなどで使うことができた
 パソコンからプリントアウトする時とても役に立った
 たまにWi-Fiが切れる場所があったのが、ちょっとな、と感じた
 過ごしやすい環境だったと思う
 施設や設備は十分整っていたと思うから
 駐車場、ICカードの残高の関係で後輩にゆずりたい、残高返金してほしい
 駐車場代がきつかった
 駐車場少ないかなと思いました
 駐車場満車かどうかわかりづらいです
 駐車場の入場がワンタッチになって使いやすかった
 駐車場に入る車が方向指示器を出していないのが気になる
 教室はだいたい寒い(他1名)
 1号館のストーブがつかないことが多かった
 壊れてるパソコンがあった
 壊れてる事以外は良かった
 コンピュータ教室のPCがたまにフリーズしてしまうことがあったので改善してほしいです
 プリンターとパソコンが増えたら嬉しかったです
 コピー機が少ないなー、と
 お昼食べました

③の理由

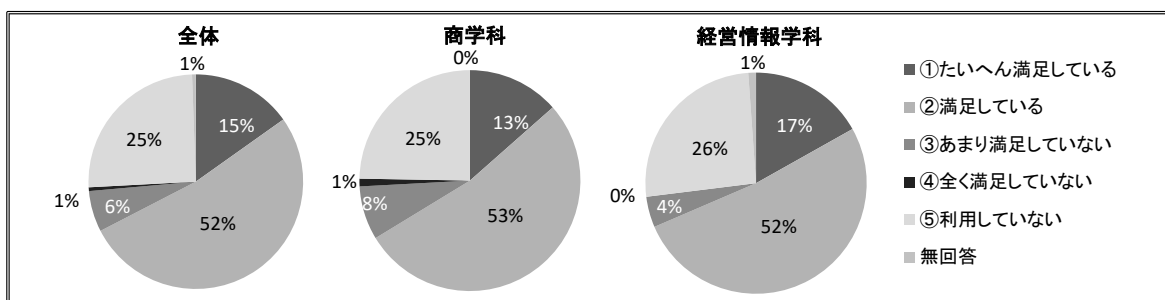
卒論提出日にほとんどのプリンターが壊れていた
 パソコンが少ない(学生証を使うプリンターにつながっているもの)
 体育館が夏場暑すぎて気持ち悪くなった。風が通らない
 パソコンこわれすぎ
 使わずにおわった施設が多く、短大生ではなく大学生のものという意識になってしまった施設もあった
 コンピュータ教室で印刷するとき、インク切れが多かった

無回答の理由

第3駐車場が入り組んだ方にあるので満車になった時の車の移動が大変。また、第3駐車場から出る時赤と白のポール？がこすりそうで怖いのでなくした方がいいと思う

質問10. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	12	12	1	14	15	27
②満足している	9	38	47	6	40	46	93
③あまり満足していない	1	6	7	0	4	4	11
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
⑤利用していない	6	16	22	8	15	23	45
無回答	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

商学科

①の理由

みんないい人だった
自由に使用できて良い環境であった。突然のコピー機の故障はよくなかった
図書館のサービスがとてもありがたかった
図書館などは特に就活関係の本を借りたりなどとても良かった
地域づくり考房『ゆめ』で少しですが活動出来て良い経験になりました
就活の時にとても役に立った
基礎教育は就活でお世話になり、自分にあった方法を見つけることができた
勉強する時に静かな図書館は集中できたから
めっちゃ教えてくれた!!!!

②の理由

使いやすい(他1名)
図書館が快適、落ち着いて勉強できた(他4名)
図書館の2階が少し寒い
本がたくさんあって暇つぶしに図書館ありがたかったです
基礎学力などがあげることができて良かった
図書館は多く利用できた(他3名)
図書館はレポート作成などに必要な資料も多くあって良かった
図書館はごはんを食べたりできたので良かった
基礎教育センターの先生は丁寧に対応してくれて話しやすい(他1名)。『ゆめ』ではいろんなボランティアを紹介してくれた
ゆめでお世話になり、活動のサポートをしてもらえました(他1名)
もっと授業でも活用できれば良いかなと思った。ゼミの学習を図書館を利用したり、国際交流センターとか使ってみたり
真面目に対応してくださったので大変助かりました
基礎教育センターと図書館しか利用していないけど良かった
図書館の司書さんが丁寧な対応してくれる
就活の時に基礎教育センターはとても役に立った
よく使ったから
図書館は本の配置が分かりやすく使いやすいから

③の理由

基礎教育センターで就活のときに役に立った
利用していない
よく使いました

④の理由

健康安全センターの対応があまりにもひどくて驚いた

⑤の理由

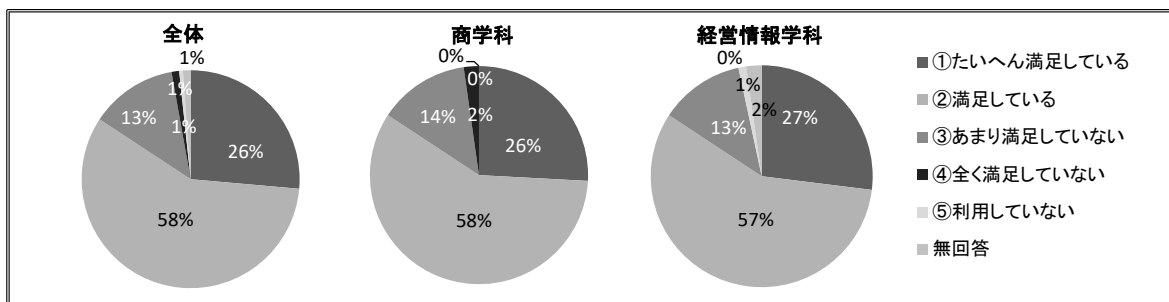
行く機会がなかった
図書館を勉強時に利用したことしかない(他1名)
必要なかったから

経営情報学科

①の理由	<p>中学生レベルの学力のやつも教えていただけた</p> <p>優しい</p> <p>活気がありとても良かった</p> <p>図書館やゆめでは大変お世話になりました</p> <p>先生たちが親切でまた行こうってなった</p> <p>設備が良かった</p> <p>暇をつぶしたりするのに図書館は良かった</p> <p>蔵書がとても良かったです</p> <p>図書館は蔵書数が多くて、本を読むのが楽しかった</p> <p>図書館によく行ったが、静かで勉強に集中できたので良かった</p> <p>図書館は一人スペースと多人数用とありテスト勉強などしやすいです</p> <p>とても静かで整った設備の中で課題も落ち着いて取り組みました</p> <p>ボランティアをできた</p>
②の理由	<p>図書館をよく利用した(他1名)</p> <p>図書館は静かに作業したい時によく利用した(他2名)</p> <p>図書館が少し寒いと感じた</p> <p>いつ利用しても利用しやすい環境だから(他1名)</p> <p>居心地よかった</p> <p>必要な情報が揃っているため</p> <p>SPIの相談にのってもらえたので</p> <p>海外のことを細かに教えてくれました。DVDもたくさんで面白かったです</p> <p>図書館のDVDルームは空いた時間に使って良かった(他1名)</p> <p>図書館で映画を見れたので楽しかった(他1名)</p> <p>ゆめでは大学の学生や短大の1年生などと交流でき、幅広いコミュニティが築けたと思います</p> <p>ゆめの方々がよくしてくれた(他1名)</p> <p>しっかりサポートしてくれたと思うから</p> <p>就職活動の時、わかりやすく教えてくれた</p> <p>基礎教育センターがなかったら就活の筆記が落ちていたかもしれなかったのであって良かった</p> <p>基礎教育センターで親身になって教えてくれて良かった</p> <p>教育センターでの教え方がとても良かった。社会が好きになった。ただ、人がいっぱいいたり静かすぎると入りづらい感じがする</p> <p>時々しか使わない</p> <p>もう少し利用すれば良かった</p> <p>あまり使っていないのでわからない</p>
③の理由	<p>留学先との連携やプログラムの内容が雑だと思った。言われてた内容と違う、安心安全面の確保ができていないのでは。サポートセンターはよかったです</p> <p>あまり利用しなかった(他1名)</p>
⑤の理由	<p>利用する機会がなかった(他1名)</p> <p>全く行ってない</p> <p>良い取り組みではあると思う！自分は利用しなかった</p>

質問11. あなたは生協のフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	20	23	6	18	24	47
②満足している	8	44	52	7	44	51	103
③あまり満足していない	4	8	12	1	10	11	23
④全く満足していない	1	1	2	0	0	0	2
⑤利用していない	0	0	0	1	0	1	1
無回答	0	0	0	0	2	2	2



【理由等】

商学科

①の理由

ご飯がおいしかった
品数も多くとても満足している(他3名)
レジの方やさしい。すき
お昼を忘れた時に買える場所があると便利だと思ったから(他2名)
お昼ご飯を忘れたときなどに購買を利用しました
食堂や購買などたくさん利用してとても満足しているから
基本的なものはなんでもそろっていて良かった(他1名)

②の理由

必要な物がそろってたから(他3名)
もう少しパンやおにぎりの種類を増やしてほしい
パンを少し増やしてほしい
おいしい料理をありがとうございます
種類も多く買いやすかった(他1名)
ミニショップなど品もよくそろっていたので良かったです
物がなくなると食べるものがなくなってしまう
あまり利用することはなかったが、利用した際は快適だった
利用しやすかった(他2名)
品数をもっと増やしたら◎(他1名)
営業時間が短い(ミニショップ)
短大の近くにある購買がもう少し早く開いてほしい
もう少し遅くまでやってほしい
ミニショップは購買まで行く時間がないときにとても便利だった
ラーメン美味しい
安くて良かったです(他2名)ただ、購買の空く時間を9時からにいただけると助かります
生協では日用品などもあり困ったときに助かった
新しい商品があってトレンドでした
大学の方の売店まで行くのが少し短大の人は面倒(他1名)売っているものもないものがあるから
おかしが豊富にある

③の理由

フォレストホールの方は遠くて、ミニショップは物が少なく短大生は苦労する
お昼の時は混みすぎて利用できない時が多かった
全体的に価格が高い
品揃えをよくしてほしい(購買)お昼が遅くなるともうパンなどがなかつたりするので、もう少し量を増やしてほしい
ミニショップの利用時間や短大だけの授業日に空いてなかつたり少し不便だった
お昼の時間に行くと売り切れてる
ミニショップがすぐ売り切れるから
もう少し商品の種類があってもよいと思う
購買をセブンイレブンにしてほしい

④の理由

種類が少ない。場所がない

経営情報学科

①の理由

おいしかった
 毎日利用した
 いっぱい買えた
 品揃えがよく利用した(他2名)
 充実していた
 けれどとても混む
 学習に使うものやお昼のものなどを買わせていただいてとても便利だったからです
 品揃えが豊富で安く買い物ができた。待ち時間も有効に使えた
 短大側の購買ももう少し営業時間が長いとうれしいです
 対応も早くてありがたかった

②の理由

おいしかったです(他1名)
 品揃えがよいため(他5名)
 価格も安く設定されていて利用しやすかった
 生協の品揃えが良く、安くて助かりました
 おおむね良かったが、食堂をもう少し広くしてほしいと思った
 お昼がない時に役立つ
 よく利用した
 欲しいものが揃っていた(他1名)
 おにぎりの種類がユニークだと思う。もっと普通のも入れてほしい
 たくさんの物が売っていて困ったときはよく行った
 役に立った
 便利だった
 とても助かりました
 あまり利用しなかったが安くてよかった
 ミニショップ?の開いている時間帯が少し短いと思う(他1名)
 生協さんには大変お世話になりました。4号館も17:00まで開いているとありがたいです
 ミニショップを使うことが多かったけど、混むと品物が少なくなったりしてしまうところが少し困った
 短大寄りの購買はお昼に混むのが難点だと思う
 お昼の混んでる時は利用が大変だったけど、その他は快適でした
 コモンルームにあると短大生は楽。ただ営業時間が短い
 短大の方の営業をもう少し早くなればよいなと思った
 購買まで行くのが遠い
 もっと安く!
 設備が良かった
 お昼時の売り切れの改善

③の理由

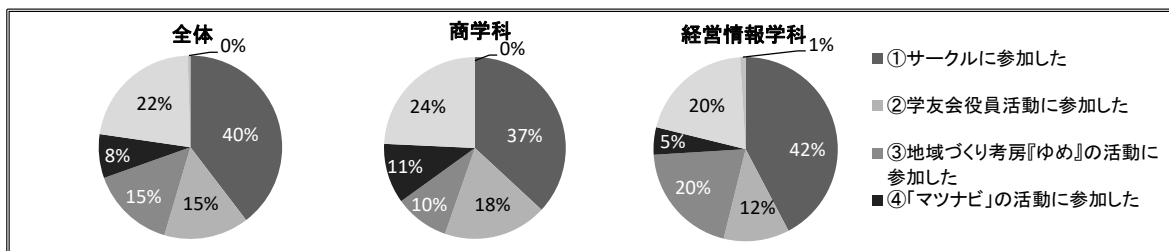
時間帯にもよるが混み具合がひどいから
 人が混みすぎてたいへんだった
 時間が短いから
 ミニショップもフォレストの方と同じ時間までくらいか4時間目くらいまでやってほしい
 食券が購買でも使えればよかったです。食券は10円単位か金額を100円単位にしてほしいです
 値段高い
 すぐおにぎりが売り切れた
 ミニショップなどのお弁当をもう少し増やしてほしいと思います
 商品が減るのが早かった

無回答の理由

4号館の購買?が昼時しか開いていないので少し不便

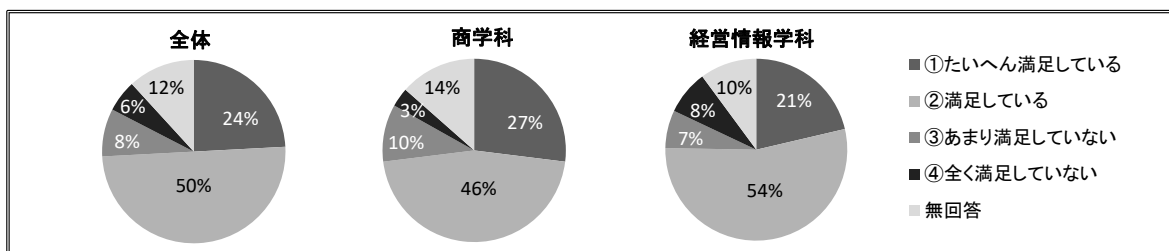
質問12. あなたはサークル活動、学生会役員活動、課外活動に参加しましたか。(複数回答可)

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①サークルに参加した	10	28	38	9	35	44	82
②学生会役員活動に参加した	1	18	19	1	11	12	31
③地域づくり考房『ゆめ』の活動に参加した	0	10	10	0	21	21	31
④「マツナビ」の活動に参加した	0	11	11	0	5	5	16
⑤参加しなかった	5	20	25	5	16	21	46
無回答	0	0	0	0	1	1	1



質問13. あなたはサークル活動、学生会活動、課外活動に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	19	24	3	16	19	43
②満足している	7	34	41	7	41	48	89
③あまり満足していない	1	8	9	1	5	6	15
④全く満足していない	1	2	3	1	6	7	10
無回答	2	10	12	3	6	9	21



【理由等】

商学科

①の理由

友人が増えたから(他3名)
とても楽しく交友も広げることができたから
短大バレーサークルで楽しく、多くの仲間ができた
自由な感じで良かった
楽しくできたから
学外、学内(4大)の人と仲良くなれた
短大だけでなく大学の人との交流の場となりとても良かったです
先輩など年上の方と接することができた
サークルは楽しく運動できたし学年関係なく仲良くなれた。マツナビは自分自身成長できたし社会に出たら必ず役に立つと思う
皆で協力することなど、社会で活かせることが学べたから

②の理由

短大でもサークルではなく部活動も呼びかければいいと思う
特にそういった活動がなかった
コミュニケーションを少し解消することができた
コミュニケーション能力を高めることができました
色々な人と交流できて良かった(他1名)
他学年の人と交流できる機会なのでいい経験だと思いました
大学、短大をあらためてたくさん知れた
人と交流する貴重で、将来必ず糧になる活動だった
みなさんががんばってました。ありがとうという気持ちでいっぱいです
協力して体育大会をできた
とてもやりがいがあり満足した
協力して活動することができ楽しかった
大変なことも多かったけど、楽しかったです
ボランティアに少し出た
学生会の役員活動を通して色々なことを経験することができた
様々な活動があり良いと思う
活動は多い方ではなかったけど、学園祭ではしっかりと活動できた
サークル楽しかったです(他1名)
大学と一緒にもっとなんかやりたかった

③の理由

ゆるすぎたから
サークルは途中でやめてしまったため
サークルや学生会には参加しなかった
あまり活動しなかった
サークルは小さいものに入ったため、活動が少なかった
すべて中途半端になってしまった。サークルの施設が良くない
楽しなかった
何をしていたか知らない

④の理由

活動日が少なすぎる。体育館のローテーションが全くダメ。部の用具が勝手に使われている

無回答の理由

参加していません(他1名)

経営情報学科

①の理由

楽しかった
 充実していた
 サークル活動を通じて友人が増えた
 仲間がたくさんできた(他1名)
 他学科の友達もできてコミュニケーション力は上がったと思うから
 なかなかできない経験をさせてもらえた
 たくさんの経験ができた
 自分の経験値が大いに増えた。就職してから将来に役立つと思った
 学生部との交流ができたこと
 大学の方のサークルだったので人関係が広がった
 サークルでの練習場所を設けてほしい(ダンス)
 4大メインの部活に短大生が入ることもできるし、短大メインのサークルに4大生が入ることもできた
 長の方が本当に頑張っていたと思います
 サークルで2年間とても充実していて、いい仲間恵まれて色々なイベントで協力して沢山の思い出がくれたからです

②の理由

やさしい先輩だったから
 素晴らしい仲間と活動できた
 一つの分野を深く学べたため
 たくさんの事を学べた
 運動には役立った
 充実できた(他1名)
 仲良くなれる
 学科が違う人と仲良くなれた
 大学の人たちとも交流ができてとても良かった
 楽しかった
 サークルは自分の好きなことがやれて楽しかった
 やりがいのある1年でした
 成長できた
 とても良い思い出づくりになった
 新しいことにたくさん挑戦できた
 多くの人と接する機会があったり、積極的に動いたりできるようになって良かったと思います
 いい経験になりました(他1名)
 大会等に出場することができて良い経験になった
 学友会に入らなければ、経験することのできないことを味わえたから
 サークルの会計をやらせてもらったが、とても良い経験になった
 サークルでは学祭で本を出せたので、形に残るものができて良かった
 キッズスポーツの経験を通して、子供がより好きになった
 ゆめの活動が楽しかった
 みんなとたくさん過ごせたから
 場所もしっかりあって良かった
 ボランティア活動を通して、人と関わる楽しさを学びました
 顧問というようにちゃんと来て指導してくれる人がいなかった
 ただ、やっぱ2年って短い
 もう少し積極的にサークルに参加すればよかったです

③の理由

先輩方への態度があまり良くなかった

④の理由

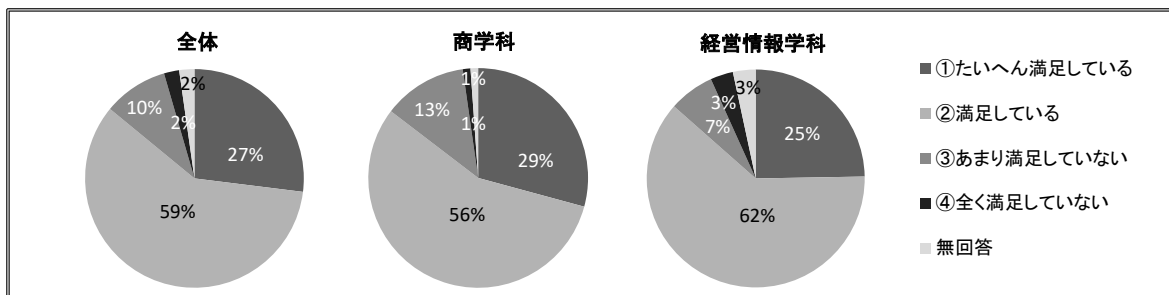
参加していないので(他2名)
 参加すれば良かった
 (いただきます◎) 大学生がほとんどでやりづらく途中でやめてしまった

無回答の理由

入っていない(他1名)

質問14. あなたは本学の学友会行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、クリスマス会等)に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	24	26	3	19	22	48
②満足している	8	42	50	6	49	55	105
③あまり満足していない	5	6	11	3	3	6	17
④全く満足していない	1	0	1	2	1	3	4
無回答	0	1	1	1	2	3	4



【理由等】

商学科

①の理由

仲間たちと楽しく過ごせた(他1名)
 体育大会は楽しく体を動かすことができた
 とても楽しかった(他2名)
 イベントごとがとても好きなのでとても楽しかったです
 大学祭などはとても楽しかった(他2名)
 お金がかかっている大学祭とかすごい楽しかった
 大学の様子が早くにわかり不安がなくなったから
 大学祭も体育大会も大変盛り上がったと思う
 自分が企画した行事にたくさん参加者が来てくれて嬉しかった
 大学祭で屋台をやったりできて楽しかった
 学生生活が最後だったので行事がたくさんあって楽しかったです
 行事を通して仲良くなったりして楽しかった
 楽しく参加できた。でも学祭のアーティストが知らなさすぎて興味なし
 思い出が増えました
 ゼミでの交流が深まった

②の理由

秋季体育大会をスカイパークでやる意見がわからない。球技が無いのは楽しくない
 体育大会もつやりたかった。球技が増えてたらもっと良かった
 楽しかった(他4名)
 準備とか大変だったけど楽しかった
 大学祭や体育大会は物に楽しかったです
 大学祭や体育祭、各々工夫されてあって楽しかったです(他2名)
 大学祭や体育大会を通して様々な人と交流することができた(他1名)
 普段話すことがなかった他学生と話すことができて楽しかった
 出店など色々充実していたと思う
 ゼミの人たちなどより仲良くなれて良いと思う
 大学祭の規模がちょうどよく楽しい
 思い出になった
 どの行事も楽しく過ごすことができ地域との関わりもあり良かった
 大学祭のゲストがすごい
 体育会の1、2年が協力してくれる雰囲気が良かった
 企画がしっかりと考えられて良かった

③の理由

体育大会は楽しくなかった
 単純につまらない
 体育大会は体育館を使わせてもらっているのでそこできできないスポーツをやれば良いと思う
 もっとみんなのできるようにした方が楽しいと思う
 新歓の時間はもっと短くていい。後輩には体育大会で球技をやらせてあげてほしいです
 いろいろなことを考えて行っているのがよくわかるイベントでした
 やきいも大会とかケーキバイキングに行けなかった。微妙な時間に開催しないでほしいし、もっと大きく知らせてほしい

④の理由

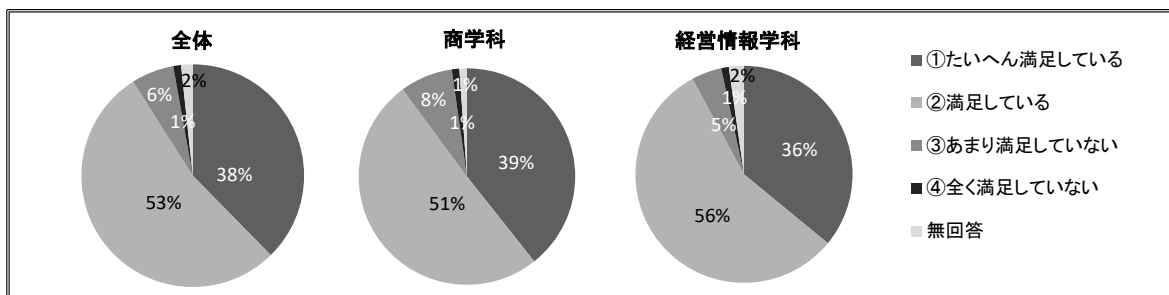
体育大会の種目がつまらないから

経営情報学科

①の理由	<p>みんなが一丸となって何かに取り組めた</p> <p>行事を通して仲間とさらに仲良くなることができた(他2名)</p> <p>友達やゼミの仲間と仲良くなるのにとっても良いきっかけでした</p> <p>ゼミのみんなと協力できたので良かった(他1名)</p> <p>楽しかった(他4名)</p> <p>充実していた</p> <p>いい思い出となった</p> <p>大学祭では色んなお笑いの方々にも会えて友人たちとも最高の思い出を作れて楽しかったです。</p> <p>体育祭楽しかった</p> <p>運営側として関わって良かった</p> <p>1年を通じ色々な活動があって良かった</p> <p>コミュニケーション能力が上がった気がした</p> <p>授業以外でたくさん友達と関わる事はとても楽しかった</p>
②の理由	<p>ゼミ生と協力して良い大学祭をつくれたから</p> <p>ゼミの人と協力できたので良かった(他1名)</p> <p>ゼミの人と一つの事をやることで仲良くなれたり目標に向かって一緒に活動できたから</p> <p>仲間と団結できて良かった</p> <p>楽しかった(他5名)</p> <p>大学祭、体育大会を楽しめたから</p> <p>大学祭は楽しかった</p> <p>体育大会楽しかった</p> <p>イベント事は楽しくできた</p> <p>とても楽しかった。運営側はとても大変だったけど。。。 (他1名)</p> <p>企画など大変ではあると思うけど、多くの行事を行ってくれて、それぞれとても充実していて良かった</p> <p>良い思い出をつくれた</p> <p>多くの人と交流することができて良かったです(他1名)</p> <p>大学祭に旬なお笑い芸人を呼んでくれたのは嬉しいが、芸能人のトークショーがなかったのが不満です</p> <p>年によって競技が違うより、ある程度は統一した方がいい</p> <p>体育大会は疲れたけど学生生活最後まで参加できて良かった</p> <p>ライブ楽しかった</p> <p>普通</p> <p>大学祭:レンタル品の時間、早すぎると思う。遠方からは2日間もあの時間だとキツイ</p> <p>二年後期の体育大会は球技にしてください</p> <p>イベントは楽しかったが、本格的なスポーツを体育祭でやる日数を増やしてほしいです</p>
③の理由	<p>体育大会時の種目には少し思うところがあった</p> <p>短大生も参加しやすい行事をもっと作るべきだと思いました</p> <p>体育大会の必要性が分からない</p>
④の理由	<p>ゼミの人、一人もいなかった事件</p> <p>時間の無駄、任意参加にしる</p> <p>参加していない</p>
無回答の理由	<p>今年の秋季体育大会は楽しかったが、少し競技が分かりづらかった</p>

質問15. あなたは勉学、生活、進路を含めて、2年間の短大生活に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	6	29	35	3	29	32	67
②満足している	10	35	45	11	39	50	95
③あまり満足していない	0	7	7	0	4	4	11
④全く満足していない	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	1	1	1	1	2	3



【理由等】

商学科

①の理由

貴重な体験がたくさんできた
 たくさん学べました(他1名)
 自由に学べるのは楽しかったと思います
 勉強にやりがいを感じる事ができたから
 友達も増え、目標の進路に進むことができたから(他1名)
 友達がたくさんできて良かった(他1名)
 友達たくさんできて最高!! 楽しすぎた!!
 先生方や仲間たちと楽しく過ごせた
 良い友達や先生方にも会い、資格も取得できて成長できた2年間でした
 楽しかった(他1名)いい先生や友達と出会えて満足している
 友達が増えてとても良い経験ができたから
 自分の知らない知識や経験ができた
 自分の思っていた短大生活とは違う一面もあったけど、新しい友人や自分の知らない事を多く知れた2年間だった
 2年間は人生の一番の成長ができたし、たくさん思い出ができた。就職先も希望のところで良かった
 2年間でしたが、充実した日々を送ることができた
 自分の能力を高めることができたので良かったです
 すべてに満足
 資格も取れたので良かった(他4名)
 自分の進路を現実的に考えることができ頑張れそうです
 ここでしかできないこと、ここに来たことでやりたい仕事が決まったし、沢山の良い思い出ができた

②の理由

自分が成長できたから
 取得したい資格を取ることができたから(他1名)
 入学した時の進路はまったく決まっていなかったが決めることができた
 勉強も楽しくできたり、生活してて不快なことはなかった
 しっかり勉強できたり、満足のいく就職活動ができたので良かったです
 様々な勉強ができましたし、楽しい思い出がたくさんできた
 高校では学べないことを学べて良かったです
 いい2年間だったからです(他1名)
 もう少しこうすれば良かったというのがありますが、とても充実した2年間だったと思います
 たくさんの人と関わった
 色々なことを学べたり(他1名)、様々な交友関係を築けた
 忙しくなかったが、あつという間だった
 これから必要となる知識を学べて勉強になりました
 検定も取得できたり、友人やゼミの皆と一緒に活動したり勉強ができてとても充実した生活を送れました。進路選択でも先生方がとても親身になって相談にのってくれとても力になりました。
 色々な資格に挑戦したり、役員活動なども経験できてとても充実したあつという間の2年間だったと思う
 最低限のやりたいことはできたと思う
 学業はもちろん、日々の生活が充実していて良かった

③の理由

就職先を考える時間が少し足りないと思いました
 2年の後期(3, 4)もっとイイ感じの授業増やしてください。学費もつたいない。予備校行けた
 何も得られなかったと思う
 各フィールドが充実していた

④の理由

希望のゼミに入れなかった

経営情報学科

①の理由

楽しかった
 友達もできて楽しかった(他2名)
 楽しかったのもう少し過ごしたかった(他1名)
 最終的な目標の就職を達成できたので良かった
 資格も取ることができし、進路も決まったので満足している
 資格を取得できたので良かったです(他3名)。もう少し勉学に力を入れれば良かった
 図書館司書の資格の他にもたくさんの資格をとることができ、きちんと就職できたため短すぎと思った
 二年間たくさん勉強できて就職も決まるとても良い二年間だった(他1名)
 二年間で色々なことを学び、知識として身につけることができとても良かったと思います(他1名)
 将来役に立つ講義から興味を持った講義まで様々で勉学に一生懸命取り組み知恵を広げることができたと思う
 二年間の短大生活で身につけた協調性を活かして、専門に勉強してきた医療事務に就職を決められたことはとても満足でした
 将来についてきちんと選択できたので
 パソコン技術は上がったと思うし、資格取るのは楽しかった
 松本の良さが分かりました。友達の範囲が広い
 良い友人に恵まれました。一人暮らしもやってみて良い経験でした
 こんなに良い仲間に出会えたのも、充実していたのも、この二年間だけです。濃い二年間でした
 たくさん人として成長できた(他1名) この短大に入って良かったです
 自分のやりたいことがたくさんできた
 何もなかった自分が資格取得したことで自信がついた
 普通に学生として過ごせたので(他1名)
 ゼミ生になれた
 大満足

②の理由

将来についてしっかり考えられた二年間だったと思う。欲しい資格をとるための授業が受けられたのが大きい
 いろんな知識を得られたから
 新しいことを学ぶ機会が多くて良かった
 様々なジャンルの勉強をすることができた(他1名)
 ちゃんと勉強できた
 勉強しやすい環境だった
 就活がスムーズに行えた(他1名)
 進路もスムーズに決まり、多くの知識や技術を学ぶことができた
 進路も多くの方に支援していただき、とても助かりました
 短い期間だったが、内容の濃い充実したものになった(他1名)
 勉学等の様々な面から充実感が得られたと感じたため
 二年間でたくさんの資格をとることができました
 資格をとれたことが自信につながったから
 初めは勉強についていけないか不安でしたが先生たちの分かりやすい説明で何とかついていけました
 思い出がたくさんできました。でも短かったなと思った
 入学前より成長できたと思うので満足しています
 もっとワガママを言えば留学に対して手厚いサポートがほしかった。これからは留学を強化してほしい
 良い友人に出会い、良い経験ができました
 ゼミの仲間とも良い関係を築くことができて良かったです

③の理由

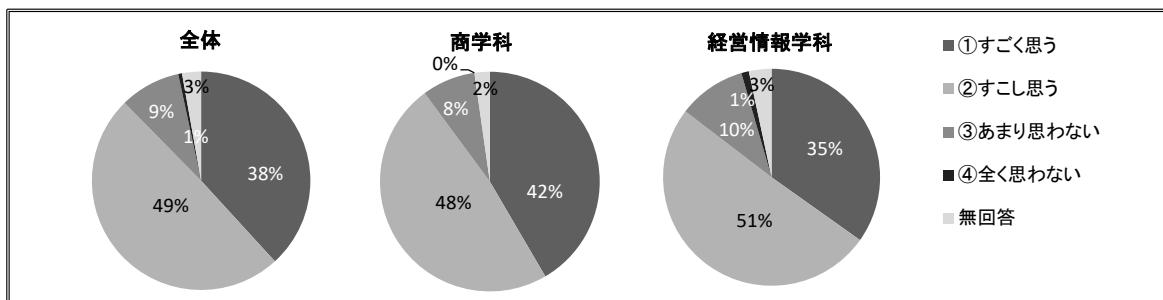
自分が本当にしたい勉強ができなかった
 高い学費払って来るところでもなかった

④の理由

毎日しんどかった

質問16. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	6	31	37	4	27	31	68
②すこし思う	7	36	43	8	37	45	88
③あまり思わない	2	5	7	2	7	9	16
④全く思わない	0	0	0	0	1	1	1
無回答	1	1	2	1	2	3	5



質問17. 松本大学松商短期大学部および所属学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

商学科

- 編入の単位読替もっと増やして
- 設備等を良くして欲しい
- 少人数制を多くすとか
- えらい方々の講演
- 保険についてもっと知りたかった
- 私立なので仕方ない部分もあるが、入学金や授業料が高い
- 今でも充分満足です(他2名)
- 大学に変換する単位を増やした方がいい
- もっと体を動かす授業があってもいいかなと思った。睡眠できる場所がちょっと欲しかった
- マナー講座(就活の以外)公共料金の支払い方法とか、大人が知ってて当たり前のようなこと授業にしてみたらいいのかなー
- 検定に受かるための授業などがあったらいいなと思います
- 以前、台風の影響でテストが延期になってしまい、テストが受けられない状況になってしまったのですが、その時に学生課の人に相談したら「こちらではどうすることもできないから自分たちでどうにかしなさい」という風に言われた。結局自分たちで先生のところへ行き、事前にテストを受けさせてもらえるようになったけど、学生課の対応がひどかったのが印象に残っている
- ①photoshopをもう少し詳しく学びたい
- 教養科目(茶道など)を1年生の時だけじゃなく2年生でもできるようにしたら良かったと思いました
- 今変わってしまった華道やネイルの授業を1年のときにやった方が楽しみができる
- 短大の制度としては全て文句なしですが、編入のことはもっと大学と連携を取った方が良くと思います
- 大学部の授業をもっと推してはと思った。他には英語の必修を1年生の後期まで延ばしてほしいとも思った。Excelなどのパソコン技術をもっと実際に職場で扱うような授業があれば受けてみたいと思った
- PCは絶対買いますよみたいに行く必要ないと思います。安いものじゃないし使いづらいし、2年間終わって思うが使わない。学校で十分だと思う
- 日商簿記2級の講義があったらいいなと思った
- 教室の暖かさを統一してほしい
- 二つの学科にあまり差がないところはメリットでもあるデメリットでもあると思う。もっとその学科にしか取れない授業があればいいなって思った
- 商学科と経営情報学科の違いがもっと分かりやすかったらいいと思う。例えば、その学科でないと受けられない授業などを作る等
- 就職活動が始まる前にもっと先輩たちの話を聞く時間が増えたらいいと思う
- パソコン室のパソコンの重さとかWi-Fiをなんとかしてほしい
- とりたい授業がかぶってしまったときに、すごく残念に思いました。無理かもしれませんが要望が多かったら授業時間を変更したりは可能でしょうか？2年間ありがとうございました
- 1年の時、取りたい授業がいくつか重なっていることが多かったので全部は無理でもこの授業は学生取る人が多いな、と思うものは重ならないようにした方がいいと思う
- 銀行論と簿記の授業を同じ時間にしないでほしい。どちらも取りたかった
- 駐車場を無料にしてほしい
- 短大でのパソコン室以外に置いてあるパソコンの数が少ないため、使えない人が多い。もう少し増やすか、自分の持参したパソコンを使えるようにすべき
- もっと行事が多かったら2年という短い期間でもっとみんなと仲良くできたかなと思います。2年短かったです。あつという間でした。もっともっとみんなで何かしてみたかったです
- 1年生ともっと交流できる行事がほしかったです
- 体育大会以外でもっと1,2年生が交流できる場がほしい
- 朝も食堂やってくれたりすると朝から頑張ろうってなと思います
- 授業によっても違うと思いますが、きちんと板書ができる授業の方が座っているだけよりは頭に入ると思います
- お昼をもう少し長くしてほしい
- もう少し電車の時間に配慮してもらえると助かります
- 大学の方にも、コモンをつくってもっと快適に使ってほしい
- 特にないけど、生徒を突き放すような先生方の態度はやめがほうがよいかなと思います
- 高校の授業(数学、理科、国語など)の学び直しができる授業があったらいい

経営情報学科

普通に満足ですよ
特に改善点はありません。ありがとうございました
電車の時間と講義の時間を合わせてほしい(他1名)本数が少ないので難しいとは思うけど、前後の時間がもったいなかったです
一定の時刻の電車が人が多すぎて乗れないことがあったので、本数を増やすなど松本電鉄にかけあってほしい
①1年生、2年生合同の講義があると楽しいと思う
休校などもっとわかりやすくしてほしい
経営情報学科と商学科でもう少し違う内容を取り入れる
経営情報学科と商学科の違いが分かりにくい。高校生の頃、面接練習をしている時に苦戦したポイントでした
経営情報学科と商学科ともう少し明確に分類できると良いのかなと思います。自分が経情に入った利点が商学科でも得られるものであったので、それぞれの科にしかない強みというのがあればいいなと思いました
とりたい授業が重なることがあったので、うまく分けてもらえるとうれしいです(他2名)
2年になって授業の時間割が変わったため、取りたい授業が2つ被って大変だった
金融の基礎と経営の基礎は必修にしても良いと思った
もっと語学を中心とした授業があってもいい(他1名)
韓国語の授業が短大2年から取れなかったため、今後2年生でも取れるようになったらいいなと思います
危機管理関係の授業があるとよいと思います
簿記は2年間やってもいいと思う
運動する授業がもっと増えたらいい
①家具かインテリア関係の授業、建築の基礎みたいな ③学費が高すぎると思うので改善した方がいいと思う。
インテリア系の授業があったらいい
一つの教科が5人いないと受講できないのが、やりたい授業だった時できないのがさみしい
教養科目の単位数をいくつ以上取らなければいけない、という制度があったせいで、勉強したい科目が後半取れなくなったので、教養での単位数のしほりをやめてほしかった
履修変更期間で変えた授業が1回欠席になることをやめがほうがいい
ゼミは出欠席よりも志望動機を重視した方がいいと思います。基礎ゼミの間はローテーションして全てのゼミの先生と関わった方がいいと思います
教室内の空調をどうにかしてください
冷暖房をもっとちゃんとしてほしい。夏は暑すぎ、冬は寒すぎて過ごしにくいです
部屋全体を暖かくしていただくと嬉しい
トイレの手を乾かす乾燥機を使うようにしてほしい。また、教室によってはパソコンが重くて使いづらかったので改善してほしい
パソコン室のソフトの統一
パソコンを授業で使うなら、もう少しネット環境が良ければと思う
Wi-Fiの調子が悪かったり、パソコンの起動がとて遅かったりするので、それが良くなったらいいなと思いました
ファッションの授業をとってほしい。旅行をつくってほしい(ゼミではなく)
2年になってネイルの授業を取ってみたいだったので無くなってしまってショックでした
ネイルを1年の時にできなかったため、2年の時も授業があれば良かったです
もっと海外にオープンになってほしいです
留学をもっと当たり前にしていきましょう。留学を売りにして入学希望者を増やしたい。先生には大変お世話になりました
インフルだった人から試験を受けるお金を支払うシステムは少し疑問に思う
第一駐車場の満車の看板が見えない
駐車料金を無料にしてほしい
駐車場代を安くしてほしい
コピーを無料でできるようにしてほしい
仮眠室がほしい
4大 ver 色々学べる
短大側の購買の閉まる時間をもう少しだけ延ばしてほしい
入学前に見たパンフレットではパソコン無料貸出と書いてあったのに、入学すると買うように言われ、借りようとするとパソコンが全部出払っていて、ならパンフレットに書かないでほしいと思った。レンタルできるパソコンを増やしてほしい。
大学祭の前夜祭でやった運だめしは運でもなんでもなかったからつまらなかった
就活のサポートは良かった。2年生になってからの履修科目の少なさ…。授業以上にボランティアの方が充実してしまっ(笑)。体験型授業
短大生はわりかし大学生に下に見られるのが嫌です。下に見ないで同じように見てくれたら嬉しいです。留学に関しては、プログラムの詳細(1日の流れやその留学期間での主な生活など)を明確にしてほしい。大事な連絡は早くしてほしい。期限(げんこう)が割と急。
早めに連絡してください
座席指定をする時は一つ間をあけてほしい
8号館も使いたかったです